

上大利南土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

牛頸野添遺跡群Ⅳ

～ 第7次調査 ～

大野城市文化財調査報告書 第70集

2006

大野城市教育委員会
九州国立博物館



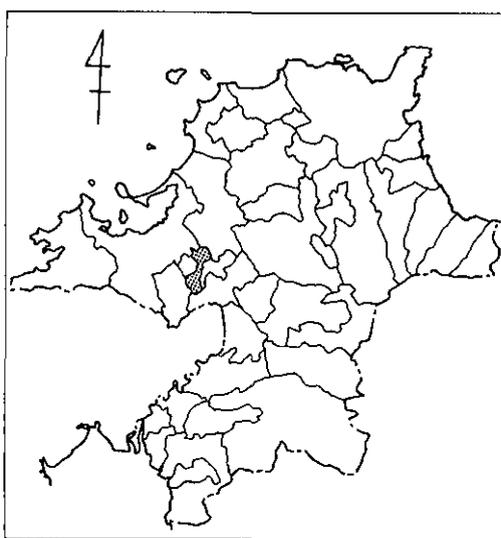
200094365

上大利南土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

うし くび の そえ い せき ぐん
牛頸野添遺跡群Ⅳ

～ 第7次調査 ～

大野城市文化財調査報告書 第70集



2006

大野城市教育委員会



1号陶棺

2号陶棺

棺蓋

7次2号窯跡出土陶棺



(1) 7次調査地周辺空撮（平成15年5月撮影）（西から）



(2) 7次調査地全景（南東から）

序

上大利地区では北・南の2地区で事業面積が48haに及ぶ大規模な区画整理事業が計画され、平成13年度より本格的な発掘調査を実施しています。

牛頸野添遺跡第7次調査報告書は、上大利南土地区画整理事業地内における最後の報告書になります。調査では窯跡2基が見つかり、灰原からは陶棺が出土しました。この陶棺は粘土を焼き固めて作った箱形のもので、遺体を納め、古墳に葬るために古墳時代後期に広く用いられたものです。これまで知られている主な分布地は岡山周辺や近畿地方に限られ、九州ではあまり見つかっていませんでしたが、今回の調査では九州で初めて生産地が確認されました。このことは牛頸窯跡群の歴史的性格を考える上で極めて重要であり、貴重な調査となりました。

土地には時代を問わずそこで起こった様々な出来事が遺跡・遺構・遺物といった形で記録されています。この残された遺跡に関して、慎重に発掘調査を進め、人々の生活を記録し保存しています。どうか今後とも文化財行政に対しまして、尚一層ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、上大利南土地区画整理組合をはじめ㈱中野建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成18年3月31日

大野城市教育委員会
教育長 古賀 宮太

例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が上大利南土地地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の野添遺跡第7次発掘調査の報告書で、本事業に係る最終報告書にあたる。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸野添遺跡群』とした。
2. 発掘調査は、大野城市上大利南土地地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。
3. 遺構写真は、岸見泰宏が撮影した。
4. 遺物写真は、(有)文化財写真工房（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）および(株)埋蔵文化財サポートシステムが撮影した。
5. 遺構実測図は、岸見が作成した。また地形測量図は(株)埋蔵文化財サポートシステム、上大利地区旧地形図は(株)写測エンジニアリングに委託した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。
6. 遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標（第II系）を示す。
7. 遺物実測図は、井上愛子・西堂将夫・一瀬智・北川貴洋が作成し、甕類と小形器種の一部は(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
8. 製図は、遺構は渡部美香、陶棺は井上が作成し、その他の遺物は(株)埋蔵文化財サポートシステムにデジタルトレースを委託した。
9. 拓本は、西堂・北川が作成した。
10. 観察表は、(株)埋蔵文化財サポートシステム・石木秀啓が作成した。
11. 野添遺跡6・7次調査出土炭化材樹種同定については、(株)古環境研究所に分析を委託し、III章に分析原稿を掲載した。
12. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25000地形図『福岡南部』『太宰府』および1/200000地勢図『福岡』『熊本』を使用した。
13. 窯跡の構造名称等については、窯跡研究会2004「須恵器窯構造に関する構造名称や部位名称及びその機能」『須恵器窯構造資料集2』による。
14. 遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。
15. 本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
16. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会事務局監修を使用した。
17. 本書の執筆はII章の1号陶棺・2号陶棺を井上が執筆し、その他は石木が執筆・編集をおこなった。

上大利南土地地区画整理地内の発掘調査ならびに整理作業にあたっては、下記の方々から多大なるご協力とご指導をいただいた。記して、感謝申し上げたい。(50音順、敬称略)

池田榮史 磯 望 小田富士雄 尾形與典 金田一精 金田明大 上角友希 亀田修一
河野一也 河野真理子 齋部麻矢 城野一郎 高橋 章 瀧本正志 巽淳一郎 中村 浩
中村展子 西口壽生 花谷 浩 比嘉えりか 菱田哲郎 福田典明 古谷 毅 松尾直子
松村恵司 水野順敬 山村信榮 渡辺正気

本文目次

I. はじめに	
1. 平成16年度の調査経過	1
2. 調査体制	1～4
II. 調査の結果	
1. 調査概要	7
2. 遺構と遺物	8
(1) 1号窯跡	8
(2) 2号窯跡	19
III. 自然科学分析の成果	
野添遺跡6・7次調査における樹種同定	95～99
IV. まとめ	
1. 遺構の年代	100
2. 野添遺跡7次調査2号窯跡出土陶棺の意義について	102～106

図版目次

図版 1	(1) 7次調査地遺構検出状況 (南から)
	(2) 7次調査地遺構完掘状況 (南から)
図版 2	(1) 1号窯跡検出状況 (南東から)
	(2) 1号窯跡最終操業面検出状況 (南東から)
図版 3	(1) 1号窯跡左側壁全景 (東から)
	(2) 1号窯跡右側壁全景 (南西から)
	(3) 1号窯跡窯体内縦断土層 (B-B'面) ①灰原～燃焼部 (東から)
図版 4	(1) 1号窯跡窯体内縦断土層 (B-B'面) ②燃焼部～焼成部 (東から)
	(2) " ③焼成部 (北東から)
	(3) 1号窯跡焚口部横断土層 (F-F'面) (南東から)
図版 5	(1) 1号窯跡焚口部横断土層 (D-D'面) (南東から)
	(2) 1号窯跡貼床断割縦断面 (A-A'面) ①燃焼部 (南西から)
	(3) " ②焼成部 (南西から)
図版 6	(1) 1号窯跡貼床断割横断面① (E-E'面) (南東から)
	(2) " ② (C-C'面) (南東から)
	(3) 1号窯跡貼床完掘状況 (南東から)
図版 7	(1) 1号窯跡窯体断割横断面① (E-E'面左半部) (南東から)

- (2) 1号窯跡窯体断割横断面② (E-E'面右半部) (南東から)
- (3) 1号窯跡窯体断割縦断面① (A-A'面) 燃烧部 (南西から)
- 図版 8 (1) 1号窯跡窯体断割縦断面② (A-A'面) 燃烧部 (南東から)
- (2) 1号窯跡灰原1 縦断土層① (B-B'面上半部) (北東から)
- (3) " ② (B-B'面下半部) (北東から)
- 図版 9 (1) 1号窯跡灰原2 縦断土層 (G-G'面) (南西から)
- (2) 1号窯跡灰原3 縦断土層① (下半部) (北東から)
- (3) " ② (上半部) (東から)
- 図版10 (1) 1号窯跡灰原3 縦断土層③ (横断面土層下方①) (東から)
- (2) " ④ (横断面土層下方②) (東から)
- (3) 1号窯跡灰原3 横断土層 (南東から)
- 図版11 (1) 2号窯跡検出状況 (南から)
- (2) 2号窯跡最終操業面検出状況 (南西から)
- 図版12 (1) 2号窯跡左側壁全景 (南東から)
- (2) 2号窯跡右側壁全景 (西から)
- (3) 2号窯跡窯体内縦断土層 (A-A'面) ①灰原～燃烧部 (南東から)
- 図版13 (1) 2号窯跡窯体内縦断土層 (A-A'面) ②燃烧部～烧成部 (南東から)
- (2) " ③烧成部 (南東から)
- (3) 2号窯跡窯体内横断土層 (E-E'面) (南西から)
- 図版14 (1) 2号窯跡窯体内横断土層② (B-B'面) (南西から)
- (2) 2号窯跡貼床断割縦断面 (A-A'面) ①燃烧部 (南東から)
- (3) " ②烧成部 (南東から)
- 図版15 (1) 2号窯跡貼床断割縦断面 (A-A'面) ③烧成部 (南東から)
- (2) 2号窯跡貼床断割横断面 (D-D'面) ①左半部 (南西から)
- (3) " ②右半部 (南西から)
- 図版16 (1) 2号窯跡貼床断割横断面 (C-C'面左半部) (南西から)
- (2) 2号窯跡貼床完掘状況 (南西から)
- (3) 2号窯跡窯体断割全景 (南西から)
- 図版17 (1) 2号窯跡左側壁下検出小ピット群全景 (南東から)
- (2) " 小ピット群断割 (F-F'面) (南東から)
- (3) " 小ピット群断割 (F'-F''面) (東から)
- 図版18 (1) 2号窯跡右側壁下検出小ピット群全景 (北西から)
- (2) " 小ピット群断割 (G-G'面) (北西から)
- (3) " 小ピット群断割 (H-H'面) (北西から)
- 図版19 (1) 2号窯跡陶棺出土状況 (北西から)
- (2) 2号窯跡灰原2区陶棺出土状況 (南西から)

- 図版20 (1) 2号窯跡灰原縦断面土層 (A'-A''面) ①上半部 (南東から)
(2) " ②下半部 (南東から)
(3) 2号窯跡灰原横断面土層 (I-I'面) 東半部 (南西から)
- 図版21 (1) 2号窯跡灰原横断面土層 (I-I'面) 西半部 (南西から)
(2) 調査地試掘調査風景 (2002年12月) (南西から)
(3) 調査指導風景 (左から平島・岸見・小田先生・石木・舟山・秋吉) (2003. 10. 9)
- 図版22 1号窯跡出土遺物①
- 図版23 1号窯跡出土遺物②・ヘラ記号①
- 図版24 1号窯跡出土遺物ヘラ記号②
- 図版25~51 2号窯跡出土遺物①~⑳
- 図版52 (1) 1号陶棺
(2) 1号陶棺底部外面
- 図版53 (1) 1号陶棺脚部・粘土帯貼付状況①
(2) " ②
(3) 1号陶棺棺身底板・側板接合状況
(4) 1号陶棺内面
- 図版54 (1) 2号陶棺
(2) 2号陶棺棺身内面
- 図版55 (1) 2号陶棺底部外面
(2) 2号陶棺隅角部粘土帯貼付状況
- 図版56 (1) 棺蓋
(2) 棺蓋短側面内面かえり貼付状況
(3) 棺蓋長側面内面封じ穴・支え木痕
- 図版57 (1) 椀形脚
(2) 隅角部粘土帯貼付状況
(3) " 脚部接合状況
- 図版58 2号窯跡出土遺物ヘラ記号①
- 図版59 2号窯跡出土遺物ヘラ記号②
- 図版60 2号窯跡出土遺物ヘラ記号③
- 図版61 2号窯跡出土遺物ヘラ記号④
- 図版62 2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑤
- 図版63 2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑥
- 図版64 2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑦
- 図版65 2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑧
- 図版66 2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑨
- 図版67 2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑩

- 図版68 2号窯跡出土遺物ヘラ記号①
 図版69 2号窯跡出土遺物ヘラ記号②
 図版70 野添6・7次木材炭化材Ⅰ
 図版71 木材炭化材Ⅱ
 図版72 木材炭化材Ⅲ
 図版73 (1) 福岡市浦の田2号墳出土陶棺棺蓋短側面
 (2) " 棺蓋展開状況
 (3) " 棺蓋頂部内面(封じ穴)
 図版74 (1) 福岡市浦の田2号墳出土陶棺棺蓋短側面ヘラ描き
 (2) " 棺蓋円栓
 (3) " 棺蓋(上)と棺身の合わせ方
 図版75 (1) 福岡市浦の田2号墳出土陶棺棺身・底部外面
 (2) " 脚部接合状況
 (3) " 脚部の円孔
 図版76 (1) 福岡市浦の田2号墳出土陶棺棺身隅角部
 (2) " 棺身受部
 (3) " 棺身受部上面木葉痕
 図版77 区画整理事業開始前航空写真(平成11年)
 野添遺跡4次調査試掘中(平成14年6月)
 図版78 上大利南土地区画整理地内発掘調査終了時(平成16年11月)

挿 図 目 次

- 第1図 平成16年度上大利南土地区画整理地内調査地および7次調査地位置図(1/5000) …2
 第2図 上大利区画整理地周辺地形測量図(1948年米軍撮影)(1/5000) ……3
 第3図 周辺遺跡分布図(1/25000) ……5~6
 第4図 調査地地形測量図(1/400) ……9~10
 第5図 1号窯跡窯体・灰原配置図(1/200) ……11
 第6図 1号窯跡実測図①(1/60) ……12
 第7図 1号窯跡実測図②(1/60) ……13
 第8図 1号窯跡窯体内~灰原土層実測図①(1/60) ……14
 第9図 1号窯跡窯体内~灰原土層実測図②(1/60) ……15
 第10図 1号窯跡窯体内出土遺物実測図(30・31は1/6、他は1/3) ……16
 第11図 1号窯跡灰原・再拡張部出土遺物実測図(40~45は1/6、他は1/3) ……17
 第12図 1号窯跡出土遺物拓影図(1/4) ……18

第13図	2号窯跡窯体・灰原配置図 (1/200)	20
第14図	2号窯跡実測図① (1/60)	22
第15図	2号窯跡実測図② (1/60)	23
第16図	2号窯跡窯体内・灰原土層実測図① (1/60)	24
第17図	2号窯跡窯体内・灰原土層実測図② (1/60)	25
第18図	2号窯跡窯体内出土遺物実測図 (63・64・75~77は1/6、他は1/3)	26
第19図	2号窯跡灰原1区出土遺物実測図① (1/3)	28
第20図	2号窯跡灰原1区1層出土遺物実測図② (115は1/3、他は1/6)	29
第21図	2号窯跡灰原1区3層出土遺物実測図① (1/3)	30
第22図	2号窯跡灰原1区3層出土遺物実測図② (1/3)	31
第23図	2号窯跡灰原1区3層出土遺物実測図③ (138~143は1/6、他は1/3)	32
第24図	灰原1区4層最下層・1-2区間ベルト出土遺物実測図 (159・160・165は1/6、他は1/3)	33
第25図	2号窯跡灰原谷部出口付近・灰原1区拡張部・再拡張部出土遺物実測図 (174は1/6、他は1/3)	34
第26図	2号窯跡灰原1区再拡張部出土遺物実測図① (207~211は1/6、他は1/3)	35
第27図	2号窯跡灰原1区再拡張部出土遺物実測図② (212~214は1/6、他は1/3)	36
第28図	2号窯跡灰原2区1層出土遺物実測図 (1/3)	37
第29図	2号窯跡灰原2区1~3層出土遺物実測図 (1/3)	38
第30図	2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図② (1/3)	39
第31図	2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図③ (1/3)	40
第32図	2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図④ (317~322は1/6、他は1/3)	41
第33図	2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図⑤ (1/6)	42
第34図	2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図⑥ (324は1/6、他は1/3)	43
第35図	2号窯跡灰原2区4層出土遺物実測図 (1/3)	44
第36図	2号窯跡灰原3区出土遺物実測図 (350・353は1/6、他は1/3)	45
第37図	2号窯跡灰原4区1層出土遺物実測図 (374・375は1/6、他は1/3)	46
第38図	2号窯跡灰原4区2層出土遺物実測図① (1/3)	47
第39図	2号窯跡灰原4区2層出土遺物実測図② (1/3)	48
第40図	2号窯跡灰原4区2層出土遺物実測図③ (407は1/3、他は1/6)	49
第41図	2号窯跡検出中・試掘時表探遺物実測図 (1/3)	50
第42図	2号窯跡灰原出土穿孔杯等実測図 (1/3)	51
第43図	2号窯跡灰原出土1号陶棺実測図① (1/5)	57~58
第44図	2号窯跡灰原出土1号陶棺実測図② (1/5)	59~60
第45図	2号窯跡灰原出土2号陶棺実測図 (1/5)	61~62
第46図	2号窯跡灰原出土陶棺棺蓋実測図 (1/5)	63

第47図	2号窯跡灰原出土陶棺脚部実測図（1／3）	64
第48図	2号窯跡出土遺物拓影図①（1／4）	67
第49図	2号窯跡出土遺物拓影図②（1／4）	68
第50図	2号窯跡出土遺物拓影図③（1／4）	69
第51図	2号窯跡出土遺物拓影図④（1／4）	70
第52図	2号窯跡出土遺物拓影図⑤（1／4）	71
第53図	2号窯跡出土遺物拓影図⑥（1／4）	72
第54図	2号窯跡出土遺物拓影図⑦（1／4）	73
第55図	2号窯跡出土遺物拓影図⑧（1／4）	74
第56図	2号窯跡出土遺物拓影図⑨（1／4）	75
第57図	2号窯跡出土甕類タタキ拓影図①（1／2）	76
第58図	2号窯跡出土甕類当て具痕拓影図①（1／2）	77
第59図	2号窯跡出土甕類タタキ拓影図②（1／2）	78
第60図	2号窯跡出土甕類当て具痕拓影図②（1／2）	79
第61図	九州内陶棺出土遺跡分布図（1／200000）	101
第62図	野添遺跡7次陶棺製作工程復元図・牛頸窯跡群出土陶棺実測図（1／6）	103

表 目 次

表1～15	野添遺跡第7次調査出土遺物観察表①～⑮	80～94
表16	野添遺跡6・7次調査における樹種同定結果	99

巻頭図版目次

巻頭カラー図版1	7次2号窯跡出土陶棺
巻頭カラー図版2	(1) 7次調査地周辺空撮（平成15年5月撮影）（西から）
	(2) 7次調査地全景（南東から）

I. はじめに

1. 平成16年度の調査経過（第1図）

上大利南土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については『牛頸野添遺跡群Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第62集）に詳述しているため、以下では平成16年度の埋蔵文化財調査についてまとめておきたい。

平成16年度、上大利南土地地区画事業地内における埋蔵文化財調査としては、1ヶ所（52次）試掘調査を実施した。52次試掘調査地は、野添遺跡8次調査地の北側にあたり、調査前は植林地として利用され平坦になっていたが、周辺の状況から日ノ浦池にむかってのびる丘陵があることが想定された。試掘調査の結果、想定どおり丘陵が検出され、調査地の中央を東に向かってのびる谷部が確認された。しかし、丘陵頂部はすでに削平されており、平坦面の広さと昭和23年時点の地形図が本来の丘陵の高さを物語っている。

調査は丘陵斜面を中心におこない、平成16年6月7日から7月17日にかけて実施した。野添8次調査地側より開始し、日ノ浦池に向かってのびる丘陵が南北2つ確認された。日ノ浦池周辺は斜面部の立木が現況のまま残ることから、斜面上側の平坦面は斜面部に沿ってトレンチ状に遺構の確認をおこなった。調査地中央で検出された谷部は、地表下5mほどは谷を検出することができたが、谷部下方は日ノ浦池面より下がることが予想されたため、トレンチを設定、掘り下げの上で遺構・遺物の検出に努めた。

試掘調査の結果、遺構は確認されなかったが、調査地中央で検出された谷部北側斜面で須恵器が2点出土した。1点はⅣ期の杯蓋であったが、1点はⅢA期の特徴をもつ杯蓋であった。いずれも半分ほどしか残存していなかった。この2点の他、遺物はまったく出土せず、灰原なども確認することはできなかった。したがって、既に失われた丘陵頂部に遺構の存在した可能性があるが、遺物出土量から見て、それほど規模の大きなものではなかったと考えられる。

上大利南土地地区画整理事業地内の埋蔵文化財調査は、52次試掘調査をもって終了した。

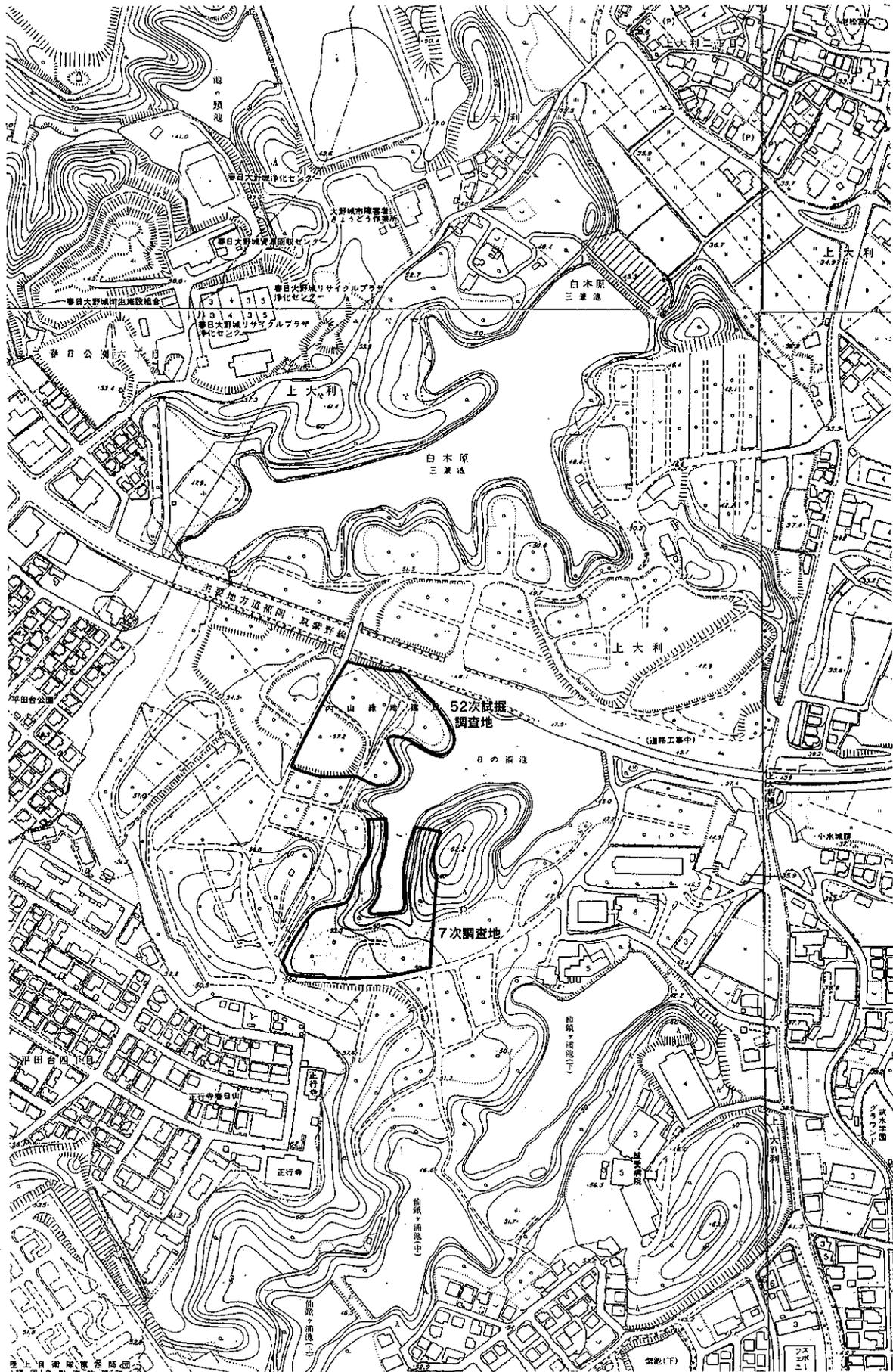
2. 調査体制

上大利南土地地区画整理地内の発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。

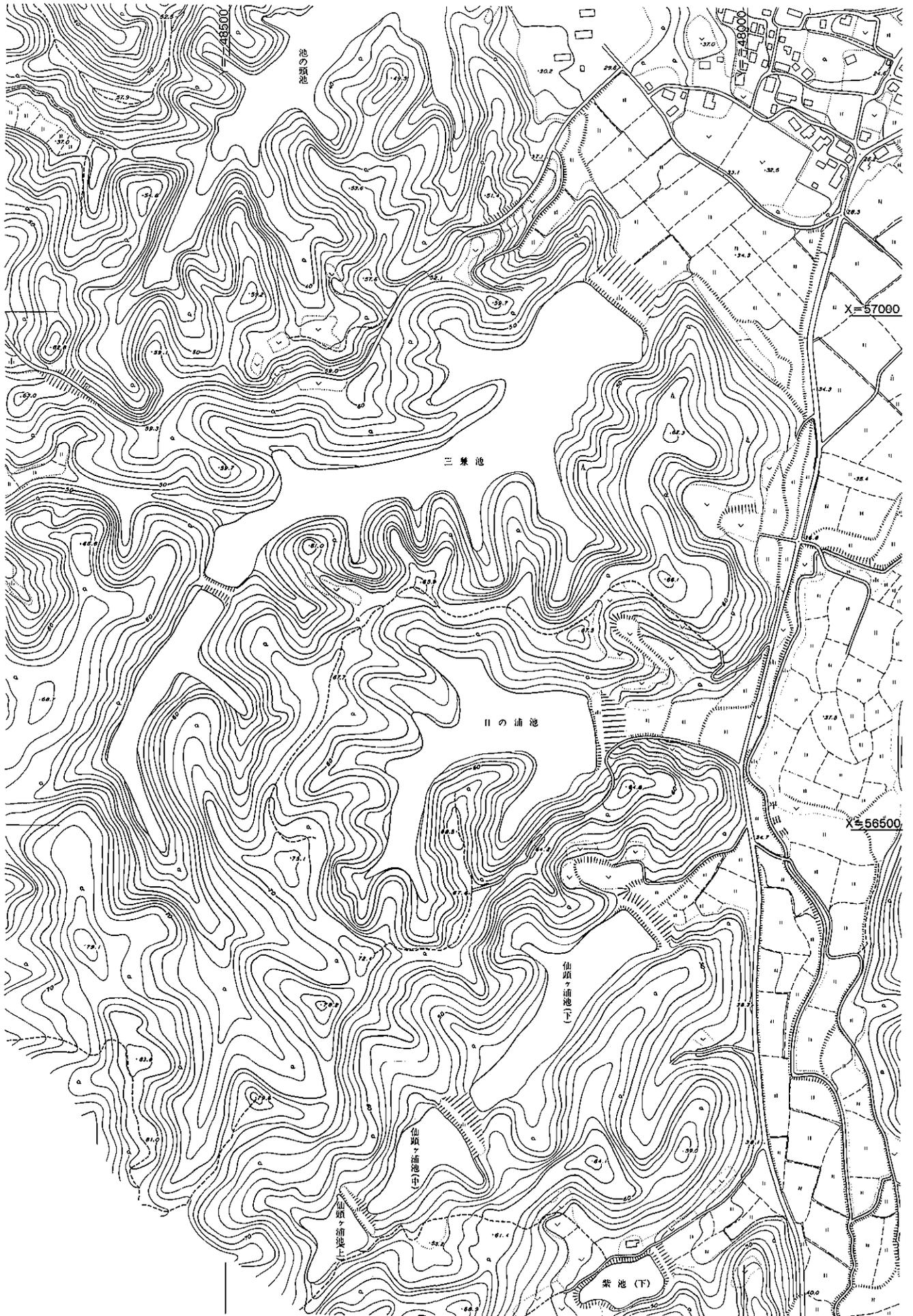
平成16年度調査

[大野城市教育委員会]

教 育 長	古賀宮太			
教 育 部 長	鬼塚春光			
社会教育課長	秋吉正一			
文化財担当係長	舟山良一			
主 査	徳本洋一	石木秀啓	緒方一幹	（庶務担当）
主 任 技 師	丸尾博恵	林 潤也	早瀬 賢	
嘱 託	西堂将夫	一瀬 智	井上愛子	北川貴洋 粟津剛史（庶務担当）



第1図 平成16年度上大利南土地区画整理地内調査地および7次調査地位置図 (1/5000)



第2図 上大利区画整理地周辺地形測量図 (1948年米軍撮影) (1/5000)

平成17年度整理作業

[大野城市教育委員会]

教 育 長	古賀宮太
教 育 部 長	小嶋健
社会教育課長	水野邦夫
文化財担当係長	舟山良一
主 査	徳本洋一 石木秀啓 緒方一幹 (庶務担当) 丸尾博恵
主任技師	林潤也 早瀬賢
嘱 託	西堂将夫 一瀬智 (~平成17年7月) 井上愛子 北川貴洋
整理作業員	松岡信子 町井裕子 鬼塚穂子 白井典子 村山律子 井上理香 渡部美香 城真奈美 橋本悦子

[上大利南土地区画整理組合]

理 事 長	森山繁喜
副 理 事 長	樋口敬記
事 務 局 長	平田靖憲
技 術 職	濱本泰司
事 務 職	戸渡美智子

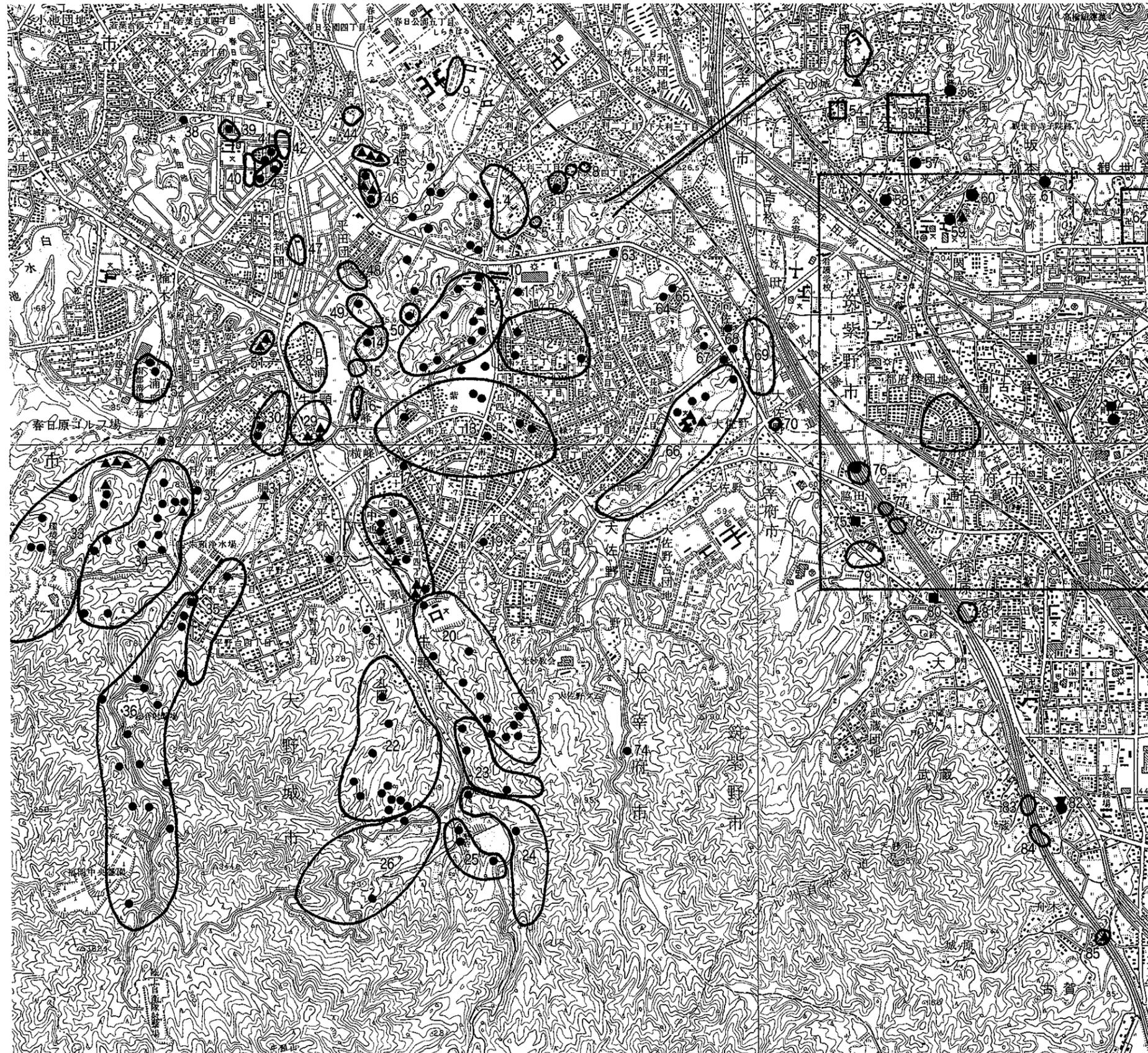
平成13～15年度発掘調査・整理作業

嘱 託

平島義孝 (現 ㈱埋蔵文化財サポートシステム) 岸見泰宏 (現 愛媛県松山市教育委員会)
上田恵 (現 小郡市教育委員会) 島田拓 (現 兵庫県上郡町教育委員会)

発掘調査・整理作業参加者

原田敬子 大海雅子 高木幸子 満富スエコ 吉嗣波津子 岩切ふえ 前田チエ子 西田幸子
那波幸子 高木冴子 藤田和子 三原ひろみ 吉田香織 岡本妙子 馬場孝子 田中照子
寺垣みゆき 中垣 親 松山洋子 日野律子 小林敏子 坂本泰子 渡辺久美子 小林久美子
西村清子 貞包由起子 広渡隆子 穴井和子 立石律子 船越桃子 樋之口浩一 深野人美
大蘭英美 仲前富美子 井口るみ子 倉富倫子 釣屋種利 飯田三治 溝口忍 金澤好子
田浦秀子 小川ケイ子 三善公子 山下隆子 團野ハマ子 篠崎繁美 東島真弓 安里由利子
中山文子 牧野和美 川村真樹子 村岡真由美 榎坂陽子 原口美奈子 山口文代
大島五津子 大浦旗江 清成健悟 高木由佳 木村奈津子 織田徹 松田和美 戸渡京子
野崎美智子 倉住孝枝 稲富久子 山田賢治 松尾純子 末永勝 安達はるみ 西本福雄
田中悦子 田野和代 吉村秀子 宮原ゆかり 尾ノ口英晴 碓井ふき子 木室友希 渡辺直美
川岸昌子



〔大野城市〕

1. 野添遺跡群
2. 梅頭遺跡群
3. 本堂遺跡群
4. 上園遺跡
5. 出口遺跡
6. 出口遺跡
7. 唐土遺跡
8. 谷川遺跡
9. 池田・池の上遺跡
10. 上大利小水城
11. 谷蟹窯跡
12. 大浦窯跡群
13. 平田窯跡群
14. 華無尾窯跡
15. 華無尾遺跡
16. 屏風田遺跡
17. 東浦窯跡群
18. 中通遺跡群
19. 上平田遺跡
20. ハセムシ窯跡群
21. 原窯跡
22. 井手窯跡群
23. 道ノ下窯跡群
24. 長者原窯跡群
25. 笹原窯跡群
26. 足洗川窯跡群
27. 城ノ山窯跡群
28. 日ノ浦遺跡群
29. 塚原遺跡群
30. 畑ヶ坂遺跡群
31. 胴ノ元古墳
32. 小田浦28地点
33. 後田遺跡群
34. 小田浦遺跡群
35. 大谷窯跡群
36. 石坂窯跡群
37. 月ノ浦1号窯跡

〔春日市〕

38. 大牟田窯跡
39. 惣利窯跡群
40. 惣利西遺跡
41. 惣利遺跡
42. 惣利北遺跡
43. 惣利東遺跡

44. 向谷北遺跡
45. 向谷古墳群
46. 平田北遺跡
47. 円入遺跡
48. 春日平田遺跡
49. 春日平田西遺跡
50. 春日平田東窯跡
51. 塚原古墳群
52. 浦ノ原窯跡群

〔太宰府市〕

53. 陣ノ尾古墳・遺跡
54. 筑前国分尼寺
55. 筑前国分寺
56. 国分瓦窯跡
57. 坂本瓦窯跡
58. 松倉瓦窯跡
59. 来木古墳群・瓦窯跡
60. 来木北瓦窯跡
61. 都府楼北窯跡
62. 観世音寺
63. 神ノ前窯跡
64. 篠振遺跡・窯跡
65. 尊田窯跡
66. 宮の本遺跡
67. 長浦窯跡
68. 向佐野窯跡
69. 前田遺跡
70. 尼崎遺跡
71. 榎寺
72. 市ノ上遺跡
73. 般若寺・瓦窯跡
74. 野口窯跡

〔筑紫野市〕

75. 杉塚廃寺
76. 剣塚遺跡・瓦窯跡
77. 前田遺跡
78. 唐人塚遺跡
79. 脇田遺跡
80. 塔原廃寺
81. 桶田山遺跡
82. 原口古墳
83. 八限遺跡
84. 畑添遺跡
85. 扇祇古墳群

第3図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

Ⅱ．調査の結果

1．調査概要（第4図、図版1）

第7次調査地は、日ノ浦池の南西側に位置し、県道31号線から約200m南側にある。大野城市大字上大利600-1の一部ほかにあたり、調査面積は4,735m²である。調査地の北側は日ノ浦池に面した斜面で、南側は平坦に造成されており、植林地として利用されていた。

調査地内において、特に南側については旧地形がよく分からなかったが、とりあえず日ノ浦池に面した斜面から32次試掘調査として平成14年12月13日から調査を開始した。試掘調査を開始して約1週間ほどで、現況の日ノ浦池南端において窯跡1基を確認し、さらにこれより南側の平坦面下に谷部が残存することが分かった。この時点では、南側にのびる谷部の様相はよく分からなかったが、日ノ浦池に予定されていた堰堤部分には遺構が認められず、早急に発掘調査を実施する必要がなかったため、この部分の試掘調査は平成15年1月6日で一旦打ち切った。

試掘調査を再開したのは、平成15年3月10日のことであった。調査を再開してもなく、先の窯跡の西側に隣接して窯跡1基を確認し、さらに南側平坦面下へ谷部がのびることが判明した。この時点で谷部の最も深い所と平坦面との比高差は10m近くあり、また試掘調査が中断している間に調査地の北側に堰堤が築造されており、排水と排土の除去に以後の調査は苦勞することとなった。試掘調査が完了したのは3月31日であり、確認された遺構は窯跡2基であった。

調査地内の南側平坦面とした部分において確認された谷部は昭和23年の旧地形図上に現れており、これからすると、南側へ細長くのびる谷部が存在していたようである。この谷部は完掘できなかったが、調査地南側の内山緑地作業用道路下にも伸びており、内山緑地造成時に埋められたものと推測される。

発掘調査は、窯跡2基と窯体下方に広がる灰原を対象としておこなった。平成15年8月4日から12月18日までの間実施し、東側の窯跡を1号窯跡、西側の窯跡を2号窯跡とした。灰原は各窯体下方に確認され、1号窯跡の灰原は流失したのかあまり残りがよくなかったが、2号窯跡の灰原は斜面下方に大きく広がり、窯体が位置する北西から南東方向へのびる小谷を埋めていた。さらに遺物を含んだ層は1号窯跡の下方の谷底部にも伸びていたが、先に述べたように調査地の北側には堰堤が築かれていたため谷底部分は常時滞水するような状態であり、調査は重機を用いて掘り下げ遺物を回収する程度で完掘することはできなかった。

調査は窯体の掘り下げからおこない、以後灰原の掘り下げへと移っていった。2号窯跡下方の谷部には厚く灰層が堆積しており、掘り下げにあたっては難渋を極めた。また、2号窯跡灰原の遺物には陶棺の破片が含まれていることが確認され、灰原下方において棺身の大きな破片が投棄されたような状態で出土したことから、2号窯跡での焼成が確実視されるに至った。このため10月9日に福岡大学名誉教授小田富士雄氏に現地において調査指導をいただき、11月28日に新聞発表をおこなった。調査の結果、陶棺は蓋が1個体、棺身が2個体確認され、九州では初めて生産地が確認された。

2. 遺構と遺物

(1) 1号窯跡 (第5～9図、図版2～10)

窯跡は、日ノ浦池南端から南西方向にのびる丘陵が北西方向へ向きを変える地形変換点のやや手前で検出され、丘陵の南東側斜面に位置する。窯体は植林地造成のため上部を削平されており、焼成部下位から上側は完全に失われ、焚口部から焼成部の一部が残存するのみであった。主軸方向はN-25.5°-Wにとり、窯体残存長は主軸上で4.00mである。後述する2号窯跡とは焚口部間で約16mあり、もともとの窯体全長が10m程度として復元すれば、2号窯跡との窯尻間の距離は7m前後と近接していたと想定される。

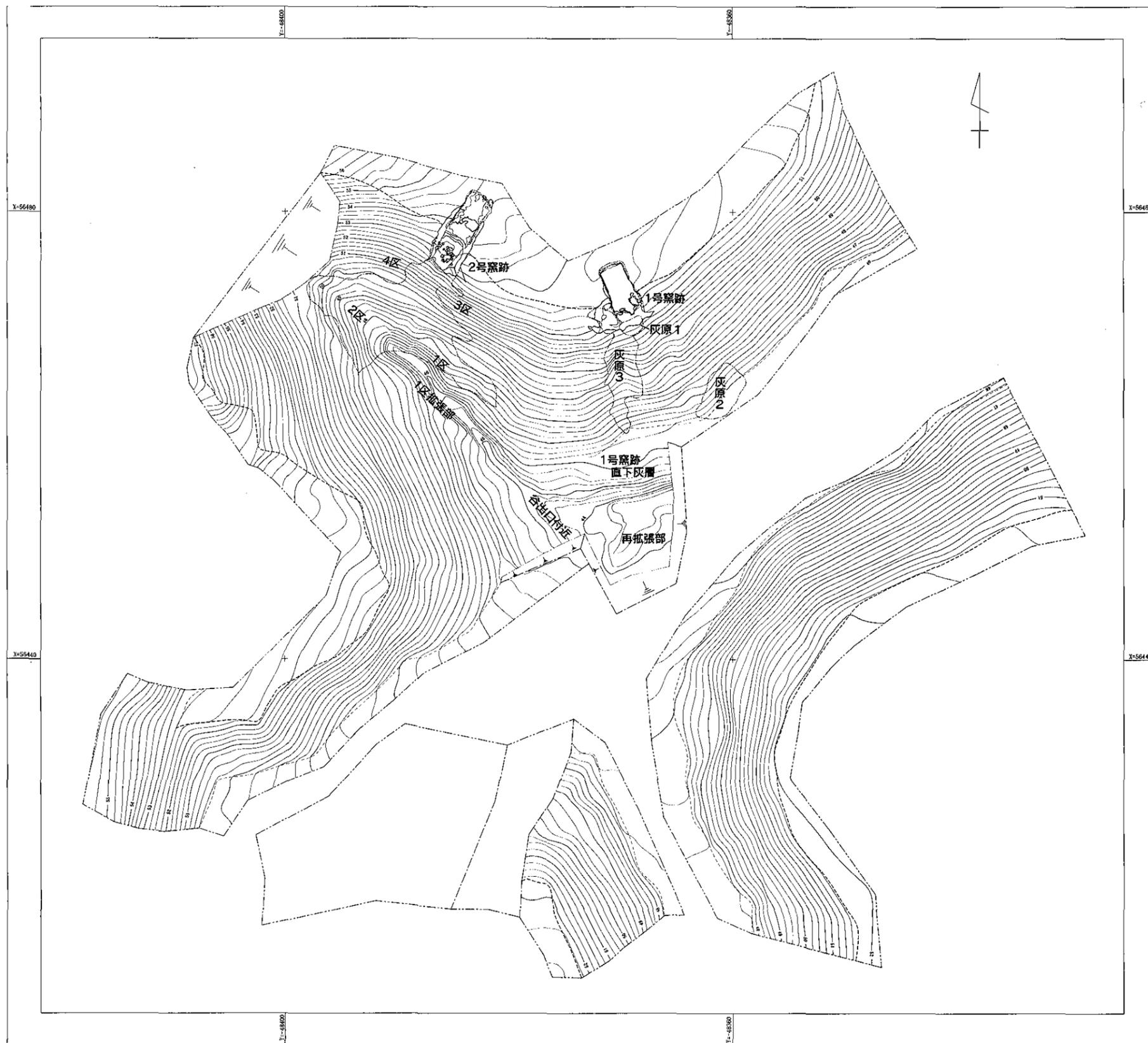
窯体は、表土を剥いた時点で窯壁が長方形プランで検出され、天井部はすでに窯内に落ち込んでいる状態であった。このため天井高は明らかにできない。焼成部には地山である花崗岩パイラン土の落ち込みと、パイラン土の焼固が認められたことから、地下式構造をとることが明らかである。また平面プランは両側壁とも窯尻へむかってほぼまっすぐにのびるプランをとり、牛頸窯跡群に特有な多孔式煙道窯の窯体プランと相似しているが、窯尻部が失われ、構造が不明なことから確言することはできない。

貼床は燃焼部と焼成部の傾斜変換点あたりから焼成部をやや上がった所までは16cm程度であるが、窯尻へ向かうにつれて段々薄くなり、E-E'面から2.52mの所までしか認められなかった。削平により旧状は不明であるが、焼成部の貼床はあまり厚くなかったものと想定される。貼床間には各操業時の灰層が残る。A-A'面の窯体縦断断面図の15・17・20・21層がそれにあたり、17層と21層を比較すると約1m燃焼部が窯尻側へと移っていることが伺える。貼床間の灰層の数と最終操業時の灰層から、少なくとも4回の操業回数が想定される。

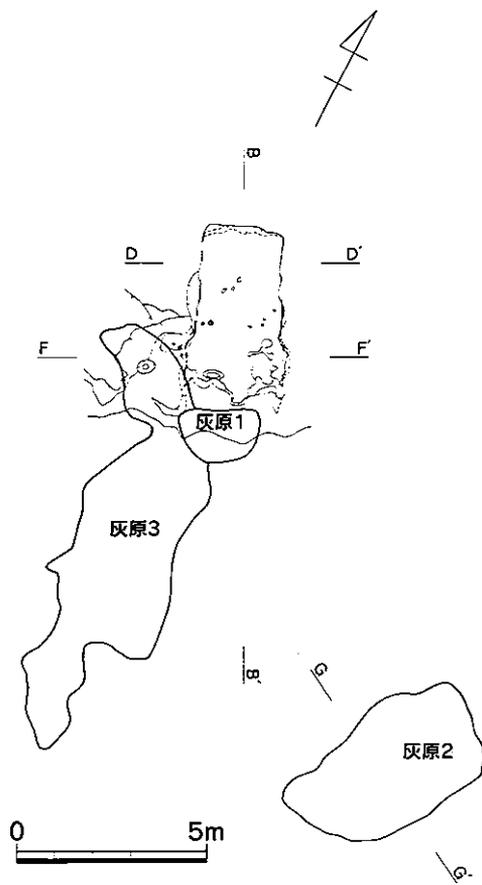
灰原は窯体の下方に確認された。焚口部周辺(灰原1)、窯体南東側斜面下方(灰原2)、窯体南側斜面下方(灰原3)に大別することができるが、検出段階の状況や土層観察の結果から大半が流失しているようである。

焚口・燃焼部 焚口部は左側壁が右側壁に比べ、最終操業時に60cmほど短くなっており、この部分で幅2.50mを測る。貼床を除去し検出された操業当初の焚口幅は2.56mである。この側壁長の差は左側壁を1.7mほど弧状に掘り込むことによって生じており、焚口部を改修していると考えられる。その結果、先述のように燃焼部の範囲が窯尻側に約1mのびており、恐らく焼成部入口も窯尻側に移っていると思われる。最終操業時の床面傾斜を見ると、通常焼成部と燃焼部の境と考えられる傾斜変換点はE-E'面から焚口側へ32cmの所にあるが、最終操業時の灰層はE-E'面から窯尻側へ46cmの所までのびており、本来焼成部と認識される部分も燃焼部として利用されている。傾斜変換点から最終操業時灰層の先端をむすんだ傾斜角度は9°、傾斜変換点から焚口側はほぼ水平である。

焼成部 焼成部の幅は窯尻側の削平部分で2.08m、最終操業時灰層の先端で2.25mと窯尻へ向かうにつれやや幅を減じている。焼成部の角度は14～23°、窯尻側の削平部分と最終操業時灰層の先端をむすんだ傾斜角度は16.5°である。最終操業時の床面はほぼ平坦、貼床を除去した操業当初の床面も若干の凹凸があるのみで、舟底状ピットは存在しなかった。



第4図 調査地地形測量図 (1/400)



第5図 1号窯跡窯体・灰原配置図 (1/200)

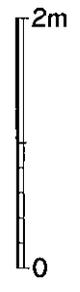
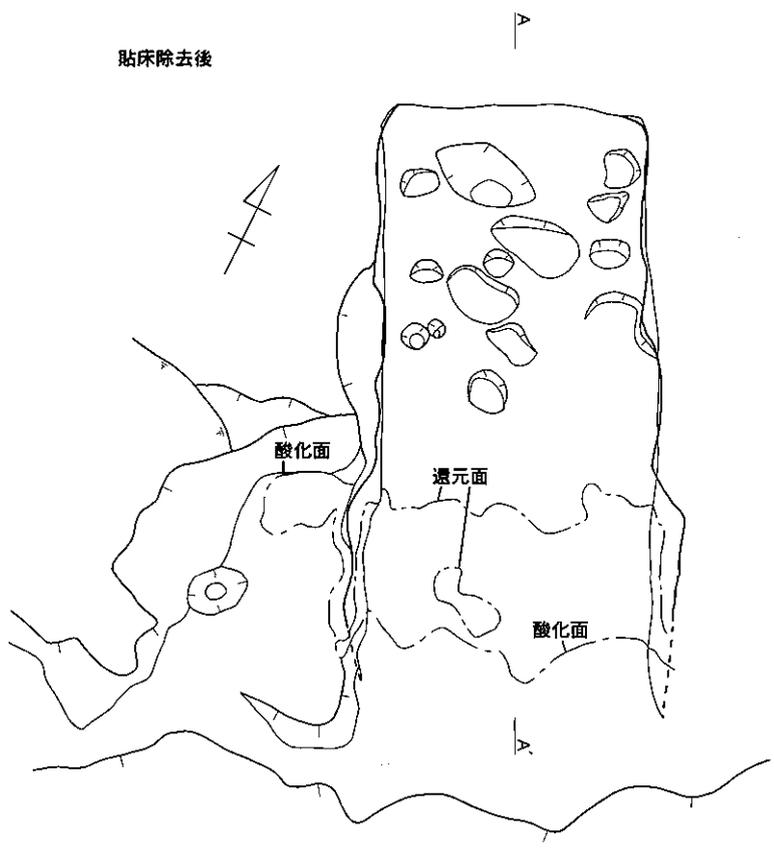
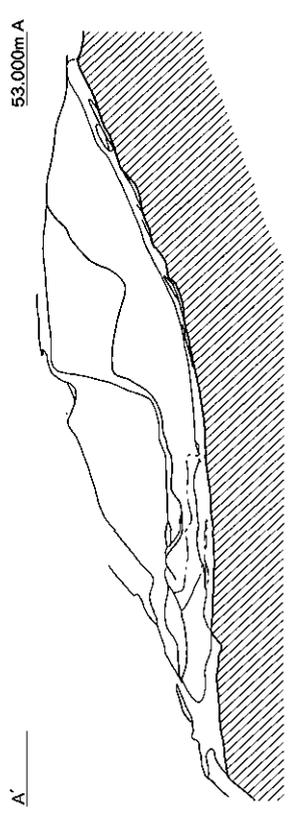
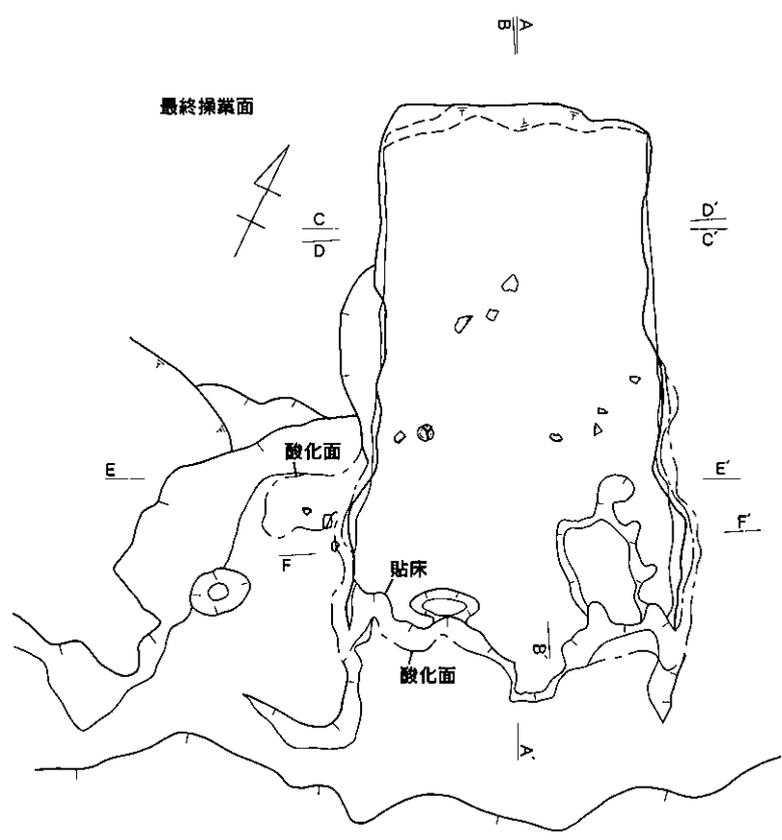
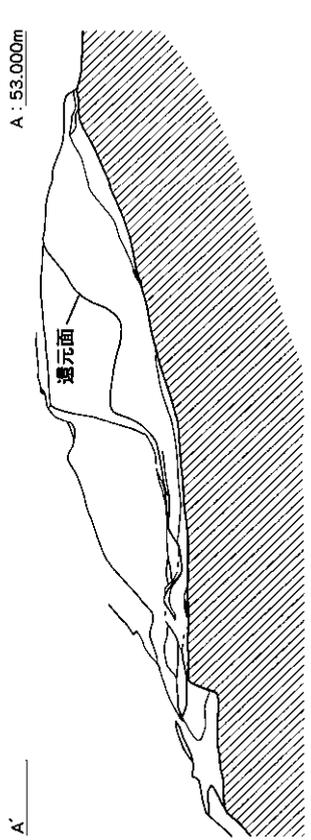
灰原 灰原は先述のように3ヶ所に分かれる。灰原1は、焚口部周辺に長さ1.4×幅2.2mの範囲で広がる。厚さ約20cmの灰層が窯内からのびるが、斜面下方へは続いておらず、流失したものと考えられる。灰原2は、窯体南東側斜面下方に長さ2.9×幅5.4mの範囲で広がる。灰層は斜面下方へのび、最も深い所の厚さは28cmである。焚口部との比高差は約5mであり、灰原1との間には灰層の広がり認められなかった。灰原3は窯体南側斜面下方に長さ11.5×幅3.5mの範囲で広がる。掘り下げの結果、ここは地山が斜面下方へ向かって溝状にくぼんでおり、特に灰原の先端部は斜面上方にあった灰層が流れ、二次堆積したものと考えられる。各灰原の重複関係は、灰原検出時には確認できなかった。またいずれの灰層も明確な層界は認められず、分層できなかった。各灰層下は旧表土や窯の掘りぬき土が認められる。

出土遺物 (第10～12図・図版22～24)

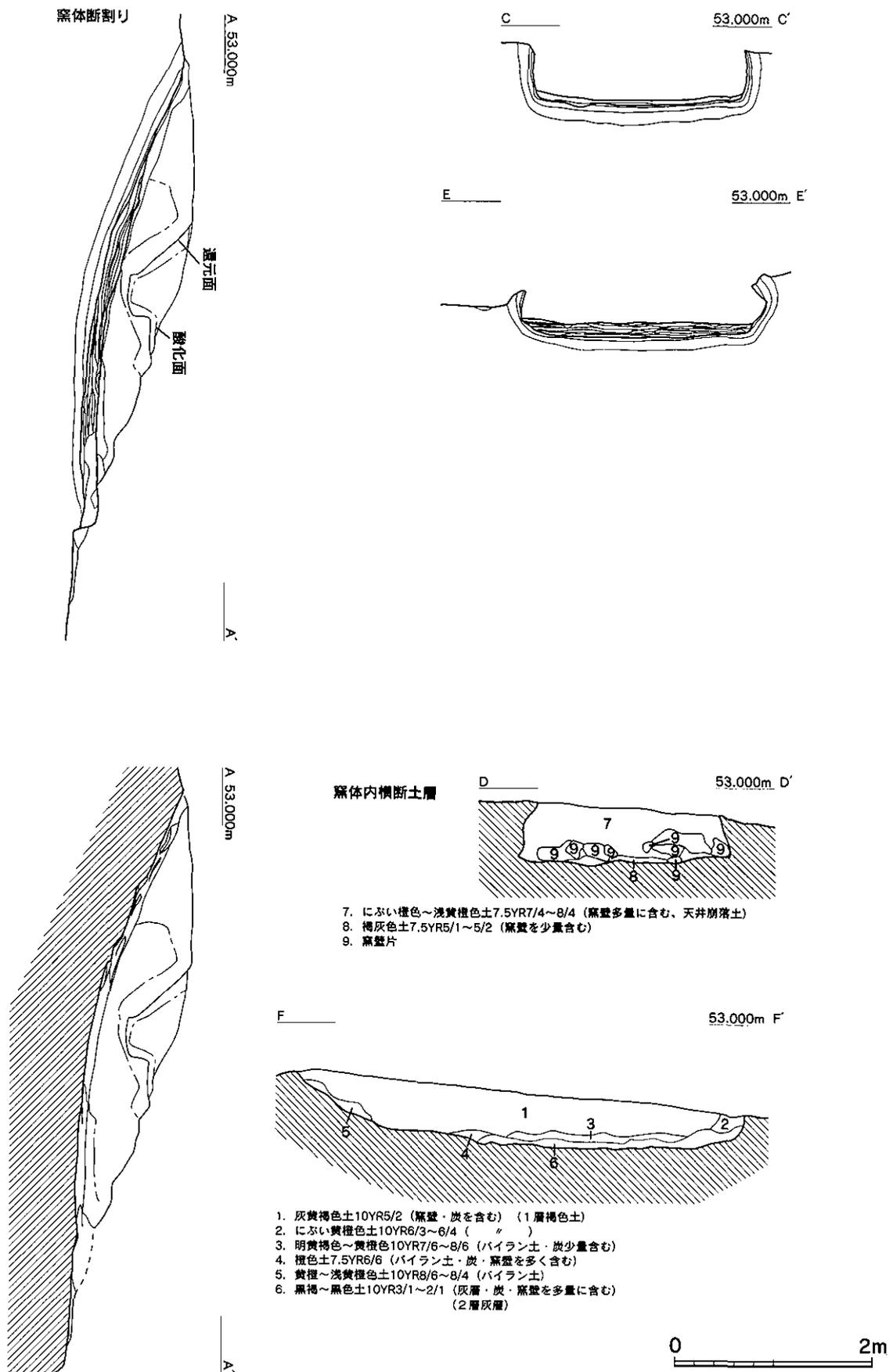
1～31は窯体内からの出土遺物である。1～6は貼床出土の遺物と貼床内から出土した遺物が接合したもの、7～23は燃焼部床面出土、24～31は焚口部埋土から出土した遺物である。

須恵器 (1～47)

1は杯H蓋。口径13.4cm、天井部は比較的高く、丸みをもって下る。2は杯H。復元口径10.0cm、受部は短く外方へのび、立ち上がりは内傾する。3は無蓋高杯。脚部を欠損する。内外面と割れ口に降灰が認められ、二次焼成を受けたことが分かる。4は有蓋高杯の蓋。大きく焼け歪んでおり、内外面に降灰が認められる。天井部外面の回転ヘラ削りは1/2を超える。5は椀。底部は平らで、格子状のヘラ記号を施す。6は穿孔杯。蓋・身の別は分からない。青灰色に還元し、焼け歪む。7～16は杯H蓋。いずれも天井部は比較的高く、丸みをもつ。口径12.8～13.7cmで、天井部外面の回転ヘラ削りは1/2程度である。また、10と17は接合し、蓋身をかぶせてセットで焼成される。外面の降灰の観察から、杯身が上、杯蓋が下とひっくり返して焼成されたようである。17～20は杯身。口径11.2～12.1cm。立ち上がりは短く内傾し、底部外面の回転ヘラ削りは1/2程度である。21は無蓋高杯。杯部は丸く、体部中位には2条の沈線を施す。22は壘。大きく焼け歪み、体部下半を欠損する。頸部は比較的低く、細い基部からラッパ状に外反した後、角度を変えて端部へいたる。屈曲部外面には沈線を巡らせ、体部下半は丁寧な回転ヘラ削りを施す。23は穿孔杯。口径14.0cmの杯H蓋の天井部を、径4～5cm程度削ぐように外面から穿孔している。焼成はやや不



第6図 1号窯跡実測図① (1/60)



第7図 1号竊跡実測図② (1/60)

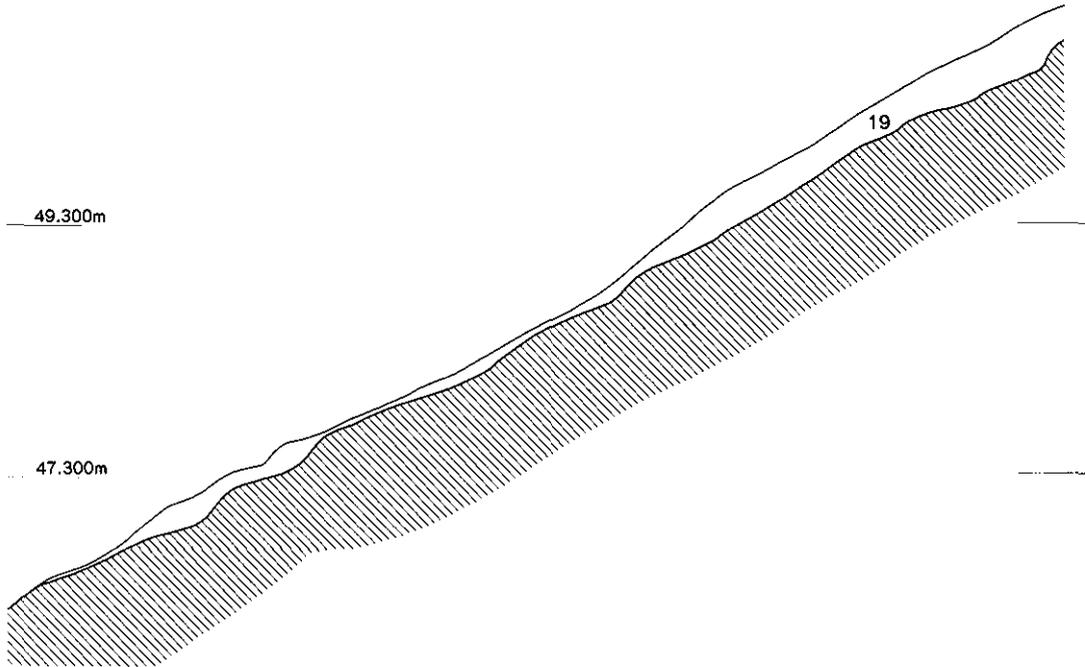
B' 53.300m

- 10. にぶい黄褐色土10YR6/3~6/4 (腐葉少量含む)
- 11. 黄灰色土2.5Y5/1 (砂質土、粗砂・腐葉多量に含む)
- 12. にぶい褐色土5YR5/3~5/4 (しまりあり)
- 13. 橙~にぶい橙土10YR7/6~7/4 (腐葉少量含む)
- 14. にぶい赤褐色土5YR4/3 (腐葉含む、しまりあり)
- 15. 黒色土10YR1.7/1~N1.5/ (灰層、腐葉を大量に含む) (2層灰層)
- 16. にぶい黄褐色土10YR6/4 (15が混じる、旧表土?)
- 17. 黒色土10YR1.7/1 (灰層) (2層灰層)
- 18. 褐灰色土10YR5/1~4/1 (15が混じる、林檎)
- 19. 明黄褐色~にぶい黄褐色土 (パイラン土を含む、旧表土?)

51.300m

49.300m

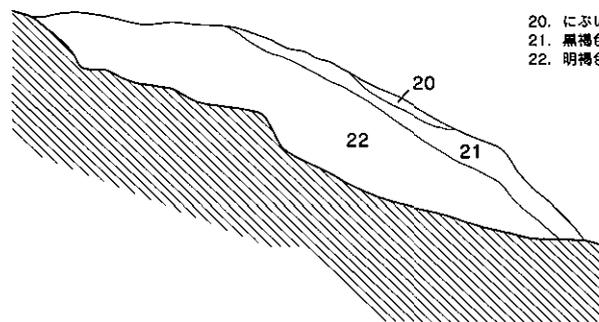
47.300m



灰原2縦断面

G 48.000m

G'



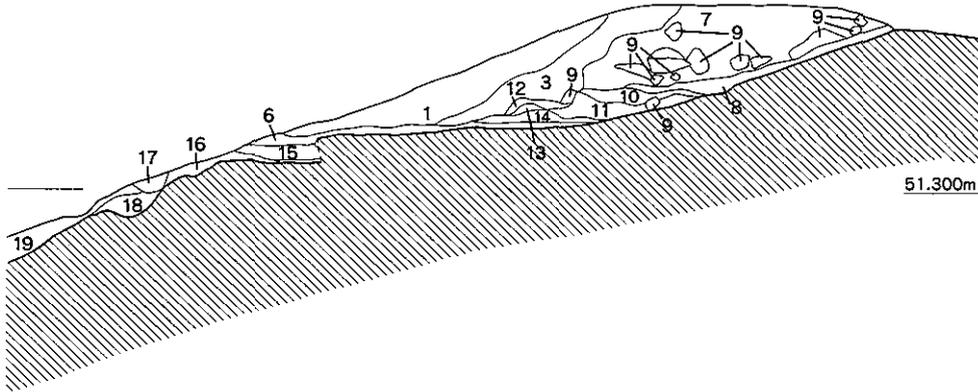
- 20. にぶい黄褐色土10YR5/4
- 21. 黒褐色土~黒色土10YR3/1~2/1 (灰層、腐葉を含む)
- 22. 明褐色土7.5YR5/6 (旧表土)

0 2m

第8図 1号窯跡窯体内~灰原土層実測図① (1/60)

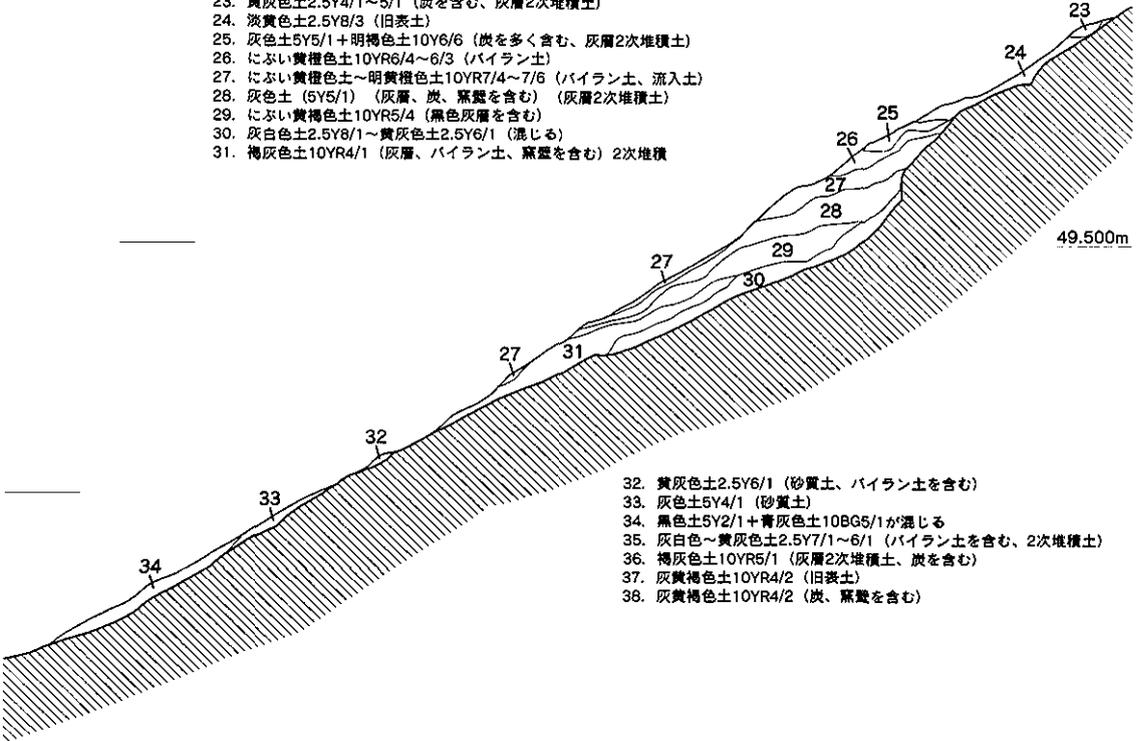
窯体内～灰原縦断面

53.300m B



灰原3-5～8区縦断面 51.300m

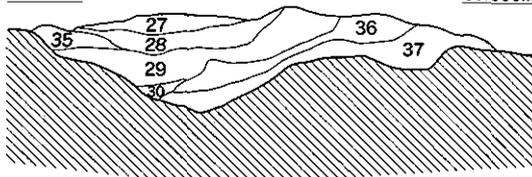
- 23. 黄灰色土2.5Y4/1～5/1 (炭を含む、灰層2次堆積土)
- 24. 淡黄色土2.5Y8/3 (旧表土)
- 25. 灰色土5Y5/1+明褐色土10Y6/6 (炭を多く含む、灰層2次堆積土)
- 26. にぶい黄褐色土10YR6/4～6/3 (パイラン土)
- 27. にぶい黄褐色土～明黄褐色土10YR7/4～7/6 (パイラン土、流入土)
- 28. 灰色土 (5Y5/1) (灰層、炭、窯塵を含む) (灰層2次堆積土)
- 29. にぶい黄褐色土10YR5/4 (黒色灰層を含む)
- 30. 灰白色土2.5Y8/1～黄灰色土2.5Y6/1 (混じる)
- 31. 褐灰色土10YR4/1 (灰層、パイラン土、窯塵を含む) 2次堆積



- 32. 黄灰色土2.5Y6/1 (砂質土、パイラン土を含む)
- 33. 灰色土5Y4/1 (砂質土)
- 34. 黒色土5Y2/1+青灰色土10BG5/1が混じる
- 35. 灰白色～黄灰色土2.5Y7/1～6/1 (パイラン土を含む、2次堆積土)
- 36. 褐灰色土10YR5/1 (灰層2次堆積土、炭を含む)
- 37. 灰黄褐色土10YR4/2 (旧表土)
- 38. 灰黄褐色土10YR4/2 (炭、窯塵を含む)

灰原3横断面

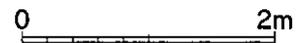
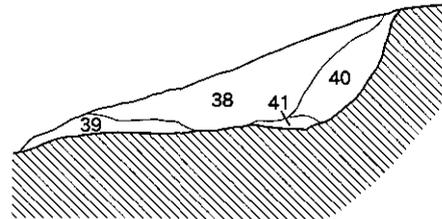
50.000m



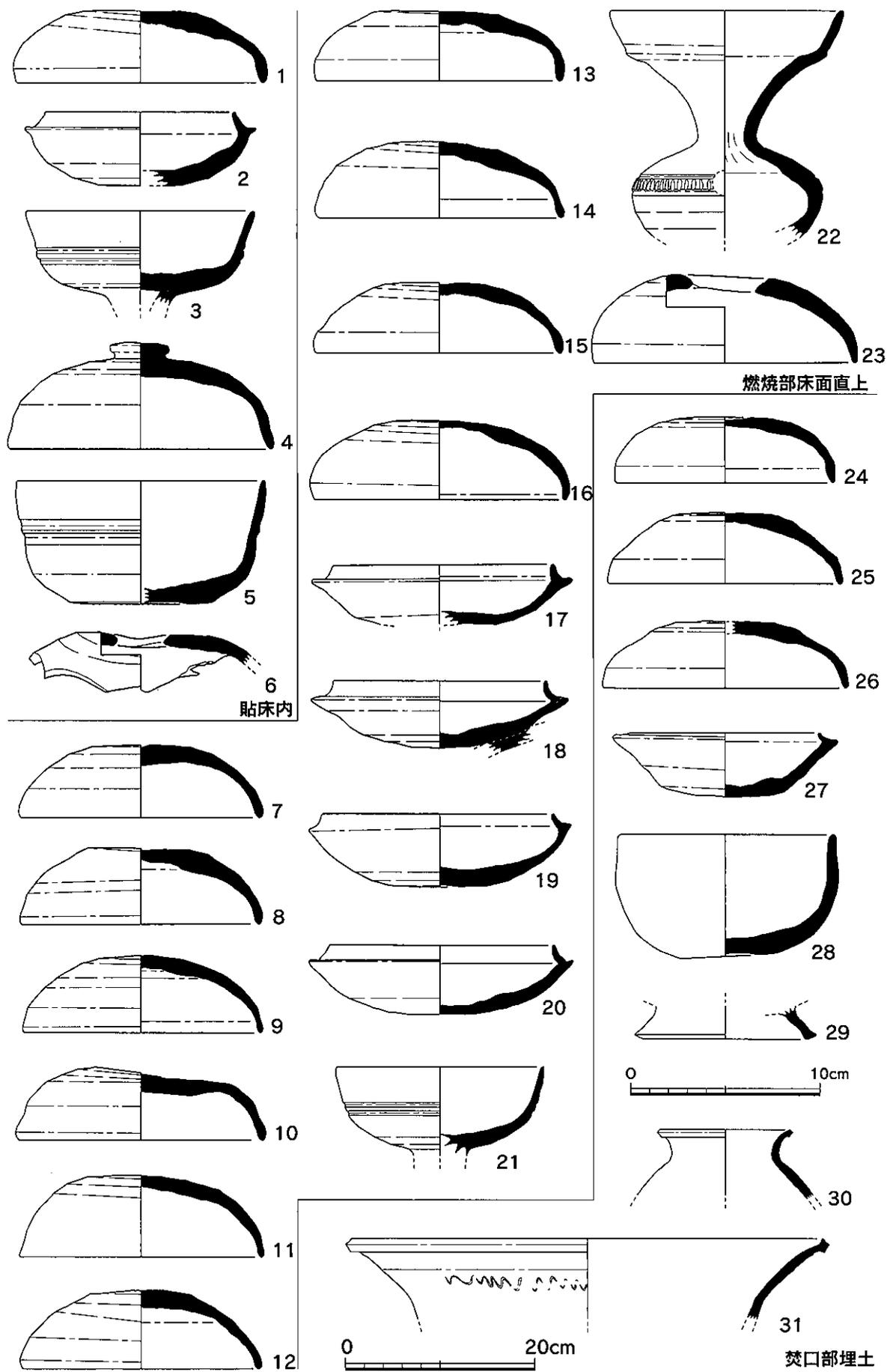
- 39. にぶい黄褐色～明黄褐色土10YR7/4～7/6 (炭、窯塵を含む)
- 40. 灰黄～にぶい黄色土2.5Y6/2～6/3 (パイラン土塊多量を含む)
- 41. にぶい黄色土2.5Y6/4 (粘質、炭、窯塵、焼土塊を含む)

灰原3-1～4区縦断面

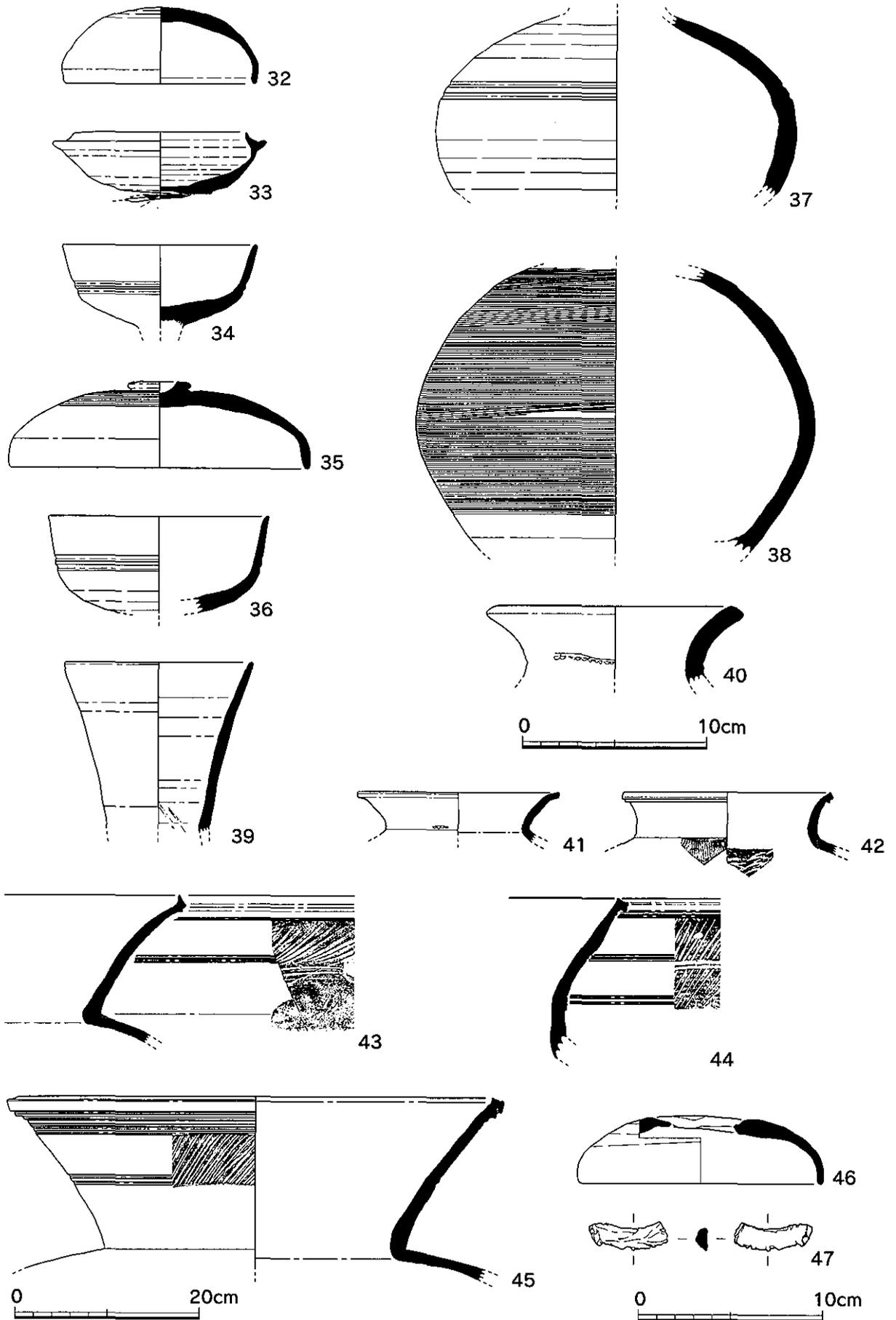
53.000m



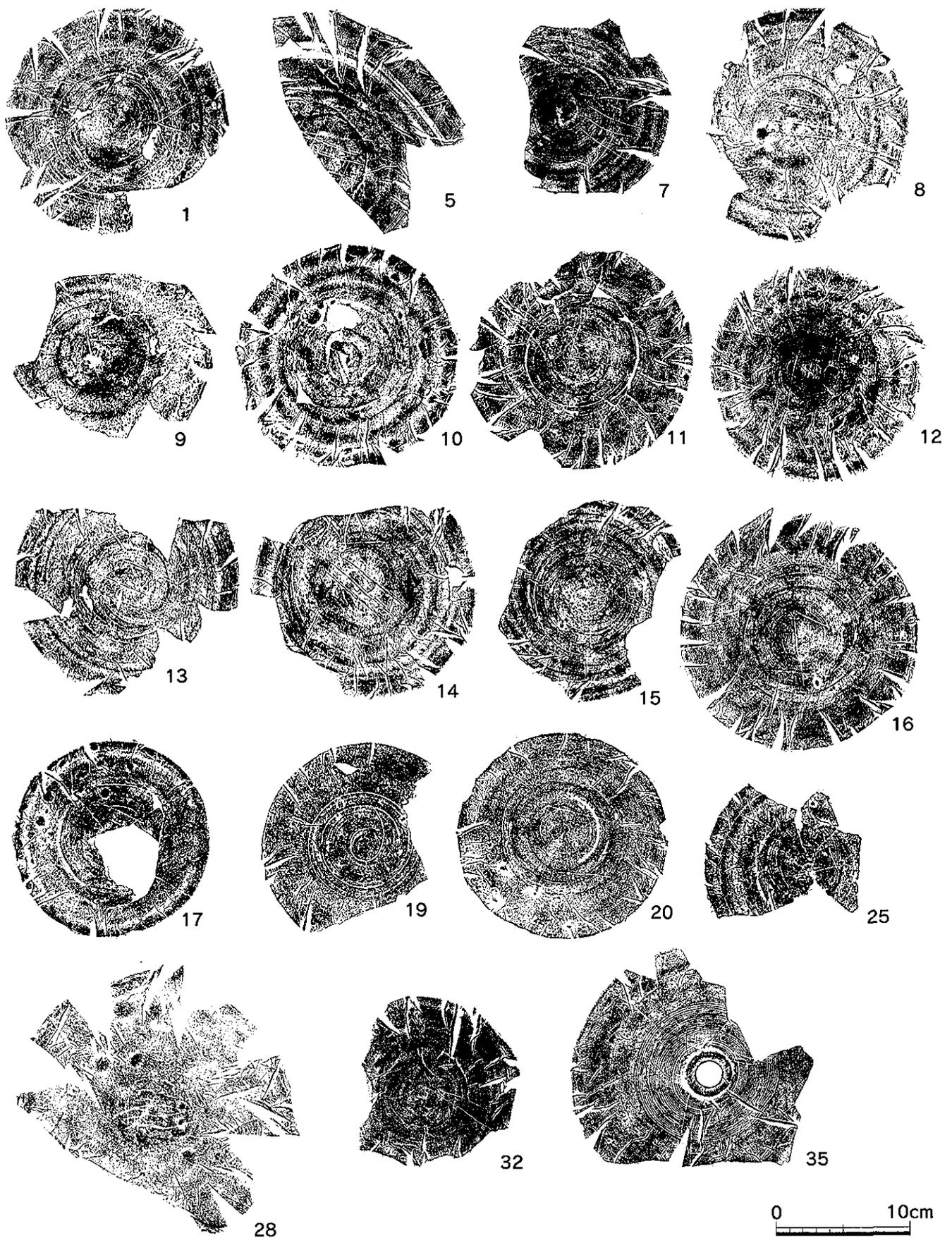
第9図 1号窯跡窯体内～灰原土層実測図② (1/60)



第10図 1号窯跡窯体内出土遺物実測図 (30・31は1/6、他は1/3)



第11図 1号窯跡灰原・再拡張部出土遺物実測図 (40~45は1/6、他は1/3)



第12图 1号窑迹出土遗物拓影图 (1/4)

良で、穿孔以外の調整は通常の杯蓋と同じである。24～26は杯H蓋。復元口径11.6～12.5cmと、焼成部床面出土のものに比べてやや小型である。天井部は比較的高く丸みをもち、天井部外面の回転ヘラ削りは1/2以下である。27は杯H。立ち上がりは極めて短く、内傾し、底部は平らに近い。焼成はやや軟質であり、底部外面の回転ヘラ削りは認められない。28は椀。大きく焼け歪んでおり、内外面は厚く降灰している。底部は平らに仕上げられ、丸い体部から口縁部へむかって直立する。29は高台のみの破片である。ハの字に低くふんばり、内端面で設置する。復元底径9.6cm。高台付椀か？30・31は甕。いずれも小片のため、径の復元には難がある。30は中小型の甕。頸部は体部より丸く続き、端部へむかって大きく外反する。31は大甕。頸部は大きく外反し、外面はカキメを施した後、1条の波状文が雑に施されるのみで、圏線は認められない。

32～47は、灰原ならびに1号窯跡の斜面下方を重機で再拡張した際に出土した遺物である。32は検出中に出土。杯H蓋。復元口径10.7cm、天井部は丸く比較的高いが、天井部外面の回転ヘラ削りは1/3と狭い。33は杯H。外面には重ね焼きにより他の製品の一部分が粘着しており、降灰は体部外面全体に認められる。二次焼成の可能性もあり即断できないが、底部を上に向けてひっくり返した状態で焼成された可能性が高い。34は高杯。杯部は直線的な底部から屈曲して外方へ開き、屈曲部のやや上には沈線が施される。体部外面には降灰が認められ、窯内で倒置して焼成されたことが分かる。35は有蓋高杯の蓋。焼け歪んでおり、径の復元に難があるが、口径16.4cmに復元できる。つまみは中央をくぼませており、天井部外面1/2ほどカキメが施される。35は杯身。半分ほどの破片であり、高杯の可能性もあるが、脚部がつくような状況は認められないことから杯身と考えた。底部は丸く仕上げられ、回転ヘラ削りを施す。体部には沈線が2条施される。37・38は長頸壺あるいは頸部の細い壺と考えられる。体部の一部のみ残存し全形は伺えないが、いずれも球形の体部をもつ。37は肩部に2条の沈線を巡らし、38は全面にカキメを施す。39は長頸壺。頸部のみの破片で、全形は伺えない。頸部から口縁部へは外反し、そのまま端部へいたる。端部は丸く仕上げられる。40は壺。頸部のみの残存。41～45は甕。41・42は中小型のもので、小片のため径の復元に難がある。41は口縁端部を面取りし四角く仕上げられる。42は頸部は短く、外反して開く。43～45は大甕。いずれも基部は太く、頸部は外方へ開く。頸部外面は右上がりの雑な連続斜線文を施した後、43・45は圏線を2段、44は3段に巡らす。46は穿孔杯。杯H蓋の天井部を外面から削ぐように穿孔するが、切り口は不整である。焼成はやや不良。47は甕類の成形時、余った粘土を切り落としたものである。欠損しているが、現状では長さ4.2cm、厚さ6mmほどの小さな破片であり、全体に還元し、焼成は良好である。窯道具としての利用が想定されているが、このような小片でも使用できるのであろうか？

(2) 2号窯跡 (第13～17図、図版11～21)

窯跡は1号窯跡の西側に約16mの所に位置し、日ノ浦池南端から南西方向にのびる丘陵が北西方向へ入り込む小谷の北側斜面で検出された。窯体は1号窯跡と同様に造成のため上部を削平されており、焚口部から焼成部の一部が残存するのみであった。主軸方向はN-33.5°-Eにとり、窯体残存長は主軸上で4.15mである。

窯体は、1号窯跡と同様に表土を剥いだ時点で窯壁が長方形プランで検出され、天井部はすでに

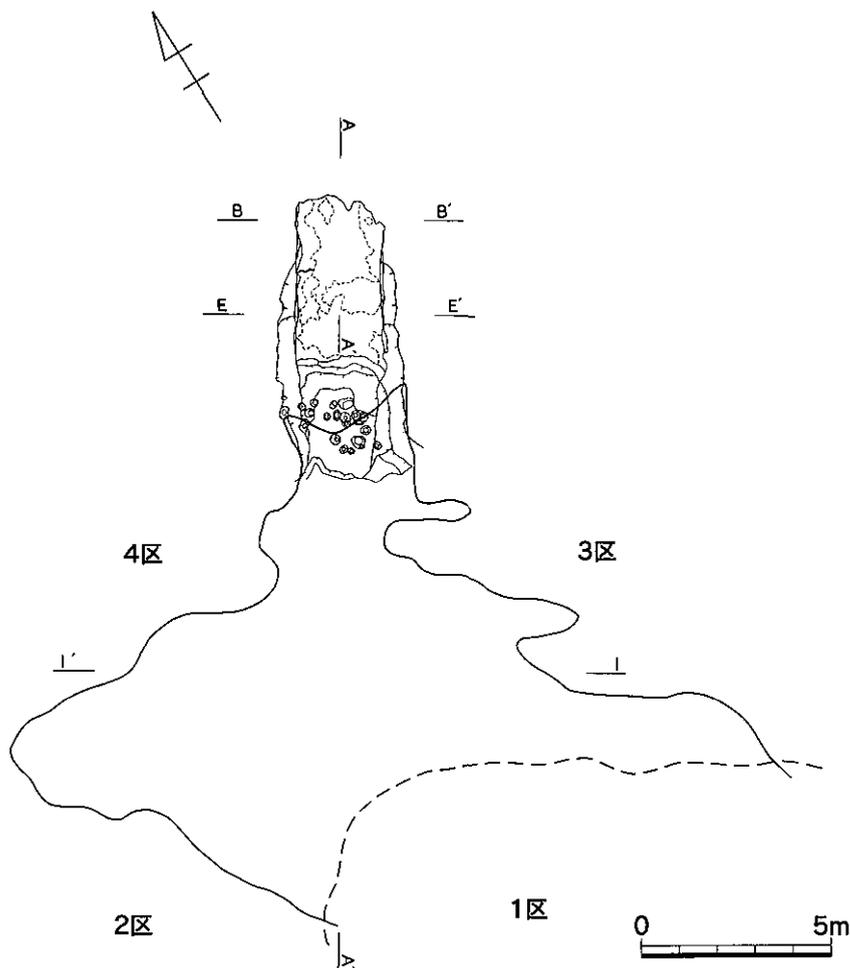
窯内に落ち込んでいる状態であった。このため天井高は明らかにできない。窯体の構造は1号窯跡と同じく残存部の形態的特徴から地下式多孔式煙道窯と推測されるが、残存状態が悪いことから確言することはできない。

床面は、最終操業段階では貼床が施され、ほぼ平坦な状態であった。貼床は焼成部側で最大4枚確認され、最も厚い所で18cmあるが、1号窯跡のように貼床間に灰層を挟まない。このため操業回数としては最低2回以上と考えられるが、それ以上は分からない。貼床は1号窯跡と同じく焼成部側の方へ向かってだんだん薄くなっており、傾斜変換点から2.54mの所までしか認められなかった。

貼床を除去すると、焼成部中央に溝状の舟底状ピットが認められた。焚口側の掘り込みは明確であるが、焼成部側は明確ではない。舟底状ピットは最も深い所で36cm掘り込まれており、ピットの底面には被熱が及ばない。舟底状ピットの焚口側は全体を掘り下げており、貼床除去後の両側壁下には径10cm前後の小ピットが並んで検出された。

灰原は窯体の下方に確認され、北西方向へのびる小谷を埋めるように大きく広がる。灰原内からは大量の遺物が出土し、中には陶棺の破片が含まれていた。

焚口・燃焼部 焚口部は幅2.31m、D-D'面から窯尻側へ17cmの所に燃焼部と焼成部の境の傾斜変換点があり、最終操業時の灰層もほぼ同じ所までのびる。したがって、ここが焼成部境と考えら



第13図 2号窯跡窯体・灰原配置図 (1/200)

れ、幅2.20m、燃焼部の長さは1.53mである。焚口から焼成部境へ向かってはやや下がっており、燃焼部の傾斜角度は -5° である。

舟底状ピットの中ほどから焚口側は、還元した床面全体を削りこんでいる。還元面が残る部分はあるが、全体に10cm程度削りこまれている。焚口部・燃焼部の両側壁沿いに検出された径10cm程度の小ピットは、この削剥面上で確認された。小ピットの断面はいずれも尖底で、深さは10~30cm程度であった。調査時には側壁構築材の痕跡かとも考えられたが、小ピット列が不連続なこと、小ピット内からは構築材の炭化したものは確認されず灰原灰層が落ち込んでいること、検出位置が焚口部にあたり通常の地下式多孔式煙道窯跡では焼成部入口の外側にあたることから構築材である可能性は低いと考えられる。

焼成部 焼成部の幅は窯尻側の削平部分で2.26mと、焼成部境とほぼ変わらずまっすぐのびている。最終操業面は凹凸がなくほぼ平坦であり、焼成部の傾斜角度は 19° 、残存長は主軸上で2.62mである。貼床を除去し、中央部に確認された舟底状ピットは、幅0.80~1.18m。焼成部側が削平されるため本来の長さが不明であるが、残存長は主軸上で3.78mである。舟底状ピットの周壁には還元面・酸化面が巡っており、底面は被熱していない。このことから、舟底状ピットは開口した状態での焼成はおこなわれていないことが分かる。

前庭部土坑 焚口部の手前側に検出された。主軸上の長さ3.10m、幅3.21mの略方形プランを呈する。焚口部床面から土坑床面までは76cm下がっており、土坑床面には径20~30cm程度のピットが認められる。土坑床面はほぼ水平で、斜面下方に開口する。土坑内には、灰原灰層が厚く堆積していた。

灰原 灰原は、先述のように窯体の下方に大きく広がる。灰層は焚口部より連続し、長さ約11.5×幅20mの範囲に広がり、特に小谷を埋めるように堆積している。灰層は厚く、最も厚い所では90cmを測る。しかし、灰層には明確な層界は認められず、分層できなかつた。灰層下は旧表土や窯の掘りぬき土が認められる。

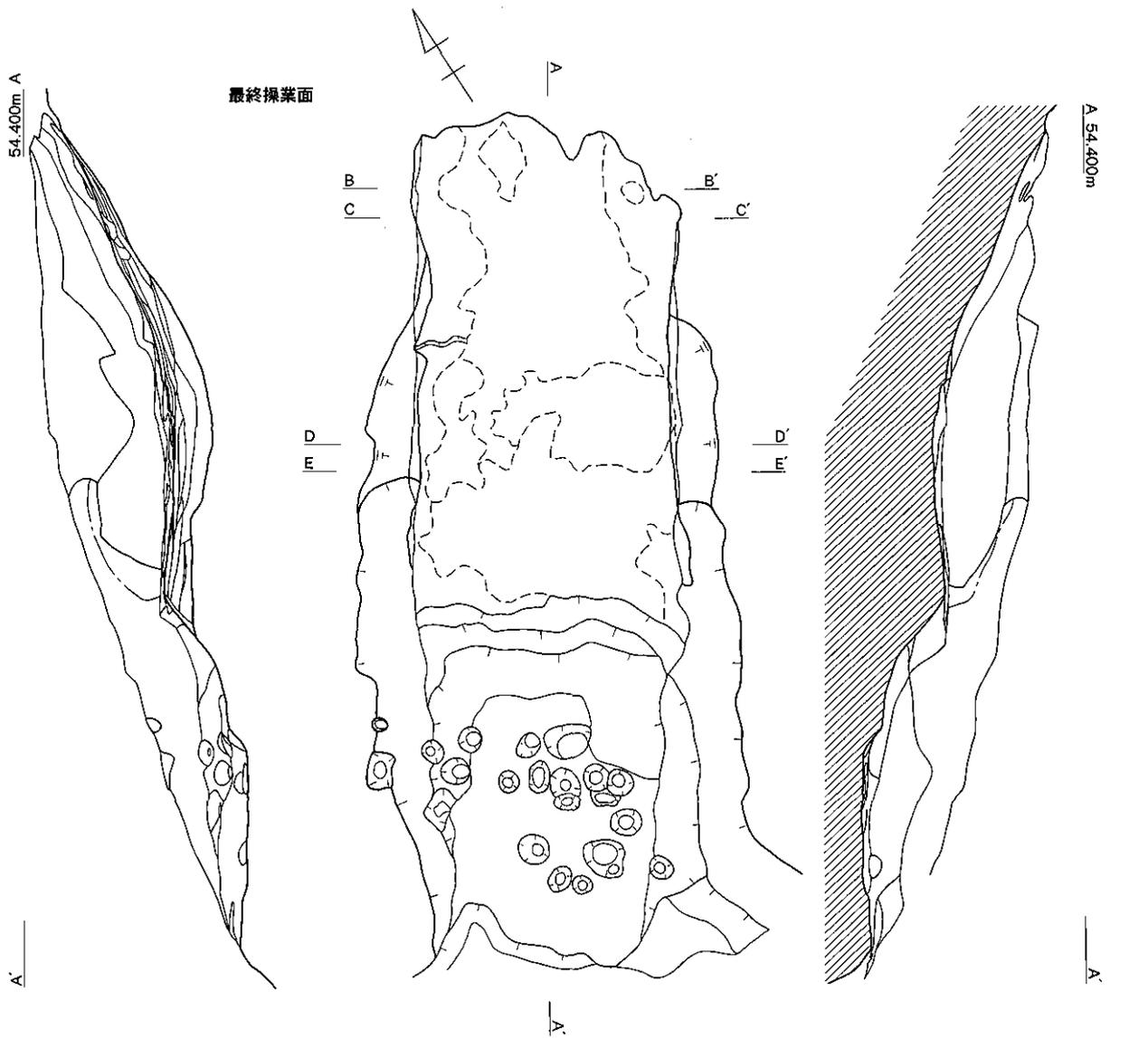
出土遺物 (第18~42図・図版25~69)

48~77は窯体内からの出土遺物である。この内、48~52は貼床・燃焼部床面、53~64は焚口部・燃焼部灰層、65~77は窯体内埋土から出土した。

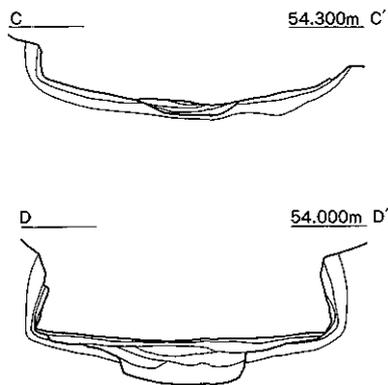
須恵器 (48~143・144~217・220~327・332~340・342~420・422~439)

48は杯H蓋。生焼けで、 $1/4$ ほどの破片である。このため法量の復元には難があるが、口径11.5cmに復元される。天井部は比較的高いが、外面の回転ヘラ削りは認められない。49は杯H。二次焼成を受けている。小片で復元に難があるが、口径11.0cmに復元される。焼け歪みが著しく、立ち上がりは図より内傾すると思われる。51・52は杯H。いずれも口径10.2cmで、立ち上がりは低く内傾する。底部外面の回転ヘラ削りは認められない。

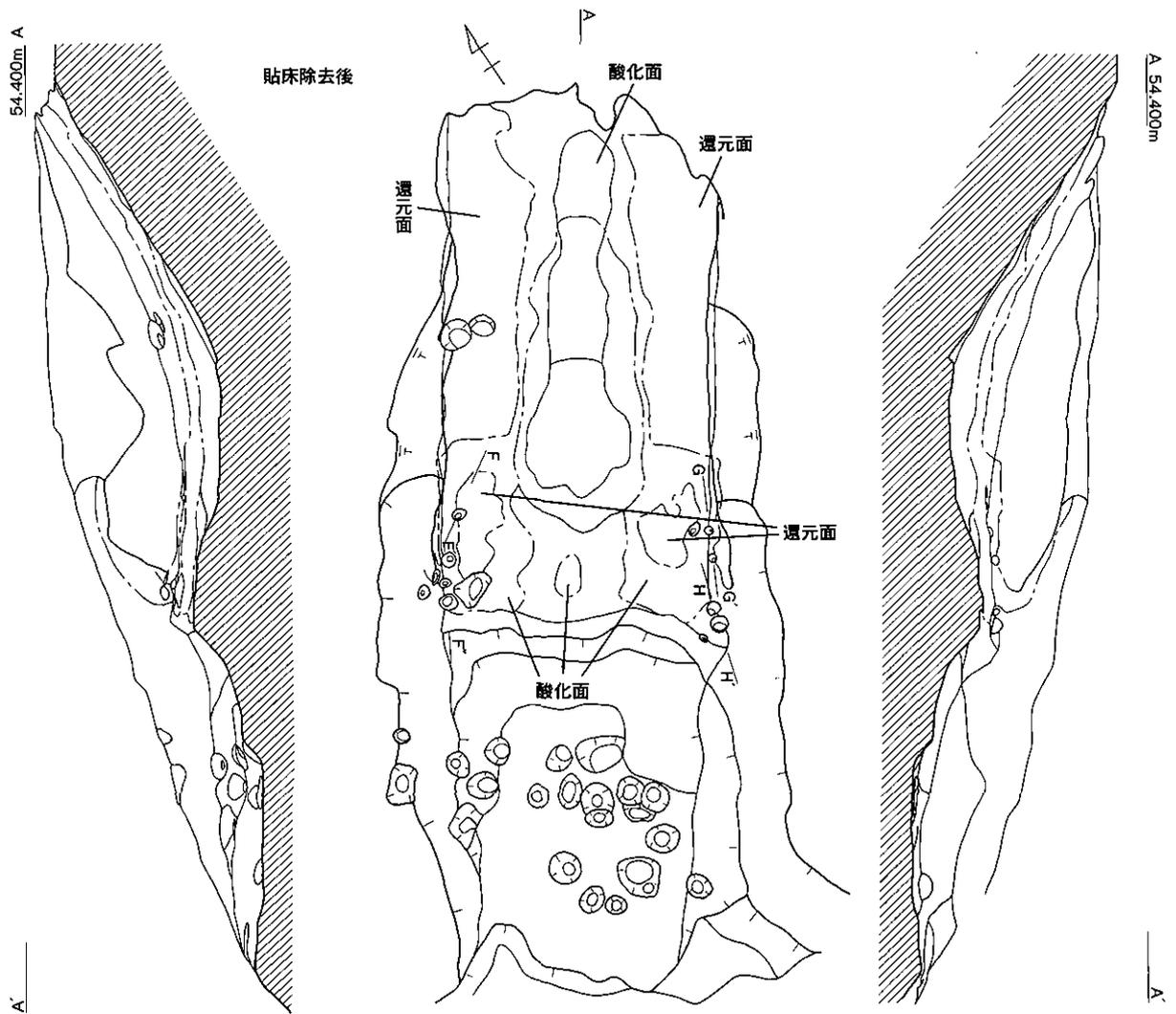
53~55は杯H蓋、56~58は杯G蓋である。53~55は口径10.6~11.7cm、器高3.5~3.8cmで天井部は比較的高く丸い。いずれも天井部外面の回転ヘラ削りは認められない。56~58は天井部に乳頭状のつまみが付される。いずれも焼成不良のため器面の観察が難しいが、56・57は天井部外面に丁寧な回転ヘラ削りを施すようである。59・60は杯G。復元口径10.5~10.9cm。体部は杯



窯体断割り

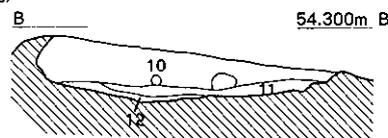


第14図 2号窯跡実測図① (1/60)

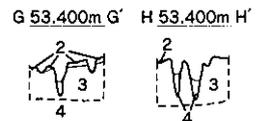
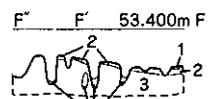


1. 橙色土7.5YR6/8 (にぶい黄褐色土10YR5/3腐炭を含む) (炭口1層褐色)
2. 黒褐色土10YR3/1 (粘質、炭腐炭を含む) (炭口2層黒色)
3. 明黄褐色土10YR6/6 + 黒色〜褐灰色土10YR2/1~4/1 (炭、腐炭を含む) (炭口2層黒色)
4. 褐灰色土10YR4/1 (明黄褐色土10YR7/6を含む、炭、腐炭を含む) (炭口2層黒色)
5. 浅黄色土2.5Y7/4 + 黒褐色土10YR3/1 (炭、腐炭を含む) (炭口2層黒色)
6. 黒色土N1.5/〜10YR1.7/1 (灰層、褐灰色土10YR4/1を含む、炭を多量に含む、腐炭を含む) (炭口2層黒色)
7. 明黄褐色土〜にぶい黄褐色土10YR7/6~7/4 + 褐灰色土10YR4/1 (炭を多量に含む、腐炭を含む) (炭口2層黒色)
8. 明黄褐色〜にぶい黄褐色土10YR7/6~7/4 (炭、焼土を含む)
9. 黒色土N1.5/ (灰層、炭を多量に含む、腐炭を含む)
10. 橙色土7.5YR6/8 (炭、焼土塊を少し含む、腐炭多量を含む)
11. にぶい黄褐色〜明黄褐色土10YR7/4~7/6 (炭を含む)
12. 褐灰色土10YR4/1 (やや粘質、炭、焼土を含む)

竈体内土層

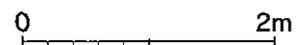


竈体両側壁下小ピット土層

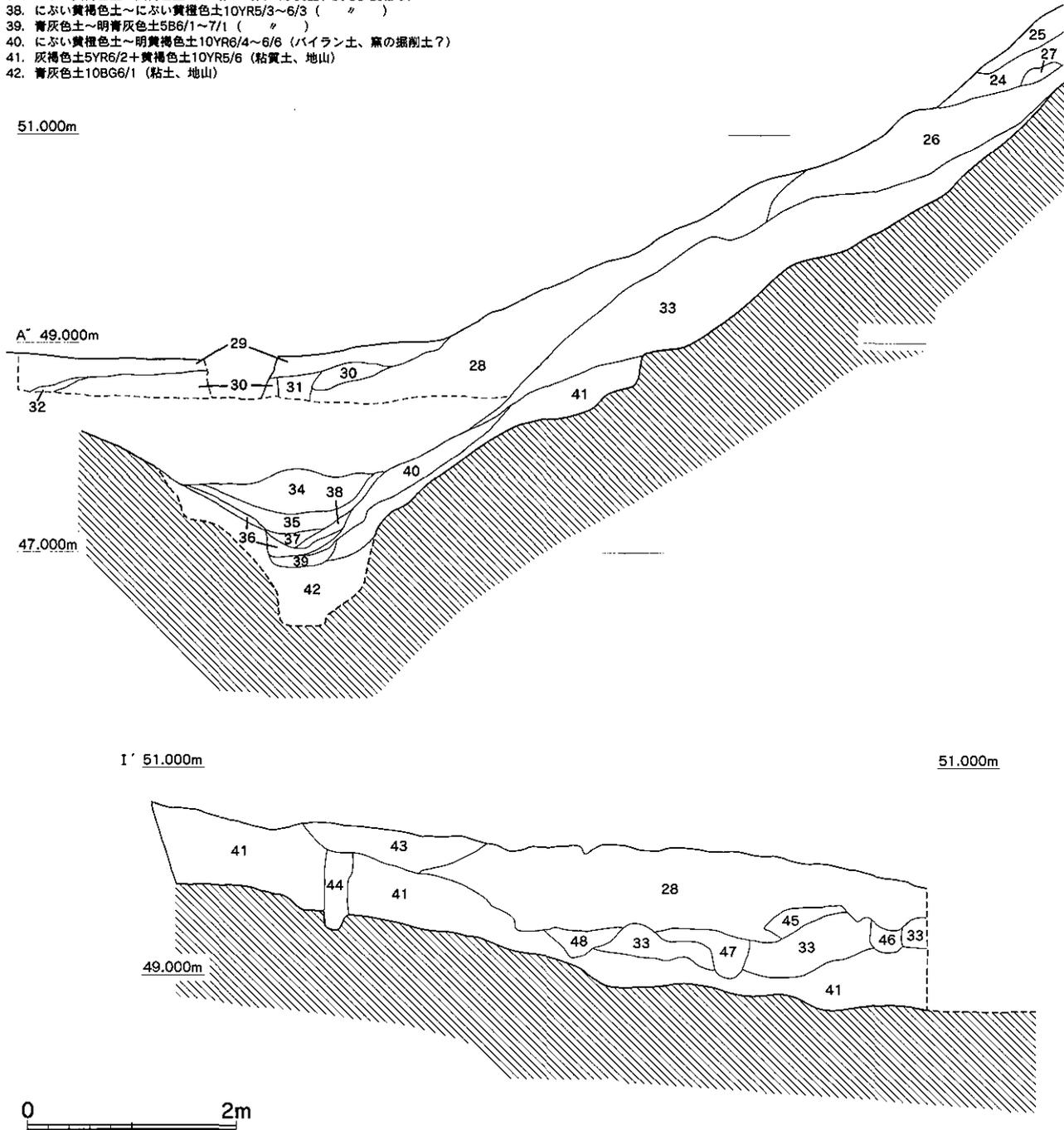


1. 明黄褐色土10YR7/6 (地山還元層)
2. 赤褐色土10R6/6 (地山酸化層)
3. 浅黄褐色土10YR8/4 (地山)
4. 黒褐色土10YR3/2 (炭を含む)

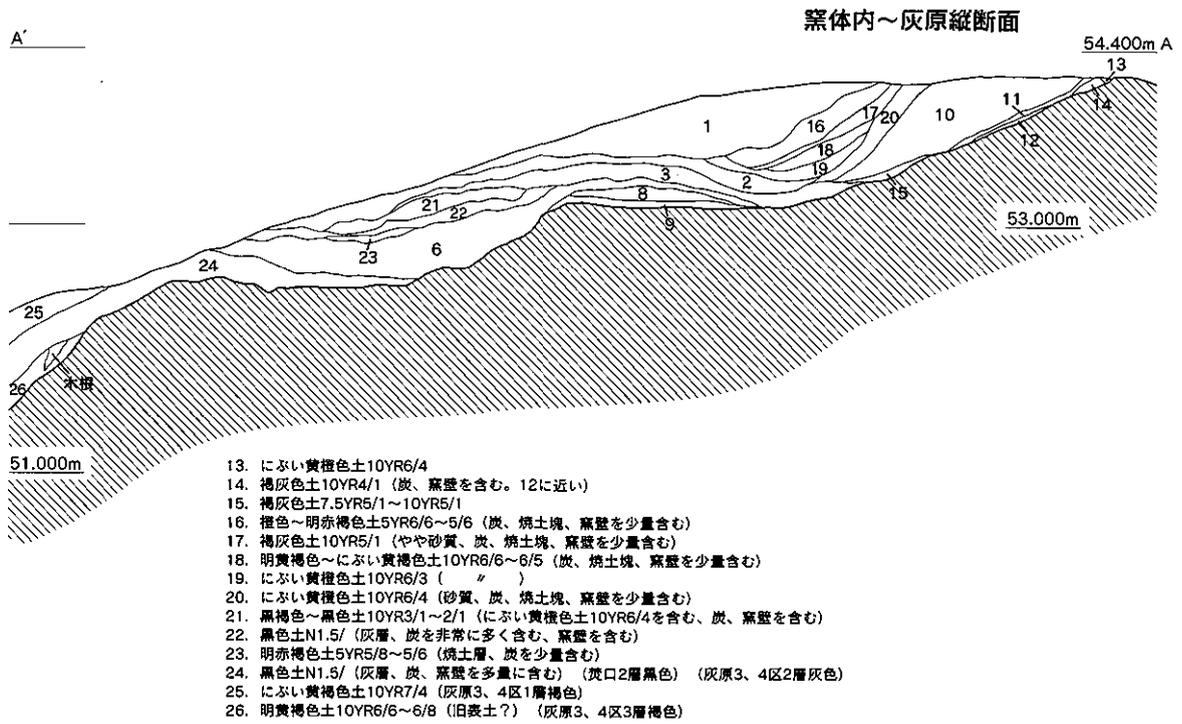
第15図 2号竈跡実測図② (1/60)



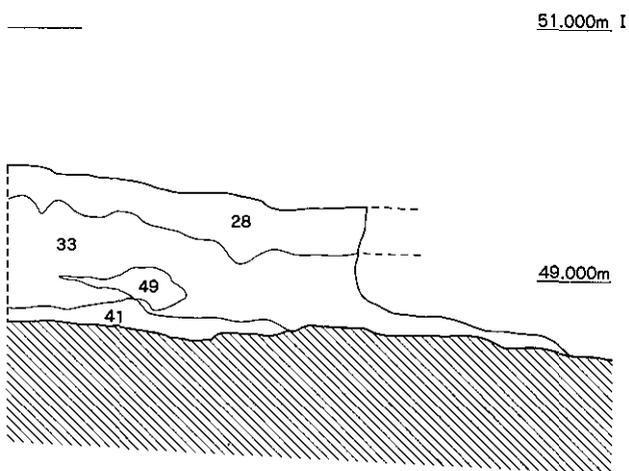
- 27. におい黄橙～明黄褐色土10YR7/3～7/4 (炭を含む)
- 28. 黒色土10YR1.7/1～N1.5/ (10YR4/2灰黄褐色砂質土を含む、炭、灰、焼土塊多く含む) (灰原1区1層、2区3層、3区1層、4区2層)
- 29. 褐灰色土7.5YR4/1 (灰層2次堆積土、灰、炭、焼土塊を含む) (灰原1区西端1層、2区1層)
- 30. 明黄褐色土10YR7/6 (粘質) (灰原1区2層、2区2層)
- 31. 褐灰～黒褐色土10YR4/1～3/1 (灰層2次堆積土、炭、灰、灰層を含む)
- 32. 黒色土10YR1.7/1～N1.5/ (灰層2次堆積土か? 遺物なし)
- 33. 明黄褐色土～黄褐色土10YR6/6～5/6 (ハイラン土、黒色土N1.5/灰層、褐灰色10YR5/1砂質土を少量含む) (黒色土中からの遺物は1区3層)
- 34. 明赤褐色土～橙褐色土5YR5/8～6/8 (焼土層、炭、灰、灰層を非常に多く含む)
- 35. 黒色土10YR1.7/1 (灰層、炭、灰層を非常に多く含む)
- 36. 褐灰色土10YR5/1～4/1 (砂質土、炭を多く含む)
- 37. におい黄褐色土～黄褐色土10YR5/4～5/6 (砂質土、炭を少量含む)
- 38. におい黄褐色土～におい黄褐色土10YR5/3～6/3 (")
- 39. 青灰色土～明青灰色土5B6/1～7/1 (")
- 40. におい黄褐色土～明黄褐色土10YR6/4～6/6 (ハイラン土、灰の掘削土?)
- 41. 灰褐色土5YR6/2+黄褐色土10YR5/6 (粘質土、地山)
- 42. 青灰色土10B6G/1 (粘土、地山)



第16図 2号窯跡窯体内・灰原土層実測図① (1/60)



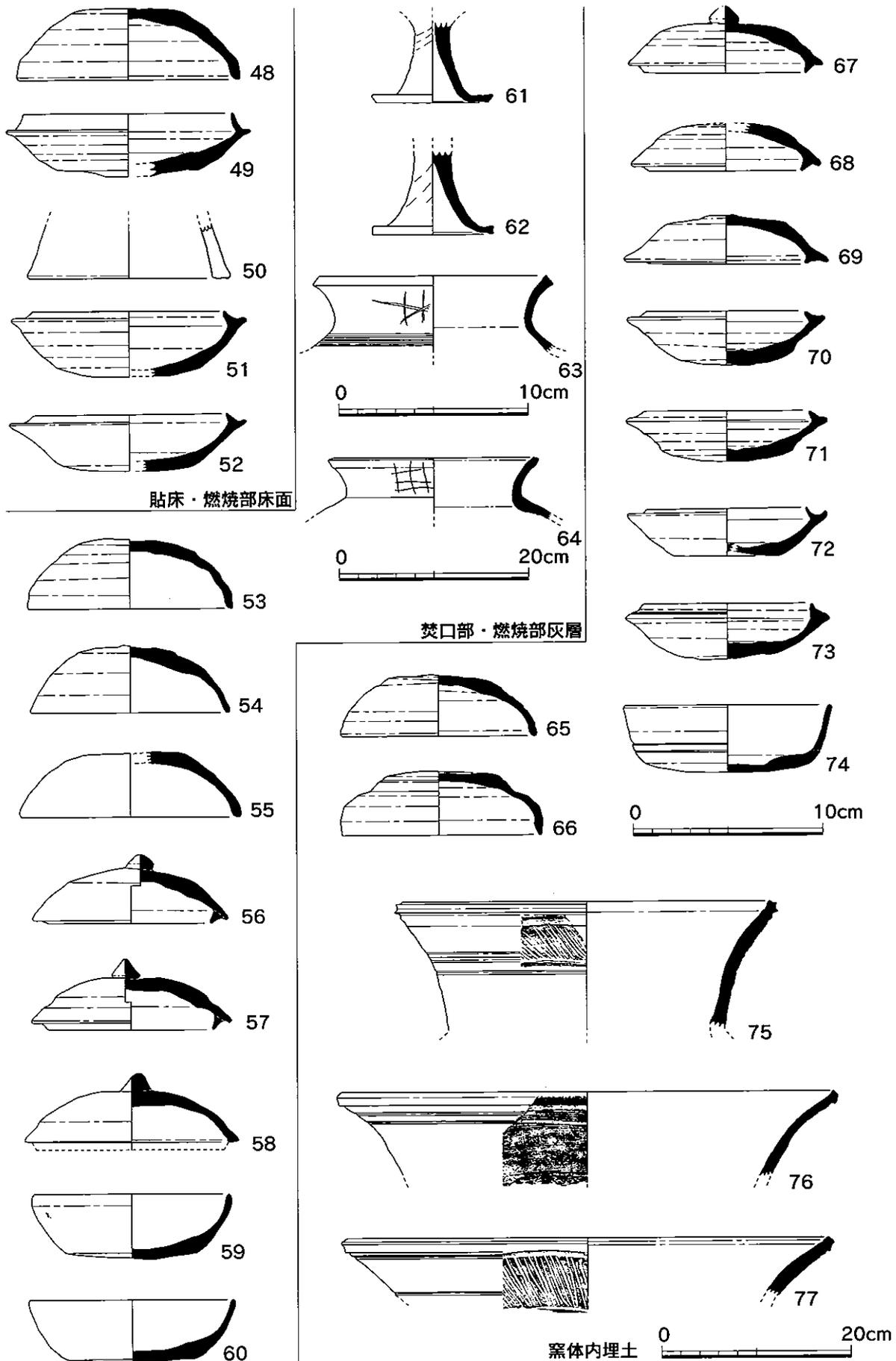
灰原横断面



43. 褐灰色土10YR6/1～5/1 (灰層2次堆積土、炭を含む) (2区1層)
44. 木根カクラン
45. におい黄褐色～明黄褐色土10YR7/4～7/6 (砂質、旧表土?)
46. におい黄褐色～灰黄褐色土10YR6/3～6/2 (砂質)
47. 明黄褐色土10YR6/6、黒色土N1.5/・灰白色土2.5Y7/1砂質土の互層
48. におい黄褐色土10YR5/3
49. 黒色土N1.5/ (下層へ移るにつれ褐灰色土10YR5/1 (砂質土) へ)



第17図 2号窯跡窯体内・灰原土層実測図② (1/60)

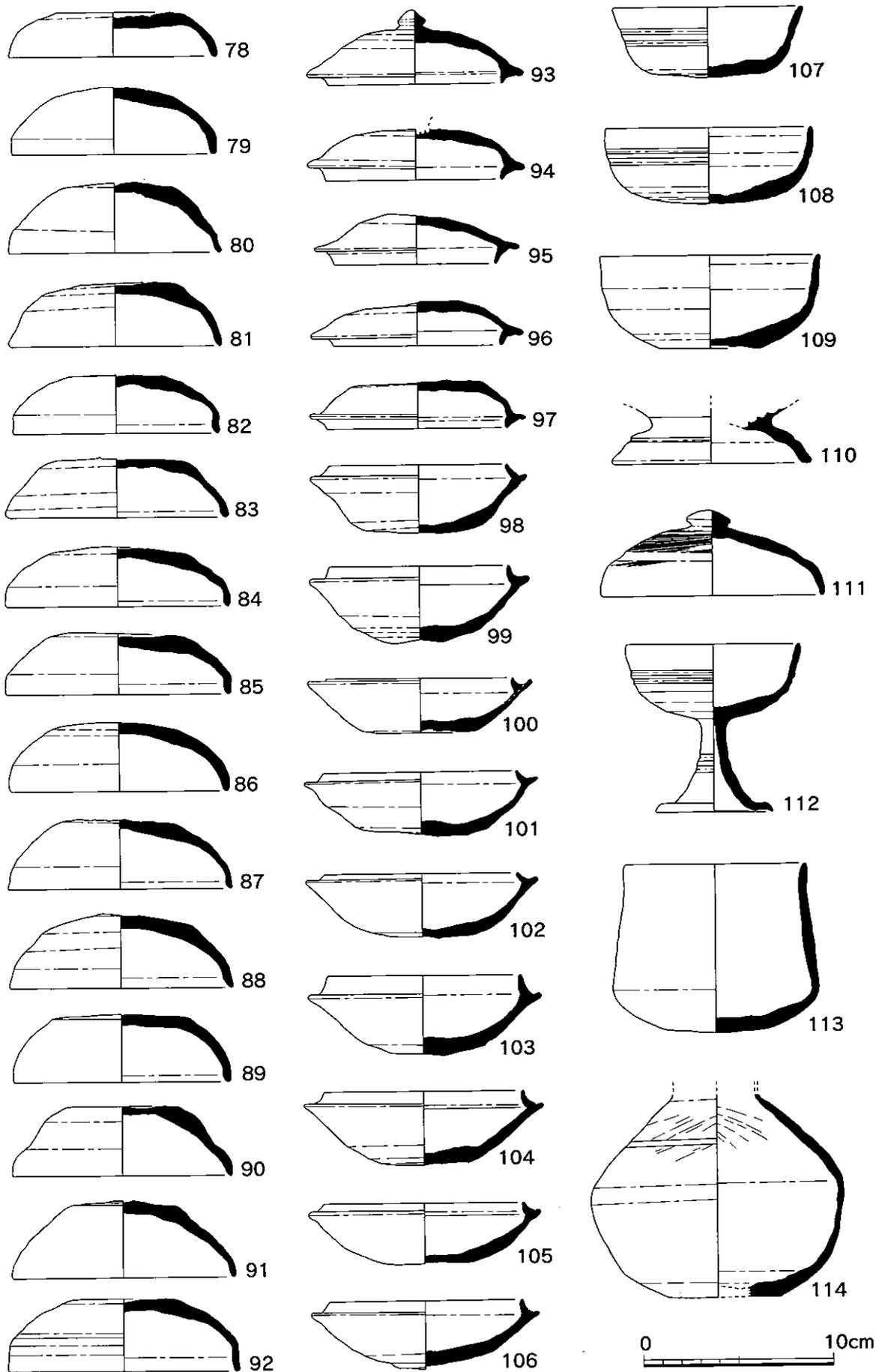


第18图 2号窯跡窯体内出土遺物実測図 (63・64・75~77は1/6、他は1/3)

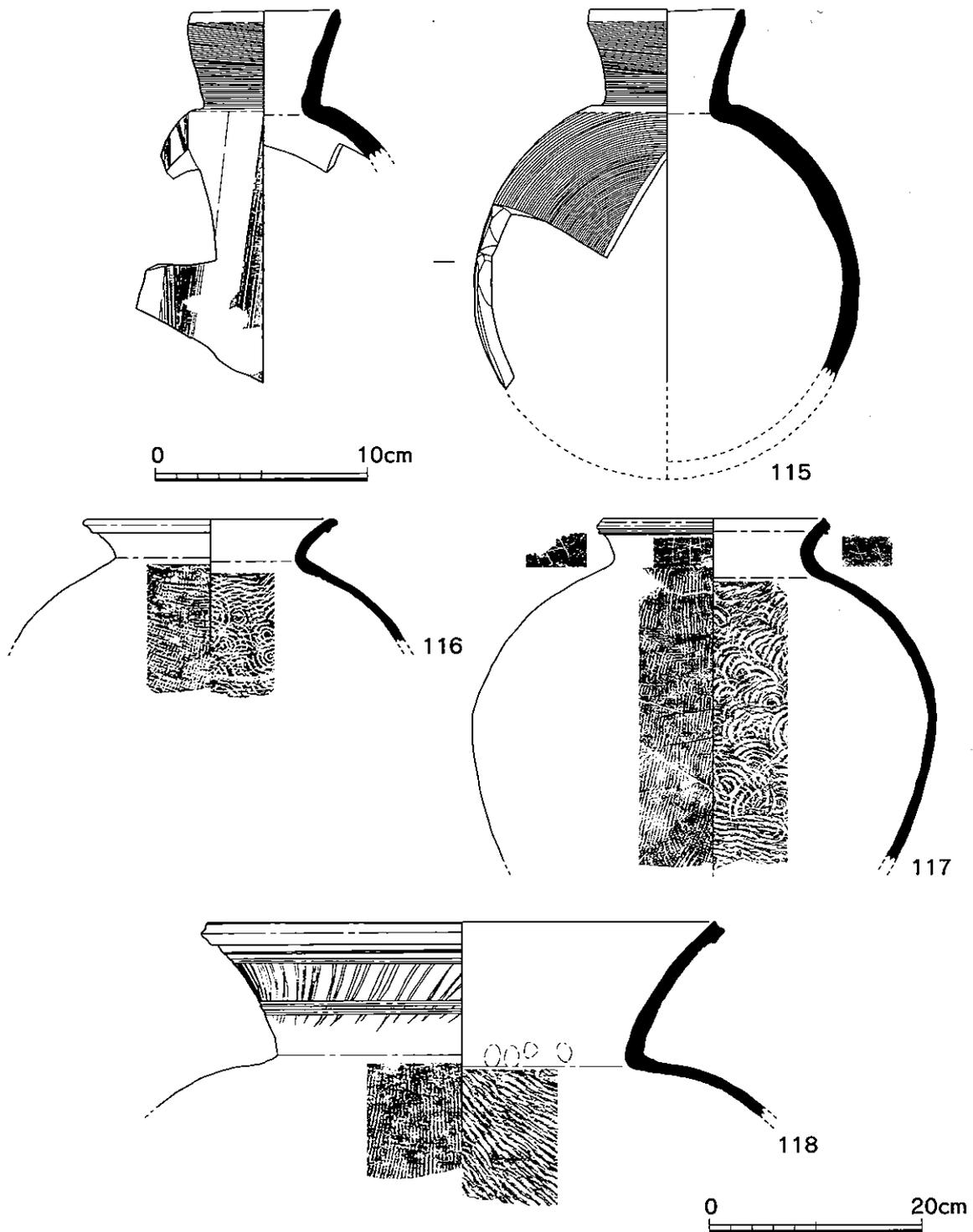
H蓋とあまり変わらないが、底部が平らに仕上げられることから判断した。いずれも焼成不良のため器面の観察が難しいが、底部は回転ヘラ切りのみである。61・62は高杯。いずれも脚部が短く、小さい。63は壺。復元口径12.6cmの小型のもので、体部に回転ナデが施される。64は中小型の甕。体部外面に擬格子タタキ、内面に同心円当て具痕を残す。65・66は杯H蓋、67～69は杯G蓋。65・66は口径10.4～10.7cm。天井部は低く、外面はヘラ切りのみで仕上げられる。67・68は天井部外面に回転ヘラ削りをおこない、かえりは高いが、69はつまみをともなわず、天井部外面の回転ヘラ削りはおこなわない。かえりも低く、蓋身の判別に非常に迷うが、器高が他の杯Hよりも低いことから杯蓋と判断した。70～73は杯H。74は杯G。70～73は口径8.4～8.8cm。立ち上がりは低く、内傾し、器高2.6～3.1cmと杯部は浅くなっている。いずれも底部外面ヘラ切りのみ。74は底部外面に回転ヘラ削りをともない、体部と底部の境付近に沈線を2条施す。75～77は甕。いずれも小片のため復元に難があるが、40.5～53.0cmに復元される大甕である。75・77は頸部外面に雑な波状文を1段施した後、圏線を巡らせる。76は頸部外面にカキメを施した後、浅い沈線を2条巡らせる。

78～219までは、2号窯跡灰原および灰原1区から東側の谷底部からの出土遺物である。灰原は第13図のように1～4区に分割し、各区ごとに掘り下げをおこなったため、本報告では現場段階での所見にしたがって、区・層ごとに報告をおこなう。ただし、各区の層名は区ごとにつけたもので、灰原全体を通観したものではない。このため、同じ層名を用いても層の性格や堆積時期が区によって違う場合がある。

78～118は灰原1区1層出土。78～92は杯H蓋、93～97は杯G蓋。78～92は口径10.8～12.2cm。天井部は高いが、平らに近く成形されるものが多くなり、外面はヘラ切りのみで回転ヘラ削りは施されない。93は、天井部は丸みをもち、宝珠つまみを付し、天井部外面は回転ヘラ削りを施す。94はつまみを欠損するが、天井部外面はヘラ削りを施す。95～97は器高が低いことから蓋と判断した。95は天井部外面にハケメ状の工具痕を、ロクロ回転を利用して施している。96・97はヘラ切り後ナデで仕上げる。98～106は杯H、107・108は杯G。98～106は口径9.4～10.5cm。杯部は、浅めのもの(100・101・105・106)と深めのもの(98・99・102～104)がある。底部外面は、回転ヘラ削りを施すのは101のみで、他はいずれもナデで仕上げられる。107は底部が平らで、ナデにより仕上げられ、体部に沈線を2条施す。108は底部がやや丸く、ナデで仕上げられ、体部に浅い沈線を巡らす。109は107などの杯Gに比べて丸い底部を持ち、杯部も深いことから椀とした。底部は小さく平らで、ナデにより仕上げられる。110は台付椀もしくは高杯の脚部。脚部は低く、屈曲部をもつ。111は有蓋高杯蓋。つまみは中央部が高く、丸くなっており、天井部外面にカキメを施す。112は無蓋高杯。小型のもので、脚部が低く小さいのに比べ、深めの杯部を有する。113は鉢。やや内傾気味にまっすぐのびる体部に、丸い底部が続く。底部外面はナデで仕上げられる。114は壺。頸部を欠損するため、全形は不明であるが、基部は細く、やや長めの頸部がつくと考えられる。器壁は薄く仕上げられており、頸基部下にはシボリ痕が認められる。115は埴瓶。頸部の接合は丁寧で、外面には頸部接合後カキメが施される。116～118は甕。116・117は21.9～24.0cmに復元される中型のもので、頸部は短く外反する。118は大甕。口径49.0cmに復元され



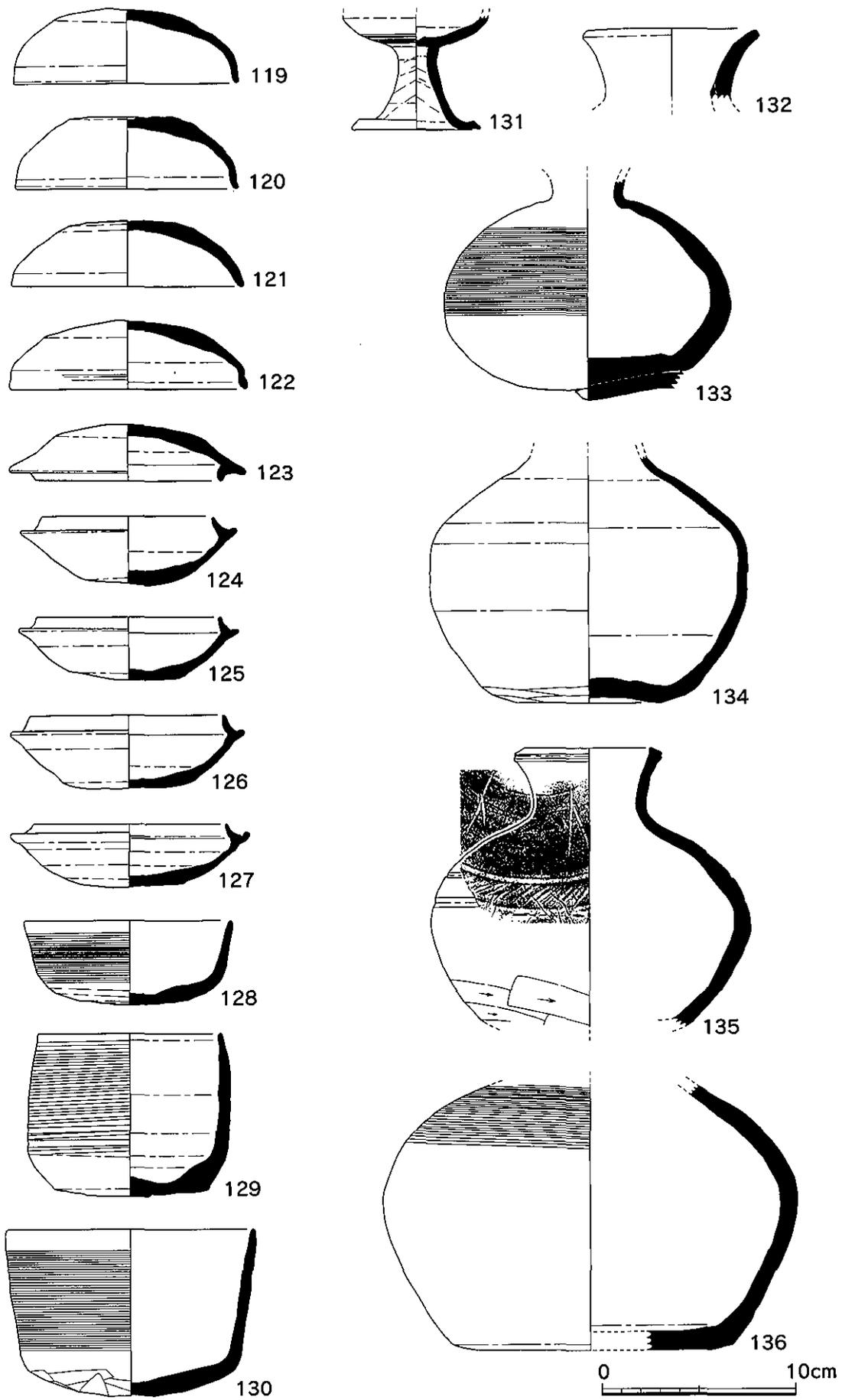
第19图 2号窯跡灰原1区出土遺物実測図① (1/3)



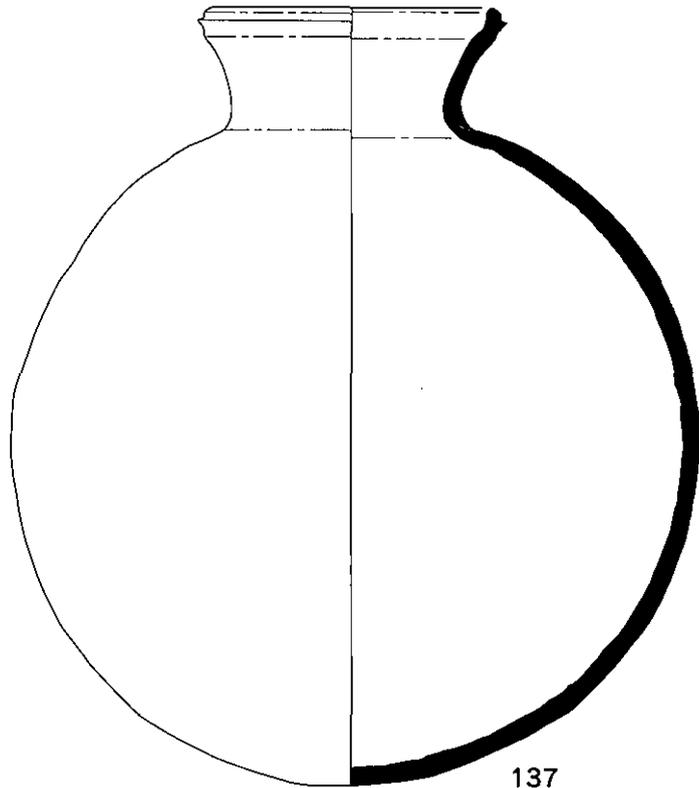
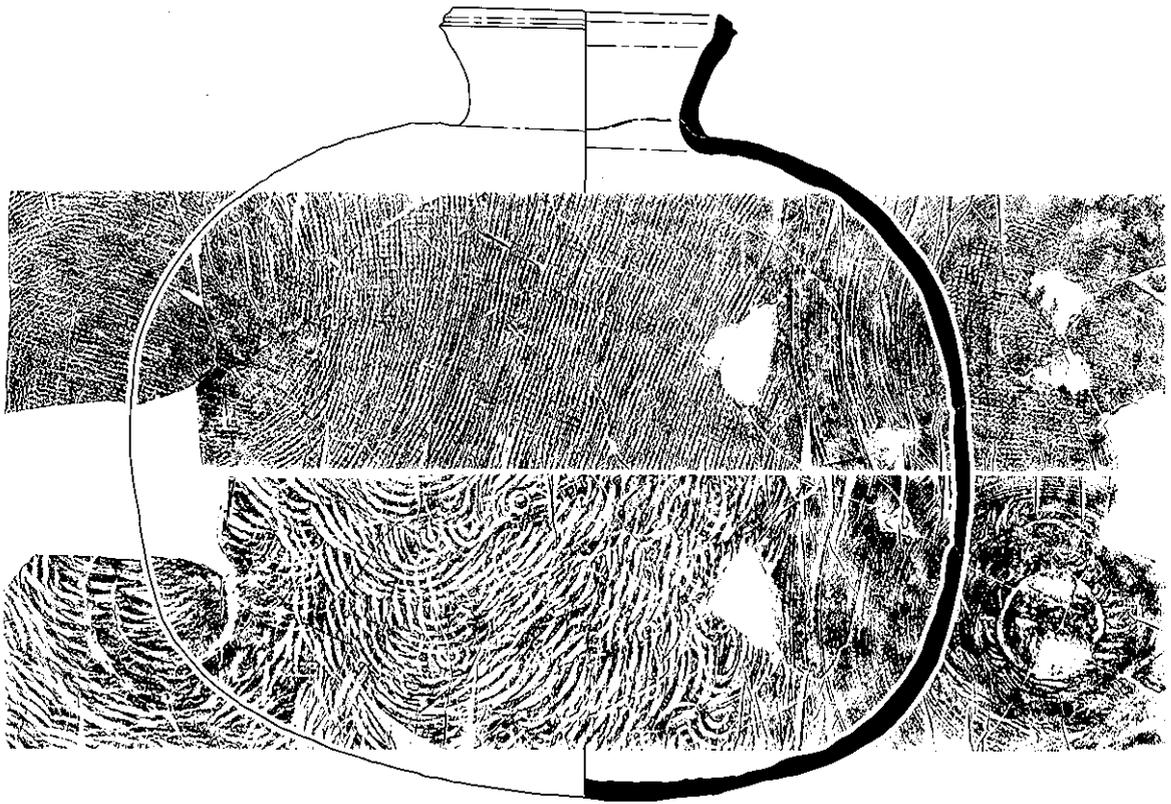
第20図 2号窯跡灰原1区1層出土遺物実測図② (115は1/3、他は1/6)

る。頸部外面には粗雑な左下がりの連続斜線文を施した後、2条の圈線を巡らせる。

119～144は灰原1区3層出土。119～122は杯H蓋、123は杯G蓋。119～122は口径11.5～12.3cm。121を除いていずれも天井部外面はナデて仕上げられる。123はかえりがやや内側につけられる。124～127は杯H、128は杯G。124～127は口径8.8～10.1cm。杯部の深いもの(124・126)と浅いもの(125・127)がある。いずれも底部外面は、ヘラ切り後ナデて仕上げられる。124・125は底部外面に降灰が認められ、倒置して焼成されたことが想定される。128は底



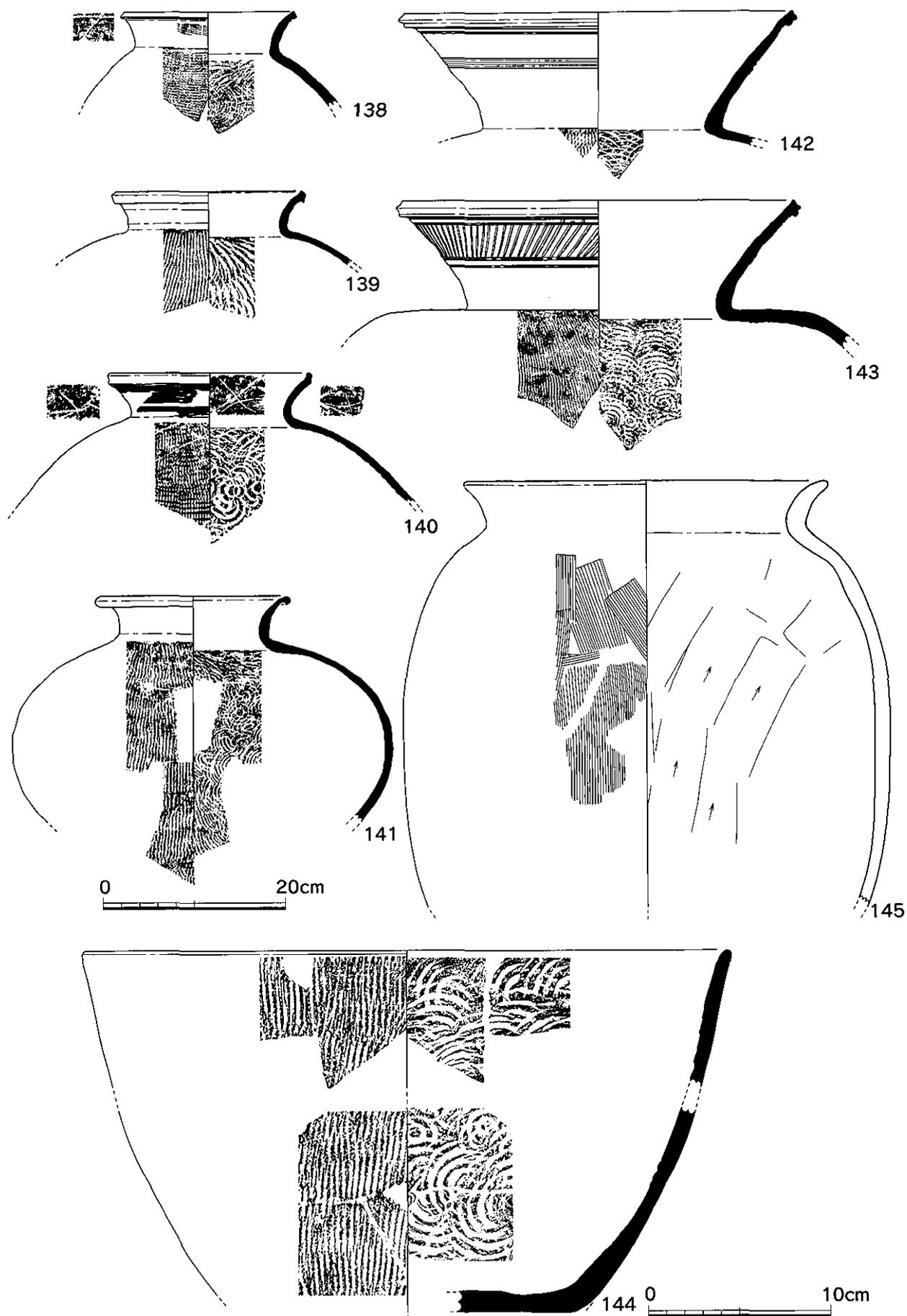
第21图 2号窑迹灰原1区3层出土遗物实测图① (1/3)



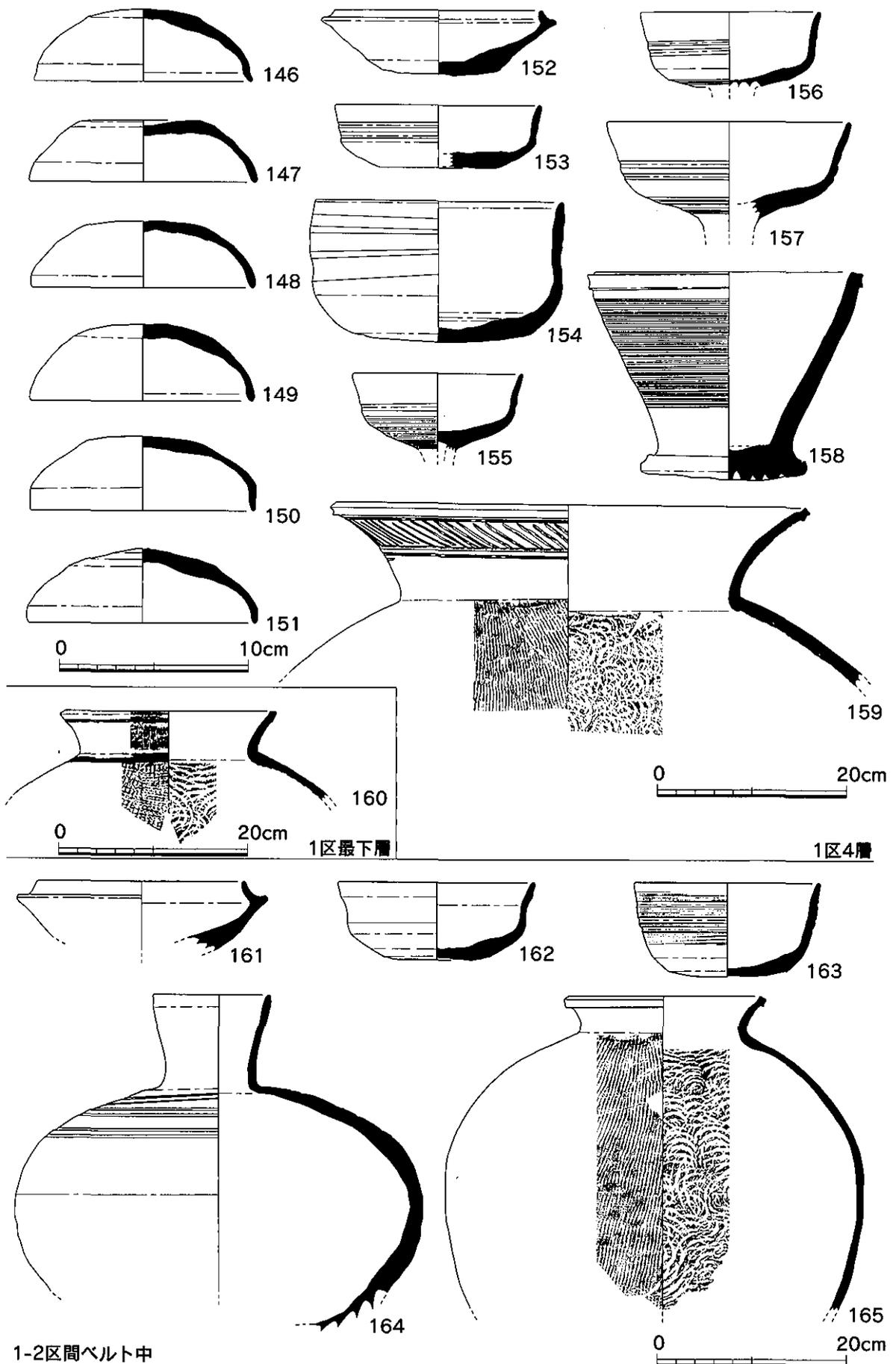
137



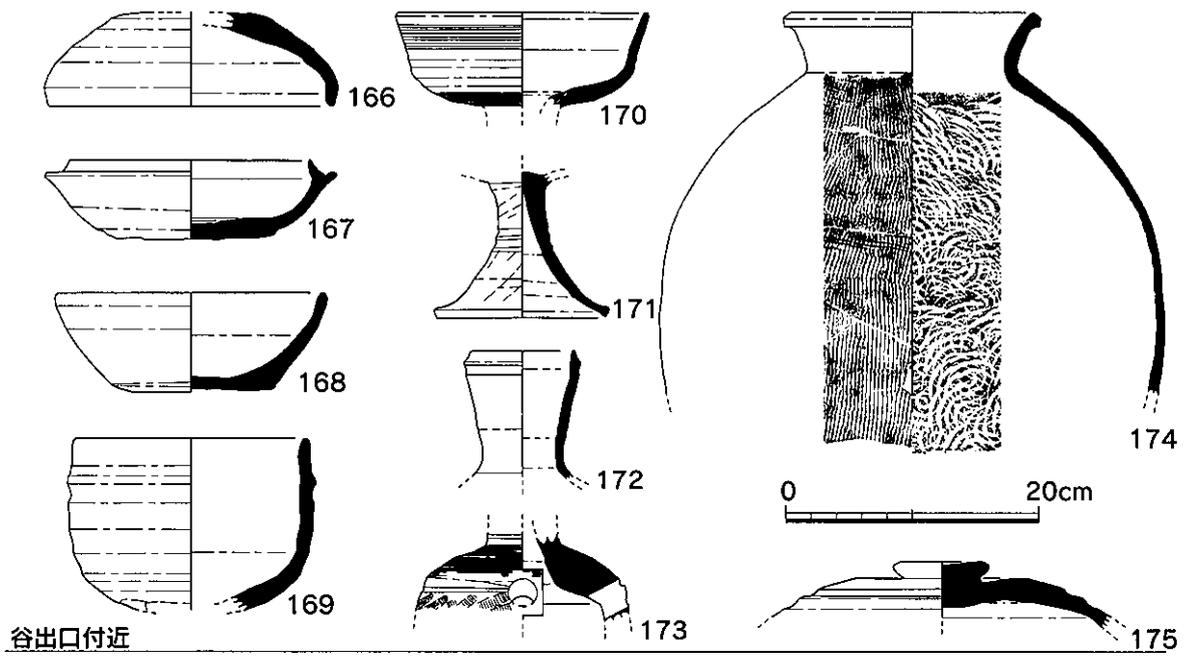
第22图 2号窑迹灰原1区3层出土遗物实测图② (1/3)



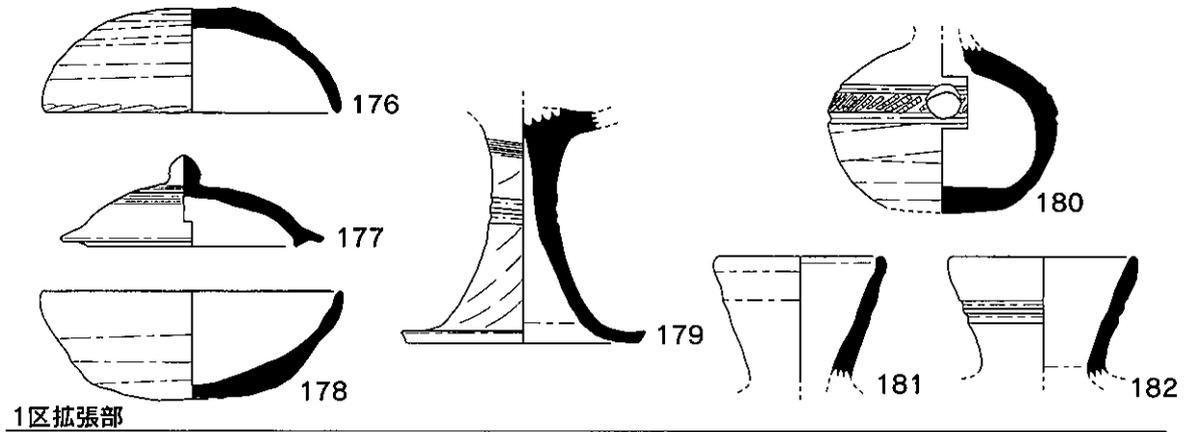
第23図 2号窯跡灰原1区3層出土遺物実測図③ (138~143は1/6、他は1/3)



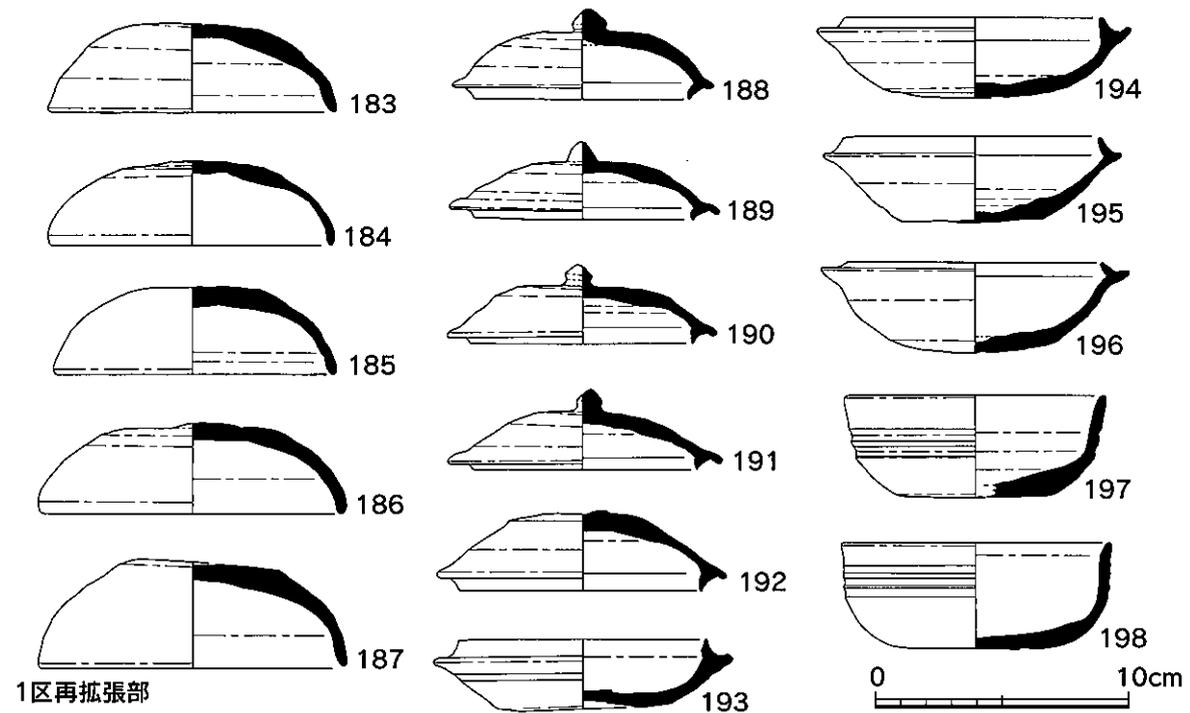
第24図 灰原1区4層最下層・1-2区間ベルト出土遺物実測図 (159・160・165は1/6、他は1/3)



谷出口付近

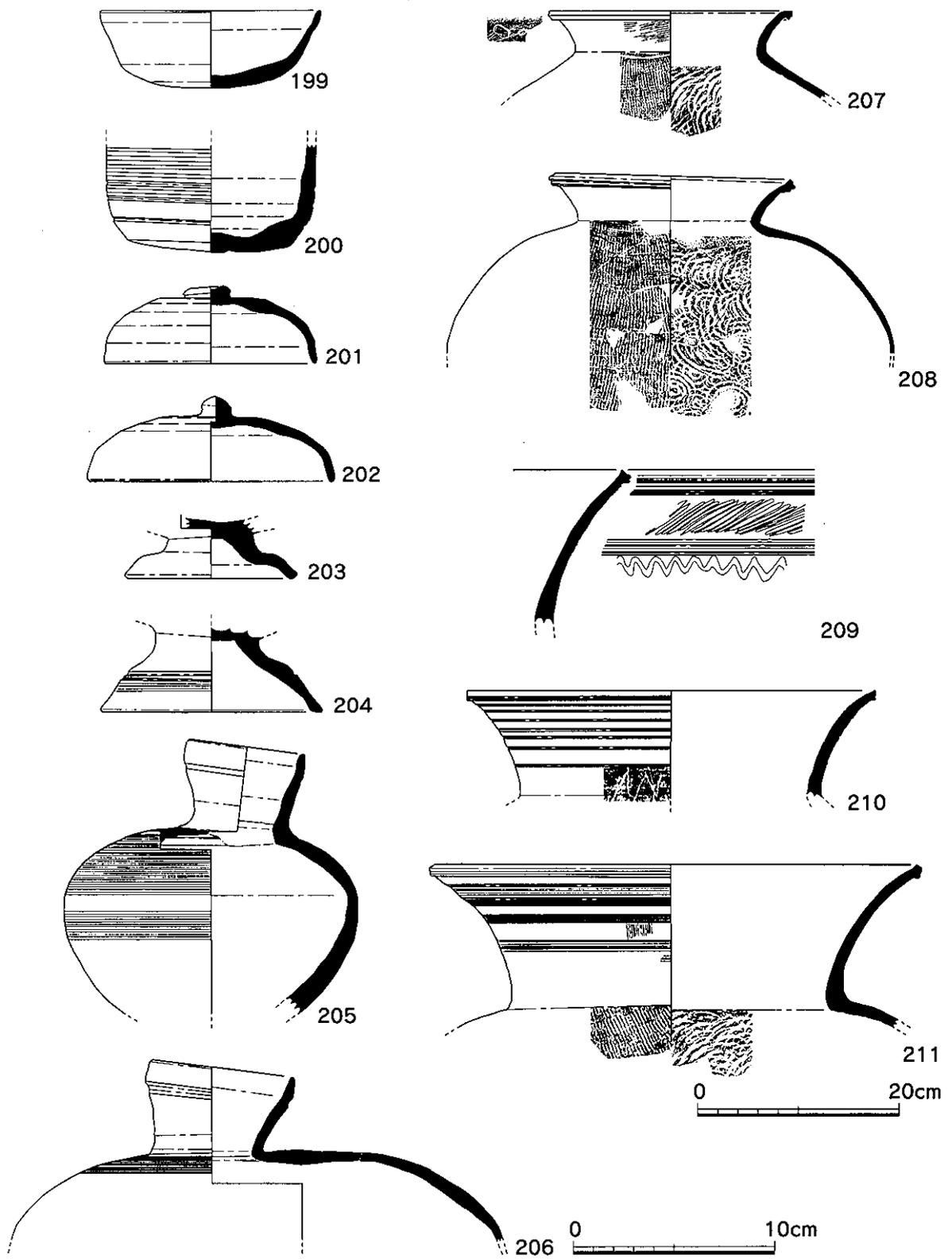


1区拡張部

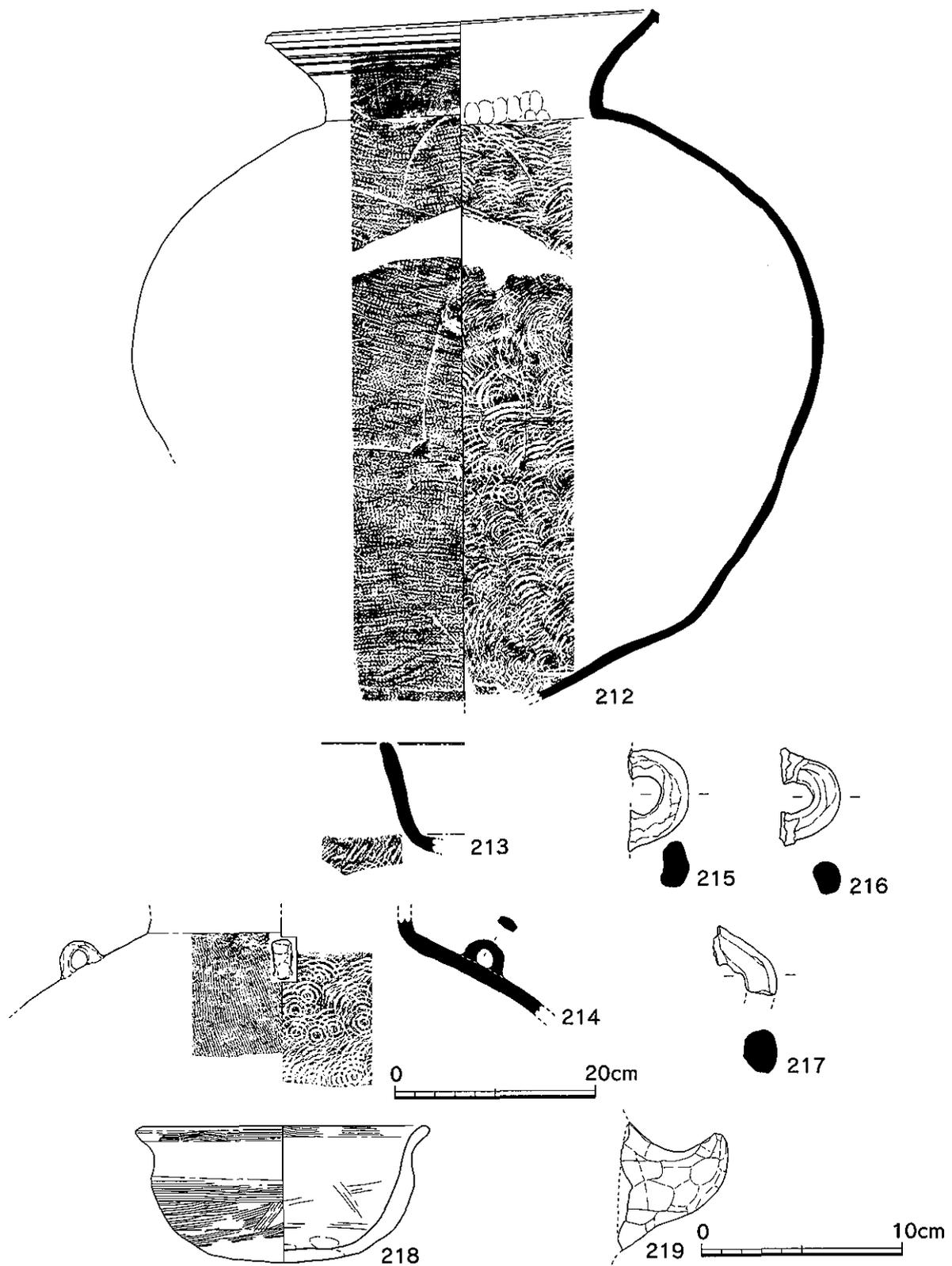


1区再拡張部

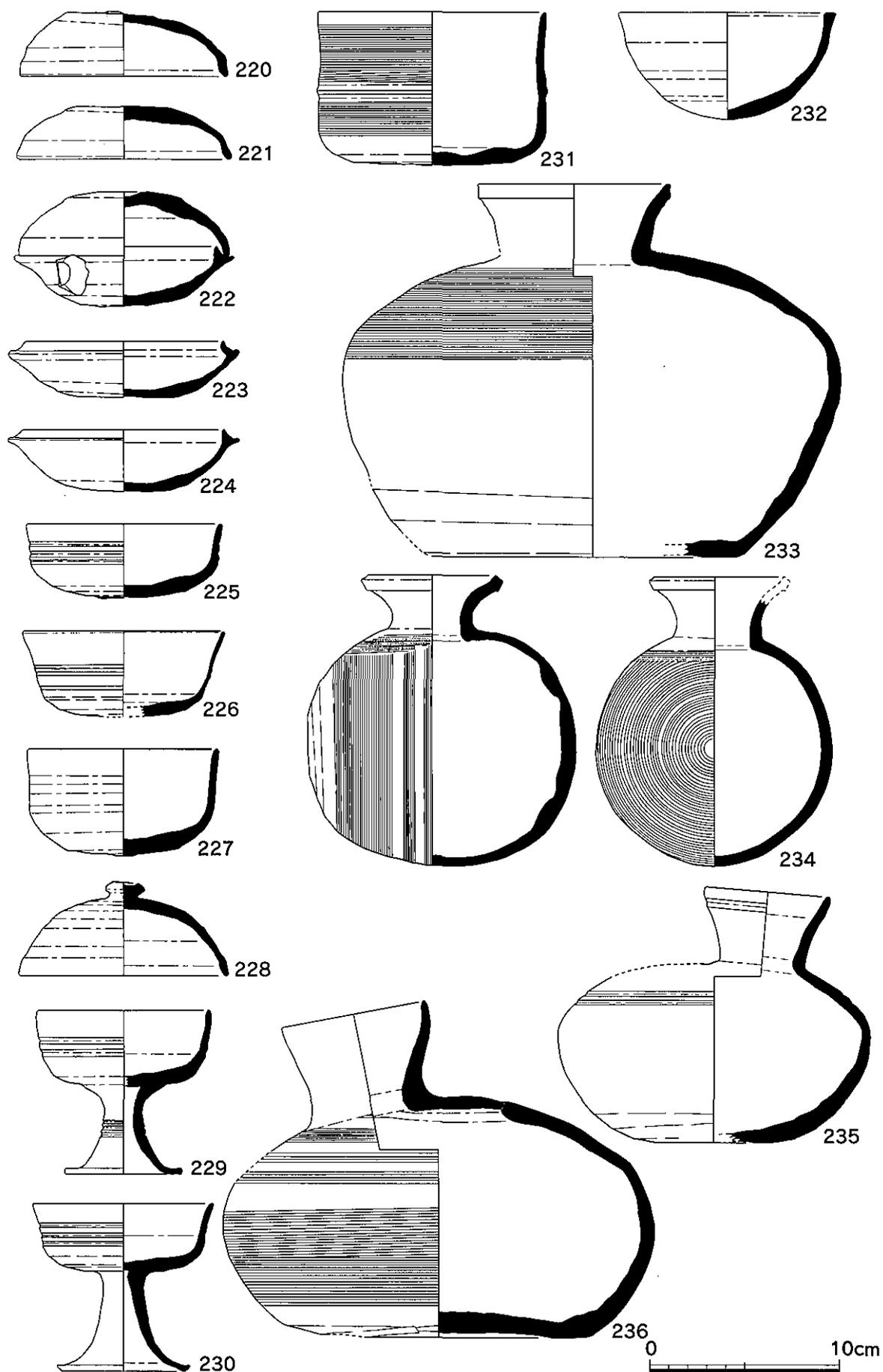
第25図 2号窯跡灰原谷部出口付近・灰原1区拡張部・再拡張部出土遺物実測図 (174は1/6、他は1/3)



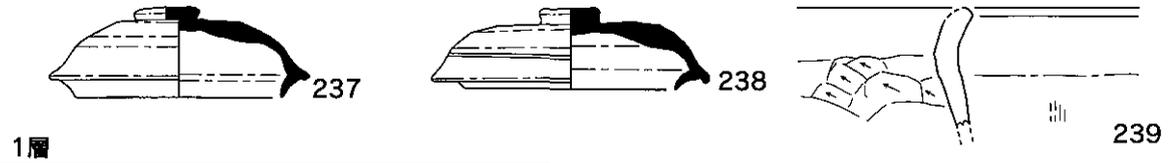
第26図 2号窯跡灰原1区再拡張部出土遺物実測図① (207~211は1/6、他は1/3)



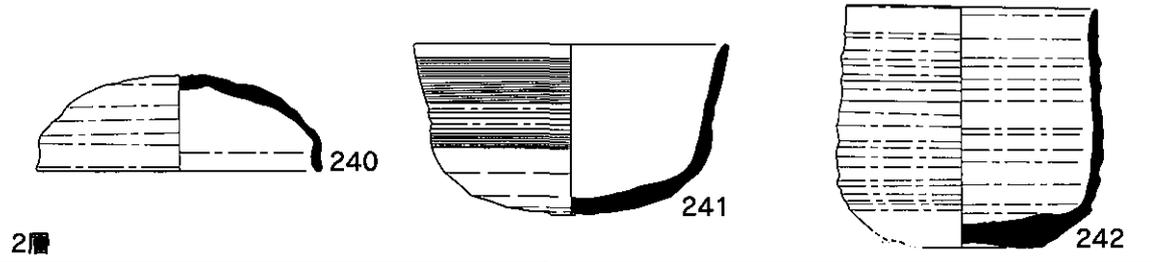
第27図 2号窯跡灰原1区再拡張部出土遺物実測図② (212~214は1/6、他は1/3)



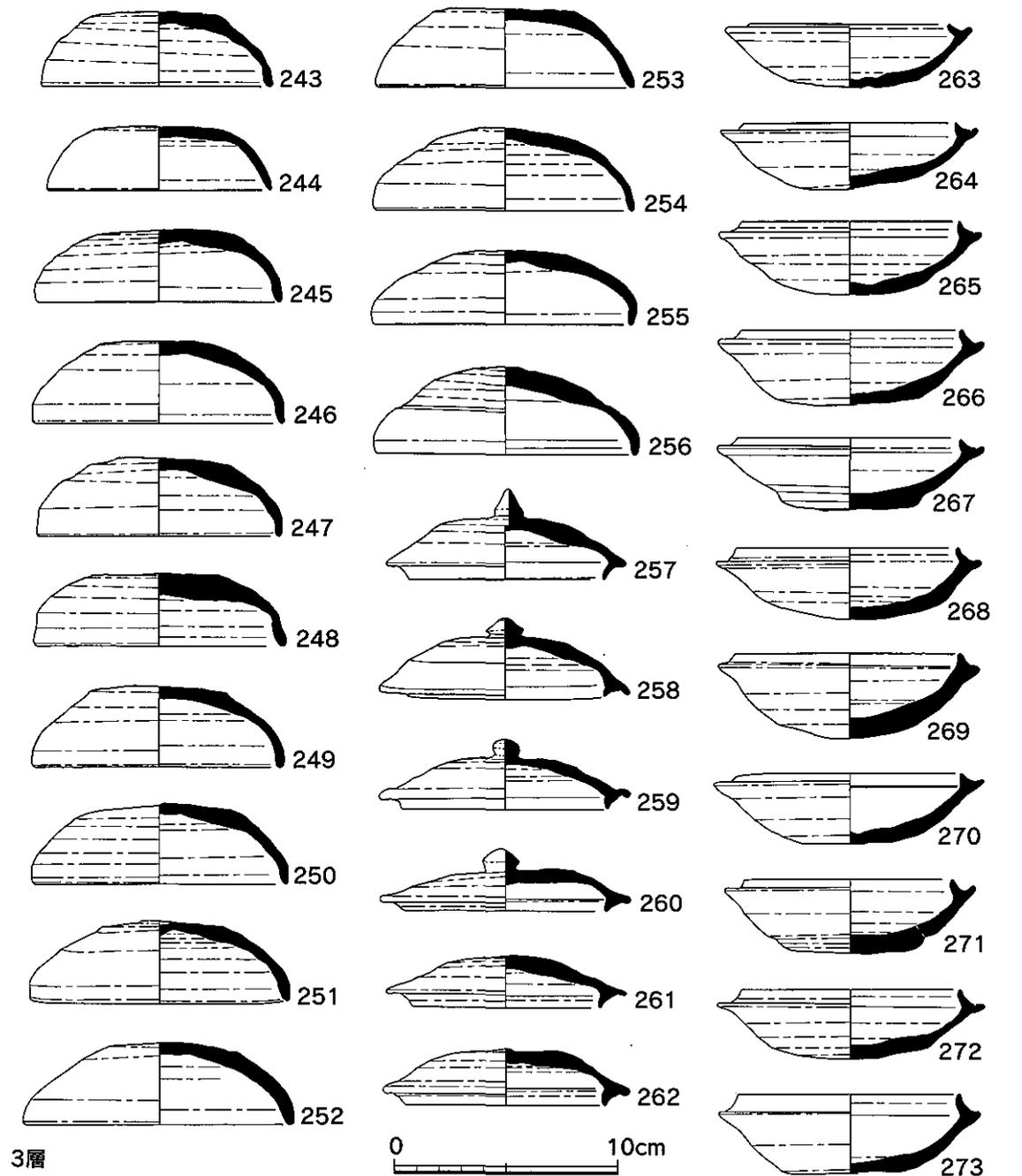
第28图 2号窑迹灰原2区1层出土遗物实测图(1/3)



1層

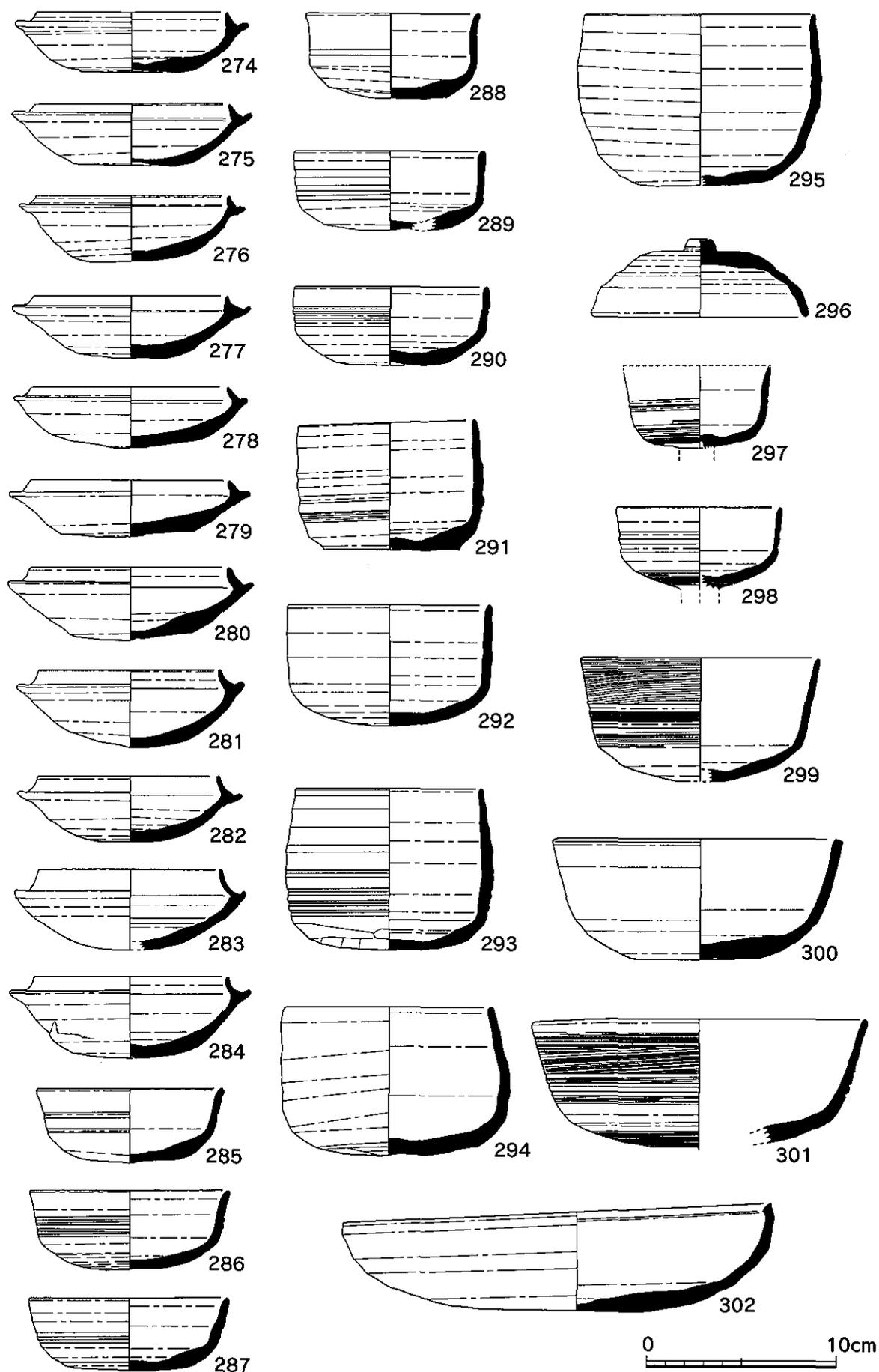


2層

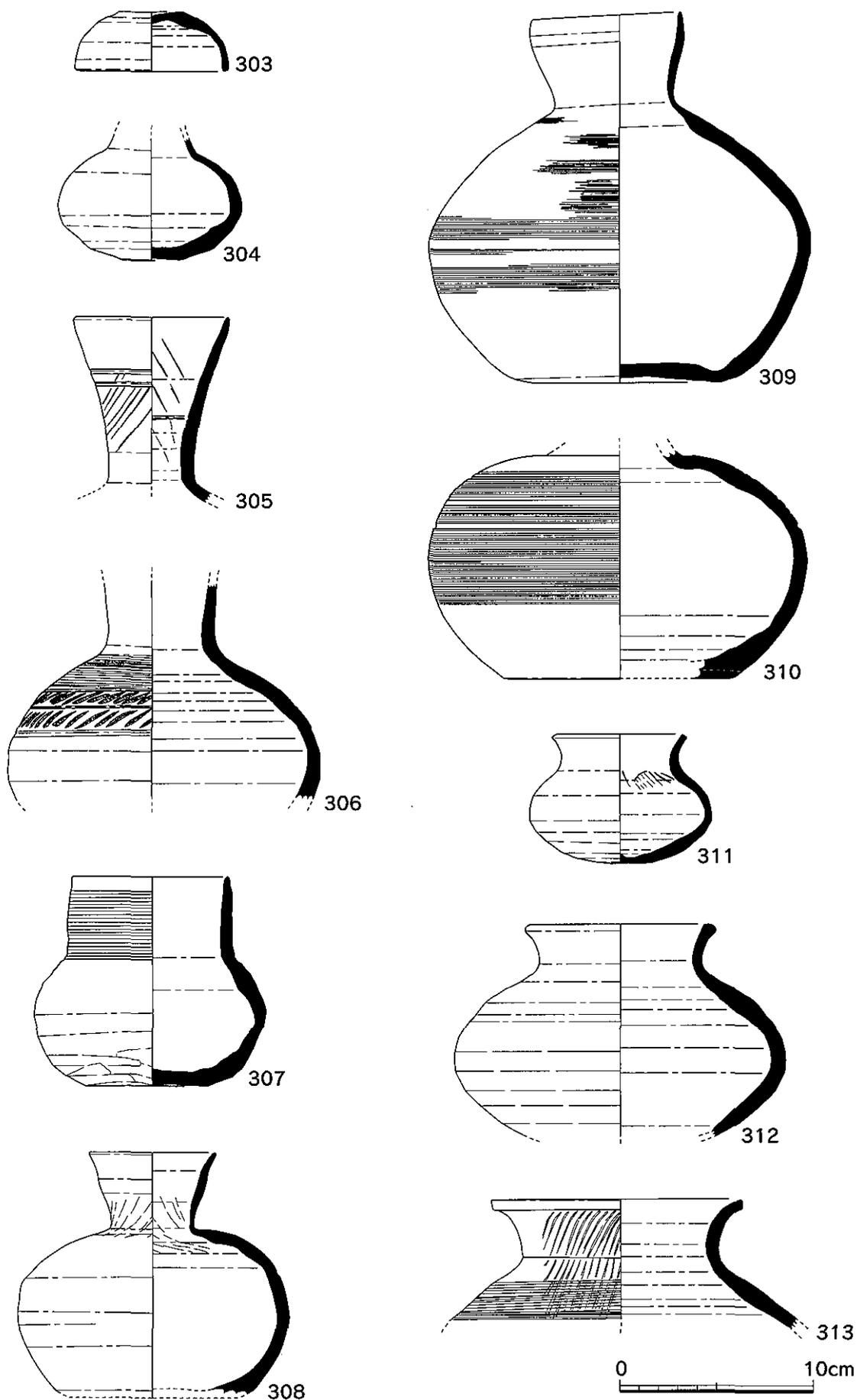


3層

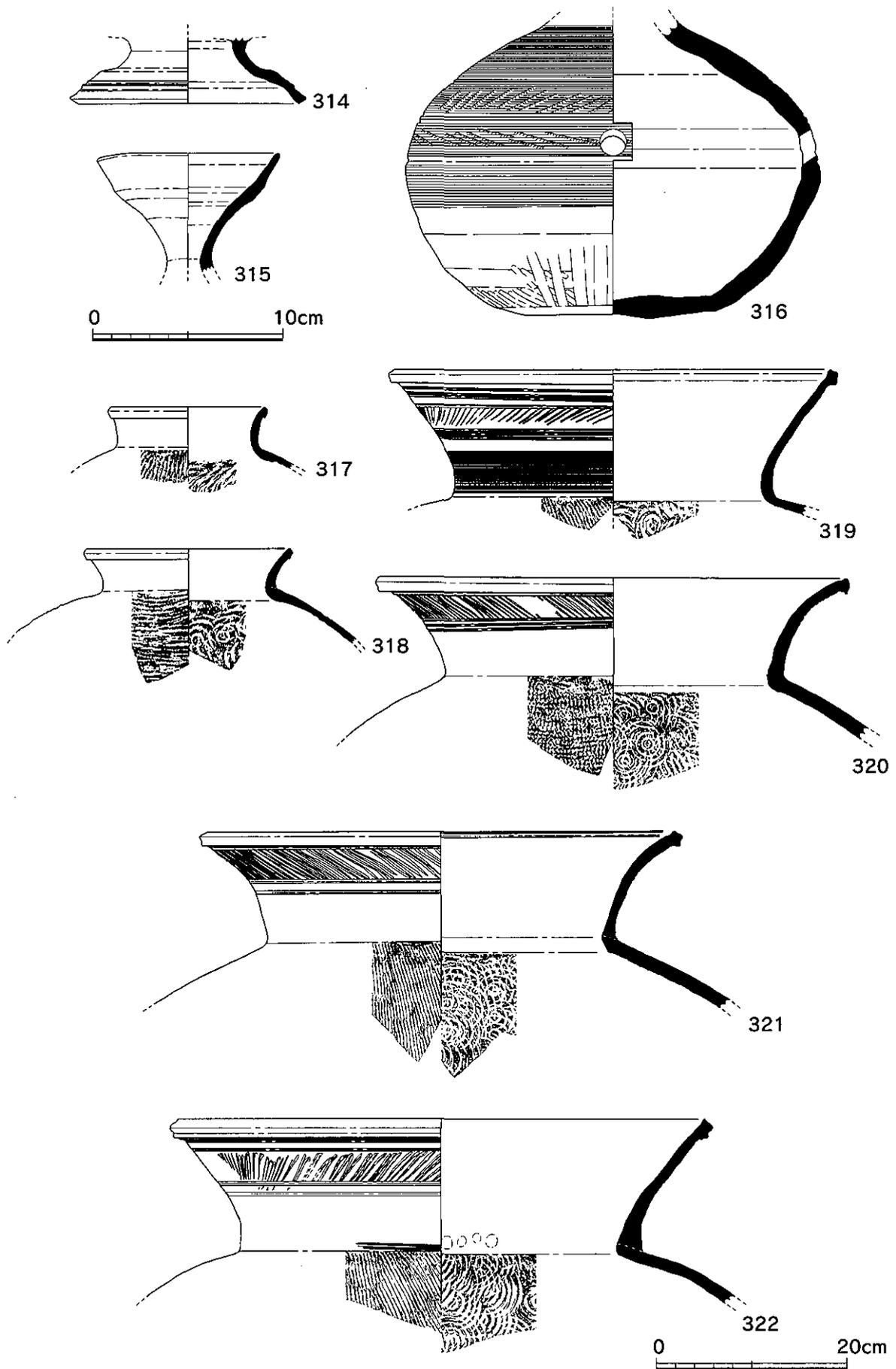
第29图 2号窯跡灰原2区1~3層出土遺物実測図(1/3)



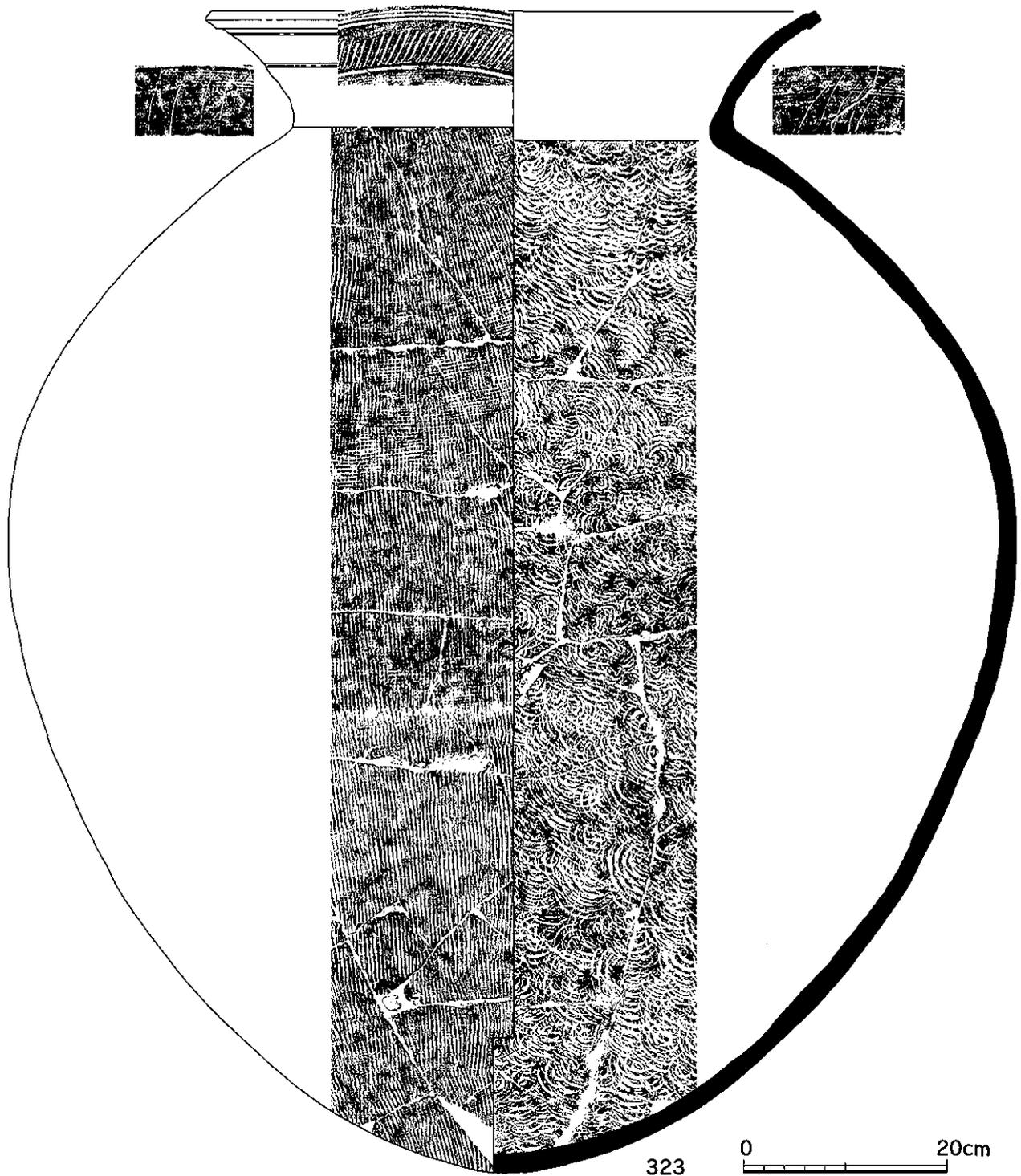
第30图 2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図② (1/3)



第31图 2号窑迹灰原2区3层出土文物实测图③ (1/3)

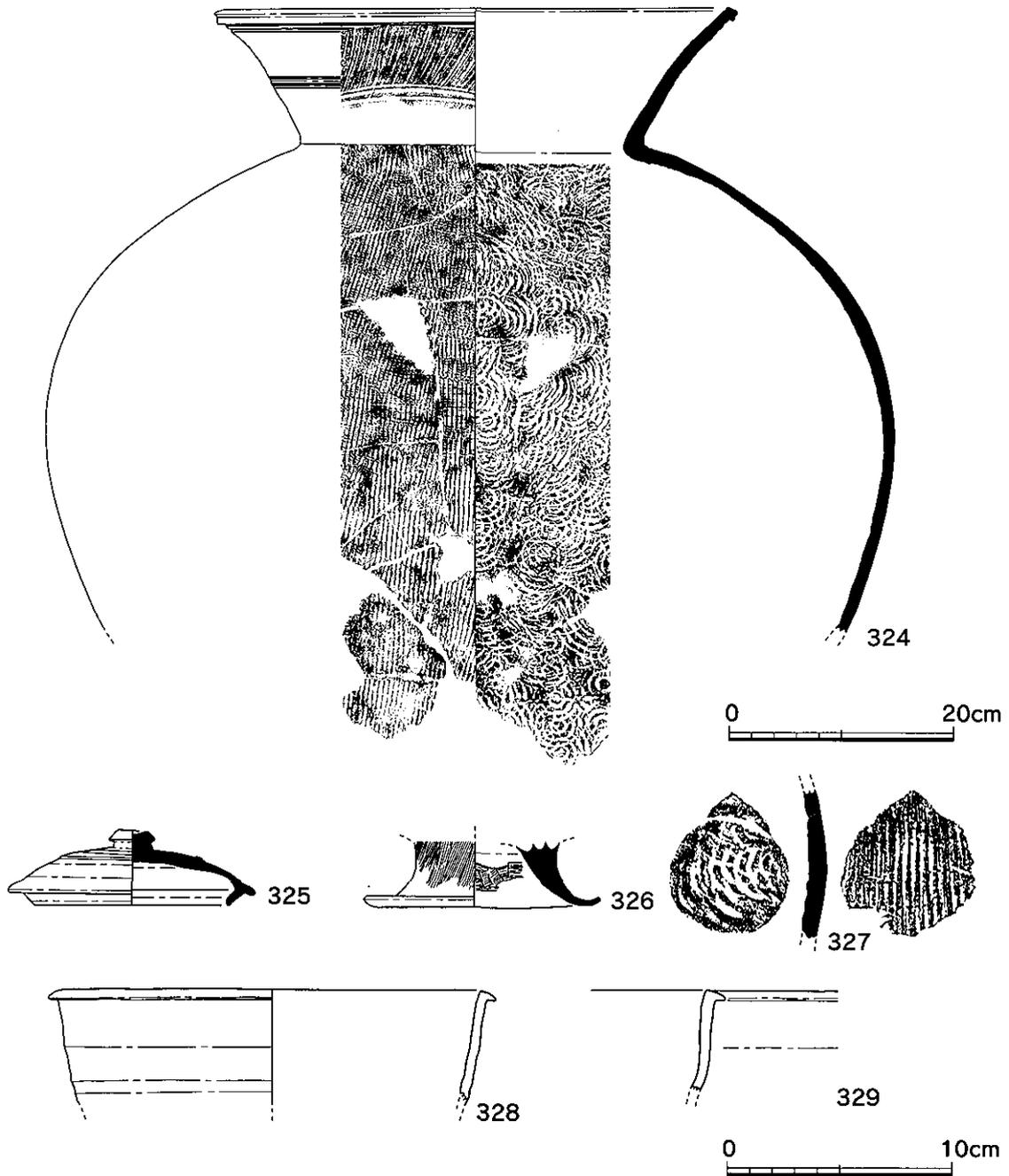


第32図 2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図④ (317~322は1/6、他は1/3)



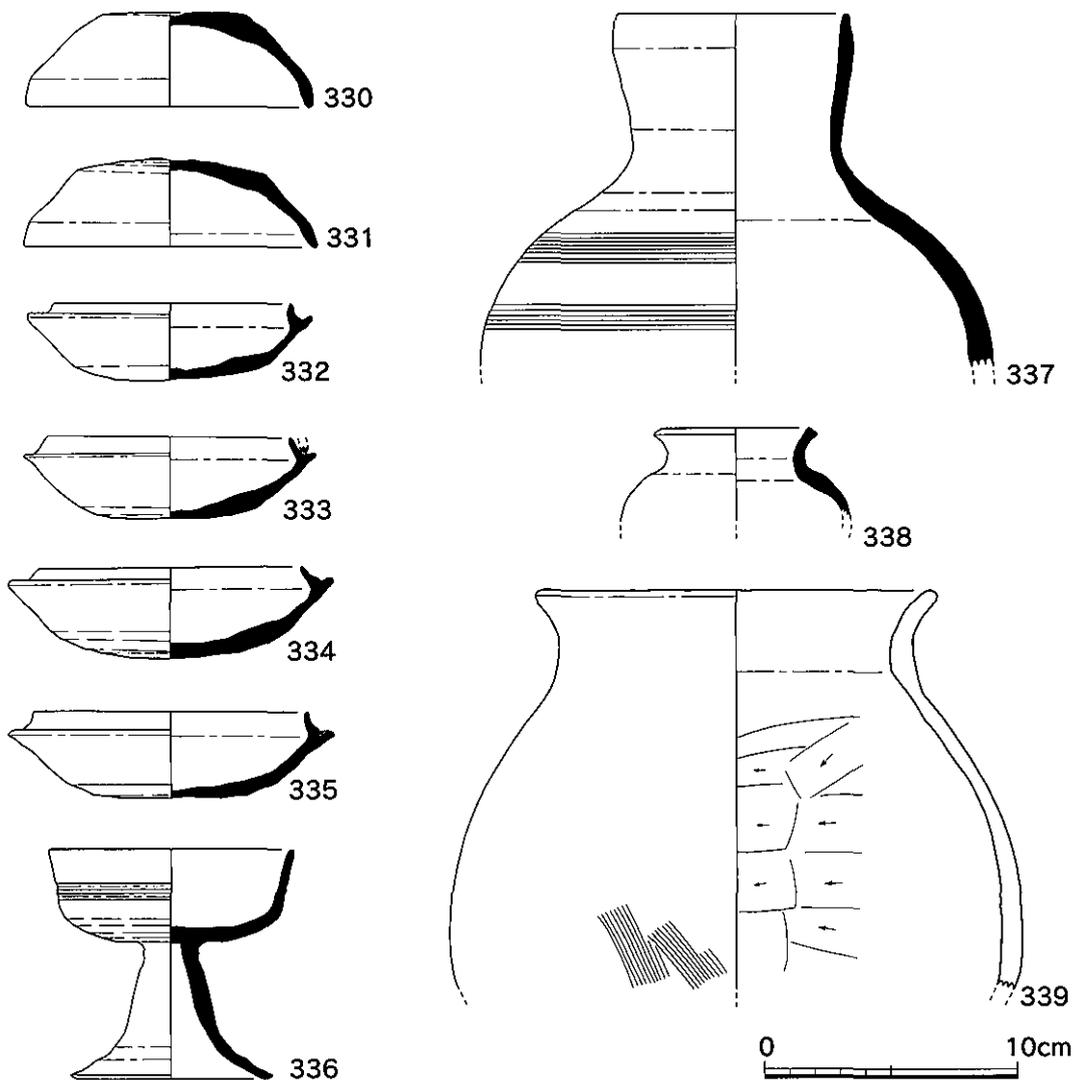
第33図 2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図⑤(1/6)

部外面に丁寧な回転ヘラ削りを施し、体部はカキメを巡らせる。体部と底部の境付近には、乾燥時の干割れが認められる。129は椀。平らな底部から直立した後、口縁部へむかってやや内湾する。底部外面はナデにより仕上げられる。130は鉢。やや丸い底部から外上方へ直線的に開く。底部外面は手持ちヘラ削りにより仕上げられる。内外面には降灰がベツトリと認められる。131は高杯。小型のもので、脚端部はラツパ形に大きく開くが、杯部口径は脚部径より大きくなるようである。132は頸部のみの破片。体部との接合面の観察により、提瓶の可能性が高い。133～136は壺。



第34図 2号窯跡灰原2区3層出土遺物実測図⑥ (324は1/6、他は1/3)

133は頸部を失うが、基部の細い長めの頸部がつくと考えられる。器壁は厚く、降灰の観察より横倒しの状態で焼成されたことが分かる。134は器壁が薄く、底部はナデ、底部と体部の境は手持ちヘラ削りにより仕上げられる。頸部下にはシボリ痕が認められる。135は短い頸部をもち、体部は2条の沈線を巡らせた後に刺突文を施す。底部を欠くが、体部と底部の境付近は手持ちヘラ削りにより仕上げられる。136は頸部を欠損する。底部は平らで、ナデで仕上げられる。137は横瓶。完形に近く復元される。両側面とも閉塞痕が残り、さらに閉塞痕を切るように当て具痕が残る。138～141は甕。口径19.3～22.4cmほどに復元される。142・143は大甕。口径43.7～44.4cmに復元され、143は粗雑な連続斜線文を施した後、圏線を2条巡らせる。144は鉢形を呈する。底部は平らで、底部外面はナデにより仕上げられる。外面平行タタキ、内面同心円当て具痕が認められるが、底部までは及ばない。

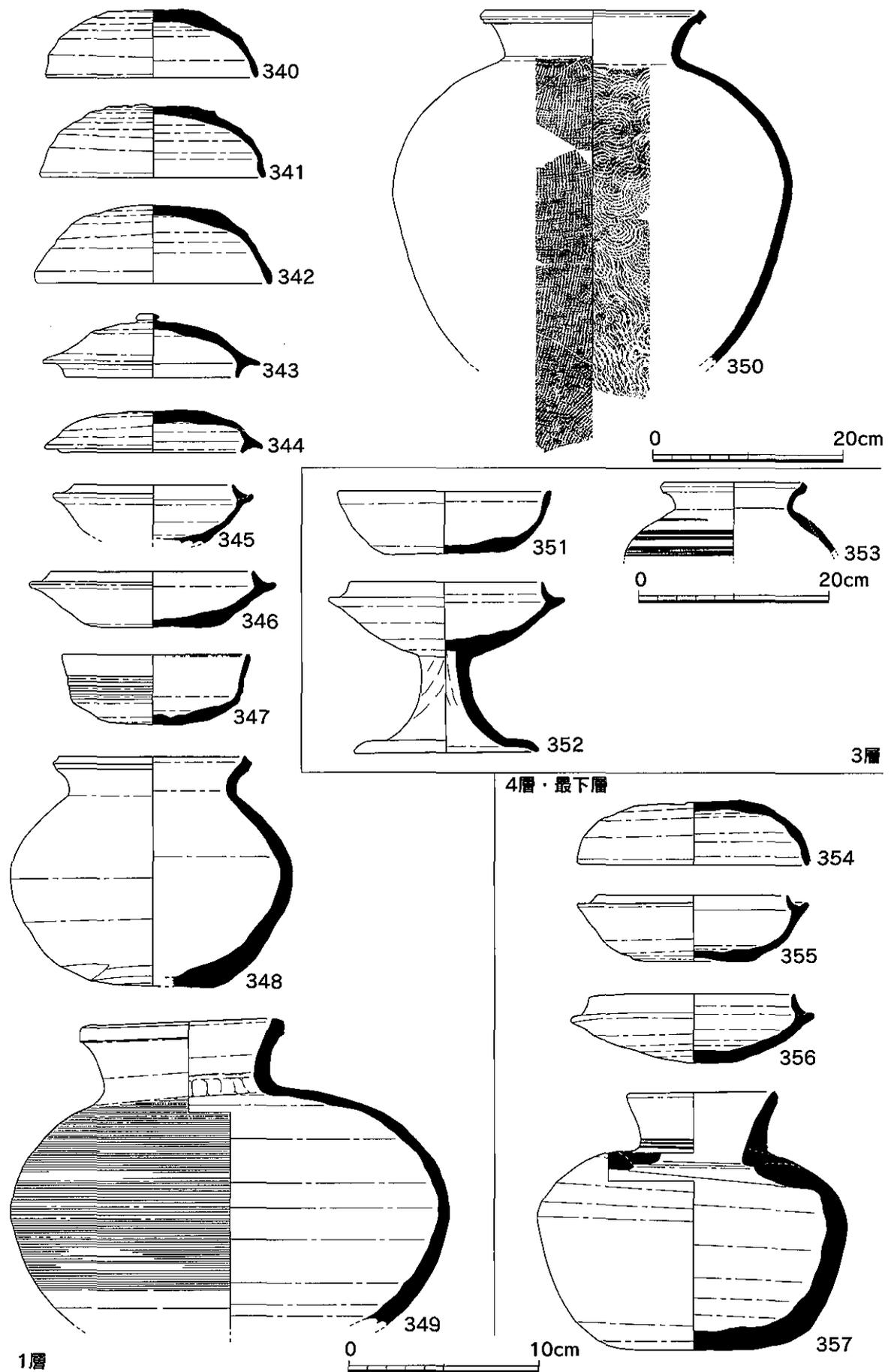


第35図 2号窯跡灰原2区4層出土遺物実測図(1/3)

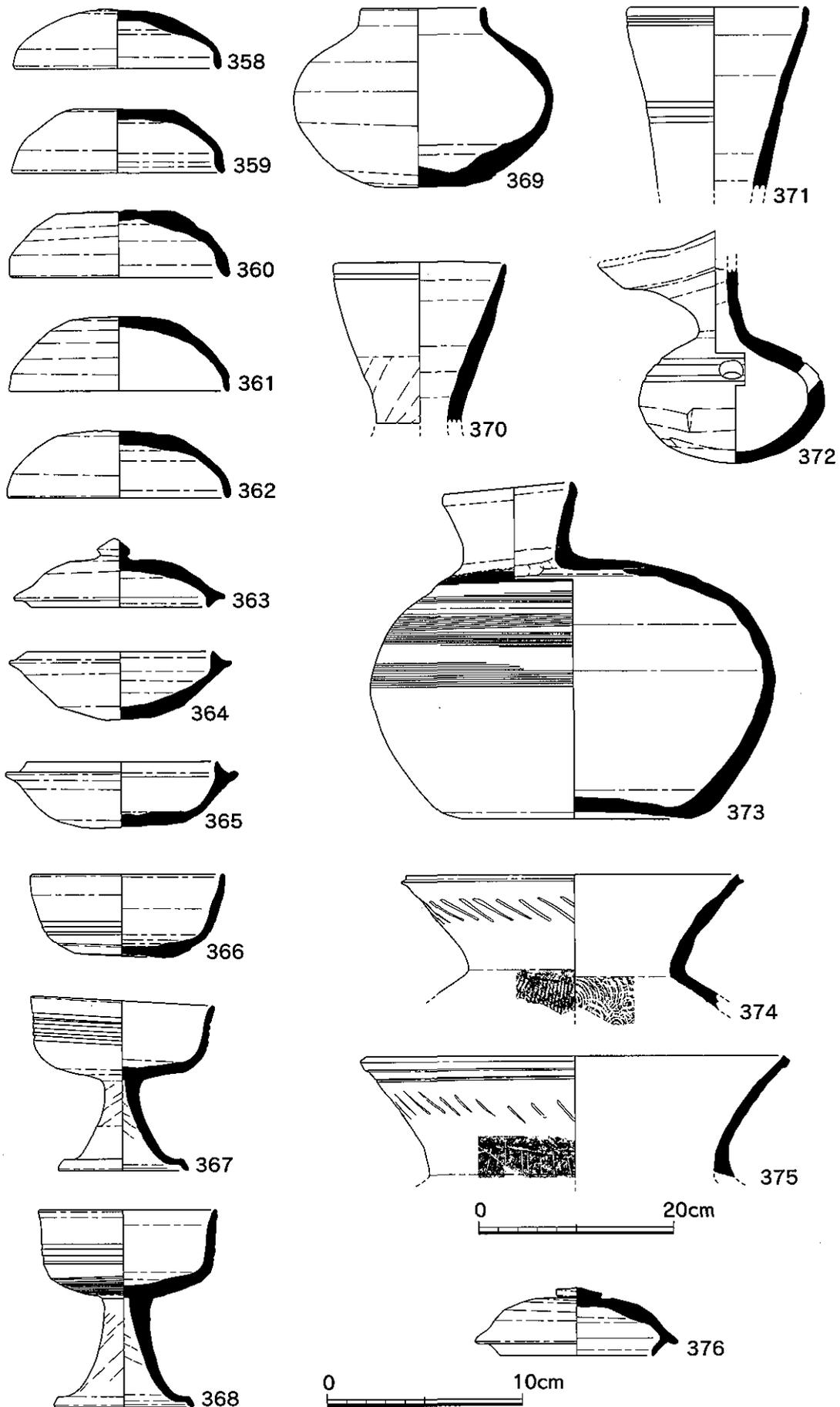
146~159は灰原1区4層出土。146~151は杯H蓋。口径11.6~12.2cm、いずれも天井部外面はヘラ切り後ナデで仕上げられる。152は杯H。立ち上がりは低く、底部は平らに近く、ヘラ切り後ナデで仕上げられる。153は杯G。口径11.0cmに復元され、底部は平らに近く、ヘラ切り後ナデで仕上げられる。154は椀。体部は直立し、強いナデが施される。155~157は高杯。155・156は口径9.0~9.5cmの小型のもので、杯部下半にはカキメが施される。157は大型のもので、体部は外方へ開く。倒置して焼成されたようで、杯部外面に降灰が認められる。158はすり鉢。底部を欠損する。体部外面にはカキメを施す。159は大甕。口径50.8cm。頸部は上半に右下がりの雑な連続斜線文を施し、圏線を巡らせる。

160は灰原1区最下層出土。口径22.9cmの中型の甕。口縁部はわずかに屈曲部を持ち、さらに沈線を施す。

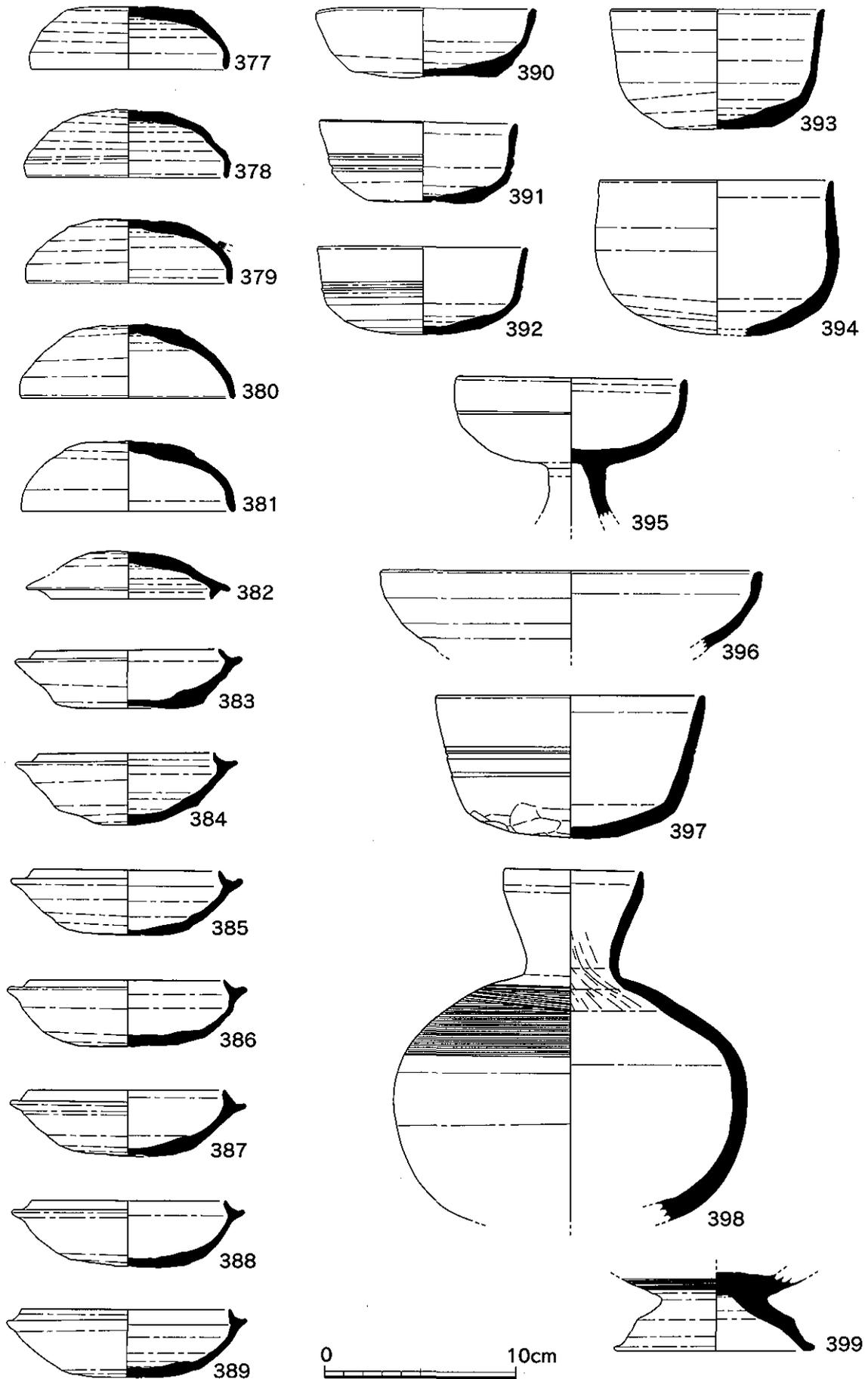
161~165は灰原1・2区間縦断ベルト中からの出土。161は杯H。口径10.8cm、底部は焼成時に大きく弾けとんでいる。162・163は杯G。162は底部外面に回転ヘラ削りを施す。163は底部外面をナデで仕上げられており、体部はカキメを施した後に、沈線をラセン状に巡らせる。164は壺。



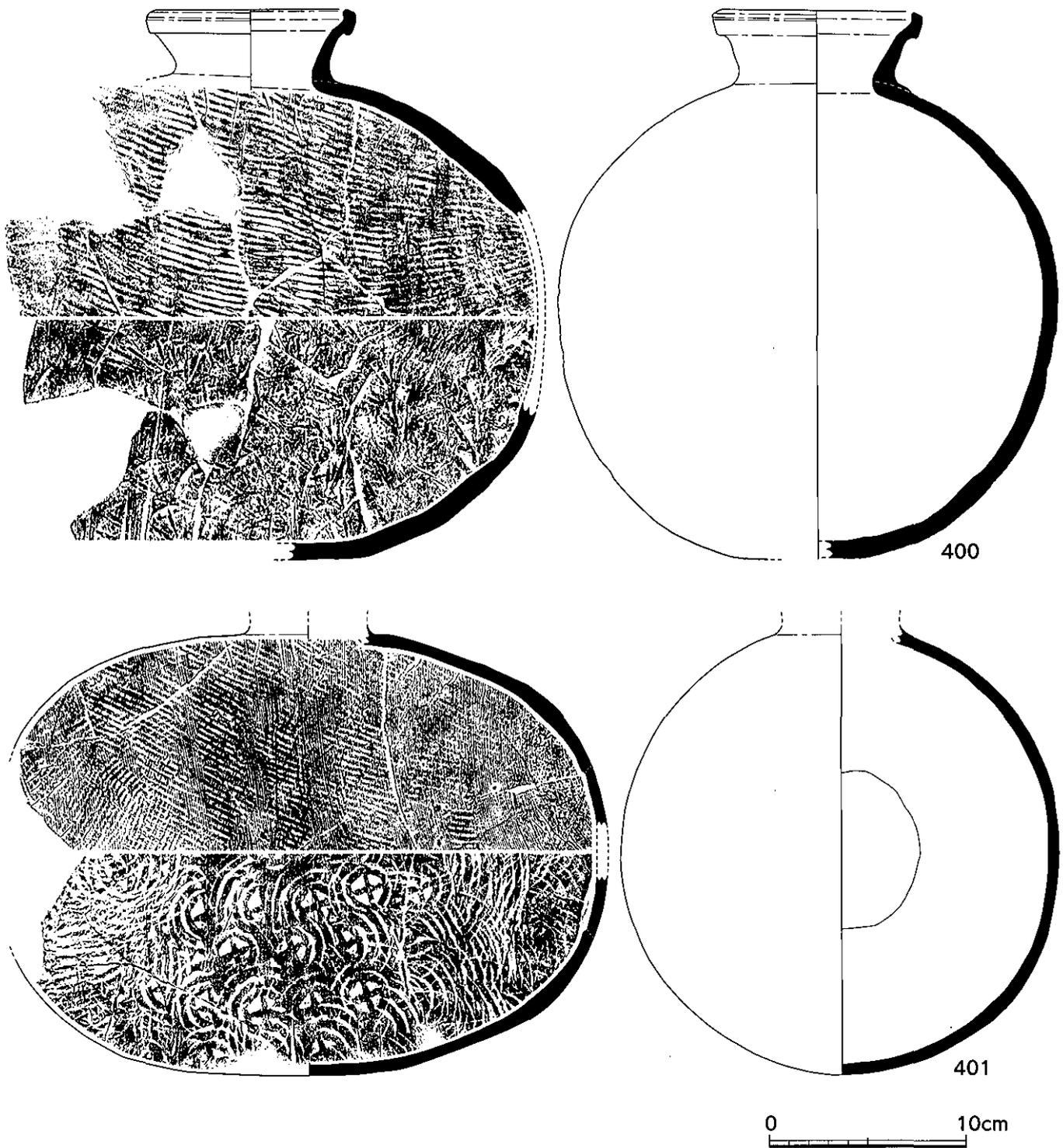
第36図 2号窯跡灰原3区出土遺物実測図 (350・353は1/6、他は1/3)



第37图 2号窯跡灰原4区1層出土遺物実測図 (374・375は1/6、他は1/3)



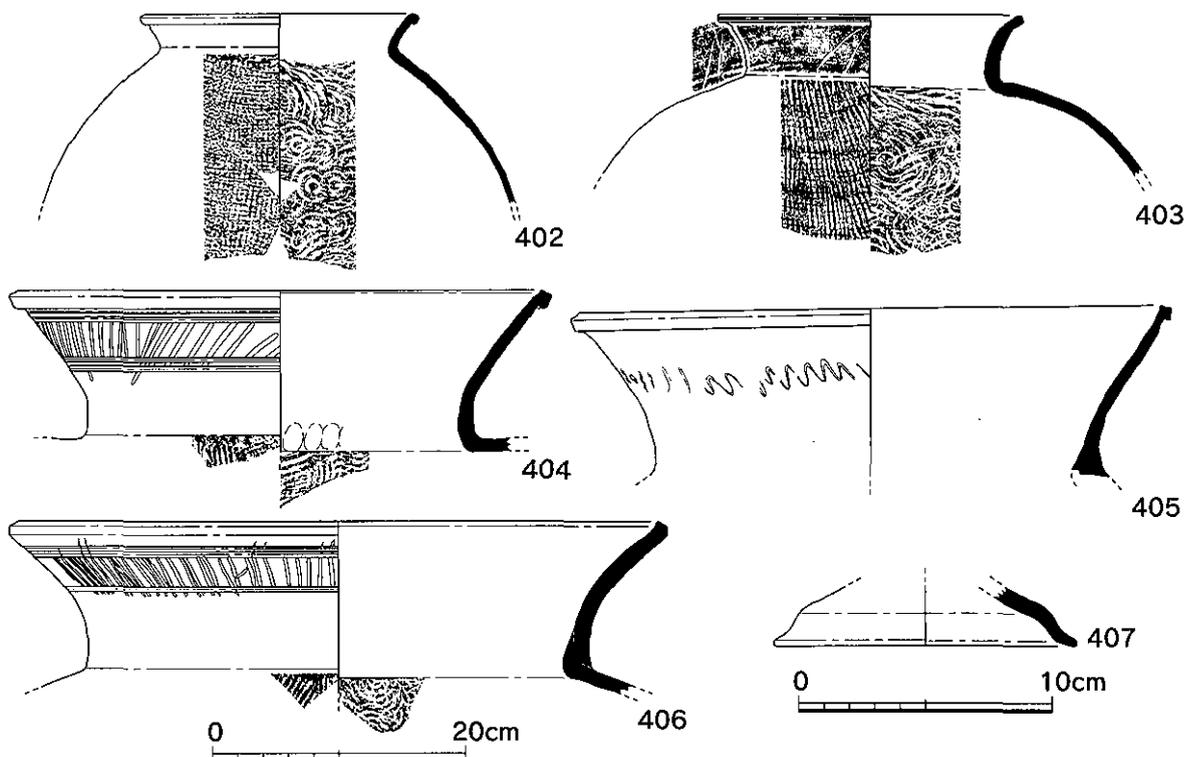
第38图 2号窑迹灰原4区2层出土遗物实测图① (1/3)



第39図 2号窯跡灰原4区2層出土遺物実測図②(1/3)

大きくふくらむ玉ねぎ形の体部に、細く短い頸部がつく。体部は粘土紐積み上げにより成形されており、タタキは使用されていない。器壁は薄く仕上げられ、体部外面下半には一部回転ヘラ削りが施される。165は中型の甕。体部下半まで残存する。最大径は体部中位よりやや上にある。

166～175は灰原谷出口付近出土。166は杯H蓋。口径11.2cmに復元され、天井部外面はナデにより仕上げられる。167は杯H。底部は平らで、回転ヘラ切り後ナデで仕上げられる。168は焼け

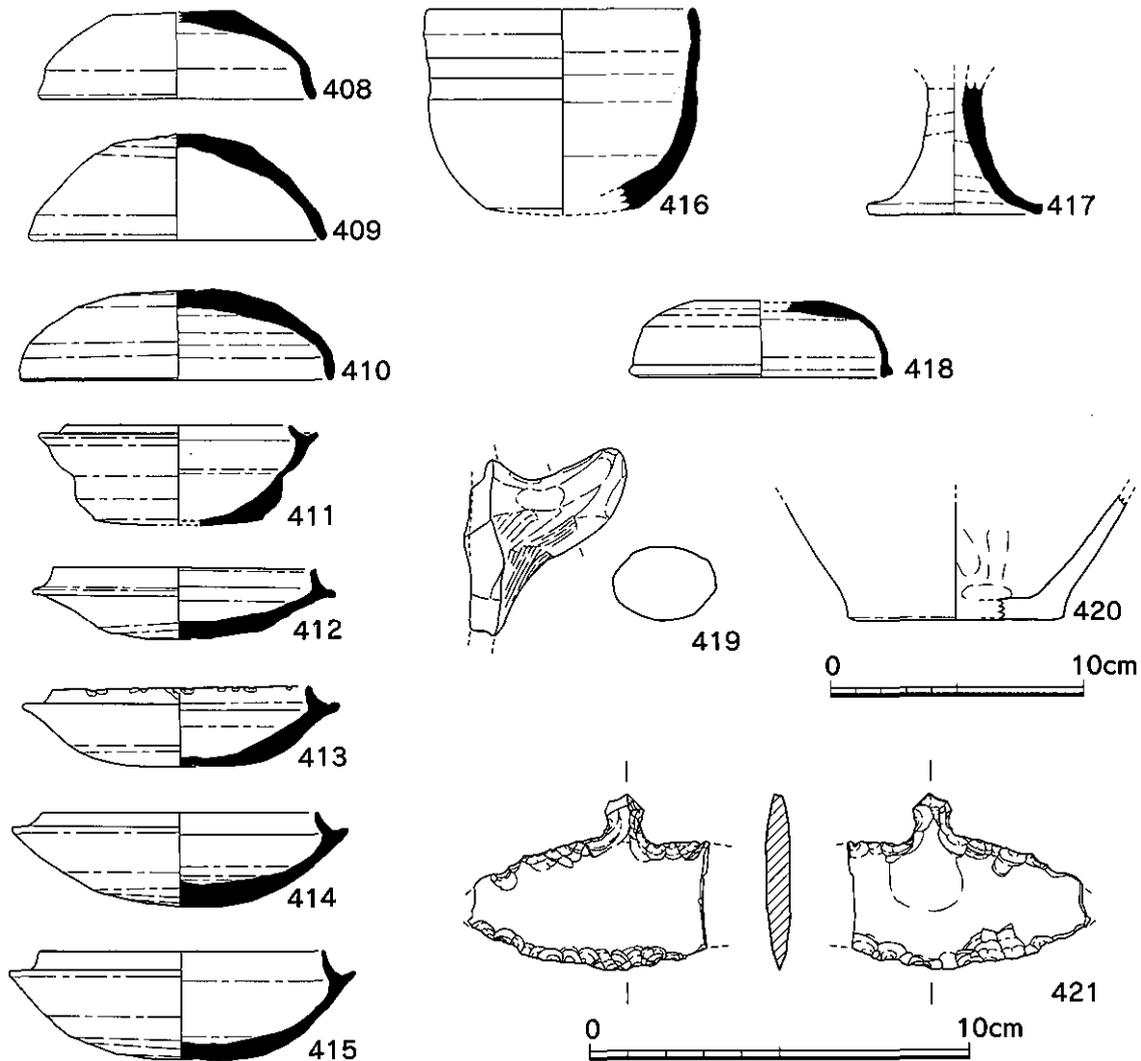


第40図 2号窯跡灰原4区2層出土遺物実測図③ (407は1/3、他は1/6)

歪んでいるが、口径11.4cmに復元される。底部は平らで、回転ヘラ切り後ナデで仕上げられ、器形としては杯身に近いが、あまり類例がない。169は椀。体部上半には太い沈線が巡り、底部外面は回転ヘラ削りを施す。170・171は高杯。いずれも小型のもので、171の脚部内面にはヘラ記号が施される。172は瓶類もしくは壺の口縁部。口縁端部下に沈線を1条巡らせる。173は甌。体部上半のみ残存。器壁は厚く、小型のものである。174は中型の甌。最大径は体部中位あたりにとる。175は蓋。径3.8cmの大きなつまみをもち、天井部と体部の境には沈線を有する。天井部外面は回転ヘラ削りを施す。

176～182は灰原1区拡張部出土。176は杯H蓋。口径11.8cm。天井部外面の回転ヘラ削りは施されない。177は杯G蓋。つまみは乳頭形に近く、天井部外面にはカキメが施される。178は杯H蓋の可能性もあるが、底部が平らに近く、丸みを持たないことから杯もしくは杯身と判断した。底部外面はナデで仕上げられ、器壁は厚い。179は高杯。脚部のみの残存であるが、脚部高は9.3cmを測る。脚部はラッパ形に開き、外面の一方に降灰が認められ、横たえて焼成されたようである。180は甌。体部のみの残存である。頸基部は細い。内部には外部から穿孔し押し込まれた粘土が焼固し残されている。181・182は瓶類の口縁部。いずれも口縁部へむかって大きく開き、端部は丸くおさめる。

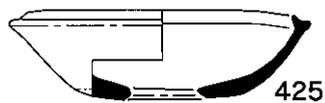
183～219は灰原1区および再拡張部を重機で掘り上げた際、掘り上げた排土から遺物を人力でより分けたものである。183～187は杯H蓋。口径11.0～11.8cm。184は天井部に回転ヘラ削りを施し、器壁は薄く仕上がり精良な作りである。それ以外は回転ヘラ切り後ナデで仕上げている。188～192は杯G蓋。188は宝珠形つまみをもち、天井部は高く丸みをもつ。192はつまみをも



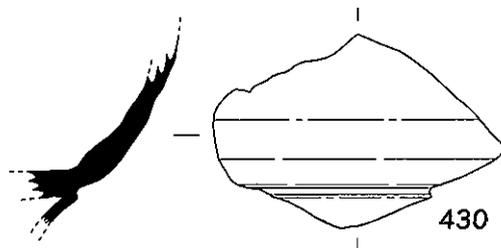
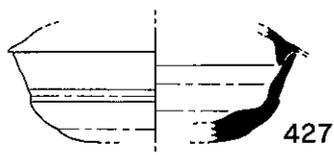
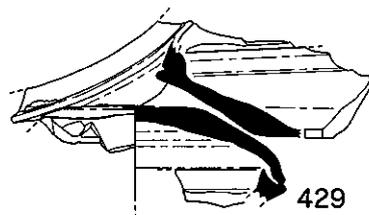
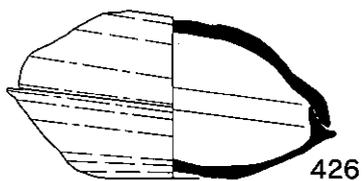
第41図 2号窯跡検出中・試掘時表探遺物実測図(1/3)

たず、天井部外面はヘラ切り後ナデて仕上げる。杯Hと迷う資料である。189~191は小さい乳頭状のつまみをもち、天井部外面にヘラ削りを施すが、天井部はやや低くなる。193~196は杯H。口径9.8~10.2cm。193は平らな底部をもち、底部外面に回転ヘラ削りを施す。杯G蓋と迷う資料である。194~196は底部外面は回転ヘラ切り後ナデて仕上げる。195は底部が平らになり、194・196に比べてやや小ぶりである。197~199は杯G。口径10.4~11.0cm。197は平らな底部をもち、底部外面はナデて仕上げられる。198は底部と体部の境に丸みを持ち、底部外面は手持ちヘラ削りにより仕上げられる。199は底部が丸いが平坦に近く、内面を丁寧にナデることから杯身と判断した。底部外面は丁寧にナデられる。200は椀。口縁端部を欠く。底部は平らに仕上げられ、体部外面にはカキメが施される。201・202は有蓋高杯蓋。201は口径10.6cmの小型のもので、つまみの中央はへこむ。天井部外面はヘラ削りを施す。202は口径12.3cm。乳頭状のつまみをもち、天井部外面にはヘラ削りが施される。203・204は脚部のみのため、器形がよく分からない。いずれも大きくハの字に開いた後、屈曲部をもって端部へいたる。端部は平らに仕上げられる。205・206は平瓶。いずれも内面には円盤閉塞痕が残り、体部外面にはカキメが施される。206は天井部外面にカキメの前に、タタキを施す。207・208は中小型の甕。口縁部は大きく外方へ開く。209

穿孔杯



重ね焼き



切り取り片



第42図 2号窯跡灰原出土穿孔杯等実測図(1/3)

～212は大甕。209は頸部外面を圏線により上下二段に分け、上半は粗雑な連続斜線文、下半には1条の粗い波状文が施される。210～212はいずれも頸部外面に圏線を巡らせるが、それ以外は無文である。212は口径39.3cm、器高69.3cm以上を測り、口縁部外面までタタキが及ぶ。213は短い頸部をもつ甕である。頸部はやや内傾するがまっすぐのび、そのまま端部へ至る。214は同一個体と考えられ、肩部には環状の把手がつく。破片のため、全形は不明であるが、把手は四方に配置されるようであり、215～217はこの甕の把手と思われる。

220～239は灰原2区1層出土。220・221は杯H蓋。口径11.0～11.3cm。いずれも天井部外面はヘラ切り後ナデ。222は杯Hの蓋身が釉着したものである。蓋の口径は11.1cm。蓋身いずれも天井部・底部外面はヘラ切り後ナデで仕上げる。杯身の底部外面には降灰が厚く認められ、杯蓋の天井部まで自然釉が流れることから、窯詰め・焼成時には蓋身を逆転して置いていたことが分かる。223・224は杯H。口径10.3～10.6cm。いずれも杯部が浅く、立ち上がりは短く内傾する。底部外面はヘラ切り後、ナデのみである。225～227は杯G。225は底部外面にヘラ切り後ナデを施し、体部外面に2条の沈線を巡らせる。226は底部外面に回転ヘラ削りを施し、器壁は薄く仕上げられる。227は杯部がやや深く、椀としてもよいかもしい。底部外面は一部回転ヘラ削りを施すが、中心側はナデで仕上げられており、平らに近くなる。228は有蓋高杯蓋。天井部は高く丸みを持ち、中央部がへこむつまみを有する。天井部外面はヘラ削りが施される。229・230は無蓋高杯。いずれも小型のもので、小さい脚部に対し、大きめの杯部がつく。231は椀。底部は平らに近く、回転ヘラ削りを施す。体部外面にはカキメを施した後、中位に沈線を巡らせる。232は鉢。底部は丸底で、ナデで仕上げられており、口縁部は肥厚し、端部は平らに仕上げられる。233は壺。短い頸部がつく。体部の成形にはタタキを用いたようで、擬格子タタキの痕跡が認められるが、肩部から上位はカキメ、下位はナデと回転ヘラ削りにより割と丁寧に消している。234は横瓶。小型のものであるが、口縁部は割に大きい。体部は閉塞側面から大部分はカキメが施されるが、底部側面は回転ヘラ削りが施される。235・236は平瓶。235は肩部に2条の沈線を巡らし、体部は回転ナデにより仕上げられる。236は底部は平らに近く、体部には全面カキメが施される。いずれも底部から体部の境付近まで手持ちヘラ削りを施す。237・238は蓋。いずれも頂部の平らなボタン状のつまみを有し、天井部は比較的高い。かえりは内傾し、つまみがなければ杯Hとする資料である。

240～242は灰原2区2層出土。240は杯蓋。口径11.0cm。天井部は比較的高いが、外面はヘラ切り後ナデで仕上げる。241は鉢。体部は外上方へ開き、底部外面は回転ヘラ削りを施す。242は椀。体部外面は強くナデられることで凹凸が著しい。底部外面は一部に回転ヘラ削りを施すが、中央部はナデで仕上げられており、平らに近くなる。

243～331は灰原2区3層出土。243～256は杯H蓋。口径10.0～11.9cm。このうち、244は杯Gか？255・256は天井部外面に回転ヘラ削りを施すが、他はいずれもヘラ切り後ナデで仕上げられる。天井部は平らに近いもの（243～251）と丸くなるもの（252・254～256）があり、口径の小さいものほど平らに近い。257～262は杯G蓋。このうち、261・262はつまみを伴わない。天井部は比較的高く丸く、つまみは宝珠形に近いもの（257・258）と、天井部は低くつまみは乳頭状に近いもの（259・260）がある。天井部外面の回転ヘラ削りは262を除きいずれも施される

が、つまみをもたない261の天井部処理は雑である。263～284は杯H。口径9.9～10.4cm。立ち上がりは高いもの（273・280～284）と低いもの（263～272・274～279）に分けられる。283は特に立ち上がりが高い。底部外面は272・282を除いていずれもヘラ切り後ナデで仕上げられており、平らに近くなるものが大半を占める。285～290は杯G。口径9.9～10.6cm。底部外面に回転ヘラ削りを施し丸く仕上げられるもの（285・286）と、ナデを施し平らに近くなるもの（287～290）がある。291～295は椀。口径9.4～12.2cm、器高6.5～9.15cm。底部外面は回転ヘラ削りを施すもの（292）、手持ちヘラ削りにより仕上げられるもの（294）、ナデで仕上げられるもの（291・293・295）がある。体部は上方にむかってまっすぐのびており、端部は丸くおさめる。296は有蓋高杯蓋。口径11.5cm。天井部は比較的高く、ヘラ削りを施すが、平らに近くなる。つまみは頂部がやや低い。297・298は無蓋高杯。いずれも脚部を失う。297は復元口径7.8cmと小型であるが、杯部の深さは298と変わらない。杯部外面には降灰が厚く認められる。299～301は鉢。いずれも体部は外上方へまっすぐ開く。299は底部に回転ヘラ削りをとれない、丸く仕上げられる。300は底部はナデにより仕上げられ、口縁端部は平らになる。301は底部を欠損し、全形がよく分からないが、鉢と判断した。口径17.7cmの大型のもので、底部外面にはカキメが施される。302は盤。焼け歪みが著しく、図は残りのよい部分から復元したものである。底部は一部回転ヘラ削りが施されるが、その後ナデや手持ちヘラ削りにより仕上げられる。底部と体部との境は丸く、口縁端部は平らに仕上げられる。303は短頸壺蓋。口径7.6cmに復元され、天井部外面は回転ヘラ削りを施す。304は口縁部を欠損するが、短頸壺と思われる。底部は平らに近く、ナデで仕上げられる。肩部には蓋との重ね焼きの痕跡が認められる。305・306は長頸壺。305は頸部のみの破片。頸部高8.7cmとやや短い。内外面ともシボリ痕が明瞭である。306は体部中位から頸基部のみの破片。体部は球形に近く、肩部に沈線を3条巡らし、間を刺突文で埋める。307～313は壺。307は直立するやや長い頸部をもち、頸部外面にはカキメが施される。底部は平らでナデ、体部下半は手持ちヘラ削りにより仕上げられる。308～310は細く短い頸部がつく。308は底部が弾けているが、体部との境は手持ちヘラ削りにより仕上げられている。頸基部内面から頸部にはシボリ痕が明瞭である。309は焼成不良のため、調整の観察が困難であるが、体部にはカキメが施されるようである。体部内面は一旦段をもち頸基部へ向かっており、体部と頸部の接合部と考えられる。310は頸部・底部を欠く。体部外面にカキメを施す。311～313は球胴形の体部に、短く外反する頸部をもつ。ロクロ成形により体部から頸部まで仕上げられるが、中小型の甕と類似した器形をとり、類別が難しい。311は小型のもの。底部外面は回転ヘラ削りを施し、丸く仕上げられる。312は底部を欠損するが、体部中位まで回転ヘラ削りを施す。313は肩部から頸部にかけてタタキ成形の後、外面カキメ、内面ロクロ回転ナデにより丁寧に仕上げられる。当て具痕は認められない。314は脚部のみの破片のため、全形がよく分からないが、壺形の体部がつく可能性がある。短く大きく開き、屈曲部をもち端部へ至る。屈曲部には沈線が施される。315・316は甕。315は頸部のみの破片である。細い基部からラップ状に開き、角度を変えて端部へ至る。屈曲部は緩く、外面に沈線等は施されない。316は最大径21.8cmの大型のものである。頸部を欠損するが、体部に対して基部は細いものと思われる。底部と体部の境付近には平行タタキの痕跡が残り、その上を体部下半から底部にかけて

回転ヘラ削りを施す。体部上半はカキメを施した後に沈線を3条巡らせ、間を刺突文で埋める。内面はロクロ回転ナデで仕上げられており、当て具痕を見出すことができない。317～324は甕。317・318は中小型のもので、口径16.8～22.0cm。頸部は短く外反し、端部は肥厚させる。319～324は大型のもの。口径46.6～60.6cm。いずれも頸部外面に圈線を巡らせ、連続斜線文を一段施す。323は復元することができた大甕の中で最大のものであり、復元口径60.6cm、器高115.4cmを測る。最大径は体部中位あたりにとり、器壁は最も厚いところで約2cmを測る。325は蓋。かえりは高く、内傾する。天井部は低く、外面はカキメを施す。杯Gの蓋の可能性もある。326は短くラップ状に開く脚部片である。内外面はハケにより調整され、接合面には体部との接合痕が残り、それから球形状の体部が想定される。327は横瓶の円盤接合部。内面には当て具痕が残る。

330～339は灰原2区4層出土。330・331は杯H蓋。口径11.4～11.6cm。いずれも天井部外面はヘラ切り後ナデ。330は天井部が平らになる。332～335は杯H。口径9.3～10.8cm。332を除き、底部外面はいずれも回転ヘラ削りを施す。336は無蓋高杯。脚部は、円錐状の柱部にラップ状に開く裾部がつく。脚部径より口径が大きい。337・338は壺。337は太い基部から頸部は直立に近く立ち上がり、体部は欠損するが、球形に近いものが想定される。体部の成形にはロクロ成形が用いられる。338は大きく外反する短い頸部をもつ。小型のものである。

340～350は灰原3区1層出土。340～342は杯H蓋。口径10.8～12.1cm。いずれも天井部は比較的高く、外面はヘラ切り後ナデ。343・344は杯G蓋。343は天井部は高く丸みを持ち、外面は回転ヘラ削りを施し、小さなつまみを付す。344はつまみが欠損する。天井部外面はヘラ切り後ナデで仕上げている。345・346は杯H。345は口径8.4cmと小さい割に、杯部が深い。346は復元口径10.6cm。杯部は浅く、底部は平らに近く、外面はヘラ切り後ナデで仕上げる。347は杯G。底部外面はヘラ切り後ナデ、体部外面に3条の沈線を施す。348は壺。大きく外反する短い頸部を持ち、最大径を体部中位にとる。全体をロクロ成形により仕上げた後、底部外面に手持ちヘラ削りを施す。底部は平らになる。349は平瓶。底部を欠損する。頸部は体部中心よりずれた位置につけられ、器形的には平瓶であるが、円盤閉塞の痕跡が認められない。頸部は平瓶に通常見られるものより大きく、あるいは頸部接合前の穿孔時に閉塞部をすべて切り落としたものであろうか。体部はカキメが施された後、体部の境付近は手持ちヘラ削りを施す。350は甕。口径23.7cm、器高37.4cm以上。頸部は大きく外反し、端部は四角く作り出される。

351～353は灰原3区3層出土。351は口径11.2cm。杯H蓋とも考えられるが、底部が平らなため杯Hとした。底部外面にはハケメ状の圧痕が残る。あるいは乾燥台の痕跡であろうか。352は有蓋高杯。脚部はラップ状に大きく開き、角度を変えて端部へいたる。脚部径は受部径より小さい。353は壺。体部をロクロ成形により仕上げられており、頸部は短く大きく外反した後端部へいたる。

354～357は灰原3区最下層出土。354は杯H蓋。口径12.25cm。天井部外面は回転ヘラ削りを施す。355・356は杯H。いずれも底部外面はナデで仕上げられる。356は立ち上がりが高い。357は平瓶。頸部は中心部に近い位置につけられる。器壁は厚い。内面には円盤閉塞痕跡が明瞭に残る。

358～376は灰原4区1層出土。358～362は杯H蓋。口径10.7～11.5cm。いずれも天井部外面

はナデて仕上げられる。天井部が丸くなるもの（358・361・362）と、平らになるもの（359・360）がある。377は杯G蓋。天井部は高く、宝珠形つまみを有す。天井部外面は回転ヘラ削りを施す。364・365は杯H。口径9.6～9.7cm。底部外面はナデて仕上げられる。365は外面に降灰が著しく、焼成時の状況が分かる。366は杯G。底部外面は回転ヘラ削りを施す。367・368は無蓋高杯。いずれも脚部はラッパ状に開いた後、角度を変えて端部へいたる。脚部径は口径より小さく、安定感に欠ける。370・371は頸部のみが残存。370は長頸壺もしくは壺等の頸部か。頸部高8.4cm。371は長頸壺。残存高10.0cm以上。口縁下と頸部中位に沈線を巡らす。372は甕。頸部は焼け歪んでおり、頸部内面から体部にかけて降灰が著しい。頸部は基部が細く、ラッパ状に開いた後に角度を変えて端部へいたる。屈曲部は緩く、沈線をとみなわない。373は平瓶。内面は円盤接合痕が明瞭である。底部と体部の境は回転ヘラ削りを施し、体部上半はカキメを施す。374・375は大甕。いずれも頸部外面にまばらな連続斜線文を施すが、圏線は巡らさない。376は蓋。かえりは内傾し、つまみがなければ杯Hとする資料である。天井部外面は回転ヘラ削りを施し、中央部の高い山形つまみをつける。内面全体には降灰が認められ、焼成時には倒置されていることが明瞭である。

377～407は灰原4区2層出土。377～381は杯H蓋。口径10.25～11.25cm。いずれも天井部外面はヘラ切り後ナデて仕上げられる。382は杯G蓋。つまみはつかない。天井部は低く、外面は回転ヘラ削りを施す。383～389は杯H。口径9.15～11.0cm。387・388は底部外面にヘラ削りを施すが、それ以外はヘラ切り後ナデて仕上げる。383・385・386は外面に降灰が認められる。390～392は杯G。390は杯H蓋に近いが、底部が平らなことから杯身と判断した。底部と体部の境付近はヘラ削りが施されるが、底部はヘラ切り後ナデて仕上げられる。391は体部側の底部を回転ヘラ削りを施すが、中心側の部分はナデて仕上げられ、この部分は平らに近くなる。392は底部外面に回転ヘラ削りを施す。杯部は深く、体部外面に沈線を施す。393・394は椀。393は鉢形に開く体部をもち、底部外面はナデて仕上げられ、平らに近くなる。394は底部外面に回転ヘラ削りを施し、丸く仕上げられる。395は無蓋高杯。杯部は丸く、下半にはカキメを施す。脚部は欠損するが、基部は細く、裾部はラッパ形に開くようである。396は盤。大きく焼け歪んでいる。内面には降灰が認められる。397は鉢。底部外面は手持ちヘラ削りを施す。体部中位の沈線は、ラセン状に不整に巡らされる。398は壺。球胴形の体部をもち、体部中位から上半はタタキを施しており、その後上半はカキメ、下半は回転ヘラ削りを施す。内面は回転ナデのみで、当て具痕は確認できない。399は脚部のみ破片。体部外面にカキメが施されることから、壺形の体部がつく可能性がある。脚部は屈曲部をもち、外面には降灰が著しい。内面にヘラ記号を有する。400・401は横瓶。400は外面平行タタキ、内面に鳥足状の当て具痕が全面に認められる。401は頸部を欠損するが、外面擬格子タタキ、内面中位に車輪文当て具痕を有する。閉塞側と底部側には車輪文当て具痕は認められないが、当て具を替えた可能性と当て具の端を使用した可能性が考えられる。いずれの当て具も、これまでの牛頸窯跡群からの出土資料では知られていないものである。402～406は甕。402・403は中小型の甕である。頸部は大きく外反し、外面に文様は施されない。404～406は大甕。連続斜線文を施した後に圏線を施すもの（404・406）と、圏線を巡らさず1条の波状文を巡

らせるものがある(405)。407は脚部のみの破片。壺などの体部がつく可能性がある。

408～421は、2号窯跡の検出中に出土したものや試掘調査の際に表採したものなどである。408～410は杯H蓋。410は口径12.3cm。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。408・409は口径11.0～11.7cm。天井部外面はヘラ切り後ナデている。411～415は杯H。411は外面は段状になるが、内面は丸い椀形になる。底部外面はナデて仕上げられており、体部下半は製作時の粘土柱の太さを表すのであろうか。底部外面に回転ヘラ削りを施し立ち上がりの高いもの(414・415)と、ナデて仕上げるもの(412・413)がある。416は椀。417は高杯脚部である。内面にはヘラ記号が認められる。418は天井部から口縁部へ向かってまっすぐ下がり、端部は断面三角形に仕上げられる。短頸壺等の蓋であろうか。

422～425は穿孔杯である。いずれも杯H蓋身の天井部に径2～3cm程度の穴を穿つ。おおむね外面から穿孔されるが、切り口は刀子で切るような鋭利なものではない。いずれも焼成不良である。

426～430は重ね焼きの状況がわかる資料である。426は杯H蓋身をセットで焼成したものが釉着したものである。蓋身いずれも外面に回転ヘラ削りを施すが、その範囲は狭い。外面の降灰の様子から、杯身を上にして焼成されたのではないかと考えられる。427はかえりのある蓋に杯が釉着する。無蓋高杯もしくは杯Gの可能性が考えられる。428・429は杯Hをセットにし、積み重ねて焼成したものが釉着したものである。428は合わせて3段重ねる。杯Hの底部外面には回転ヘラ削りを施す。降灰の状況から、杯Hのセットを正位置で積み上げたことが分かる。429も3段重ねたことが分かる。杯蓋の天井部外面はヘラ切り後ナデて仕上げられており、降灰の状況から杯Hのセットを倒置して積み重ねたことが分かる。430は平瓶の底部と脚部片が釉着している。降灰の状況から、倒置して焼成されているようである。

431～439は甕の頸部を接合する際に、余分な粘土を切り落としたものである。幅の広いものと狭いものがあり、いずれも刀子などで切り落とされたようで、切り口はスパツとしている。いずれも焼成は良好である。

土師器 (145・218・219・239・328・329・339・419)

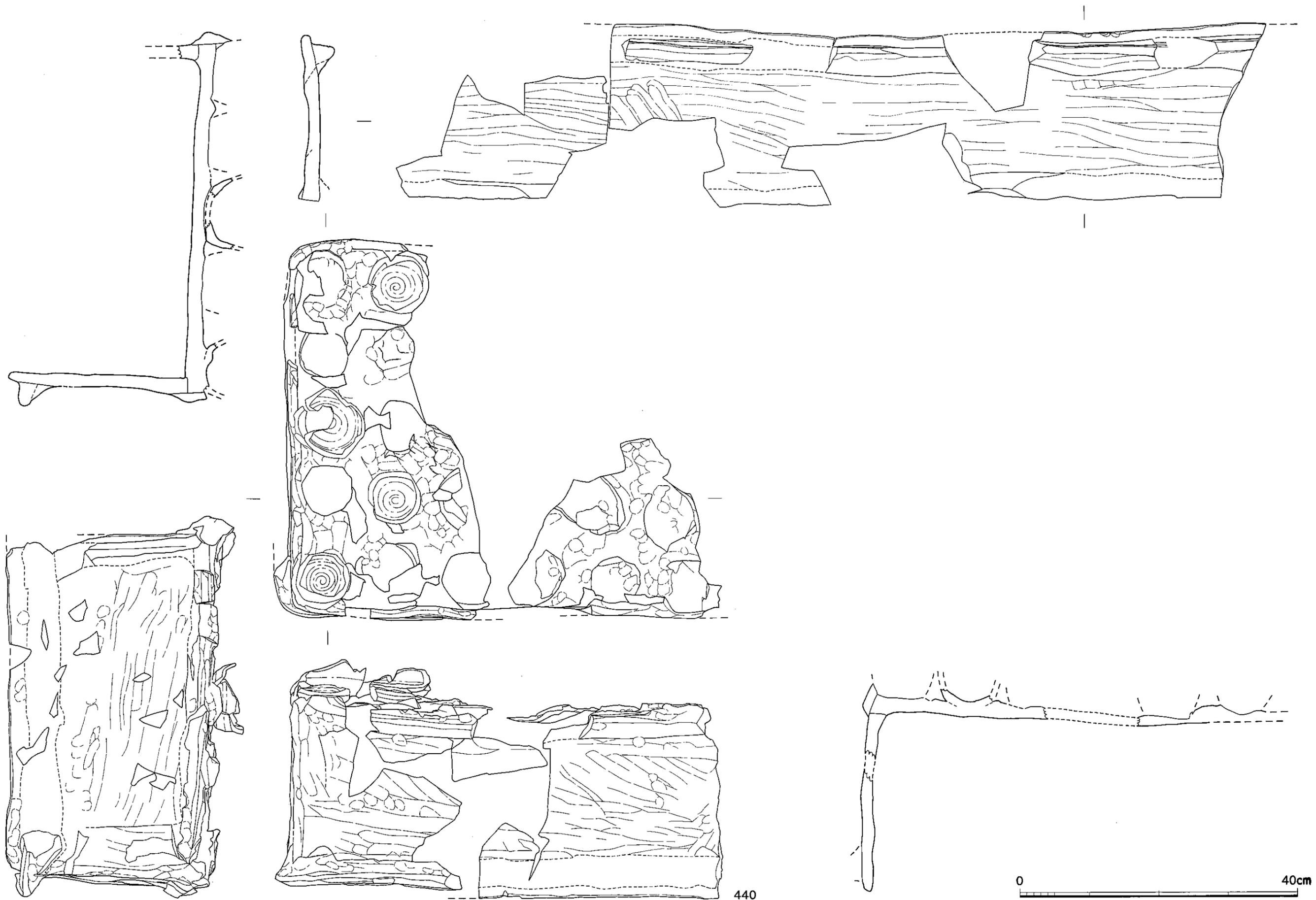
145は甕。外面タテハケ、内面ヘラ削り。底部を欠損するが、焼成は良好である。体部外面中位には煤の付着が認められる。218は鉢。底部は丸く、丸みを持つ体部から大きく外反し、口縁端部へ至る。外面は粗いヨコ方向のハケを施しており、内面はナデている。219は甕。把手部分のみの残存。内面ヘラ削り。239は甕。口縁部のみ残存。内面はヘラ削りを施す。328・329は鉢形に開く体部を持つ。体部はロクロ成形、口縁端部は外方に鳥嘴状につまみだされる。328の外面には煤が付着している。全形等は不明である。339は甕。口縁部から体部までの破片で、復元口径は15.9cm。内面ヘラ削り、外面ハケメ。頸部はしまり、大きく外反して端部へいたる。419は甕把手。太く、外面ハケメ、内面ヘラ削りを施す。

弥生土器 (420)

420は甕の底部片である。平底で、器壁は薄い。

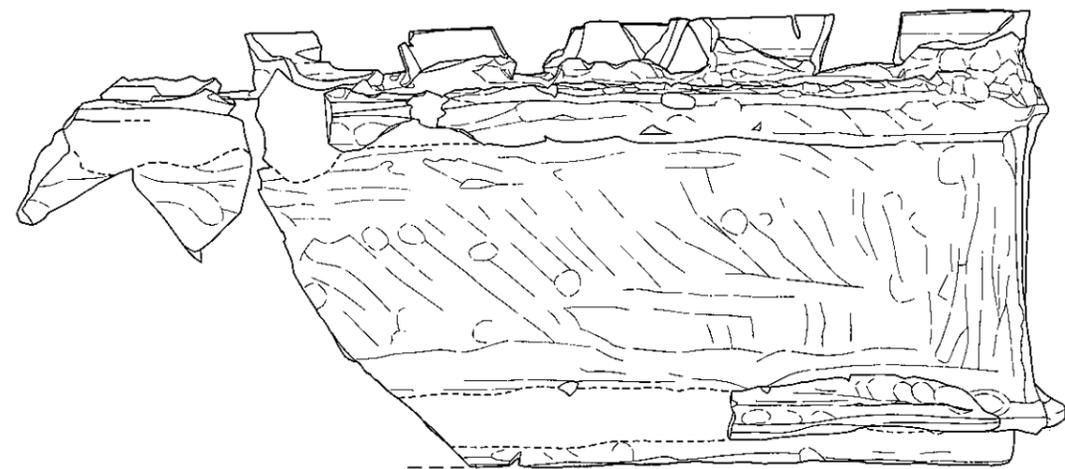
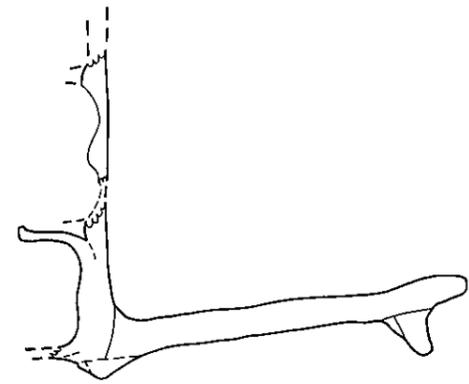
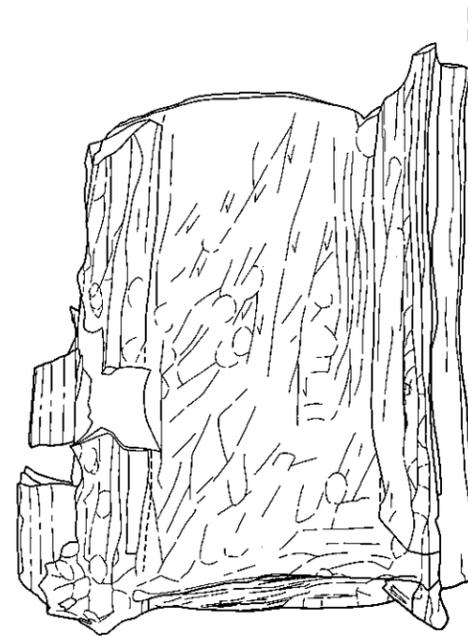
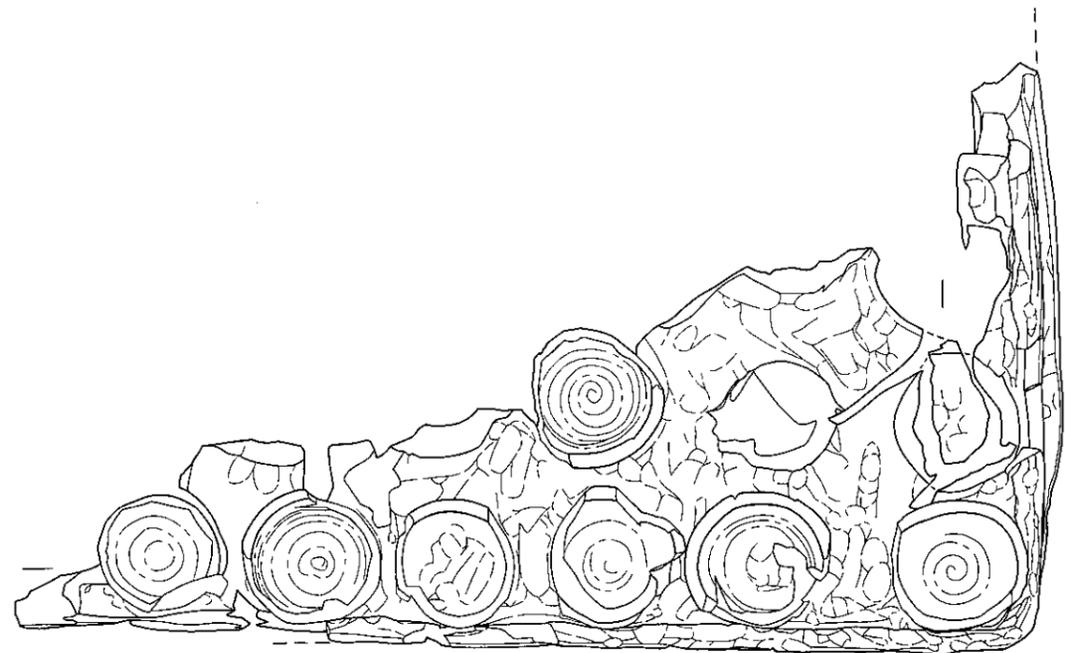
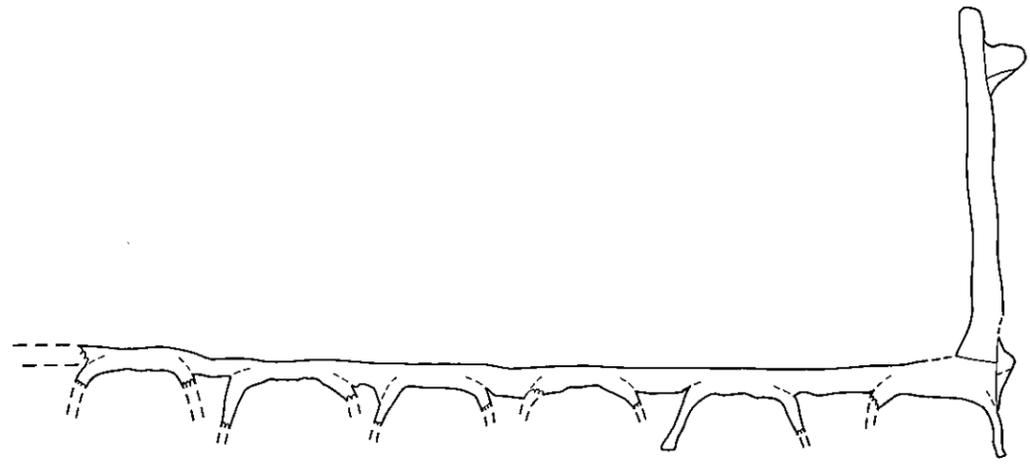
石器 (421)

421は石匙である。石材はサヌカイトを使用する。

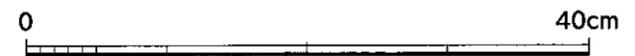


440

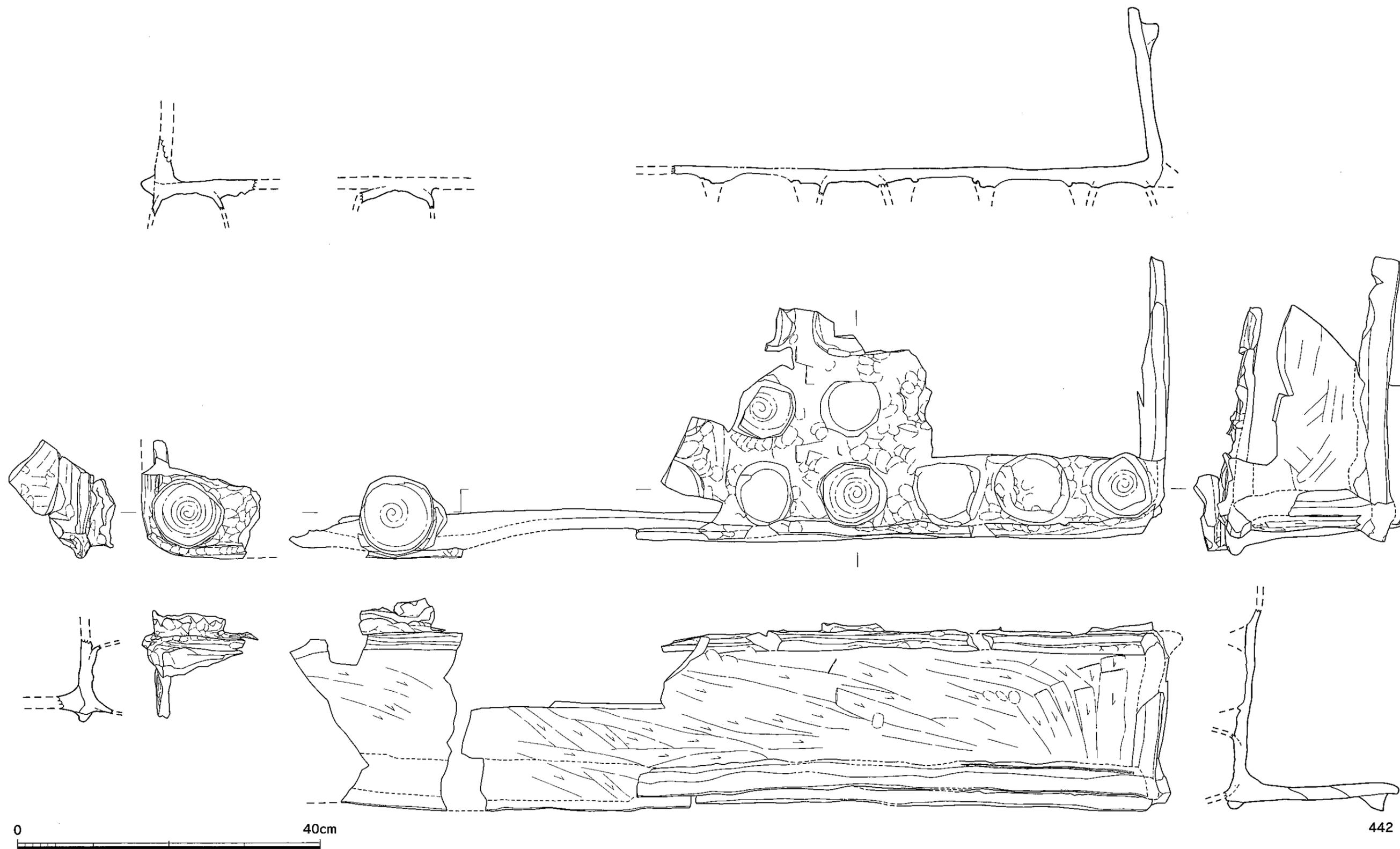
第43图 2号窑迹灰原出土1号陶棺实测图① (1/5)



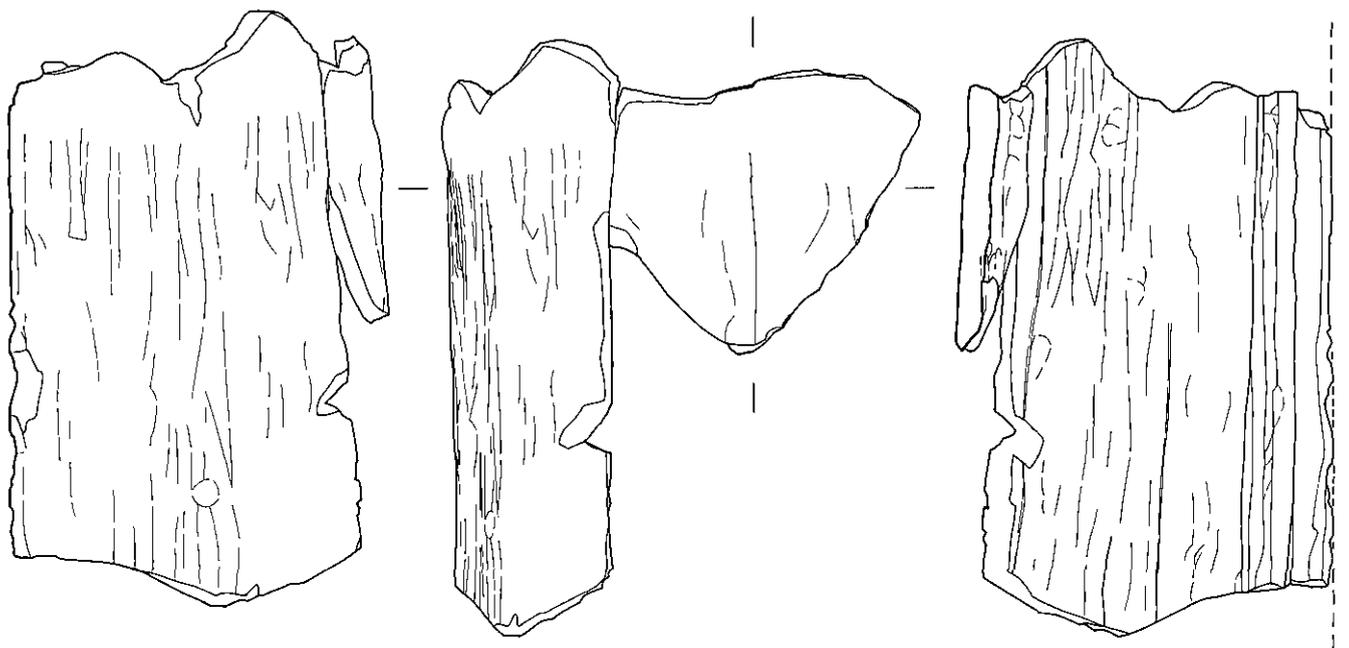
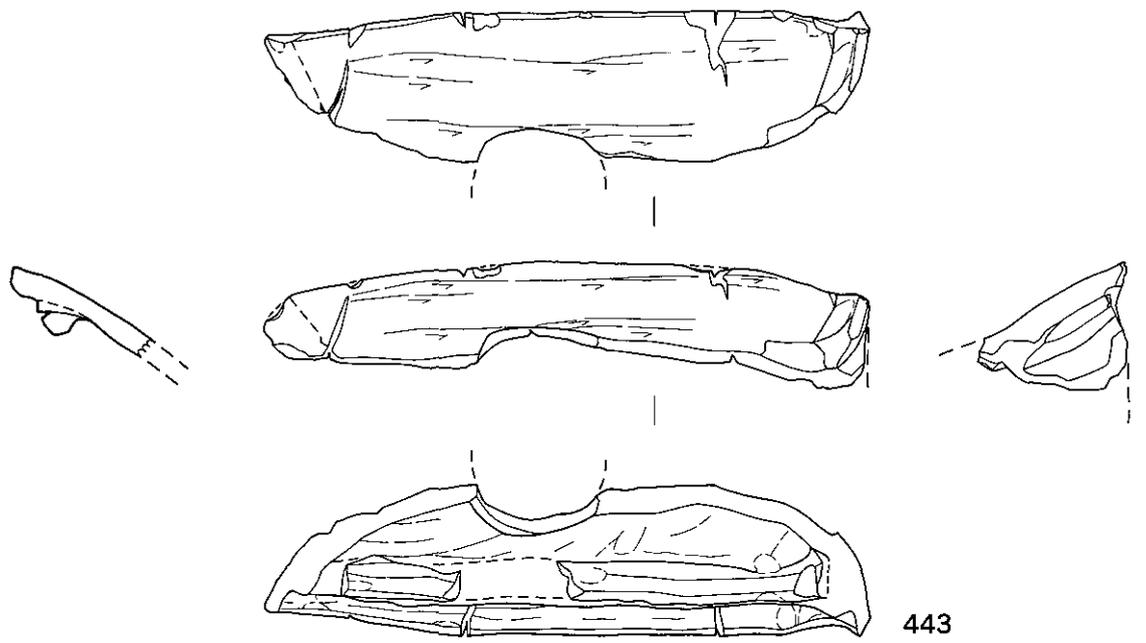
441



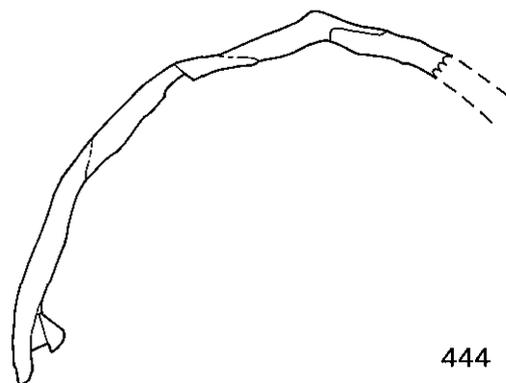
第44图 2号窯跡灰原出土1号陶棺实测图② (1/5)



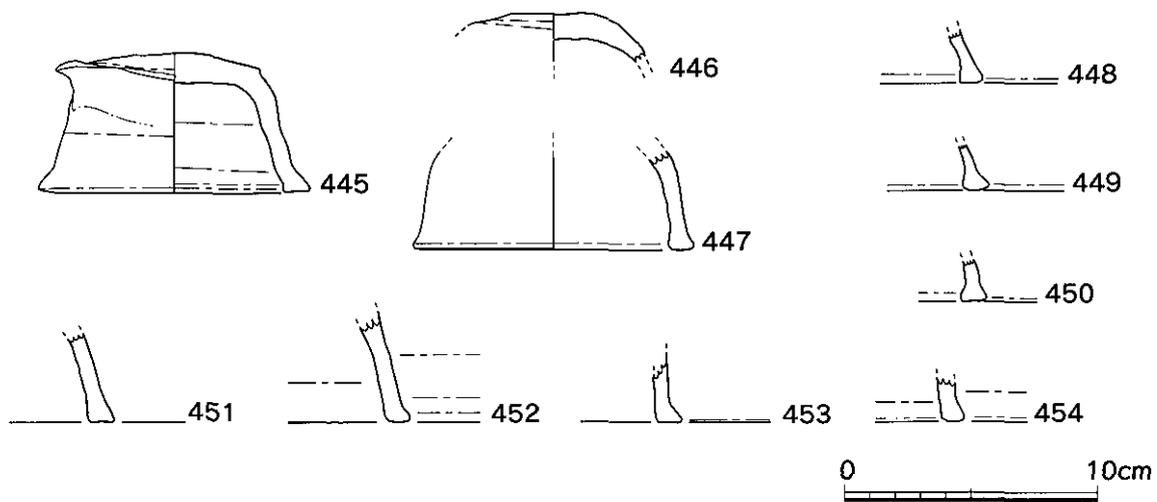
第45图 2号窯跡灰原出土2号陶棺实测图(1/5)



0 20cm



第46图 2号窠迹灰原出土陶棺棺盖实测图 (1/5)



第47図 2号窯跡灰原出土陶棺脚部実測図（1/3）

陶棺（50・440～454）

50・445～454は陶棺の脚部片。小片であるが、端部を肥厚させ平らに仕上げていることと、胎土の発色が灰原出土の陶棺と同じであることから判断される。445は外面に粘土を貼り付けた痕跡が残る。

1号陶棺（440・441）

須恵質。440・441には接点はないが、隅角部外面の粘土帯の類似・法量・脚部の数などから、同一個体と考えている。

棺身部の平面形態は隅丸長方形で、側板はほぼ直立する。底板部外面に脚部をもつ。440は5個×6列、441は3個×6列が残存し、本来、5個×13列以上と考えられる。上端部外面・側板下端部外面・長側面外面と短側面外面の境の隅角部に粘土帯を貼付する。

脚部は別作り。体部は直線的に開き、脚端部は少し膨らみ、わずかに外側へ突っ張る。体部はロクロ成形による回転ナデ、天井部外面と体部外面の境は回転ヘラ削りであるが、全ての脚部に施されているかは不明である。天井部内面は回転ナデ調整が大半であるが、ナデや指頭圧痕がみられるものもある。脚端部径は推定10cm強で、ある程度乾燥が進んでから底板部に取り付けている。

底板部は不定形の板状粘土を接合して成形した可能性がある。内面はヘラ削り後、丁寧にナデが施され、タタキ・当て具痕はみられない。外面は指頭圧痕が顕著である。脚部貼付位置を意識して、その周囲に連続的に弧状に並ぶものもある。脚部の接合面は、いずれも周囲より少しくぼむ。外側の列の脚部接合面は、断面が平坦でナデが施されているものが多いようである。粘土紐をくぼみの周囲に巻いて、脚部の密着性を高めている。他の脚部接合面は、断面が弧状でナデを施したもの、同じく断面が弧状であるがナデを施さないものがみられる。

側板は底板部の上に接合される。断面から、粘土板を数枚接合して成形する。上端部はやや丸みを帯び、ヨコナデが施される。外面下半は斜位のナデ、上半は横位のナデ。内面下半は横位のナデ、上半は斜位または横位のナデ。内外面ともにナデの下にかすかにヘラ削りが確認される。隅角部内

面は縦位のナデを施す。この縦位のナデは、側板の他の調整を切る。

隅角部の縦位の粘土帯は、断面三角形の粘土帯を貼付し、その両側に粘土を充填し補強する。調整は縦位のナデが施される。蓋受の粘土帯は、上面はほぼ平坦で断面は丸みを帯びた三角形を呈する。上端部外面にまず断面鏢形の粘土帯を貼付し、その下部に更に粘土帯を貼り付けて補強する。調整はヨコナデが施される。側板下端部外面の粘土帯は、断面は丸みを帯びた三角形を呈する。脚部と接する部分は、粘土を継ぎ足して伸ばし、脚部と一体化させている。調整はヨコナデが施される。これらの粘土帯は先に隅角部の縦位の粘土帯を貼付し、その後横位（側板下端部外面・蓋受）の粘土帯を貼付する。横位の粘土帯についてはどちらを先に貼付したかを示す痕跡は確認できない。

2号陶棺 (442)

須恵質。大個体・小個体の2個体もやはり接点はないが、隅角部外面の粘土帯の類似・器高などから同一個体と考えている。

棺身部の平面形態は1号陶棺と同じ隅丸長方形で側板は内傾する。底板部外面に脚部を持つ。3個×6列が残存し、本来、3個以上×10列以上の規模と考えられる。上端部外面・側板下端部外面・長側面外面と短側面外面の境の隅角部に粘土帯を貼付する。

脚部は別作りで、残存状況が悪く脚端部まで残存するものはないが、1号陶棺と同じ椀形を呈する。ロクロ成形による回転ナデを施す。外面の天井部と体部の境の回転ヘラ削りは確認できるものがない。脚端部径は推定10cm強であろうか。

底板部は不定形の板状粘土を接合して成形した可能性がある。内面はナデが施され、外面は指頭圧痕が顕著である。脚部貼付位置を意識して、その周囲に連続的に弧状に並ぶものもある。部分的に指頭圧痕以前にヘラ状工具端部の圧痕が確認されるが、ヘラ削りの痕跡は確認できない。外側の列の脚部接合面は、断面は平坦でナデが施される。粘土紐をくぼみの周囲に巻いて、脚部の密着性を高めている。他の脚部接合面は、断面が弧状でナデを施す。

側板は1号陶棺と同じく、底板部の上に接合される。断面から、側板は粘土板3枚を内傾接合する。上端部は丸みを帯び、ヨコナデが施される。外面は底板部から上端部へ斜位のヘラ削り後、横位に近い斜位のナデが施される。内面は横位のヘラ削り後、横位または斜位のナデが施される。隅角部内面は縦位のナデを施す。この縦位のナデは、側板の他の調整を切る。

隅角部の縦位の粘土帯は、断面台形の粘土帯を貼付し、その両側を薄い粘土で充填する。調整は縦位のナデが施される。蓋受の粘土帯は、上面はほぼ平坦で断面は三角形を呈する。上端部外面にまず断面鏢形の粘土帯を貼付し、その下部に更に粘土帯を貼付して補強する。調整はヨコナデが施される。側板下端部外面の粘土帯は、蓋受と比較して小さく、断面三角形を呈する。ヨコナデが施される。これらの粘土帯も1号陶棺と同じく、隅角部の縦位の粘土帯を先に貼付して、その後横位（側板下端部外面・蓋受）の粘土帯を貼付する。横位の粘土帯についてはどちらを先に貼付したかを示す痕跡は確認できない。

陶棺棺蓋 (443・444)

須恵質。443・444には接点はないが、内面のかえりなどから同一個体と考えている。

外面の平面形態はほぼ長方形となろう。四注家形。縦断面は、短側面が緩く膨らみながら天井部

へと至る。横断面は半円形で、外面の中央が尖って棟状の稜を成す。外面の長側面と短側面の境に断面台形の補強粘土帯を貼付する。残存するのは一方だけで、もう一方は剥落している。短側面には円孔を有し、推定径は9～10cmである。内面の端部上方に棺身上端部と接するかえりの粘土帯が巡る。内面からみたかえりの平面形態は棺身部と同じく隅丸長方形を呈す。その大きさから、2号陶棺とセットになる可能性が高い。

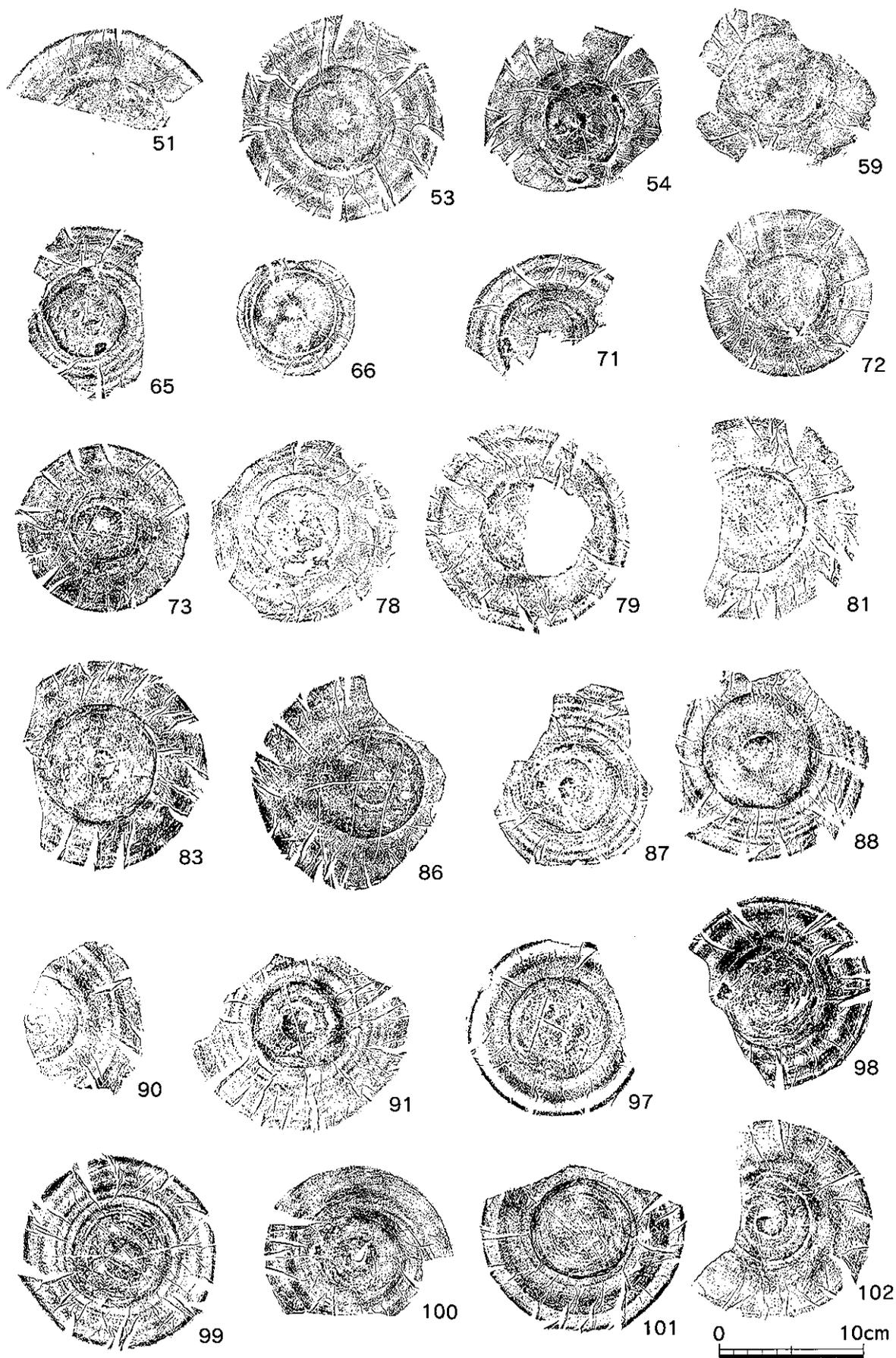
長側面は粘土板を接合して成形している。短側面は残存状況の都合で不明であるが、おそらく長側面と同じ粘土板接合であろう。中央内面に封じ穴が位置する。長側方向と短側方向の各両側から粘土板を積み上げていき、手が入る分を除いて作り上げ、最後に粘土板を充填して閉じている。充填した粘土板は、短側面側の端部を内面に当て、長側面側の端部は外面に当てることから、先に短側面を閉じてからその後長側面を閉じたことがわかる。封じ穴の内面は指頭圧痕が顕著である。外面は横位のヘラ削り後ヨコナデ、内面はヨコナデが施される。内面には幅2cm程の板状圧痕が、長側面に沿ってみられる。中心の両脇に残存長12cm、33.5cmの2ヶ所みられる。かえりの上方約6cmの部分にも浅く1ヶ所、21cmにわたってみられるが不鮮明である。粘土板を積み上げるときの支え木と考えられるが、他に支柱などの痕跡は確認できず、支えた方法については検討を要する。

かえりは、棺蓋本体にまず薄い断面三角形の粘土帯を貼付して突出させ、その上に断面が丸みを帯びた三角形の粘土帯を貼付している。後から貼付する粘土帯の上部は棺蓋に十分に密着しているが、下部は接合後ナデ付けていないので、接合痕が明瞭である。調整はヨコナデを施す。

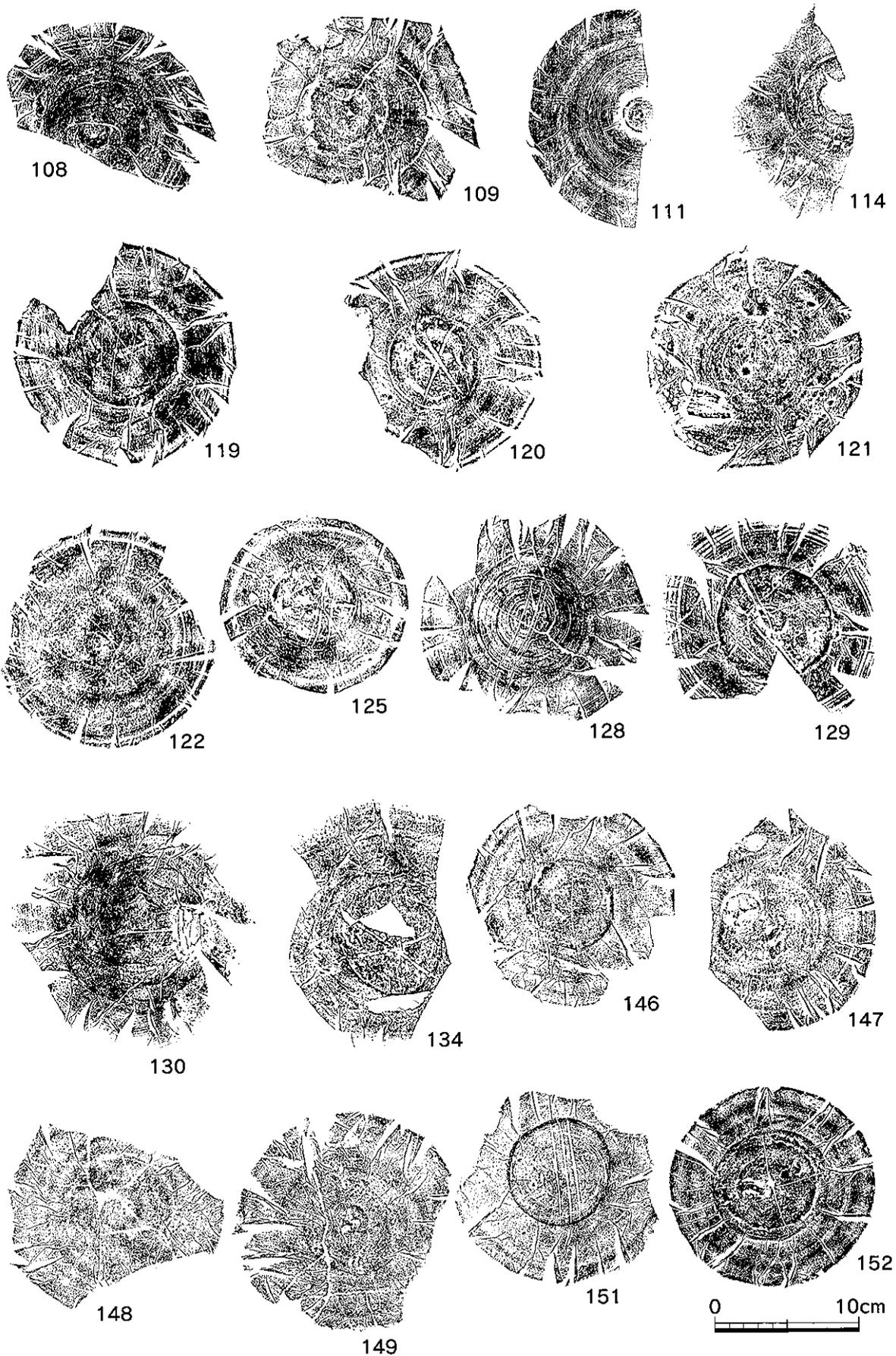
短側面の円孔は、約1/3程が残存する。ヘラ状工具で切り取られており、一部その切り取りが重複している。切り取った後に、その面を整えたのであろうか。

甕類タタキ・当て具痕 (456～498)

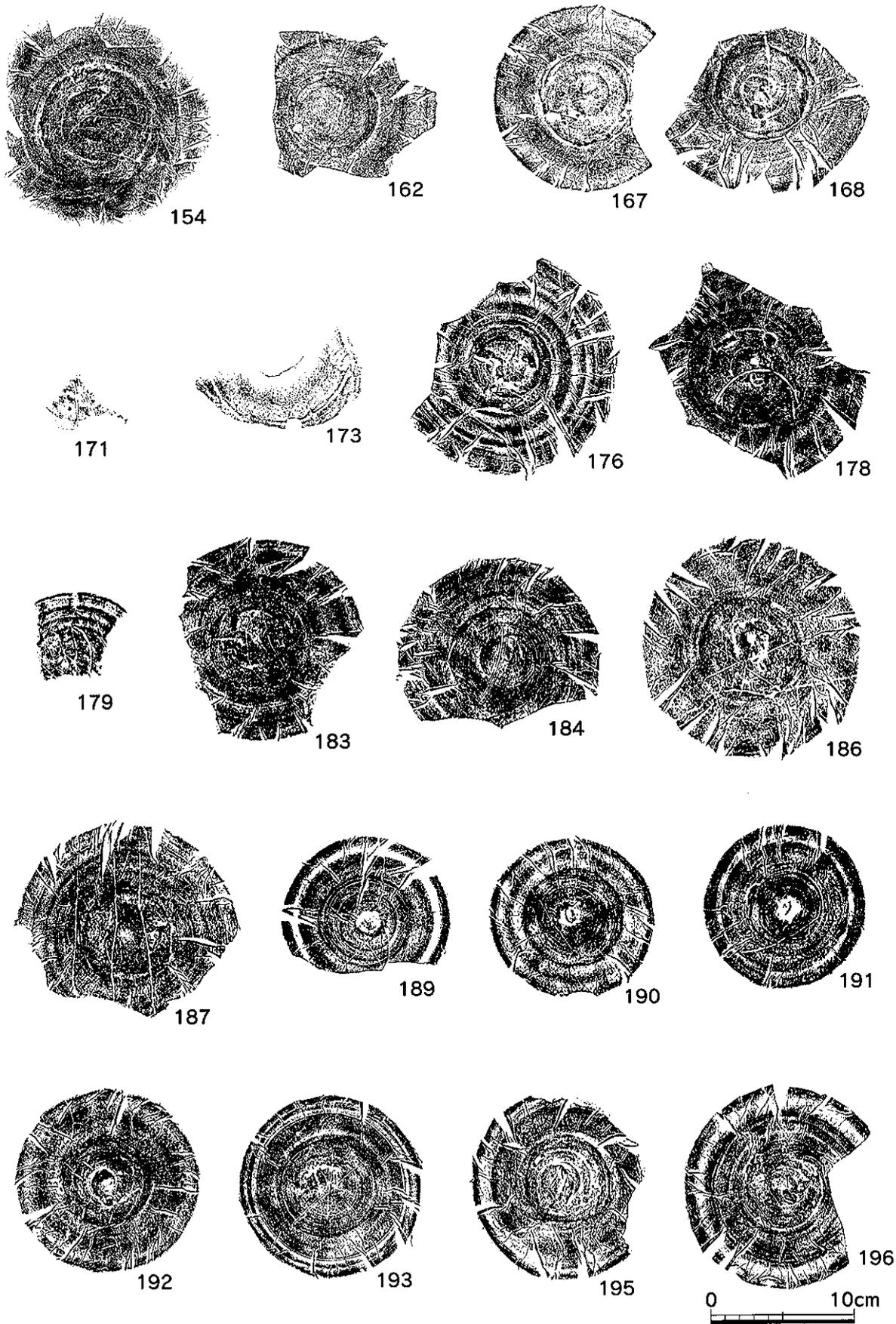
456～498は、甕や横瓶などタタキを使用する器種の体部破片のうち、タタキに使用された原体が異ると選別時に取り上げたものである。もちろん、これらの中には、破片の残り方や、タタキ面の当て方などで別のように見えるが、本来は同一の原体を使用したものが含まれている可能性があるものの多くの原体が存在したことは間違いないようである。これらのうち特に注目されるものを取り上げると、タタキでは465は太い平行タタキに直交するように細い突線が認められる。当て具では、458は放射状文、459は丸に十字の車輪文、479は鋭く深い当て具痕がついており、その形は宝相華状を呈する。これらは、数は少ないが従来の牛頸窩跡群内では見ることのなかった種類の原体を使用している。



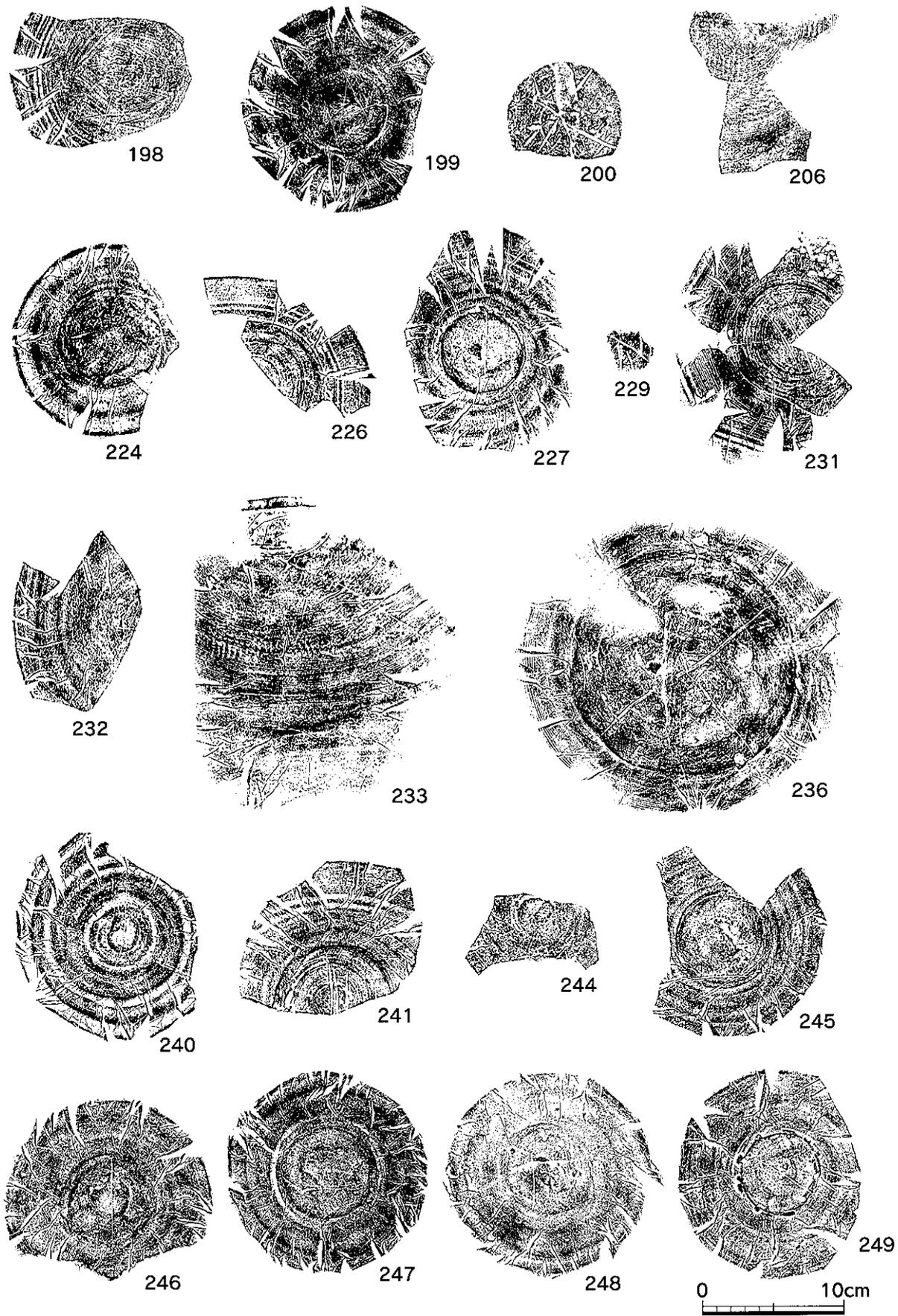
第48图 2号窑迹出土遗物拓影图①(1/4)



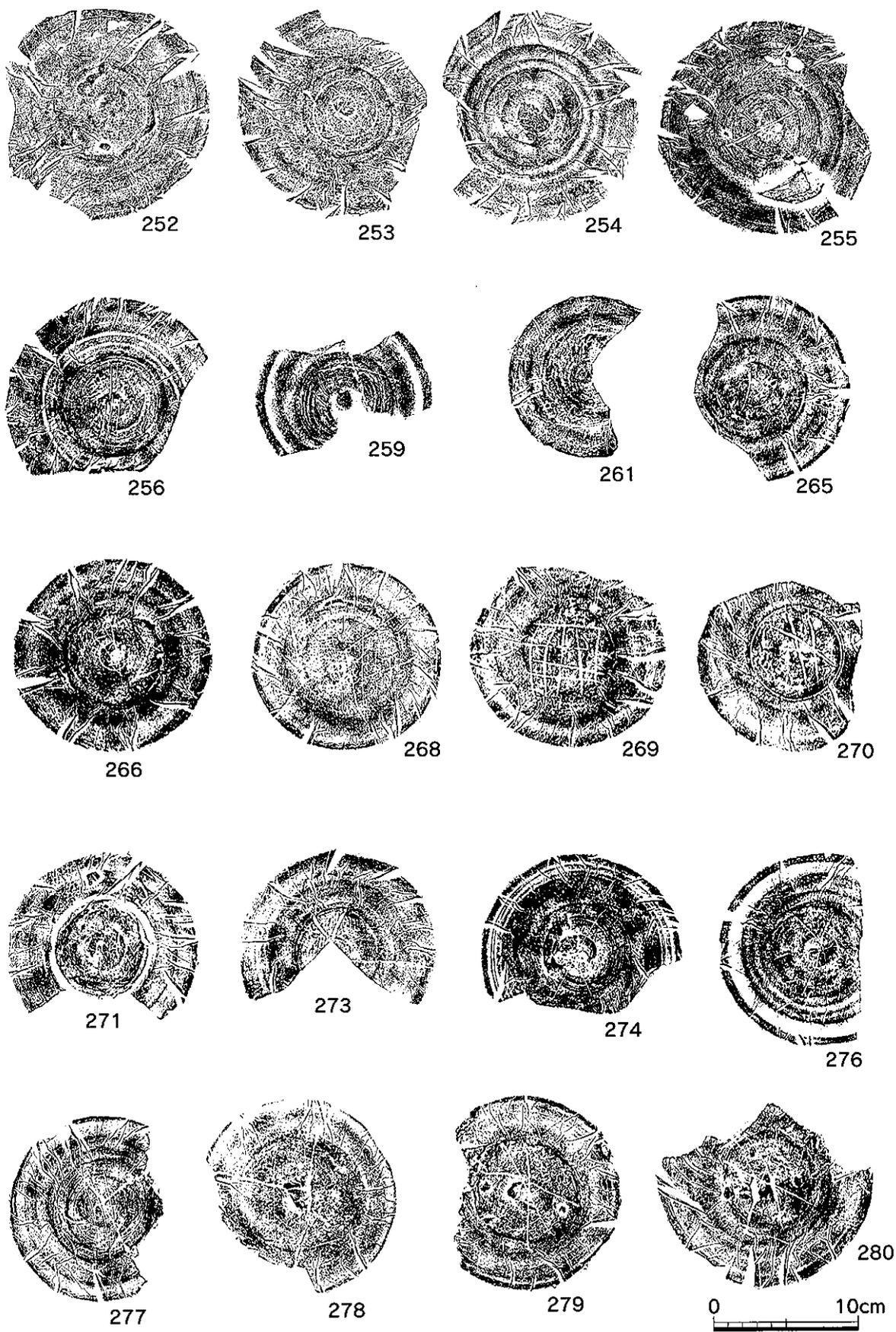
第49图 2号窑迹出土遗物拓影图② (1/4)



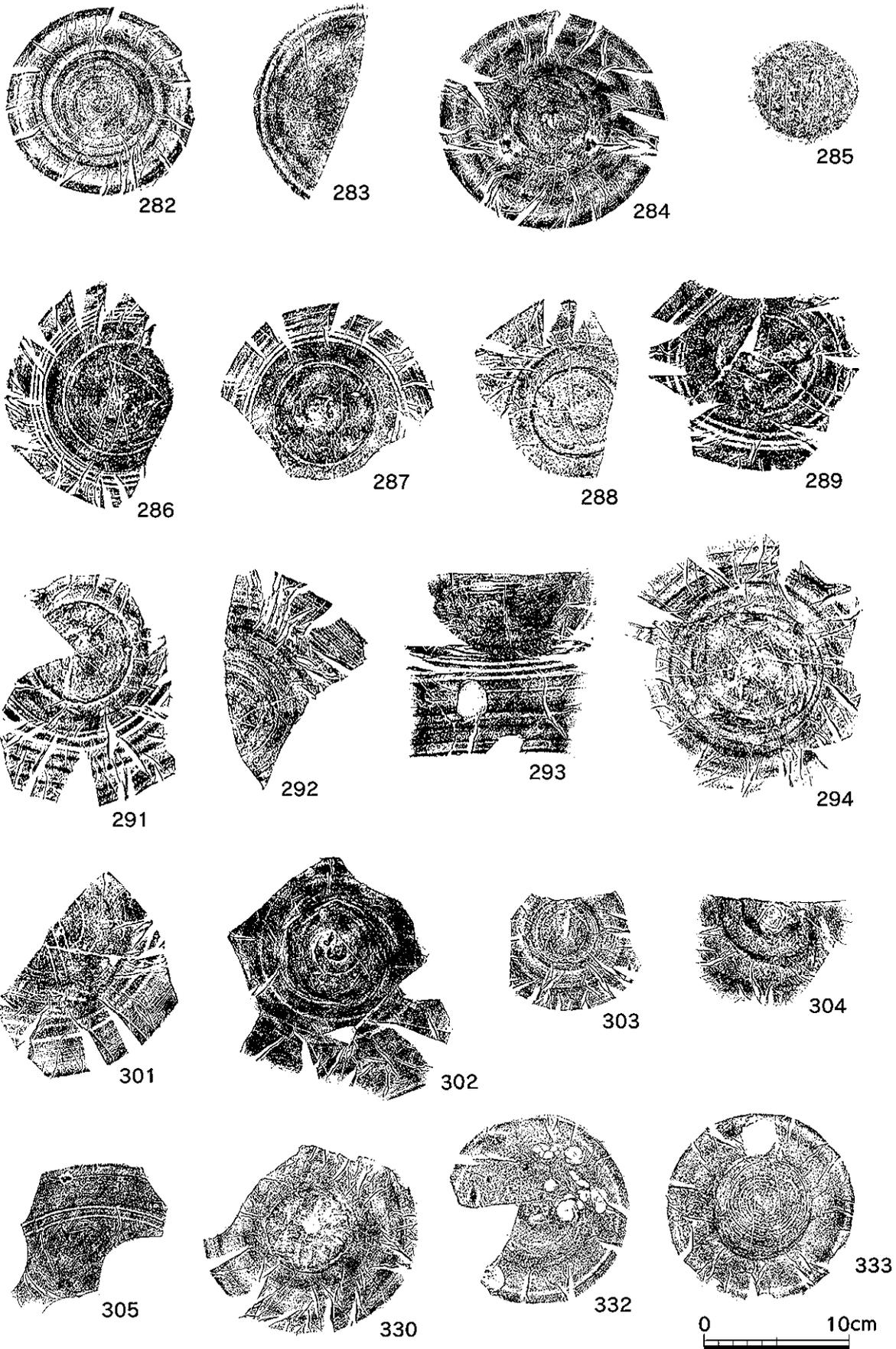
第50图 2号窑迹出土遗物拓影图③ (1/4)



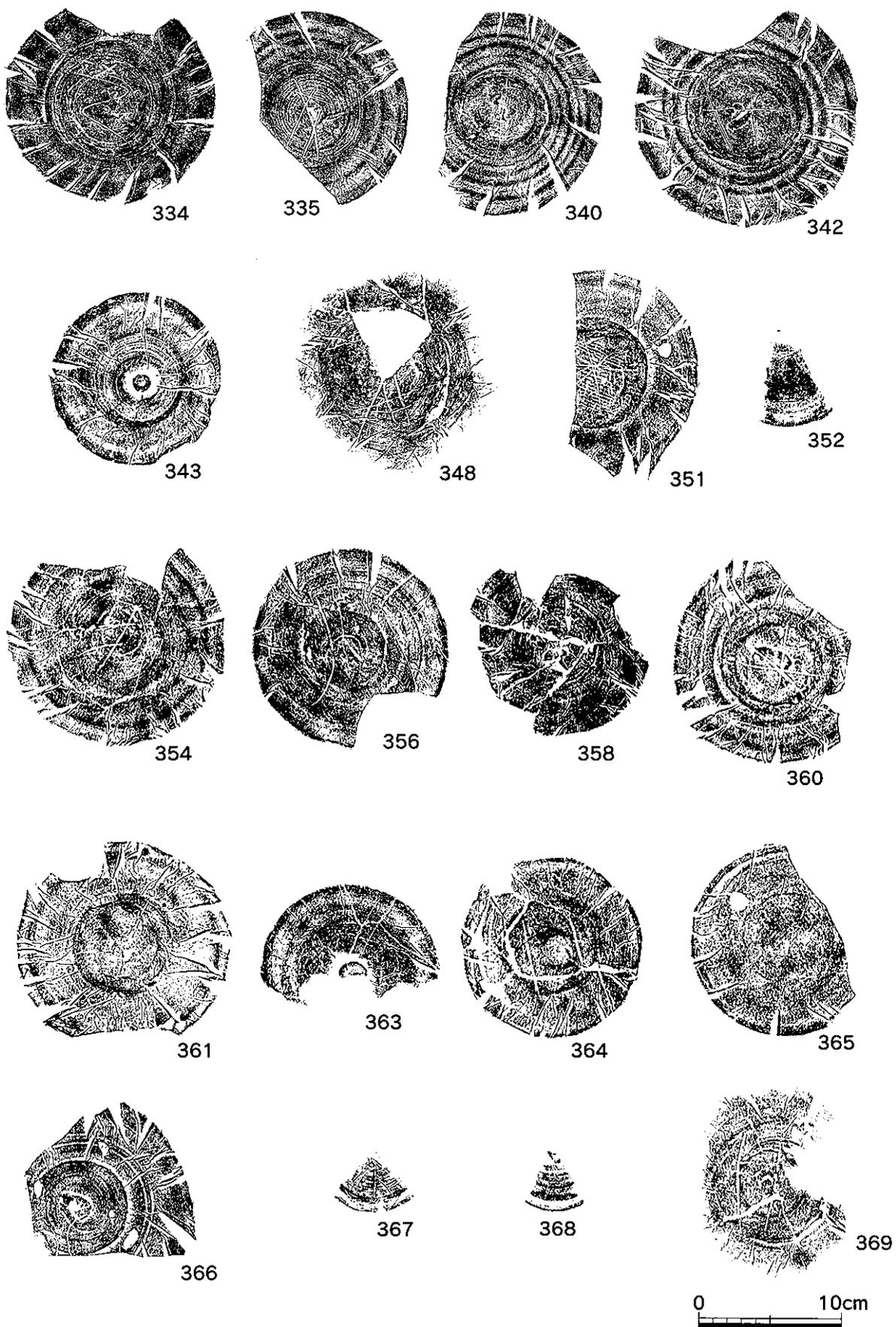
第51图 2号窯跡出土遺物拓影图④ (1/4)



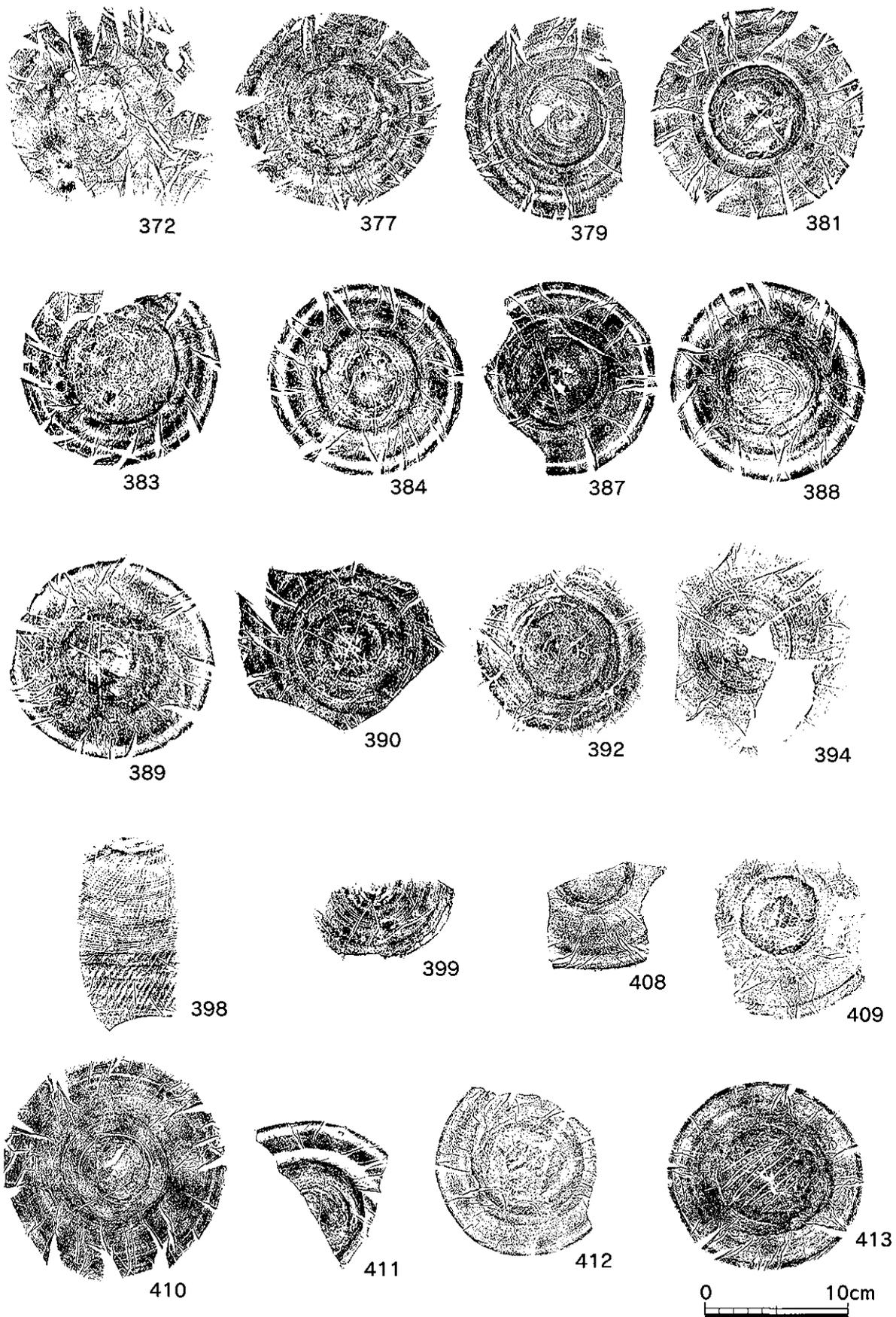
第52图 2号黑迹出土遗物拓影图⑤ (1/4)



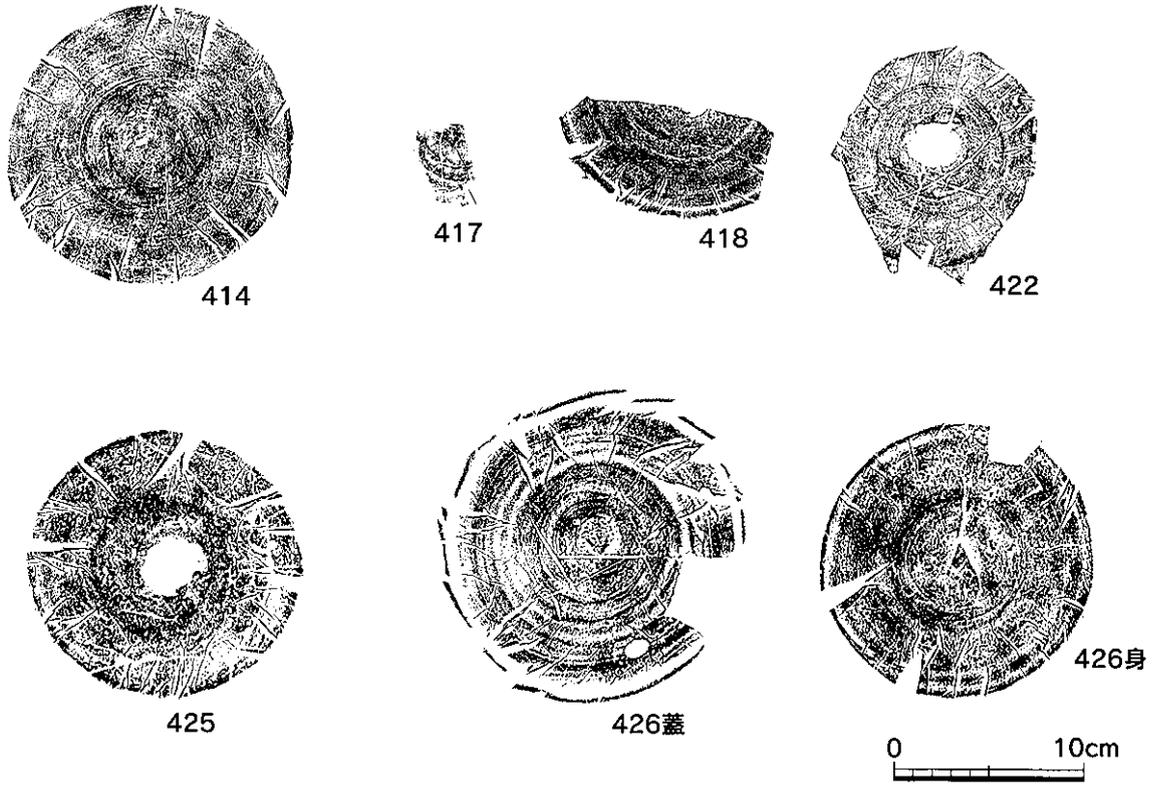
第53图 2号窑迹出土文物拓影图⑥ (1/4)



第54图 2号窑迹出土遗物拓影图⑦ (1/4)



第55图 2号窖迹出土遗物拓影图⑧ (1/4)



第56图 2号窯跡出土遺物拓影图⑨ (1/4)



456



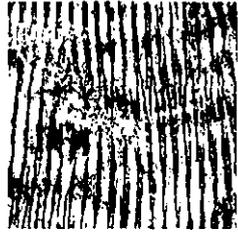
457



458



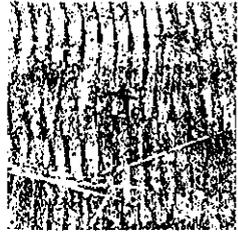
459



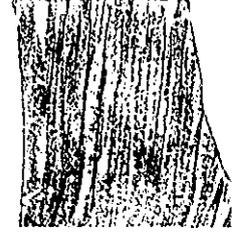
460



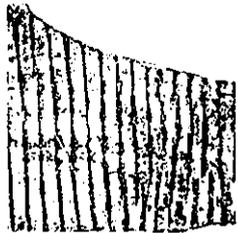
461



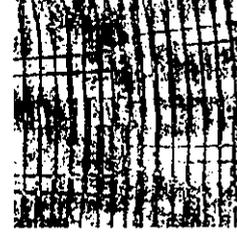
462



463



464



465



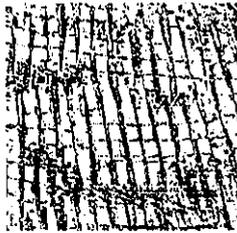
466



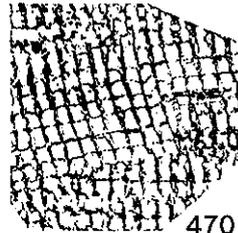
467



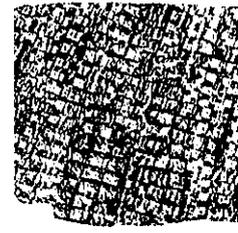
468



469



470



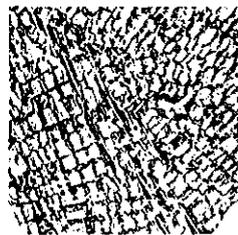
471



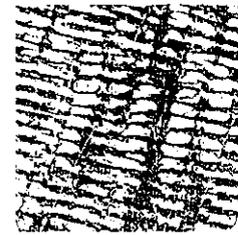
472



473



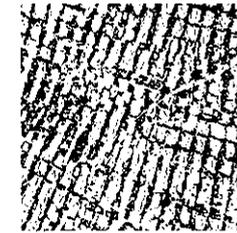
474



475



476



477



478

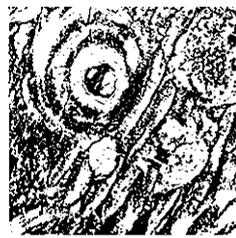


479

第57图 2号窯跡出土壘類タタキ拓影图①(1/2)



456



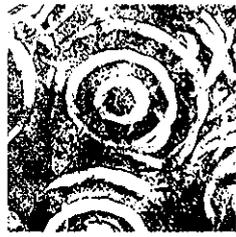
457



458



459



460



461



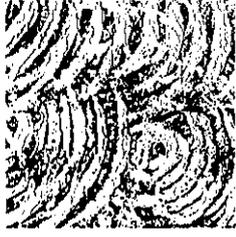
462



463



464



465



466



467



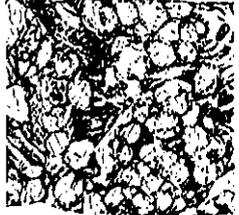
468



469



470



471



472



473



474



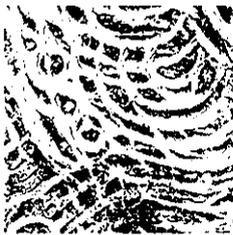
475



476



477

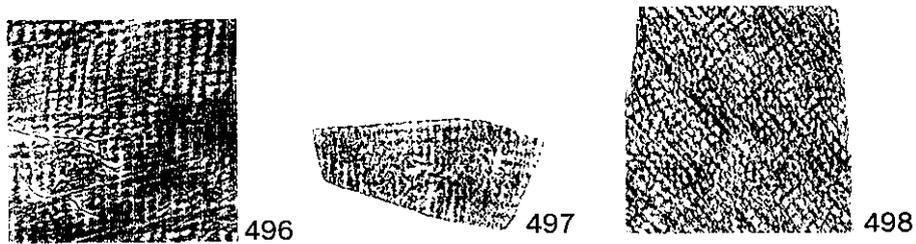
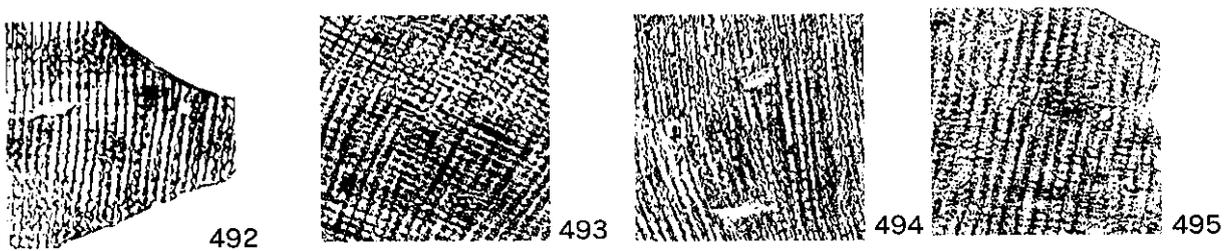
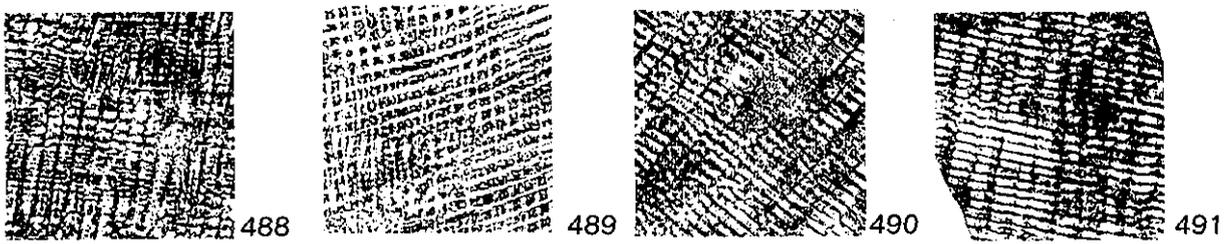
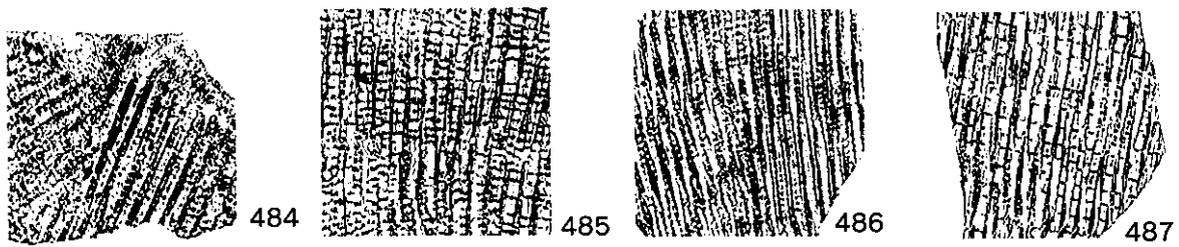
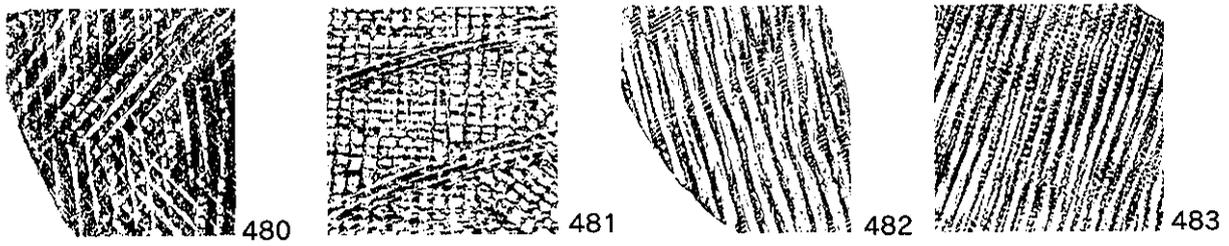


478

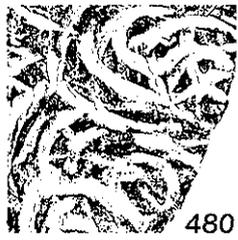


479

第58图 2号窑迹出土瓦類当て具痕拓影图①(1/2)



第59図 2号窯跡出土甕類タタキ拓影図② (1/2)



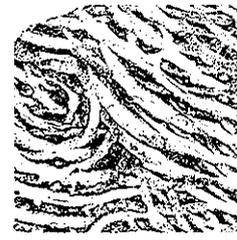
480



481



482



483



484



485



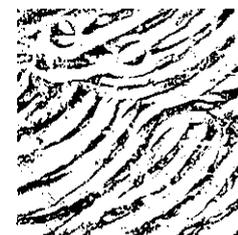
486



487



488



489



490



491



492



493



494



495



496



497



498

第60图 2号窑迹出土甗類当て具痕拓影图②(1/2)

表1 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
1	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡貼床横断面1左	①13.4 ②3.9	天井部外面3/4回転ヘラ削り後中央回転ナデ、内面3/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外暗青灰色5PB3/1、灰褐色5YR6/2(焼けムラ)、灰白色2.5Y7/1～灰黄色2.5Y7/2(降灰)、内灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。焼け歪み著しい。外面一部降灰。
2	須恵器	杯身	1号窯跡貼床2右9層 1号窯跡貼床縦断面2	①(10.0) ②3.9 受部径(12.2)	底部外面2/3回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。Bやや不良C内外灰白色N7/～青灰色5PB6/1	
3	須恵器	高杯	1号窯跡貼床縦断面2 1号窯跡焼部右区1層/ハイラン 1号窯跡突口左区	①(12.1) ②(5.0)	杯底部外面下位回転ヘラ削り、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外黄灰色2.5Y4/1～暗青灰色5PB3/1、灰白色5Y7/2(降灰)内灰色N4/～黄灰色2.5Y4/1	外面降灰、脚部破断面に降灰。やや焼け歪む。内外面に付着物。
4	須恵器	高杯蓋	1号窯跡焼部左区 1号窯跡焼部右区床直 1号窯跡貼床横断面2左 1号窯跡天井崩落土内	①(14.1) ②5.7 つまみ径3.1	天井部外面2/5回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。つまみ貼付。	A密。径1mmの白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外灰赤色2.5YR4/2～褐灰色10YR5/1、灰色N4/、内灰色5Y5/1、褐灰色7.5YR4/、灰色N4/	天井部外面に降灰。焼け歪む。
5	須恵器	碗	1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡焼部右区 1号窯跡貼床1右32層	①(13.2) ②6.6	体部内外面回転ナデ、体部外面カキメ、底部外面ヘラ削り後ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外青灰色5PB6/1～灰色N4/、内灰白色N7/～内灰色N5/	底部外面ヘラ記号。
6	須恵器	穿孔杯	1号窯跡貼床1左46層	②(3.2)	天井部外面2/3回転ヘラ削り、内面2/3ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C内外灰色N6/～暗青灰色5PB4/1	天井部外面ヘラ記号。天井部焼成前穿孔。濃しく焼け歪む。二次焼成痕あり。
7	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部左区床直	①(12.9) ②3.8	天井部外面2/5回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外赤褐色7.5R5/3～暗赤灰色7.5R4/1、内紫灰色5RP5/1	天井部外面ヘラ記号。
8	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部左区床直	①12.8 ②4.1	天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外暗灰色N3/、オリーブ黄色5Y6/3(自然釉)内灰白色10R4/2	天井部外面ヘラ記号。外面一部降灰。
9	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部右区床直 1号窯跡焼部左区	①(12.7) ②4.1	天井部外面3/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外青灰色5PB2/1～青灰色5PB5/1、内赤褐色10R5/2	天井部外面ヘラ記号。二次焼成痕あり。
10	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡焼部横ベルト11層	①13.2 ②3.9	天井部外面ヘラ削り剥離痕、外面1/2回転ヘラ削り、内面1/4ナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外褐色5YR4/1～暗灰色N3/、内赤褐色10R5/1	天井部外面ヘラ記号。外面一部降灰。ほぼ完成。17と一対。
11	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部右区床直 1号窯跡焼部左区床直	①12.9 ②4.4	天井部外面3/5回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。径3mmの白色砂礫、粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外暗灰色N3/～青灰色5PB6/1、内灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。やや焼け歪む。
12	須恵器	杯蓋	1号窯跡左区床直 1号窯跡焼部横ベルト12層 1号窯跡焼部横ベルト17層	①12.8 ②4.2	天井部外面3/5回転ヘラ削り、内面1/3ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。3mm以下の白色砂礫、粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外灰色N6/～5Y4/1、内赤褐色10R5/2	天井部外面ヘラ記号。完成。
13	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡横ベルト17層	①13.7 ②3.8	天井部外面3/5回転ヘラ削り、内面1/5ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。B良好C外赤褐色10R5/1、暗青灰色5PB4/1～3/1、内赤褐色2.5YR5/1	天井部外面ヘラ記号。天井部外面降灰。
14	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部右区床直 1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡突口右区2層炭層	①13.2 ②4.1	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。3mm以下の白色砂礫、粗砂、黒色粒子をやや多く含む。B良好C外灰色N4/～褐灰色5YR5/1、内赤褐色10YR5/1	天井部外面ヘラ記号。天井部外面降灰。
15	須恵器	杯蓋	1号窯跡焼部左区床直	①(13.2) ②3.7	天井部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外褐色10YR6/1～青灰色5PB6/1、内灰色5Y6/1	天井部外面ヘラ記号。内面に小さな焼きぶくれが多い。
16	須恵器	杯蓋	1号窯跡突口左区床直	①13.7 ②4.2	天井部外面2/3回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外明青灰色5PB7/1～灰白色N7/、内青灰色5PB6/1	天井部外面ヘラ記号。20と一対。完成。
17	須恵器	杯身	1号窯跡焼部右区床直 1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡横ベルト10層 1号窯跡焼部横ベルト11層	①11.6 ②3.2 ④受部径13.8	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外灰色N4/、内赤褐色10R5/1	底部外面ヘラ記号。外面一部降灰。10と一対。
18	須恵器	杯身	1号窯跡焼部左区床直	①(11.2) 受部径(13.6)	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/4回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外灰白色10Y7/1～暗青灰色5PB4/1～赤褐色5R5/1、内赤褐色7.5R5/1	外面に重ね焼き時の別個体片軸着。
19	須恵器	杯身	1号窯跡突口1層 1号窯跡焼部左区床直	①12.1 ②3.9 受部径13.8	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外灰色7.5Y4/1、内紫灰色5P5/1～灰褐色10R5/2	底部外面ヘラ記号。外面広範囲に降灰。やや焼け歪む。
20	須恵器	杯身	1号窯跡突口左区床直	①11.8 ②3.7 ④受部径14.0	底部外面3/5回転ヘラ削り、内面1/3ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外明青灰色5PB7/1、内灰オリーブ5Y5/2～灰白色N7/	底部外面ヘラ記号。内面液体状のシミ。外面降灰。16と一対。ほぼ完成。
21	須恵器	無蓋高杯	1号窯跡焼部右区床直 1号窯跡前庭部床直 1号窯跡突口1層 1号窯跡灰原3・4区	①(12.0) ②(4.7)	杯部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰色10Y6/1～暗青灰色5PB3/1、内灰色10Y6/1～暗灰色N3/	外面一部降灰。焼け歪む。
22	須恵器	碗	1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡焼部左区6層炭層 1号窯跡焼部2層炭層 1号窯跡突口横ベルト2層 1号窯跡横ベルト11層	①12.4 ②(12.1)	体部外面下半回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C内外赤褐色10R5/2～赤褐色2.5YR6/1	頸部焼け歪む。
23	須恵器	穿孔杯	1号窯跡焼部左区床直 1号窯跡6層炭層	①14.0 ②4.7	天井部外面3/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。Bやや不良C外赤褐色7.5YR6/3～灰色N6/内褐色7.5YR5/1～4/1	天井部外面から焼成前穿孔。完成。
24	須恵器	杯蓋	1号窯跡突口1層	①(11.6) ②3.5	天井部外面中央回転ヘラ削り、外面1/5回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。径1mmの白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外青灰色5PB5/1～暗青灰色5PB4/1、内青灰色5PB5/1	
25	須恵器	杯蓋	1号窯跡突口横ベルト1層 1号窯跡灰原3・4区	①(12.4) ②3.8	天井部外面中央回転ヘラ削り、外面1/6回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。Bやや不良C内外灰色10Y6/1	天井部外面ヘラ記号。
26	須恵器	杯蓋	1号窯跡突口横ベルト7層 1号窯跡灰原2	①(12.5) ②3.5	天井部外面2/5回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外褐色7.5YR5/2～暗青灰色5PB3/1、内赤褐色5YR5/2～青灰色5PB5/1	焼け歪む。
27	須恵器	杯身	1号窯跡突口1層褐色	①9.9 ②3.4 受部径11.9	底部外面ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B不良C外灰白色5Y7/1～灰オリーブ5Y6/2、内灰白色7.5Y7/1	ほぼ完成。
28	須恵器	碗	1号窯跡突口1層	①(11.6) ②9.6	体部内面回転ナデ、他は降灰の為調整不明。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。B良好C内外青灰色5BG5/1	底部外面ヘラ記号。焼け歪む。
29	須恵器	台付碗?	1号窯跡突口横ベルト3層	②(1.8) 脚部径(9.6)	脚部内外面回転ナデ。	A密。黒色粒子を含む。B良好C青灰色5PB6/1	
30	須恵器	甕	1号窯跡突口横ベルト1層	①(14.2) ②(7.4)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。B不良C内外灰白色5Y7/2	口縁端部折り込み痕。
31	須恵器	甕	1号窯跡突口左区	①(51.0) ②(8.6)	頸部・口縁部内外面回転ナデ、頸部外面中位カキメ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。B良好C内外青灰色5PB5/1	
32	須恵器	杯蓋	1号窯跡検出中	①(10.7) ②4.2	天井部外面回転ヘラ削り後ナデ、内面3/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外灰色N6/～N4/、内灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。内外面一部降灰。
33	須恵器	杯身	1号窯跡灰原3・4区	①9.3 ②3.6 受部径11.6	底部外面降灰の為調整不明、内面ナデ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外灰色5Y6/1～5Y4/1、内青灰色5PB6/1	外面に重ね焼き時の焼成痕。外面厚く降灰。2個体の破片軸着。

表2 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
34	須恵器	無蓋高杯	再拡張部1号窯跡直下炭層	①(10.6) ②(4.6)	杯部外面降灰の為調整不明、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外灰色7.5Y6/1～青黒色5PB2/1、内褐色10YR4/1～灰色N5/～N4/	脚部接合痕。外面降灰。
35	須恵器	高杯蓋	1号窯跡灰原3-1区	①(16.4) ②4.7 つまみ径(3.4)	天井部外面1/2カキメ、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。径1mmの白色粗砂を多く含む。B良好C外青灰色5PB6/1～暗青灰色4/1、内青灰色5PB5/1	天井部外面へラ記号。焼け歪む。
36	須恵器	杯身	1号窯跡灰原3	①(12.0) ②(5.3)	底部外面回転へラ削り、底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。Bやや不良C外灰色5Y6/1、内灰赤色2.5YR5/2～褐色7.5YR6/1	
37	須恵器	壺	1号窯跡灰原1-1区 1号窯跡灰原1-2区	②(9.9) ④体部(19.6)	体部外面上位～中位回転ナデ、下半カキメ、内面回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B不良C外浅黄褐色10YR8/4～灰白色2.5Y8/2、内灰白色2.5Y8/2	
38	須恵器	壺	再拡張部1号窯跡直下炭層	②(15.5) ④体部(21.6)	体部外面6/7カキメ、下方1/7回転へラ削り、内面回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。Bやや不良C外灰白色N7/～明青灰色5PB7/1、内灰白色2.5Y7/1～N7/	
39	須恵器	長頸壺	再拡張部1号窯跡直下炭層 再拡張部最下層	①(10.2)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。0.5mm以下の石英、長石などやや多く含む。B良好C外灰色N5/、内灰色5Y5/1	
40	須恵器	壺	再拡張部1号窯跡直下炭層	①(13.9) ②(4.2)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外暗灰色N3/、内灰白色N7/、暗灰色N3/	頸部外面叩き圧痕。
41	須恵器	甕	1号窯跡灰原2区1層炭層	①(22.0) ②(5.5)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N4/、内明青灰色5PB7/1～暗青灰色5PB4/1	
42	須恵器	甕	再拡張部1号窯跡直下炭層	①(23.0) ②(6.8)	口縁部内外面回転ナデ、外面平行?タタキ、内面同心円文当て具痕。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C内灰白色N7/、暗灰色N3/	頸部内面・体部外面降灰。
43	須恵器	甕	1号窯跡灰原1-1区 1号窯跡灰原3	②(16.1)	口縁部回転ナデ、外面下半カキメ。外面縦格子目タタキ、内面同心円文当て具痕。	A粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C外暗灰色N3/、灰色5Y7/1、褐色10YR6/1、内灰色N5/～N4/、体部外灰白色N7/、内褐色7.5YR6/1～青灰色5PB6/1	体部外面降灰。
44	須恵器	甕	1号窯跡1-2区	②(17.6)	内外面回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外灰色7.5Y6/1～5/1、内灰白色5Y7/1～灰色5Y6/1	口縁部上半弾ける。
45	須恵器	大甕	再拡張部1号窯跡直下炭層	①(54.0) ②(20.1)	頸部内外面回転ナデ、外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を多く含む。B良好C口縁部外暗灰色N3/～灰色N6/、内灰色7.5Y6/1～5/1、体部外灰色N6/～灰白色5Y7/1、内灰色N5/	口縁部折り込み痕。内外面破裂痕。
46	須恵器	杯蓋	1号窯跡灰原3-1区	①(13.4) ②3.7	天井部外面2/3回転へラ削り、内面1/2ナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B不良C内外灰白色7.5Y7/1	天井部外面から穿孔(焼成前)。
47	須恵器	切削物	1号窯跡灰原3-6区	全長4.2 幅1.2 厚さ0.6	ナデ。一方はへラ切り。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し多く含む。B良好C灰白色N5/	
48	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰床2右22層	①(11.8) ②3.8	天井部外面回転へラ削り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外浅黄褐色10YR8/4～黄褐色10YR8/8	
49	須恵器	杯身	2号窯跡灰床1左18層	①(11.0) ②3.35 受部径(12.9)	外面降灰の為調整不明、内面回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外明緑灰色7.5GY8/1、内褐色10YR6/1、黒色N2/	二次焼成痕あり。
50	須恵器	陶棺	2号窯跡灰床縦断面1	②(2.9) 脚部径(10.7)	内外面回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C内外黄灰色2.5Y6/1～5/1	
51	須恵器	杯身	2号窯跡焼灰部床面清掃中	①(10.2) ②3.5 受部径(12.4)	底部外面回転へラ削り後ナデ、内面1/2ナデ、他は回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外褐色7.5YR6/8、内明黄褐色10YR7/6～黒褐色10YR3/1	底部外面へラ記号。黒斑状に焼けムラあり。
52	須恵器	杯身	2号窯跡焼灰部床面清掃中	①10.2 ②3.0 受部径12.5	内外面磨滅の為調整不明。	A密。径2mm以下の白色粗砂、細かい黒色粒子をごく少量含む。B不良C内外浅黄褐色10YR8/4～明黄褐色2.5Y7/6	
53	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口左区2層炭層下層	①10.9 ②3.8	天井部外面回転へラ削り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C内外黄褐色2.5Y7/2～6/2	完形。
54	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口右区2層	①(10.6) ②3.6	天井部外面回転へラ削り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂を少し含む。雲母を含む。B不良C外黄褐色7.5YR7/8～褐色7.5YR6/8、内灰色5Y5/1	天井部外面へラ記号。
55	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口左区2層	①11.7 ②3.5	外面磨滅の為調整不明、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C内外灰白色2.5Y7/1～浅黄褐色2.5Y7/3	
56	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口横ベルト3層	①8.5 ②3.7 受部径10.3 つまみ径1.6	全体に磨滅。天井部外面1/2回転へラ削り?、内面3/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。つまみ貼付。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。雲母を含む。B不良C外浅黄褐色2.5Y7/4～明黄褐色10YR7/6内黄褐色7.5YR7/8～浅黄褐色7.5YR8/6	完形。
57	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口左区2層	①(8.6) ②3.8 受部径(10.5) つまみ径1.5	天井部外面3/4回転へラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。つまみ貼付。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良Cかえり部外明黄褐色10YR7/6、内褐色5YR6/8	
58	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口左区2層	②3.7 受部径(10.5) つまみ径1.7	内外面磨滅の為調整不明。	A粗。3mm以下の白色粗砂、粗砂を多く含む。B不良C外にぶい褐色7.5YR6/4、内褐色5YR6/8	
59	須恵器	杯身	2号窯跡灰口右区2層	①(10.5) ②3.5	底部外面ナデ?他は磨滅の為調整不明。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4～黄褐色7.5YR8/8	底部外面へラ記号。
60	須恵器	杯身	2号窯跡灰口左区2層	①(10.9) ②3.3	底部外面ナデ?他は磨滅の為調整不明。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR6/4、内褐色5YR6/8	
61	須恵器	高杯	2号窯跡灰口ベルト5層	②(4.4) 脚部径(6.4)	内外面回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外赤灰色2.5YR5/1～青灰色5PB5/1、内赤灰色2.5YR5/1	内外面シボリ痕。
62	須恵器	高杯	2号窯跡灰口左区2層	②(4.5) 脚部径(6.4)	内外面回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C内外灰色5Y6/1～5/1	内外面シボリ痕。
63	須恵器	壺	2号窯跡灰口左区2層	①(12.6) ②(4.1)	体部外面上位カキメ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C外黄褐色10YR8/6～灰色10Y6/1、内黄褐色10YR8/8～ぶい黄褐色10YR6/4	口縁部外面へラ記号。
64	須恵器	甕	2号窯跡灰口左区2層	①(22.2) ②(6.6)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。Bやや不良C内外灰白色N7/～灰オリーブ色5Y6/2	頸部外面へラ記号。
65	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口右区1層	①10.4 ②3.3	天井部外面回転へラ削り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mmの白色粗砂、細かい雲母を若干含む。B不良C外褐色7.5YR7/6、内ぶい黄褐色10YR7/4	天井部外面へラ記号。
66	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口右区1層	①(10.7) ②3.45	天井部外面回転へラ削り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外灰白色10YR8/1～7/1、内灰白色10YR7/1～ぶい黄褐色10YR7/2	天井部外面へラ記号。
67	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口右区1層	①8.45 ②3.6 受部径10.25	外面2/3回転へラ削り、他は回転ナデ。つまみ貼付。	A密。径2mmの白色粗砂を少量含む。B不良C外浅黄褐色7.5YR8/4～褐色7.5YR6/6、内褐色5YR6/8	ほぼ完形。
68	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口右区1層	①(7.9) ②2.55 受部径(10.0)	外面2/3回転へラ削り、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR7/4、内黄褐色7.5YR7/8	
69	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰口右区1層	①8.3 ②2.65 受部径10.8	天井部外面へラ削り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外褐色7.5YR7/6	つまみなし。ほぼ完形。
70	須恵器	杯身	2号窯跡灰口右区1層	①8.4 ②2.9 受部径10.45	底部外面回転へラ削り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外明黄褐色10YR7/6	つまみなし。ほぼ完形。
71	須恵器	杯身	2号窯跡灰口右区1層	①(8.7) ②2.7 受部径(10.6)	外面1/2回転へラ削り、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂、細かい雲母を少量含む。B不良C内外褐色5YR6/8	底部外面へラ記号。

表3 野添遺跡第7次調査出土土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
72	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①8.4 ②2.6 ③5.6 受部径10.5	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をわずかに含む。Bやや不良C外褐色7.5YR4/1、内褐色7.5YR5/2	底部外面ヘラ記号。ほぼ完形。
73	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①6.8 ③3.1 受部径10.8	底部外面回転ヘラ切り後雑なナデ、他は回転ナデ。	A密。径8mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外青灰色5B6/1～暗青灰色5B4/1、内暗青灰色5B4/1～3/1	底部外面ヘラ記号。ほぼ完形。
74	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①(11.0) ②3.6	底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂、角閃石を少量含む。B不良C外灰白色10YR8/1～8/2	
75	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層	①(40.5) ②(13.7)	頸部内外面回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂、黒色粒子をやや多く含む。B良好C外褐色N6/～N5/、内灰色10Y6/1、褐色7.5YR5/1	
76	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層	①(53.0) ②(9.1)	口縁部内面と外部外面回転ナデ、他は粗いかキメ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C外褐色5YR4/1～灰色10Y4/1、内褐色5YR6/8～褐色5YR4/1	
77	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層	①(52.0) ②(6.3)	内外面回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B不良C内外にふい黄褐色10YR7/4～黄褐色7.5YR7/8	
78	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(11.0) ②2.4	天井部外面回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B良好C外青灰色5PB6/1～暗青灰色5PB4/1	
79	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①10.8 ②3.6	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。Bやや不良C内外灰白色10Y7/1～青灰色5PB6/1	天井部外面ヘラ記号。
80	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.2 ②3.7	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B不良C内外浅黄褐色10YR8/3～黄褐色2.5Y5/1	
81	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.2 ②3.4	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外青灰色5PB6/1、明青灰色5PB7/1、暗青灰色5PB4/1、内青灰色5PB5/1	天井部外面ヘラ記号。焼け歪む。
82	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(10.9) ②3.1	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。B良好C外黄褐色2.5Y5/1、灰色N6/、内青灰色5PB5/1	天井部外面ヘラ記号。
83	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.7 ②3.2	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C内外明青灰色5PB7/1	天井部中央に粘土継ぎ上げ痕。天井部外面ヘラ記号。
84	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.8 ②3.2	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、雲母を含む。B不良C内外浅黄褐色10YR8/3～7.5YR8/6	
85	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.9 ②3.3	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、1/8回転ヘラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し多く含む。黒色粒子を含む。B良好C外青灰色5PB5/1～暗青灰色5PB4/1、内青灰色5PB6/1	天井部外面窯壁層少量付着。
86	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(11.6) ②3.7	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C内外灰白色5Y7/1～灰色5Y6/1	天井部外面ヘラ記号。
87	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(11.8) ②3.7	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C内外青灰色5PB5/1	天井部外面ヘラ記号。
88	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(11.8) ②3.9	天井部外面回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂を含む。B不良C外黄褐色2.5Y7/2～黄色2.5Y8/6、内淡黄色2.5Y8/3～黄色2.5Y8/6	天井部外面ヘラ記号。
89	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(11.4) ②3.6	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B不良C外灰白色7.5YR8/2～N7/、内灰白色7.5YR8/2	
90	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(11.6) ②3.7	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外青灰色5PB6/1、紫灰色5P6/1	天井部外面ヘラ記号。
91	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.8 ②4.1	天井部外面回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。雲母含む。B不良C内外淡黄色2.5Y8/4～ふい黄褐色7/3	天井部外面ヘラ記号。
92	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①(12.2) ②3.9	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外青灰色5PB6/1、内青灰色5PB5/1	
93	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①9.0 ②4.0 受部径11.4 つまみ径1.5	天井部外面2/3回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。4mm以下の礫、5mm以下の白色粗砂を含む。B不良C外明黄褐色2.5Y7/6～灰色5Y4/1、内灰色5Y5/1	
94	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.4 ②2.7 受部径9.3	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。0.5mm以下の白色粗砂を少し含む。B不良C内外褐色7.5YR7/6	つまみ貼付痕跡有り。
95	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①10.8 ②2.7 受部径8.5	天井部外面かキメ後1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B不良C外灰白色N7/～8/、内灰白色2.5Y7/1	ほぼ完形。
96	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.2 ②2.4 受部径8.8	天井部外面回転ヘラ切り、内面ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。0.5mm以下の白色粗砂をやや多く含む。黒色粒子を含む。Bやや不良C外褐色10Y6/1～青灰色5PB6/1、内灰色10Y6/1	
97	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.3 ②2.5 受部径9.5	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外褐色N6/、内青灰色5PB5/1	天井部外面ヘラ記号。
98	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①9.4 ②3.6 受部径11.4	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外青灰色5PB5/1～灰色N4/、内青灰色5PB5/1	
99	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①9.4 ②4.1 受部径11.6	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外明青灰色5PB7/1～灰色N5/、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。完形。
100	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①(9.8) ②2.9 受部径(11.3)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面1/2ナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂・黒色粒子を含む。B良好C外明青灰色5PB7/1、暗青灰色5PB4/1、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。焼け歪む。
101	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①10.2 ②3.5 受部径12.3	底部外面2/5回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外明黄褐色10YR6/6～褐色10YR5/1、内外にふい赤褐色2.5YR5/3～5/4	底部外面ヘラ記号。
102	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①10.1 ②3.4 受部径12.2	底部外面回転ヘラ切り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C外褐色5YR5/1～青灰色10BG5/1、内ふい褐色6/4	底部外面ヘラ記号。
103	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①(10.1) ②4.3 受部径(11.3)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外褐色10Y5/1、内青灰色5PB5/1	
104	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①10.5 ②3.9 受部径12.6	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B不良C内外灰白色10YR8/2～ふい黄褐色10YR5/4	
105	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①10.5 ②3.3 受部径12.3	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を含む。Bやや不良C外黄褐色2.5Y7/2～黄褐色2.5Y6/1、内黄褐色10YR6/2	
106	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①10.1 ②3.7 受部径12.0	底部外面回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。黒色粒子を含む。B不良C外灰白色5Y8/1	

表4 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
107	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①(10.0) ③3.7	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面1/3不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰白色N7/、灰色N5/、内灰白色N7/	底部外面ヘラ記号。
108	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層1層	①(11.0) ④4.1	底部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナテ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰白色10Y5/1～暗灰色N3/、明青灰色5PB7/1	底部外面ヘラ記号。
109	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区1層	①(11.6) ④4.9	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、体部下半1/4回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C外淡黄褐色10YR8/3～淡黄褐色2.5YR8/3、内灰黄色2.5Y7/2～6/2	底部外面ヘラ記号。
110	須恵器	高杯か台付椀	2号窯跡灰原1区1層	②(2.9) 脚部径(10.5)	内外面回転ナテ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C内外灰白色N4/	
111	須恵器	有蓋高杯蓋	2号窯跡灰原1区1層	①11.8 ②4.6 つまみ径2.3 つまみ高1.0	天井部外面1/2カキメ、内面3/5不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰白色N5/～N4/、内灰白色N5/	天井部外面ヘラ記号。
112	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原1区1層	①(9.2) ②8.9 脚部径(6.2)	杯部内面不定方向のナテ、体部下外面回転ヘラ削り、他は回転ナテ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C内外杯部明赤褐色2.5YR5/6、脚部褐色7.5YR6/6	脚部内面ヘラ記号。
113	須恵器	鉢	2号窯跡灰原1区1層	①(9.7) ②9.0 ④(10.9)	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、底部内面不定方向のナテ、体部内外面回転ナテ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。Bやや不良C外灰白色N5/～N6/、内灰白色N5/	
114	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区1層	②(10.8) ③6.0 ④体部13.4	外面体部下位ヘラ削り、底部外面回転ヘラ削り後ナテ、他は回転ナテ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰白色N6/～暗オリーブ灰色2.5GY4/1、内緑灰色10G5/1～灰オリーブ色5Y4/2	胴部上半部内外面にシボリ痕。底部外面ヘラ記号。
115	須恵器	提瓶	2号窯跡灰原1区1層	①(7.4) ②(18.1) 体部長径(18.2)	口縁部外面カキメ、体部外面カキメ後回転ヘラ削り、回転ナテ、内面回転ナテ。	A粗。3mm以下の白色礫、粗砂を多く含む。黒色粒子を含む。B良好C外青灰色5PB6/1～5/1、内灰7.5Y6/1～N5/	
116	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層黒色	①(24.0) ②(11.7)	口縁部回転ナテ、外面格子目タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。	A径1～2mmの長石、石英を含む。B良好 C内外灰白色N8/、灰色N4/、灰色N3/	
117	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1区1層	①(21.9) ②(32.8)	口縁部回転ナテ、外面タタキ後部分的にナテ、内面当て具痕	A径0.5～1mm程長石、石英を含む。B良好 C外灰白色N5/、内におい黄褐色10YR6/3、褐灰色10YR6/1	頸部外面ヘラ記号。
118	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区1層黒 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区4層焼土ラベルなし	①49.0 ②(18.8)	口縁部回転ナテ、外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5～2mmの長石、石英を含む。B良好 C内外灰白色N5/～灰白色5Y7/1	
119	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区3層最下層	①11.7 ③3.9	天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナテ。	A精良。砂粒をほとんど含まない。Bやや不良C外灰白色N6/～灰白色10YR8/2、内灰白色10YR7/1	天井部外面ヘラ記号。
120	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区3層最下層	①11.5 ③3.8	天井部外面回転ヘラ削り後ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。B不良C外灰白色10YR8/2～灰黄色2.5Y6/2、内灰白色10YR8/2	天井部外面ヘラ記号。
121	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区3層最下層	①12.0 ③3.4	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/3不定方向のナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。B良好C外暗青灰色5PB4/1～3/1、内青灰色5PB5/1～暗青灰色5PB4/1	天井部外面ヘラ記号。破裂痕・焼けぶくれあり。外面降灰、別個体片粘着。
122	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区3層最下層	①12.3②3.6	天井部外面磨減の為調整不明。内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外淡黄褐色7.5YR8/3、褐色7.5YR8/8、内灰白色7.5YR8/1、褐色7.5YR6/8	天井部外面ヘラ記号。
123	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区3層最下層	①9.5 ②3.0 受部径12.2	天井部外面回転ヘラ削り後ナテ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外黄褐色7.5YR7/8	
124	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区3層最下層	①8.8 ②3.6 受部径11.15	外面降灰の為調整不明。底部外面ヘラ削り後粗いナテ、内面回転ナテ後不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。細かい黒色粒子を少量含む。B良好C外青灰色5B6/1、灰白色10YR8/1、内青灰色5B6/1～オリーブ黒色10Y3/2、(降灰の自然粘)褐色10YR4/6～オリーブ黒色10Y3/2	立ち上がりにも重ね焼き時の粘着。外面ほとんど降灰。
125	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区3層最下層	①9.6 ②3.3 受部径11.4	底部外面ヘラ削り後粗いナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外青灰色5B6/1～5B6/1～暗オリーブ灰色2.5GY7/1、内灰白色N5/	底部外面ヘラ記号。外面約1/2降灰。
126	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区3層最下層	①10.0 ②3.85 受部径12.1	底部外面回転ヘラ削り後粗いナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外におい黄褐色10YR7/2、内灰白色10YR8/1	
127	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区3層最下層	①10.1 ②3.3 受部径12.4	底部外面回転ヘラ削り後粗いナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外淡黄褐色10YR8/3～褐灰色10YR6/1、内淡黄褐色10YR8/4	
128	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区3層最下層	①10.7 ②4.4	底部外面1/2回転ヘラ削り、体部外面カキメ、内面1/3不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B不良C外灰白色2.5Y8/1～7/1、内灰白色2.5Y8/1～8/2	底部外面ヘラ記号。
129	須恵器	椀	2号窯跡灰原1区3層最下層	①(9.5) ②8.5 ③6.0	底部外面回転ヘラ削り後粗いナテ、体部外面カキメ、他は回転ナテ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外明褐色7.5YR5/6	底部外面ヘラ記号。
130	須恵器	鉢	2号窯跡灰原1区3層最下層	①(13.0) ②8.7	体部外面カキメ、底部外面手持ちヘラ削り、口縁部内外面と体部内面回転ナテ、底部内面は降灰の為調整不明。	A密。5mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少し含む。B良好C外灰白色N6/～N4/、灰白色5Y8/2～淡黄色5Y8/3、内灰白色10Y7/1～灰白色10Y6/1、灰色N4/	底部外面ヘラ記号。内面大部分と口縁部外面大部分に降灰。別個体片粘着。
131	須恵器	高杯	2号窯跡灰原1区3層最下層	②(6.0) 脚部径6.6	口縁部内外面回転ナテ、杯部内面不定方向のナテ、杯部外面カキメ。	A精良。径2mmほどの白色粗砂を少量含む。Bやや不良C内外緑灰色10GY6/1	脚部内外面シボリ痕。脚部ほぼ完形。
132	須恵器	提瓶?	2号窯跡灰原1区3層最下層	①9.1 ②(3.8)	内外面回転ナテ。	A密。径3mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰白色N7/～緑褐色10GY2/1、内灰白色N7/	体部との接合面・内外とも一部降灰。
133	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区3層最下層	②11.0 ④体部14.8	内面と体部外面上位～中位カキメ。体部下位から底部外面は降灰の為調整不明。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外灰白色N5/～N4/、内灰白色N5/	降灰位置から横位で焼成。
134	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区3層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1層	②(12.8) ④(16.4)	体部外面カキメ、内面回転ナテ、底部外面手持ちヘラ削り。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C内外暗青灰色5PB4/1、暗青灰色5PB3/1	底部外面ヘラ記号。
135	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区3層最下層	①7.6 ②14.5 ④体部16.5	底部外面手持ちヘラ削り、他は回転ナテ。円蓋閉塞を行わない。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外灰白色N7/～灰色N6/、青灰色5PB5/1、内青灰色5PB5/1	体部上位外面ヘラ記号。体部と焼け進む。
136	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区最下層	①10.7②13.95 ③12.1④胴部21.4	体部外面上半カキメ、下半回転ヘラ削り、他は回転ナテ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/2～におい黄褐色10YR7/4	
137	須恵器	横瓶	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区重機	①11.8 ②31.6	口縁部回転ナテ、外面格子目タタキ・タタキ後回転ナテ、格子目タタキ後部分的にナテ、内面同心円文当て具痕、回転ナテ・回転ナテ後当て具痕	A径1mm前後の長石、石英を含む。B良好C外におい赤褐色5YR5/4～におい褐色7.5YR6/4～灰褐色7.5YR5/2内におい褐色7.5YR5/3～灰褐色7.5YR6/2～褐灰色10YR5/1	
138	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機	①19.3 ②(10.6)	外面口縁ハケメ後回転ナテ、体部タタキ後回転ナテ・格子目タタキ、内面口縁回転ナテ体部同心円文当て具痕。	A微細な長石を少々含む。B良好C外オリーブ灰色6/1～におい赤褐色2.5YR4/4～内オリーブ灰色6/1	口縁外面ヘラ記号。

表5 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
139	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区3層最下層	①21.2 ②(8.2)	口縁部回転ナテ、外面縦格子のタタキ、内面同心円文当て具痕後回転ナテ。	A長石を少々含む。B良好C外灰色N4/~暗灰色N3/、内暗灰色N3/	
140	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層	①22.4 ②(14.3)	外面口縁回転ナテ後カキメ体部格子目のタタキ後粗いカキメ、内面口縁回転ナテ体部同心円文当て具痕。	A微砂を少々含む。Bやや不良C内外灰白色5Y7/1	口縁内外面にヘラ記号。(3ヶ所あり)
141	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区拡張部 再拡張部	①21.4 ②(25.1)	口縁部回転ナテ、外面縦格子のタタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~2mm程の長石、石英を少々含む。B良好C外灰白色N7/~灰色N6/~黒色N2/、内灰白色N7/~暗灰色N3/~暗青灰色5PB5/1~黒色N2/	内面口縁から外面胴部上位にかけて降灰。
142	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区拡張部 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原2区3層黒色 再拡張部重機	①43.7 ②(14.9)	口縁部回転ナテ、外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~2mmの長石、石英を含む。B良好C外灰色N5/~灰色N6/、内灰色N4/~灰色N6/	
143	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層	①(44.4) ②(16.5)	口縁部回転ナテ、外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径1mm前後の長石、石英を含む。B良好C外灰白色N8/~灰白色N7/~オリーブ黒色7.5Y3/1内灰白色N7/~灰色N5/	
144	須恵器	鉢	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区3層最下層 再拡張部 再拡張部重機	①(35.6) ②(7.6+11.3)	口縁部回転ナテ、外面格子目タタキ、内面同心円文当て具痕、底部はナテ。	A径1mm前後の長石、石英を含む。赤褐色粒、雲母を含む。Bやや良好C外褐色5YR6/6~浅黄褐色7.5YR8/6~内褐色5YR6/6~褐色5YR6/8	
145	土師器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層	①(20.0)②(23.6) ④体部(26.7)	口縁部内外面ヨコナテ、胴部外面タテハケ、内面タテ方向ヘラ削り。	Aやや粗。径0.5~5mmの白色粗砂を少し含む。雲母を含む。B良好C内外褐色8	
146	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区4層焼土	①(11.6) ②3.8	天井部外面磨減の調整不明。内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。雲母を含む。B不良C外浅黄褐色10YR8/3、内浅黄色2.5Y7/3~浅黄色2.5Y8/3	天井部外面ヘラ記号。
147	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区4層焼土	①(12.1) ②3.3	天井部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外褐色5YR4/1、暗青灰色5PB4/1~3/1、内暗青灰色5PB4/1	天井部外面ヘラ記号。外面の一部に降灰、外面割割体片粘着痕。
148	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区4層焼土	①11.9 ②3.6	天井部内外面磨減の調整不明瞭。他は回転ナテ。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C外浅黄色2.5Y7/4~黄褐色7.5YR7/8、内灰白色2.5Y8/2	天井部外面ヘラ記号。
149	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区4層焼土	①11.9 ②4.1	天井部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂を多く含む。雲母を含む。B不良C外褐色5YR7/6~灰白色2.5Y8/2、褐灰色10YR5/1、内褐色5YR7/8~灰白色2.5Y8/2	
150	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区4層焼土	①12.0 ②4.0	天井部外面回転ヘラ切り後ナテ?、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B不良C外浅黄褐色10YR6/4~褐灰色10YR6/1、内浅黄色2.5Y8/3~浅黄色2.5Y7/3、黄褐色7.5YR7/8~褐色7.5YR6/8	
151	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区4層焼土	①(12.2) ②4.0	天井部外面3/5丁寧な回転ヘラ削り、内面3/5不定方向のナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C内外灰白色5Y7/1	天井部外面ヘラ記号。
152	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区4層焼土	①10.9 ②3.5 受部径12.4	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B不良C灰白色2.5Y8/2~灰黄色2.5Y7/2	底部外面ヘラ記号。
153	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区4層焼土	①(11.0) ②3.3	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、他は回転ナテ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C外灰白色7.5Y7/1~灰色7.5Y6/1、内灰白色5Y7/1	
154	須恵器	椀	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1区4層焼土	①13.2 ②7.6 ③9.4 ④胴部13.5	底部外面回転ヘラ切り後未調整、他は回転ナテ。	A密。径3mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰色N6/~褐灰色10YR6/1、内灰色N4/	底部外面ヘラ記号。内面降灰。
155	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原1区4層焼土	①9.0 ②(4.2)	杯部外面下半カキメ、他は回転ナテ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外灰色N5/~灰色N4/灰赤色2.5YR5/2、内灰色N5/~N4/	
156	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原1区4層焼土	①9.5 ②4.5	杯部外面下半カキメ、杯底部内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR7/4~6/3、内にぶい褐色7.5YR6/4	
157	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原1区4層焼土	①(12.9) ②(5.9)	杯部外面下半カキメ、杯底部内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外青灰色5PB6/1、灰色N5/~灰色N4/、内暗青灰色5PB4/1~3/1	
158	須恵器	摺鉢	2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区重機	①13.6 ②11.1 ③8.8	体部外面カキメ、底部外面割突、他は回転ナテ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外青灰色5PB6/1~5/1、内青灰色5PB6/1	細長い板状の物を底部に突き刺す。
159	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区重機	①50.8 ②(20.0)	口縁部回転ナテ、外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~1mmの長石、石英、微細な角閃石を含む。B良好C外灰白色N7/、内灰色N6/	
160	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区3層黒色	①22.9 ②(9.5)	口縁部回転ナテ、外面縦格子タタキ一部カキメ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~2mmの長石、石英を含む。B良好C内外灰色N5/~N6/	口縁外面にヘラ記号。
161	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1-2間縦ヘルト1層	①10.8 ②(3.7) 受部径13.3	残存部内外面回転ナテ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。褐色粒を含む。B不良C内外浅黄褐色7.5YR8/4、7.5YR8/6	底部破損痕あり。
162	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1-2間下層ヘルト4層	①(10.4) ②4.2	底部外面2/5回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外紫灰色5RP5/1~青灰色5PB5/1~暗青灰色5PB4/1、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。
163	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1-2間縦ヘルト1層	①(9.9) ②5.0	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C内外青灰色10BG6/1~5/1	
164	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区下層ヘルト4層 2号窯跡重機 2号窯跡灰原2区1層炭層 2号窯跡灰原2区4層	①6.2 ②(17.6) ④体部(21.6)	内外面回転ナテ。	Aやや粗。4mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外明青灰色5PB7/1~青灰色5PB6/1、灰白色5Y8/1、灰色5Y6/1、内青灰色5PB5/1	
165	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層黒 2号窯跡灰原2区3層黒色 2号窯跡灰原1-2間縦ヘルト2層 2号窯跡灰原1-2間下層ヘルト4層 2号窯跡灰原1区3層最下層	①21.3 ②(33.4)	口縁部回転ナテ、外面頸部タタキ後回転ナテ、体部縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~1mmの長石、石英を少量含む。B良好 C外灰白色N7/、内灰色N5/	
166	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原谷出口付近	①(11.2) ②(3.8)	天井部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面ナテ、他は回転ナテ。	A精良。砂粒をほとんど含まない。B良好C外緑黒色10G2/1、内青灰色5PB5/1	
167	須恵器	杯身	2号窯跡灰原谷出口付近	①9.5 ②3.15 ③6.2 受部径11.5	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、他は回転ナテ。	A密。径2mm以下の白色・黒色粗砂を少量含む。B不良C外褐灰色10YR6/1~ぶい黄褐色10YR6/3、内灰白色10YR8/1	底部外面ヘラ記号。
168	須恵器	杯身?	2号窯跡灰原谷出口付近	①(11.4) ②4.0 ③6.4	底部外面回転ヘラ切り、内面ナテ、他は回転ナテ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。Bやや不良C底部外灰白色10YR8/1、他は褐灰色10YR5/1~灰色N5/	底部外面ヘラ記号。大きく焼け歪む。
169	須恵器	椀	2号窯跡灰原谷出口付近	①(9.3) ②(6.9)	底部外面回転ヘラ削り後ナテ、他は回転ナテ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/~N4/、内灰色N5/	口縁部大きく焼け歪む。
170	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原谷出口付近	①(10.0) ②(3.8)	杯底部外面1/3カキメ、内面ナテ、体部内外面回転ナテ後、外面カキメ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外緑灰色5G5/1~暗緑灰色5G3/1、内緑灰色7.5Y5/1~青灰色5B6/1	

表6 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
171	須恵器	高杯	2号窯跡灰原谷出口付近	②(5.8) 脚部径6.9	内外面回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰色N6/~青灰色10BG5/1、内青灰色10BG5/1	外面シボり痕。内面へラ記号。
172	須恵器	瓶類?	2号窯跡灰原谷出口付近	①(4.0) ②(5.1)	内外面回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N6/	
173	須恵器	甕	2号窯跡灰原谷出口付近	②(3.8)	頸部外面回転ナデ、体部上半カキメ、内面回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂や細かい黒色粒子を少量含む。B良好C外暗緑灰色7.5GY4/1、内オリーブ灰色2.5GY5/1	
174	須恵器	甕	2号窯跡灰原谷出口付近 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原拡張部 再拡張部 再拡張部重機	①(20.4) ②(30.5)	口縁部回転ナデ、外面平行タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕(一部後回転ナデ)。	A径1mm前後の長石、石英を含む。Bやや良好 C外灰色N6/~灰色7.5Y6/1内灰色N6/~灰色7.5Y6/1~灰黄色10YR7/2~にぶい黄褐色10YR7/3	
175	須恵器	蓋	2号窯跡灰原谷出口付近	②(2.7) つまみ径3.8	天井部外面2/3回転へラ削り、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mmの白色粗砂や径1~2mmの白色・黒色粗砂を含む。B良好C外暗緑灰色7.5GY4/1、内灰白色N7/	天井部外面に重ね焼き時の軸着痕。
176	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区拡張部	①11.8 ②(4.2)	天井部外面回転へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4	天井部外面へラ記号。口縁部外面連続割突痕。
177	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原拡張部 2号窯跡灰原右区1層	①(10.4) ②3.6	天井部外面3/5カキメ、他は回転ナデ後、内面不定方向のナデ。つまみ貼付。	Aやや粗。0.5mm以下の白色粗砂を多く含む。髪母を含む。B不良C内外橙褐色5YR6/8	
178	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区拡張部	①12.0 ②4.3	底部外面回転へラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰白色10YR8/1~灰色N5/、内灰白色N7/~灰色N6/	底部外面へラ記号。
179	須恵器	高杯	2号窯跡灰原1区拡張部	②(9.3) 脚部径9.6	脚部上位カキメ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N4/~灰白色10Y7/1、内灰色N4/~灰白色N7/	脚部内面へラ記号。外面シボり痕。降灰位置から横位で焼成。
180	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区拡張部	②(6.6) ④9.0	胴部外面上半回転ナデ、下半回転へラ削り。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外暗青灰色5PB4/1、暗青灰色5PB3/1、灰色N5/	穿孔部切抜き片が内部に残存。底部破壊して欠損。
181	須恵器	瓶類	2号窯跡灰原拡張部	①(6.8) ②(5.0)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N5/~N4/、内灰白色N7/~灰色N5/	
182	須恵器	瓶類	2号窯跡灰原拡張部	①(7.5) ②(4.8)	内外面回転ナデ。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外明青灰色5PB7/1、内灰白色N7/~灰色N5/	
183	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①11.4 ②3.6	天井部外面回転へラ切り後ナデ、天井部内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1~7/1	天井部外面へラ記号。
184	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①11.3 ②3.35	天井部外面1/2回転へラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少量含む。Bやや不良C外褐色10YR6/1~灰白色10YR8/2、内灰白色N7/	天井部外面へラ記号。
185	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①(11.2) ②3.5	天井部外面回転へラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N5/~緑灰色5G5/1	
186	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①12.2 ②3.6	天井部外面回転へラ切り後粗いナデ? 内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外橙褐色7.5YR7/6、内明褐色7.5YR7/2	天井部外面へラ記号。外面および内面の一部に黒斑。
187	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①(12.2) ②4.4	天井部外面回転へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C内外灰色N6/~灰色N5/	外面へラ記号。
188	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①8.5 ②3.6 受部径10.4	天井部外面2/3回転へラ削り?、内面一部不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/~暗緑灰色10GY3/1、内オリーブ灰色2.5GY5/1	外面降灰。天井部外面重ね焼き片軸着。
189	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①8.7 ②3.1 受部径10.7	天井部外面2/3回転へラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4	外面へラ記号。
190	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①8.8 ②3.15 受部径10.7	天井部外面2/3回転へラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色10YR6/1~にぶい黄褐色10YR6/3	外面へラ記号。
191	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①8.9 ②3.2 受部径10.9	天井部外面2/3回転へラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の細かい白色粗砂をごく少量含む。B不良C外灰白色10YR8/2、内にぶい黄褐色10YR7/3	外面へラ記号。
192	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①9.6 ②3.2 受部径11.5	天井部外面回転へラ切り後未調整、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4~灰黄褐色10YR6/2	
193	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①9.8 ②2.9 ③6.9 受部径11.8	底部外面1/2回転へラ削り、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N5/	底部外面へラ記号。
194	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①10.1 ②3.15 受部径12.4	底部外面回転へラ切り後未調整、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1~浅黄褐色10YR8/4	
195	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①(10.2) ②3.45 受部径(11.8)	底部外面回転へラ切り後未調整、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰色N6/、内暗緑灰色7.5GY4/1~灰色N6/	底部外面板状圧痕?
196	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①10.2 ②3.6 受部径12.2	底部外面回転へラ切り後未調整、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂、黒色粒子を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/2	底部外面へラ記号。
197	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①(10.4) ②4.1 ③(6.2)	底部外面回転へラ切り後ナデ?、底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4	
198	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①(10.7) ②4.2	底部外面回転へラ切り後手持ちへラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外黄褐色10YR5/2、内にぶい黄褐色10YR6/4	底部外面へラ記号。
199	須恵器	杯身	2号窯跡灰原1区重機	①11.0 ②3.9	底部外面回転へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の白色粗砂をごく少量含む。Bやや不良C内外褐色10YR6/1~灰褐色7.5YR6/2	底部外面へラ記号。
200	須恵器	碗	2号窯跡灰原1区重機	②(5.4) ③8.15	外面カキメ回転ナデ、へラ切り難し、内面回転ナデ底部では回転ナデ後ナデ。	A径0.5mm以下の長石、石英を少量含む。赤褐色粒をごく少量含む。Bやや不良C内外橙褐色2.5YR6/6	底部外面へラ記号。
201	須恵器	高杯蓋	2号窯跡灰原1区重機	①(10.6) ②3.9 つまみ径2.35	天井部外面2/3回転へラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N6/	内外面降灰。
202	須恵器	高杯蓋	再拡張部	①(12.3) ②4.3 つまみ径1.5	天井部外面回転へラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A径0.5~1mm程度の長石を多く含む。B良好 C外暗灰色N3/、暗オリーブ灰色2.5GY4/1、内灰白色N7/	内面降灰。
203	須恵器	狭い口は真杯	2号窯跡灰原1区重機	②(3.0) 脚部径8.6 脚部高2.2	体部内面不定方向のナデ、脚部内外面回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C内外褐色10YR4/1	脚部ほぼ完整。
204	須恵器	狭い口は真杯	再拡張部	②(4.4) ③(11.0)	外面一部カキメ、他は回転ナデ。	A微砂を少々含む。B不良 C内外灰白色10YR8/1	
205	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原1区重機	①(5.9) ②(13.7) ④体部(14.6)	体部上半カキメ、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色10YR5/1~にぶい黄褐色10YR7/3、内灰白色10YR7/1~にぶい黄褐色10YR6/3	
206	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原1区重機	①7.3 ②(9.1)	天井部外面タタキ後カキメ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰色N6/、内青灰色5PB6/1	閉塞部周辺内面シボり痕。頸部外面、頸部肩内面の一部に降灰。

表7 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
207	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機	①(24.3) ②(8.7)	口縁部回転ナデ、外面頸部ハケメ後回転ナデ体部縦格子タタキ後一部に回転ナデ、内面同心円文当て具痕。	A微砂を多く含む。B良好 C外灰色N6/、内灰色7.5Y6/1	口縁外面ヘラ記号。
208	須恵器	甕	再拡張部 再拡張部最下層 再拡張部重機	①24.45 ②(18.2)	口縁部回転ナデ、外面平行タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。	A径1~3mmの長石、石英を多く含む。B良好 C外灰色N6/、灰白色N7/、灰白色7.5Y7/1、内灰色N5/、灰色N/6	
209	須恵器	甕	再拡張部	②(15.5)	内外面回転ナデ。	A径0.5~1mmの長石、石英を多く含む。B良好 C外黒色5Y2/1、灰色N6/、内褐色10YR5/1、黒色10YR2/1	
210	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区1区	①(40.6) ②(10.8)	内外面ともに回転ナデ。	A径0.5~3mm程の長石、石英を含む。B良好 C外灰白色N7/~灰色N4/、内灰白色2.5Y7/1~黄灰色2.5Y4/1	頸部外面下位にヘラ記号。歪みの為口径は不確定。
211	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡検出中	①50.0 ②(16.5)	外面口縁ハケメ後カキメ、体部縦格子タタキ、内面口縁回転ナデ、体部同心円文当て具痕。	A径1~2mmの長石、石英を多く含む。Bやや良好 C外黄褐色7.5YR7/8~橙色7.5YR7/6、内黄褐色7.5YR7/8~褐色7.5YR6/6	
212	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区拡張部	①39.3 ②(69.3)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕、頸部に指頭圧痕。	A径1mm程の砂粒を少々含む。B良好 C外灰色N5/、灰色N4/、暗灰色N3/、内灰色N5/、灰色N4/	頸部外面にヘラ記号。全体大きく焼き歪む。
213	須恵器	甕	再拡張部	②(11.05)	頸部内外回転ナデ、体部内面斜方向の当て具痕。	A径1mm程の長石を含む。B良好 C外灰白色N7/、内灰色N4/	213~217は同一個体。
214	須恵器	甕	再拡張部	②(10.0)	体部外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕、外面一部回転ナデ。	A径0.5~1mmの長石、石英を含む。B良好 C外灰色N7/、内灰色N5/	肩部に把手をとまう。
215	須恵器	甕	再拡張部	縦5.1 横3.05	ナデ。	A径0.5~1mm程の長石を少々含む。B良好 C内外灰色N6/、暗灰色N3/	213・214と同一個体。
216	須恵器	甕	再拡張部重機	縦4.9 横3.0	ナデ。	A径1mm程の長石、石英を含む。B良好 C内外灰色N4/	213・214と同一個体。
217	須恵器	甕	再拡張部重機	縦(3.5) 横(3.35)	ナデ。	A微砂を含む。B良好 C内外灰色N6/、暗灰色N4/	213・214と同一個体。
218	土師器	鉢	2号窯跡灰原1区重機	①(14.6) ②6.9 ④体部(13.0)	体部外面ヨコハケ後ナデ、内面ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外に黄褐色10YR7/4、内灰白色10YR8/2~浅黄褐色10YR8/4	
219	土師器	甕	2号窯跡灰原1区重機	長5.5	ナデ、内面ヘラ削り。	A密。径4mm以下の白色砂礫を多く含む。B良好C内外灰白色10YR8/2	把手部完形。
220	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区1層	①11.0 ②3.5	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B良好C内外灰色N6/、灰色N5/	焼け歪む。
221	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区1層	①11.3 ②2.8	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。3mm以下の白色礫、粗砂を少し含む。B不良C外浅黄褐色10YR8/4~灰白色10Y8/1、内黄褐色10YR8/6	
222	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区1層	①(11.1) ②3.5	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N5/~灰色N4/、内明青灰色5PB7/1~青灰色5PB6/1	外面全体に降灰。上下逆位置にて焼成。外面別個体片粘着。
	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区1層	①9.5 ②3.2 受部径11.6	外面調整不明、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C内外灰白色N7/~灰色N6/	
223	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区1層	①10.3 ②3.0 受部径11.1	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C内外灰黄褐色10YR8/2	
224	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区1層	①10.6 ②3.3 受部径12.2	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C外灰白色10Y8/1~灰色10Y5/1、内灰白色10Y7/1	底部外面ヘラ記号。
225	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区1層	①(10.3) ②4.0	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。黒色粒子を含む。Bやや不良C外浅黄色2.5Y7/3~灰白色5Y7/1、内灰白色5Y7/1~灰色5Y6/1	底部外面ヘラ記号。
226	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区1層	①(10.65) ②(4.55)	底部外面回転ヘラ削り、内面ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色N6/、内黄灰色2.5Y6/1	底部外面ヘラ記号。
227	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区1層	①(10.1) ②5.7	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外青灰色5PB6/1~暗青灰色5PB4/1、内青灰色5PB6/1~5/1	底部外面ヘラ記号。
228	須恵器	高杯蓋	2号窯跡灰原2区1層	①(11.0) ②5.0 つまみ径1.5	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰色N5/~灰色N4/、内灰色N5/	外面の一部降灰。
229	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原2区1層	①(9.2) ②8.7 脚部径(6.2)	内外面回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外灰色N5/~灰赤色2.5YR5/2、杯内灰色N4/脚内赤褐色2.5YR5/4	脚部内面ヘラ記号。
230	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原2区1層	①(9.5) ②8.9 脚部径7.0	杯部外面下半回転ヘラ削り、杯底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。B良好C外暗灰色N3/脚外灰白色7.5Y7/~暗灰色N3/杯内明青灰色5PB7/1脚内青灰色5PB6/1	
231	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区 2号窯跡灰原2区4層焼土	①(12.1) ②7.2	体部外面カキメ、底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外青灰色5B5/1~5PB5/1、灰色N4/、灰色N6/、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。
232	須恵器	鉢	2号窯跡灰原2区1層	①(11.4) ②5.7	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、体部下位回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C内外青灰色5PB4/1	底部外面ヘラ記号。
233	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区3層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層	①(10.2) ②20.0 ④体部26.3	体部上半格子目タタキ後カキメ、下位回転ヘラ削り、底部外面不定方向のナデ。口縁部内外面、胴部内面と下半外面回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C外灰白色2.5Y8/1~灰黄色2.5Y7/2、内灰色N6/、灰赤色2.5YR5/2	頸部付近の内面にシボリ痕。
234	須恵器	横瓶	2号窯跡灰原1区3層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区1層(混) 2号窯跡検出中	①(7.4) ②15.4 体部長径14.1 体部短径(11.5)	円盤閉塞、閉塞面は外面をカキメにて処理。穿孔後、別作り頸部接合。肩部は頸部接合後カキメ、体部カキメ後回転ヘラ削り。内面円盤閉塞後指頭圧痕。他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C内外青灰色5PB5/1、灰赤色2.5YR5/2	
235	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原1区2層 2号窯跡灰原1区3層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区2層	①(6.7) ②13.6 ④(16.4)	天井部円盤閉塞後穿孔、別作り頸部接合。底部外面手持ちヘラ削り、他は回転ナデ。	Aやや粗。5mm以下の白色粗砂をやや多く含む。黒色粒子を含む。B良好C外灰色5Y5/1、内青灰色5PB6/1	外面上位に広く降灰。底部外面別個体片粘着。
236	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原重機 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層	①8.3 ②17.9 ④体部22.8	天井部円盤閉塞後穿孔、別作り頸部接合。口縁部内外面と胴部内面回転ナデ、胴部外面上半粗いカキメ、下半密なカキメ、下位回転ナデ、底部外面手持ちヘラ削り。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C内外青灰色5PB6/1~暗青灰色5PB4/1	底部外面ヘラ記号。

表8 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
237	須恵器	蓋	2号窯跡灰原2区1層	①(8.1)②3.6 受部径10.3 つまみ径2.6	天井部1/4回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰色N5/、灰オリーブ5Y6/2、内灰白色N7/～灰色N6/	受部釉着痕あり。
238	須恵器	蓋	2号窯跡灰原2区1層	①8.2 ②3.3 受部径11.0 つまみ径2.3	外面降灰の為、調整不明。天井部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C受部～外灰白色N7/(降灰)、内～かえり外灰色N4/	外面全体降灰。受部釉着痕あり。
239	土師器	甕	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区1層	②(4.8)	口縁部外面ココナデ、体部内面ヘラ削り、外面タテハケ?	A粗。径3mm以下の白色砂礫を多く含む。B良好C内外にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR7/6	
240	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区中央2層	①11.2 ②3.9	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C内外灰白色5Y7/1～灰色5Y6/1	天井部外面ヘラ記号。
241	須恵器	鉢	2号窯跡灰原2区2層	①(12.4) ②6.8	体部外面カキメ後回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C内外灰白色7.5Y7/1、灰色5Y6/1	底部外面ヘラ記号。
242	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区中央2層 2号窯跡灰原1区3層最下層	①(9.95) ②9.7 ③6.2	底部外面回転ヘラ削り、内面降灰の為調整不明、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰褐色7.5YR6/2、内灰白色N7/	内面全体と外面は底面付近まで降灰。底部外面ヘラ切り未処理粘土塊あり。
243	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①10.35～11.0 ②3.35	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色10YR6/1～ぶい黄褐色10YR7/3、内灰白色10YR7/1	
244	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①(10.0) ②3.0	天井部外面回転ヘラ削り、内面は回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。3mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C内外青灰色5B5/1	天井部外面板状圧痕、ヘラ記号。
245	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.0 ②3.3	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/～暗オリーブ灰色5GY3/1、内灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。体部外面一部降灰。
246	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.3 ②3.75	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR6/3～灰白色10YR8/1	天井部外面ヘラ記号。
247	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①10.95 ②3.55	天井部外面回転ヘラ切り後丁寧なナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等をこく僅かに含む。B良好C内外灰色N5/	天井部外面ヘラ記号。口縁部擦過痕。
248	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.3 ②3.3	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N5/～暗灰色N3/、内緑灰色10GY6/1	天井部外面ヘラ記号。外面降灰。
249	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.3 ②3.65	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、体部一部回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外緑灰色7.5GY5/1、内灰色N5/	天井部外面ヘラ記号。
250	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.5 ②3.65	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ?、内面不定方向のナデ?、他は回転ナデ?	A密。径2mm以下白色粗砂をこく少量含む。B不良C内外にぶい黄褐色10YR7/2～黄褐色10YR8/6	
251	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.6 ②3.75	天井部外面回転ヘラ削り、体部一部回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外暗青灰色5B4/1～ぶい褐色7.5YR6/3、内灰色N4/	天井部外面に土柱使用痕。内面粘土付着。
252	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①12.1 ②3.7	天井部外面ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N4/～N6/、内灰色N5/	天井部外面ヘラ記号。
253	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.6 ②3.55	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N5/～青灰色5B5/1	天井部外面ヘラ記号。
254	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.7 ②3.75	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外黄褐色10YR6/2～灰白色10YR8/2、内灰白色10YR7/1	天井部外面ヘラ記号。
255	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.6 ②3.4	天井部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外暗オリーブ灰色5GY4/1～オリーブ褐色5GY2/1(降灰)、内青灰色5B6/1	外面全体降灰。重ね焼き破片の積着。天井部外面ヘラ記号。
256	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.9 ②4.0	天井部外面1/2回転ヘラ削り。内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR7/3、内灰白色10YR8/1	天井部外面ヘラ記号。
257	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①8.7②4.1 受部径10.7 つまみ径1.3	天井部外面回転ヘラ削り?、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をこく少量含む。B良好C外灰白色N7/～暗緑灰色10GY3/1、内青灰色5B6/1～緑灰色10GY5/1	かえり外面重ね焼き片積着。外面降灰。
258	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①(8.7) ②3.7 受部径11.2 つまみ径1.65	天井部外面2/5回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外淡黄褐色10YR8/3～明黄褐色10YR7/6、内灰白色2.5Y8/2	
259	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①9.25 ②3.2 受部径11.25 つまみ径1.2	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外淡黄色2.5Y7/3、内淡黄色2.5Y7/3～ぶい黄褐色10YR7/4	天井部外面ヘラ記号。
260	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①9.0 ②2.8 受部径11.2 つまみ径1.6	天井部外面1/5回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外暗青灰色5B6/1～緑灰色7.5GY5/1、内灰色N6/	
261	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①8.4 ②2.35 受部径10.7	天井部外面1/3回転ヘラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色10YR6/1～5/1、内黄褐色2.5Y6/1～灰黄色2.5Y7/2	体部外面ヘラ記号。
262	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①9.9 ②2.5 受部径11.0	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外黄褐色7.5YR7/8	
263	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.9 ②2.8 受部径11.0	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mmほどの白色粗砂を少量、5mm以下の細かい白色粗砂を多く含む。B良好C外灰白色N7/～暗緑灰色10G4/1、内暗緑灰色10G4/1	外面全体に降灰。
264	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.5 ②3.0 受部径11.5	底部外面回転ヘラ切り後未調整?、内面回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～8/2	
265	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.8 ②3.3 受部径11.75	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色10YR4/1～灰黄褐色10YR5/2、内灰色N4/	底部外面ヘラ記号。
266	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.8 ②3.4 受部径11.9	底部外面回転ヘラ切り後ナデ?、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外灰白色10YR8/1～8/2、内にぶい黄褐色10YR7/3	底部外面ヘラ記号。
267	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.0 ②3.25 受部径12.0	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をこく少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～ぶい黄褐色10YR7/2	
268	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.9 ②3.2 受部径11.85	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外淡黄褐色10YR5/2～ぶい黄褐色10YR7/2、内にぶい褐色5YR6/4～ぶい黄褐色10YR6/4	底部外面ヘラ記号。
269	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.0 ②3.85 受部径11.7	内面2/3と外面磨減の為調整不明。内面強い回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外褐色7.5YR7/6	底部外面ヘラ記号。
270	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①(10.15) ②3.2 受部径12.1	底部外面回転ヘラ削り?、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2.5mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外淡黄色2.5Y7/4～灰白色2.5Y8/2、内淡黄色2.5Y7/3～灰白色2.5Y8/2	底部外面ヘラ記号。
271	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.4 ②3.4 受部径11.2	底部外面回転ヘラ切り後未調整、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外灰白色10YR7/1～8/2、内灰白色10YR8/2	厚底。底部外面ヘラ記号。

表9 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
272	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.9 ②3.15 受部径11.95	底部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外灰白色10YR7/1～浅黄褐色10YR8/4	底部外面ヘラ記号。
273	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.9 ②3.6 受部径11.7	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外灰白色10YR7/1～ふい黄褐色10YR7/4、内灰白色10YR7/1	底部外面ヘラ記号。
274	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.1 ②3.2 受部径12.4	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、一部回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N6/	底部外面ヘラ記号。
275	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.3 ②3.4 受部径12.7	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外にふい褐色7.5YR6/4～灰褐色7.5YR4/2、内褐色7.5YR7/6	底部外面ヘラ記号。
276	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.2 ②3.55 受部径11.9	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。Bやや不良C外灰色N5/～灰黄褐色10YR6/2、内にふい褐色7.5YR5/4	底部外面ヘラ記号。
277	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.2 ②3.35 受部径12.6	内外面磨減の為調整不明。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～8/2	
278	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.4 ②3.2 受部径12.4	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面磨減の為調整不明、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～浅黄褐色10YR8/3	底部外面ヘラ記号。
279	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.5 ②3.05 受部径12.7	底部外面回転ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。Bやや不良C外にふい褐色7.5YR6/3、内にふい黄褐色10YR6/3	底部外面ヘラ記号。
280	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.5 ②3.9 受部径13.0	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、一部回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外にふい黄褐色10YR7/4、内褐色7.5YR7/6	底部外面ヘラ記号。
281	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.6 ②4.15 受部径12.0	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、一部回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外縁灰色10G6/1、内縁灰色10G5/1～青灰色5B6/1	外面一部降灰。
282	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①9.6 ②3.5 受部径11.85	底部外面1/2ヘラ削り、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外明黄褐色5B7/1～明緑灰色7.5GY7/1、内灰色N7/～灰黄褐色10YR6/2	底部外面ヘラ記号。
283	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①(9.7) ②4.3 受部径(12.2)	底部内外面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色7.5YR6/6～ふい褐色7.5YR5/4、内灰褐色7.5YR5/2	底部外面ヘラ記号。
284	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.2 ②4.35 受部径12.8	底部外面ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外黄褐色10YR7/8～明黄褐色10YR6/6	外面ヘラ記号。
285	須恵器	杯	2号窯跡灰原2区3層	①9.9 ②3.95	底部外面回転ヘラ削り、内面ナデ、他は回転ナデ。	A径0.5mm以下の長石、石英を含む。B良好 C外灰色N6/～褐色7.5YR4/1、内灰色N6/	底部外面ヘラ記号。
286	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①10.6 ②4.25	底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外灰色N/6～灰白色10YR8/2、内灰白色10YR8/1～8/2	底部外面ヘラ記号。
287	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①(10.6) ②3.9	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C内外灰色N5/～灰白色10YR8/2	底部外面ヘラ記号。焼き歪む。
288	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①(9.2) ②4.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、一部回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C外暗青灰色10G4/1、内灰色N5/～N4/	底部外面ヘラ記号。
289	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①(10.1) ②4.25	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外明黄褐色10YR7/6、内浅黄褐色10YR8/3	底部外面ヘラ記号。
290	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①(10.3) ②4.2 ③(5.8)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mmの白色粗砂をごく少量含む。B良好C外暗緑灰色5G3/1～明オリーブ灰色2.5GY7/1、内暗緑灰色5G4/1	外面降灰。
291	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①(9.4) ②6.8 ③7.15	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色5Y5/1～赤褐色10R5/4、内灰赤色10R4/2～黄灰色2.5Y5/1	底部外面ヘラ記号。
292	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層	①(10.8) ②6.5	底部外面ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外縁灰色10GY5/1	底部外面ヘラ記号。
293	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区重機	①(9.95) ②8.6 ③(10.0)	底部外面手持ちヘラ削り、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等をごくわずかに含む。B良好C内外灰色N4/～灰赤色2.5YR4/2	底部外面ヘラ記号。体部外面破裂痕。
294	須恵器	椀	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区4層焼土	①11.1 ②7.9 ④12.1	底部外面手持ちヘラ削り、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C褐色10YR5/1、褐色10YR4/1、明赤褐色5YR5/6	底部外面ヘラ記号。焼き歪む。
295	須恵器	椀	2号窯跡2区3層	①(12.2) ②9.15 ③(7.3)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色10Y6/1～緑褐色5G2/1、内灰色7.5Y6/1～灰色N4/	楕円形に焼き歪む。
296	須恵器	高杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①11.5 ②4.15 つまみ径1.6	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。Bやや不良C外灰色10Y6/1～灰色5Y6/1、内灰白色7.5Y7/1	
297	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原2区3層	②(4.35)	杯底部外面降灰の為調整不明。体部外面下半カキメ、底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色5Y6/1～青黒色10BG2/1(降灰)、内灰色N4/	体部外面降灰。二次焼成。
298	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原2区3層	①(8.8) ②(4.4)	杯底部外面下半回転カキメ、内面ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径4mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色N5/、内灰色N6/	二次焼成による破裂痕。
299	須恵器	鉢	2号窯跡灰原2区3層	①(12.6) ②(6.6) ③(10.6)	底部外面回転ヘラ削り、内面回転ナデ後ナデ、体部外面カキメ、他は回転ナデ。	A精良。径4mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外黄褐色10YR6/2～灰白色5Y8/1、内浅黄色2.5Y7/3	底部外面ヘラ記号。
300	須恵器	鉢	2号窯跡灰原2区3層	①(15.3) ②6.4 ③6.8	底部外面回転ヘラ切り後未調整、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ、口縁端面取り、端部付近外面調整丁寧。	A精良。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N5/～N4/	底部外面ヘラ記号。
301	須恵器	鉢	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区3層	①17.7 ②(6.8)	杯部外面カキメ、杯底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外黄褐色10YR5/2～灰色N5/	外面一部降灰。
302	須恵器	盤	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区3層 2号窯跡灰原3区4層焼土	①22.5 ②5.8	底部外面粗い一定方向のナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ、口縁端面取り。	A密。径4mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰色N6/、内暗緑灰色7.5GY4/1～灰色N6/	内面全体降灰。焼き歪む。
303	須恵器	短頸壺蓋	2号窯跡灰原2区3層	①(8.0) ②3.1	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外黒色N2/、内灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。外面降灰。
304	須恵器	短頸壺	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区重機	②(6.55)③(2.95)④9.5	胴部外面下半回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色10Y5/1～灰黄色2.5Y6/2、内灰色10Y5/1	底部外面ヘラ記号。
305	須恵器	長頸壺	2号窯跡灰原2区3層	①(8.1)	頸部内外面回転ナデ、シボリ痕あり。	Aやや粗。径2mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色N5/、内灰色N5/～灰白色	頸部外面ヘラ記号。
306	須恵器	長頸壺	2号窯跡灰原2区3層	②(11.45)④16.15	体部外面上半カキメ、下半は磨減の為調整不明。内面回転ナデ。	A密。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外淡黄色2.5Y8/3～灰白色2.5Y8/2、内淡黄色2.5Y8/3～ふい黄褐色10YR7/4	頸部外面ヘラ記号。
307	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原2区3層	①8.2 ②10.9 ④12.0	頸部外面カキメ、底部外面手持ちヘラ削り、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好C内外灰色N6/	
308	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区3層	①(6.6)②12.8③(8.6) ④体部14.05	内外面回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C内外灰色N4/～褐色10YR5/1	頸部外面、肩部内面シボリ痕。
309	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区3層	①7.7②19.4③9.8 ④体部19.8	体部外面カキメ、他は回転ナデ?	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～ふい黄褐色10YR7/4	

表10 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑩

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
310	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区4層焼土	②(11.9)③(12.0) ④胴部(19.6)	体部上半カキメ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/、緑黒色10G2/1(降灰)、内灰色N5/～緑灰色10G5/1	頸部内面シボ痕。外面胴部上半降灰。一部焼けぶくれ。
311	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区3層	①(7.0) ②6.75 ④9.45	底部外面下半回転ヘラ削り、底部内面強い回転ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径6mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色N7/、内灰色N5/	胴部外面別個体片粘着。胴部外面降灰。底部外面焼成時の破綻痕。
312	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区3層	①(9.8) ②(11.1) ④(17.2)	胴部外面下半回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。Bやや不良C外灰色2.5Y7/2～浅黄色2.5Y7/3、内いぶい黄色2.5Y6/3～灰色5Y6/1	
313	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区4層焼土	①(13.0) ②(6.8)	体部外面平行タキ後カキメ、頸部外面平行タキ後回転ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C内外灰色N5/～N4/	
314	須恵器	脚付壺?	2号窯跡灰原2区3層	②(3.5) 脚部径(12.4)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。径3mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C内外灰色N5/	
315	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層	①9.6 ②(6.3)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。径2mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色N5/～暗灰色N3/、内暗灰色N3/	
316	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区3層 2号窯跡灰原1区3層重機	②(15.7) ③10.0 ④胴部21.8	体部上半カキメ、下半平行タキ後回転ヘラ削り、後にタテ方向ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N5/～N4/、内灰色N4/～N6/	
317	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原2区3層	①16.8 ②(6.5)	口縁部回転ナデ、外面頸部タキ後回転ナデ体部平行タキ、内面同心円文当て具痕。	A径1～5mmの長石、石英を含む。B良好 C内外灰色N5/～灰色N4/	
318	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層	①22.0 ②(10.1)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5～1mmの長石、石英を含む。B不良 C内外灰色2.5Y7/2。灰白色2.5Y7/1、灰白色2.5Y7/2	
319	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原2区3層	①47.2 ②(15.4)	口縁部回転ナデ、外面頸部カキメ体部縦格子タキ、内面同心円文当て具痕。	A径1mm前後の長石、石英を含む。Bやや良好 C外灰色7.5Y6/1、灰色N4/、褐色10YR4/1、内灰色7.5Y6/1、灰白色N7/、灰白色N4/、黄灰色2.5Y6/1	
320	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区3層 再拡張部	①49.8 ②(17.2)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タキ、内面同心円文当て具痕。	A径1～2mm程の長石、石英を含む。B良好 C外灰色N4/、内灰色N4/、オリープ色5Y5/4	
321	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層	①50.8 ②(18.7)	口縁部回転ナデ、外面平行タキ、後一部カキメ、内面同心円文当て具痕。	A微細な長石を含む。径2～5mmの長石を少量含む。B良好 C内外灰色N6/～灰色N5/	
322	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原2区3層	①(57.0) ②(19.5)	口縁部回転ナデ、外面頸部カキメ、体部平行タキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5～2mmの長石、石英を含む。B良好 C外暗灰色N3/、内暗灰色N3/、灰色N5/	
323	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区 2号窯跡灰原2区3層	①(60.6) ②115.4	口縁部回転ナデ、外面縦格子タキ、内面同心円文当て具痕。	A微砂を多く含む。径1～5mmの長石、石英を含む。B良好 C外暗灰色N3/～灰白色7.5Y7/1～灰色7.5Y5/1～灰色5Y5/1、内いぶい赤褐色2.5YR5/3～灰色5Y5/1～暗灰色N3/	頸部にヘラ記号。
324	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区最下層 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原2区3層 再拡張部	①46.6 ②(56.1)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5～3mmの長石、石英を少々含む。Bやや不良C外灰色2.5Y7/2。浅黄褐色10YR8/4、明赤褐色5YR5/6、内褐色7.5YR7/6、灰黄色2.5Y7/2	
325	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区3層	①(8.6) ②3.4かえり径(11.0) つまみ径2.0	天井部外面板状工具による回転ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。Bやや不良C外灰黄褐色10YR5/2、内褐色10YR4/1～黒褐色10YR3/1	
326	須恵器	脚部片	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区4層焼土	③3.1 脚部径(10.55)	外面タテハケ、内面ヨコハケ、ナデ、脚端部回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石、黒色粒子等を少し含む。B良好C内外灰色5Y6/1	外面降灰。
327	須恵器	横瓶	2号窯跡灰原2区3層	②(6.55)	外面平行タキ、内面同心円当て具痕。	A微細～径1mm程の長石、石英を含む。B良好 C内外灰色10Y5/1～いぶい黄褐色10YR6/3	円盤閉塞部。
328	土師器	鉢形	2号窯跡灰原2区3層	①(20.0) ②(5.2)	内外面回転ナデ。	A精良。径1mm以下の砂粒をこくわずかに含む。B良好C外いぶい黄褐色10YR7/4、内いぶい黄褐色10YR7/4～浅黄色2.5Y8/3	329と同一個体。口縁部内面～外面燻付着。
329	土師器	鉢形	2号窯跡灰原2区3層	②(4.55)	内外面回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、ウロン等をこくわずかに含む。B良好C外灰黄褐色10YR5/2～いぶい黄褐色10YR7/4、内灰黄褐色10YR6/2～いぶい黄褐色10YR7/4	328と同一個体。
330	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区4層焼土	①11.4 ②3.8	天井部外面回転ヘラ削り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。黒色粒子を含む。Bやや不良C外灰色10Y7/1～灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。
331	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原2区4層焼土	①11.6 ②3.5	天井部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C黄褐色10YR8/6～灰色5Y6/1	焼け歪む。
332	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区4層焼土	①9.3 ②3.1 受部径11.2	底部外面回転ヘラ削り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B良好C外灰色N6/、内灰色N5/	底部外面ヘラ記号。外面に破綻痕。受部に重ね焼きの痕成。底部外面へ焼成時。
333	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区4層焼土	①9.4 ②3.3 受部径11.5	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。黒色粒子を含む。B良好C外灰色N6/～N5/、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。体部の一部破綻。受部に重ね焼きの杯蓋口縁部片粘着。外面一部と受部粘着箇所以降。
334	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区4層焼土	①10.4 ②3.6 受部径12.8	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/3ナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。黒色粒子を含む。B良好C外灰色10Y6/1～灰色N5/、内青灰色5PB6/1	底部外面ヘラ記号。焼け歪む。
335	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区4層焼土	①(10.8) ②3.5 受部径(12.8)	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外黄灰色2.5Y6/1、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。
336	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原2区4層焼土	①(9.7) ②9.2 脚部径(7.9)	杯部外面下半回転ヘラ削り、杯底部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰色N5/、暗灰色N3/、脚外灰色N6/～N4/、杯内青灰色5PB5/1、脚内灰色10Y6/	
337	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区4層焼土 2号窯跡灰原3層	①9.5 ②(14.0)	内外面回転ナデ。胴部外面上半カキメ2ヶ所。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰色7.5Y8/1～5Y7/2、灰色N6/	焼け歪む。
338	須恵器	壺	2号窯跡灰原2区4層焼土	①(6.4) ②3.7	外面降灰の為調整不明。内外面回転ナデか?	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。B良好C外灰色N4/～暗灰色N3/～灰白色7.5Y7/1、内暗青灰色5PB4/1～3/1	外面降灰。
339	土師器	甕	2号窯跡灰原2区4層焼土	①(15.9)②(15.9) ④体部(22.6)	口縁部と胴部上半外面磨滅の為調整不明。胴部下半外面ハケメ、内面ヨコ方向手持ちヘラ削り。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。雲母、黒色粒子を含む。Bやや不良C外黄褐色10YR8/6、褐色5YR6/8、内褐色5YR6/8～浅黄褐色10YR8/3	

表11 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
340	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原3区1層(混)	①12.2 ②3.6	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外灰色7.5Y5/1～灰白色5Y7/2、内灰色10Y6/1	天井部外面ヘラ記号。
341	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原3区1層(混)	①11.9 ②3.9	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後多方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外灰白色5Y8/1～浅黄色5Y7/3、内灰白色2.5Y8/2	
342	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原3区1層(混)	①12.45 ②4.15	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面一定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色7.5Y5/1、内灰色N5/～にぶい褐色7.5YR5/3	天井部外面ヘラ記号。
343	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原3区1層(混)	①9.1 ②3.4 受部径11.4 つまみ径1.2	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外灰白色5Y8/1、内灰白色5Y8/1～にぶい黄褐色10YR6/4	外面ヘラ記号。
344	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原3区1層(混)	①9.6 ②2.3 受部径11.45	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C内外灰白色2.5Y8/2	
345	須恵器	杯身	2号窯跡灰原3区1層(混)	①8.4 ②(3.1) 受部径10.5	底部内面回転ナデ後一定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。径4mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C内外灰色N5/	
346	須恵器	杯身	2号窯跡灰原3区1層 2号窯跡灰原3区1層(混)	①(10.6) ②3.0 受部径(13.0)	底部外面磨減の為調整不明。内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B不良C内外浅黄色2.5Y7/3、明黄褐色10YR7/6	
347	須恵器	杯身	2号窯跡灰原3区1層(混)	①9.85 ②3.8	底部外面回転ヘラ切り後回転ナデ、内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰白色N7/～灰色N5/、内灰色N6/	
348	須恵器	壺	2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区1層 2号窯跡灰原4区焼土	①(10.4) ②12.3 ④14.8	口縁部は体部からの水挽き成形。底部外面持ちヘラ削り、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。黒色粒子を含む。Bやや不良C外青灰色5PB6/1～5PB5/1～灰黄色2.5Y7/2、内灰褐色7.5YR6/2～紫灰色5PB/1	底部外面ヘラ記号。
349	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区1層	①10.7 ②(16.3) ④胴部(23.0)	体部外面カキメ、下半回転ヘラ削り、頸部内面指頭圧痕、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外青灰色5B5/1～暗青灰色5B4/1	頸部内面接合痕。肩部内面シボリ痕。
350	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区6層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原3区2層灰層 2号窯跡灰原3区1層	①(23.7) ②(37.4)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タタキ、内面同心円当て具痕。	A微砂と径1mm程の長石、石英を少量含む。B良好C外灰白色N7/～7.5Y7/1、内灰白色N7/～灰色7.5Y4/1	
351	須恵器	杯身	2号窯跡灰原3区3層	①11.2 ②3.4	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰白色N7/、灰色N5/、内灰白色N7/	底部外面板状圧痕、ヘラ記号。
352	須恵器	有蓋高杯	2号窯跡灰原3区3層	①(10.1) ②9.1 受部径(12.5) 脚部径9.7	杯部内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N6/～N4/、杯部内面灰色N5/～N4/、脚部内面白色N7/～灰色N6/	脚部内面ヘラ記号。焼け歪む。
353	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区3層	①(15.4) ②(7.8)	体部外面回転ナデ後複雑なカキメ、他は回転ナデ。	A粗。2mm以下の白色粗砂を多く含む。Bやや不良C外灰色5Y5/1～5Y4/1～青灰色5PB5/1～にぶい赤褐色5YR5/3、内灰色N5/～5Y5/1	肩部外面ヘラ記号。
354	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原3区4層焼土	①12.25 ②3.45	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C外明黄褐色10YR7/6～にぶい黄褐色10YR7/4、内明黄褐色10YR7/6～淡黄色2.5Y8/4	天井部外面ヘラ記号。
355	須恵器	杯身	2号窯跡灰原3区4層焼土	①10.1 ②3.55 受部径12.15	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面円周方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。径3mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色7.5Y6/1、内灰色7.5Y6/1～灰オレンジ5Y6/2	
356	須恵器	杯身	2号窯跡灰原3区4層焼土	①10.8 ②3.7 受部径12.8	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面一定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。3mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色7.5Y6/1、内灰色10Y6/1	底部外面ヘラ記号。
357	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原3区最下層	①7.9 ②13.75 ④胴部16.3	体部粘土紐巻上げ成形。体部上半カキメ、下半から底部磨減の為調整不明。他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～にぶい黄褐色10YR7/4	
358	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区1層	①10.7 ②3.1	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外にぶい黄色2.5Y6/3～灰白色2.5Y8/1、内黄褐色2.5Y5/3	天井部外面ヘラ記号。
359	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区1層	①10.9 ②3.35	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色10YR4/1～浅黄色2.5Y7/3、内褐色10YR4/1～黄褐色10YR5/3	
360	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区1層	①11.3 ②3.5	天井部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰白色N7/～灰色N6/、内灰色N6/～灰褐色2.5Y6/2	天井部外面ヘラ記号。外面降灰。
361	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原4区2層	①11.3 ②3.9	天井部外面1/4回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N6/～N4/、内青灰色5PB6/1～5PB5/1～暗青灰色5PB4/1	天井部外面ヘラ記号。
362	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区1層	①11.5 ②3.5	内外面磨減の為調整不明。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/2	
363	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区1層	①9.1②3.55かえり径10.8 つまみ径1.7	天井部外面回転ヘラ削り、内面磨減の為調整不明。他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR6/4～黄褐色10YR5/6、内にぶい黄褐色10YR6/4	外面降灰。
364	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区1層	①9.6 ②3.55 受部径11.4	内外面磨減の為調整不明。受部は回転ナデ?	A密。径2mmほどの白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/2	底部外面ヘラ記号。
365	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区1層	①9.7 ②3.45 受部径11.9	降灰の為、底部外面調整不明。内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外灰白色2.5Y8/1～黄褐色2.5Y6/1、内灰色N6/	底部外面ヘラ記号。外面降灰。
366	須恵器	椀	2号窯跡灰原4区1層	①(10.0) ②4.3	底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外青灰色5B5/1、内灰色N6/～N5/	底部外面ヘラ記号。外面降灰。
367	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原4区1層	①(9.4) ②9.0 脚部径6.7	杯底部内面不定方向のナデ、脚部シボリ痕あり、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。Bやや不良C内外オレンジ色5Y6/1	脚部内面ヘラ記号。
368	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原4区2層	①(9.2) ②10.2 脚部径(7.2)	杯底部内面不定方向のナデ、外面カキメ、脚部シボリ痕、他は回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/杯内緑灰色7.5GY5/1～3/1脚部内灰色N5/	脚部内面ヘラ記号。外面降灰。
369	須恵器	短頸壺	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区4層焼土 2号窯跡灰原2区 2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原4区2層	①(6.4) ②9.3 ③4.6 ④体部(13.3)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外にぶい褐色7.5YR5/4～褐色7.5YR6/6、内にぶい褐色5YR6/4～7.5YR6/4	底部外面ヘラ記号。
370	須恵器	長頸壺	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原2区4層焼土	①7.4～8.4 ②(8.4) 頸部径4.4	内外面回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/、内暗オレンジ色7.5Y4/3～オレンジ黒色7.5Y3/1	内外面降灰。焼け歪む。

表12 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑫

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
371	須恵器	長頸壺	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区 2号窯跡灰原4区1層	①(9.4) ②(9.45)	内外面回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/、内緑灰色10G6/1	外面降灰。
372	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原4区1層	②(13.0) ④体部9.6	体部下回転ヘラ削り、頸部シボリ痕、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外オリーブ灰色2.5GY6/1～灰黄色2.5Y7/2～黒色2.5GY2/1、内暗灰黄色2.5Y4/2～浅黄色2.5Y7/4	底部外面ヘラ記号。内外面降灰。胴部外面別個体片粘着。焼け歪む。
373	須恵器	平瓶	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区縦ベルト清掃中 2号窯跡灰原3区灰層 2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原4区2層 2号窯跡灰原1層	①6.6 ②17.4 ③11.8 ④体部20.8	体部上半カキメ、底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径4mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外暗青灰色5PB4/1～にぶい褐色7.5YR5/4、内褐灰色7.5YR4/1～灰褐色7.5YR5/2	
374	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区縦ベルト1層 2号窯跡灰原4区1層	①(35.0) ②(14.1)	口縁部回転ナデ、外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5～1mmの長石、石英を含む。B良好 C内暗灰色N3/、灰色N4/	口縁外面降灰。
375	須恵器	甕	2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原4区2層	①44.0～46.2 ②(12.5)	内外面回転ナデ。	A径0.5～2mmの長石、石英を含む。B良好 C外灰色N6/、灰色N5/、暗灰色N3/、内灰色N5/	頸部にヘラ記号。
376	須恵器	蓋	2号窯跡灰原4区1層	①7.8②3.5受部径10.4 つまみ径2.3	天井部外面2/3回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/～オリーブ灰色2.5GY5/1、内灰白色2.5Y8/2～暗灰色2.5Y4/2	内面全体降灰。
377	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区2層(混)	①10.25 ②3.3	天井部外面回転ヘラ削り後ナデ、内面一定方向のナデ、他は回転ナデ。	A粗。径5mm以下の石英、長石等を多く含む。B不良C内外淡灰色2.5Y6/1	天井部外面ヘラ記号。
378	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区2層	①10.6 ②3.6	天井部外面回転ヘラ削り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色5Y6/1～灰色N5/、内灰色N6/	
379	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区2層	①10.75 ②3.35	天井部外面回転ヘラ削り後、一部回転ヘラ削り、内面一定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。直径2mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色5Y6/1～暗灰色N3/、内灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。外面杯身受部粘着。一次焼成時破損。
380	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区2層	①11.25 ②3.9	天井部外面回転ヘラ削り後一部回転ヘラ削り、内面回転ナデ後一定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色N6/～暗灰色N3/、内灰色N6/	外面降灰。外面破損。
381	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区2層	①11.2 ②3.7	天井部外面ヘラ削り後ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。1mm以下Bやや不良C外灰白色10Y7/1～灰黄色2.5Y7/2、内灰白色7.5Y7/1～灰色7.5Y6/1	天井部外面ヘラ記号。
382	須恵器	杯蓋	2号窯跡灰原4区2層	①8.55 ②2.55 受部径10.6	天井部外面3/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A精良。2mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C内外淡黄色2.5Y8/3	
383	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①9.6 ②3.1 受部径11.9	底部外面降灰の調整不明、内面3/4不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。3mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色褐色の粒子を含む。B良好C外暗青灰色5PB3/1～灰白色10Y7/1、内青灰色5PB5/1	底部外面ヘラ記号。受部に重ね焼き痕あり。内面縦線あり。外周降灰。
384	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①9.15 ②3.85 受部径11.6	底部外面ナデ、内面一定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。Bやや不良C外灰色7.5Y6/1～浅黄色2.5Y8/3、内灰色7.5Y6/1～灰オリーブ色5Y6/2	底部外面ヘラ記号。
385	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①9.7 ②3.5 受部径12.1	底部外面回転ヘラ削り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。1mm以下の白色粗砂を若干含む。B良好C外灰色2.5Y8/1～浅黄色2.5Y7/3～暗緑灰色7.5GY4/1、内灰色N6/	受部に重ね焼きの杯蓋口縁部粘着。外面降灰。
386	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①(10.1) ②3.5 受部径(12.5)	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面2/5不定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N5/～N4/～7.5Y6/1、内青灰色5PB7/1～6/1	外面別個体片粘着。外面降灰。
387	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①10.3 ②3.5 受部径12.4	底部外面回転ヘラ削り後ナデ、一部回転ヘラ削り、内面磨滅の調整不明、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外灰白色2.5Y7/1～灰黄色2.5Y6/2	底部外面ヘラ記号。
388	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①11.0 ②3.5 受部径12.2	底部外面1/2回転ヘラ削り後ナデ、内面1/4粗雑なナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。4mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C内外灰白色7.5Y7/1、2.5Y8/2	底部外面ヘラ記号。
389	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①11.0 ②3.6 受部径12.55	底部外面ナデ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C内外淡黄色2.5Y8/3～にぶい黄褐色10YR5/4	底部外面ヘラ記号。
390	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層(混)	①11.5 ②3.7	底部外面回転ヘラ削り後ナデ、一部回転ヘラ削り、内面一定方向のナデ、他は回転ナデ。	Aやや粗。径2mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B不良C外灰色5Y5/1～灰白色5Y7/2、内灰色5Y6/1	底部外面ヘラ記号。
391	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①10.3 ②4.35 ③5.8	底部外面回転ヘラ削り後一部回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A精良。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C外灰白色10YR8/2～灰色N6/、内灰白色10YR8/2	
392	須恵器	杯身	2号窯跡灰原4区2層	①11.0 ②4.65	底部外面3/5回転ヘラ削り、底部内面磨滅の調整不明、他は回転ナデ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C内外淡黄色2.5Y8/3～にぶい黄褐色10YR7/4	底部外面ヘラ記号。
393	須恵器	椀	2号窯跡灰原4区2層	①(11.2) ②6.3 ③5.6	内外面ほとんど磨滅。底部外面回転ヘラ削り後ナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外淡黄色2.5Y8/3～暗灰黄色2.5Y5/2	
394	須恵器	椀	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原4区2層	①(12.2) ②8.2 ④体部12.8	底部外面回転ヘラ削り、内面磨滅の調整不明、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外にぶい黄褐色10YR7/4～褐色10YR5/1、内にぶい黄褐色10YR7/4	底部外面ヘラ記号。
395	須恵器	無蓋高杯	2号窯跡灰原1区最下層下層 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原4区2層 2号窯跡灰原縦ベルト2層	①12.1 ②(7.5)	杯底部外面カキメ、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外褐色7.5YR5/2～にぶい褐色7.5YR5/4、内灰褐色7.5YR6/2～褐色7.5YR6/1	
396	須恵器	盤	2号窯跡灰原4区3層 2号窯跡灰原4区2層	①(20.0) ②(4.3)	内外面回転ナデ。	Aやや粗。径4mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色N6/～5/、内灰色N5/～灰色7.5Y4/1	内面降灰。正位置で焼成。
397	須恵器	鉢	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原4区2層(混)	①(14.1) ②7.6	底部外面手持ちヘラ削り、内面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰褐色7.5YR6/2～褐色7.5YR7/6	
398	須恵器	瓶	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原4区2層	①(7.3) ②(18.6) ③胴部18.5	底部外面手持ちヘラ削り、中位～上位タタキ後カキメ、他は回転ナデ。頸部内面シボリ痕。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外青灰色5B6/1～5/1、内青灰色5PB5/1～灰色10Y4/1	
399	須恵器	脚部片	2号窯跡灰原4区2層(混) 2号窯跡灰原4区2層	②(4.15) 脚部径10.5	体部外面下カキメ、他は回転ナデ。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B良好C外暗緑灰色7.5GY3/1～灰白色10YR7/1、内灰色N5/	脚部内面ヘラ記号。内外面降灰。

表13 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
400	須恵器	横瓶	2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区3層 2号窯跡灰原4区2層	①10.65 ②28.2	口縁部内外面回転ナテ、外面平行タタキ、内面附塞面側回転ナテ後放射状文当て具痕、それ以外は放射状当て具痕。	A径1~2mmの長石、石英を含む。B良好 C外灰白色N7/~灰色N5/~暗青灰色5PB4/1~灰白色7.5Y7/1~暗青灰色5B3/1、内灰色N5/~5Y6/1~灰色5Y4/1黒色N2/	内面口縁部降灰。
401	須恵器	横瓶	1号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原4区2層	②(23.1)	外面縦格子タタキ後カキメ、内面車輪文当て具痕。	A径0.5~1mmの長石、石英を含む。B良好C外灰白色N7/~明オリーブ灰色2.5GY7/1、にぶい赤褐色5YR5/3、内灰白色N7/、灰色N4/、にぶい赤褐色5YR5/3	体部外面降灰（閉塞面側）。
402	須恵器	甕	2号窯跡灰原3区3層 2号窯跡灰原3区4層焼土 2号窯跡灰原4区2層	①(22.0) ②(15.1)	口縁部回転ナテ、外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径1mm前後の長石、石英を含む。B良好 C外灰白色N7/~黒褐色2.5YR3/1~黒色5Y2/1、内オリーブ黒色5Y3/1~褐色10YR4/1~黒褐色10YR3/1	体部部分的に降灰。
403	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区2層 2号窯跡灰原1区重機	①24.1 ②(12.9)	口縁部回転ナテ、外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~2mmの長石、石英を含む。B良好 C外灰色N5/~N7/、内灰色N5/~灰白色N7/	頸部外面3ヶ所にヘラ記号あり(2ヶ所は近く1ヶ所は離れている)。
404	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原4区2層	①42.9 ②(12.9)	口縁部回転ナテ、外面縦格子タタキ、内面ナテ同心円文当て具痕。	A径1mm程の砂粒を含む。B良好 C外灰色7.5Y6/1~暗灰色N3/~黒色N2/、内灰色7.5Y6/1~暗灰色N3/	頸部降灰。
405	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原4区2層 2号窯跡灰原1区重機	①47.3~52.0 ②(13.6)	内外面タタキ後回転ナテ。	A径0.5~2mmの長石、石英を含む。B良好 C内外灰色N5/、暗灰色N3/	
406	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原2区4層焼土 2号窯跡灰原4区2層	①(52.0) ②(13.7)	口縁部回転ナテ、外面頸部タタキ後回転ナテ、体部縦格子目タタキ、内面同心円文当て具痕。	A径0.5~3mmの長石、石英を含む。B良好 C内外灰色N6/	
407	須恵器	脚部片	2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区4層焼土 2号窯跡灰原4区2層(泥)	②(2.4) 脚部径(12.0)	内外面回転ナテ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C外灰褐色7.5YR5/2、内い褐色7.5YR5/3	高杯か碗。
408	須恵器	杯蓋	2号窯跡検出中	①(11.0) ②3.55	天井部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面2/5ナテ、他は回転ナテ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰色N5/	天井部外面ヘラ記号。
409	須恵器	杯蓋	2号窯跡検出中	①11.7 ②4.25	内外面磨滅のため調整不明。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外にぶい褐色7.5YR7/4、内黄褐色7.5YR7/8	天井部外面ヘラ記号。
410	須恵器	杯蓋	試掘時表探	①12.3 ②3.65	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面円周方向のナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。径2mm以下の石英、長石等をやや多く含む。B良好C外灰色N5/、内褐色5YR5/1	天井部外面ヘラ記号。
411	須恵器	杯身	2号窯跡検出中	①(8.9) ②4.0 受部径(11.0)	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面円周方向のナテ、他は回転ナテ。	A精良。径4mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C内外灰色N6/	天井部外面ヘラ記号。
412	須恵器	杯身	2号窯跡検出中	①(10.2) ②2.9 受部径(11.9)	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面3/4ナテ、他は回転ナテ。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/、内オリーブ灰色5GY6/1~灰色N6/	底部外面ヘラ記号。立ち上がり部が内面側に異変。大きく割れ目。
413	須恵器	杯身	2号窯跡検出中	①10.1 ②3.2 受部径12.5	底部外面回転ヘラ切り後ナテ、一部回転ヘラ削り、内面2/3ナテ、他は回転ナテ。	A密。径4mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C外灰褐色5YR5/2、内褐色5YR5/1	口縁部割離(使用痕?)。底部外面ヘラ記号。
414	須恵器	杯身	試掘時表探	①11.0 ②3.75 受部径13.25	体部外面4/5回転ヘラ削り、内面回転ナテ後ナテ、他は回転ナテ。	A精良。径3mm以下の石英、長石等を少し含む。Bやや不良C外灰色N6/、内赤灰色2.5YR6/1	底部外面ヘラ記号。
415	須恵器	杯身	試掘時表探	①11.3 ②4.35 受部径13.7	底部外面1/2回転ヘラ削り、内面ナテ、他は回転ナテ。	Aやや粗。径4mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰白色7.5Y7/1~灰色N5/、内灰白色7.5Y7/1	
416	須恵器	碗	2号窯跡検出中	①(10.7) ②(8.05)	体部内外面回転ナテ、底部外面ナテ? 端部から体部外面は磨滅して調整不明。	A密。砂粒はほとんど含まない。B不良C外浅黄褐色10YR8/3、内浅黄褐色7.5YR8/4	
417	須恵器	高杯	2号窯跡検出中	②(5.3) 脚部径6.95	内外面回転ナテ。シボリ痕あり。	A密。径1mm以下の白色粗砂をごく少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/2	脚部内面ヘラ記号。
418	須恵器	短頸蓋	出土位置不明	①(10.4) ②3.05	天井部外面回転ヘラ切り後ナテ、内面回転ナテ後ナテ、他は回転ナテ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C外灰色N5/、内灰色N4/~6/	天井部外面ヘラ記号。
419	土師器	把手	出土位置不明	-	外面上半指頭痕、下半ハケメ、体部内面ヘラ削り。	Aやや粗。径3mm以下の石英、長石、ウソ等をやや多く含む。B良好C外浅黄褐色10YR8/3~褐色7.5YR6/8、内浅黄褐色10YR8/4	
420	弥生土器	甕	2号窯跡検出中	②(5.0) ③(8.6)	内面ナテ、他は磨滅の為調整不明。	A粗。1mm以下の白色粗砂、赤色、黒色粒子を多く含む。B良好C外褐色2.5YR6/8~灰白色10YR8/1、内い黄褐色10YR7/3	
421	石器	石匙	表探	幅4.7長さ(6.4) ④厚み0.6		C灰色N6/	サマサイト?
422	須恵器	穿孔杯	2号窯跡灰原2区3層	②(3.45)孔径2.0	天井部外面残存部1/3回転ヘラ削り、他は回転ナテ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外褐色10YR5/1~い黄褐色10YR7/3	天井部外面ヘラ記号。天井部中央焼成前穿孔。
423	須恵器	穿孔杯	2号窯跡灰原3区4層焼土	①12.0 ②3.9 孔径2.1~2.2	内外面磨滅の為調整不明。回転ナテ。	A精良。径1mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C内外浅黄色2.5Y7/4~明黄褐色10YR7/6	天井部穿孔。
424	須恵器	杯身	2号窯跡灰原2区3層	①10.45 ②3.6 受部径12.05 孔径3.05~3.6	内外面磨滅の為調整不明。	A精良。径2mm以下の石英、長石を少し含む。B不良C内外淡黄色2.5Y8/3~い黄褐色10YR7/4	底部穿孔。
425	須恵器	穿孔杯	2号窯跡灰原4区2層	①10.55 ②3.5 受部径11.9 孔外径2.7~3.35	底部外面磨滅の為調整不明、他は回転ナテ。	A精良。径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B不良C内外浅黄色2.5Y7/4	体部外面ヘラ記号。底部穿孔。
426	須恵器	重ね焼き	2号窯跡灰原4区2層(泥)	杯蓋①12.4 ②3.6 受部径13.15	天井部外面2/3回転ヘラ切り後一部回転ヘラ削り、他は回転ナテ。 底部外面1/2回転ヘラ切り後一部回転ヘラ削り、他は回転ナテ。	A精良。杯蓋径1mm以下の石英、長石等を少し含む。杯身外径2mm以下の石英、長石等を少し含む。B良好C杯蓋外灰白色N7/~灰色N4/、杯身外灰白色N7/	杯蓋天井部と杯身底部外面にヘラ記号、杯蓋降灰多く、上位置で焼成?
427	須恵器	重ね焼き	2号窯跡灰原1・2区間下層 ベルト4層	②(11.1) ④(3.6)	杯底部外面回転ヘラ切り後ナテ、他は回転ナテ。	A密。2mm以下の白色粗砂を少し含む。黒色粒子を含む。B良好C外灰色N5/~N4/、内青灰色5PB6/1	蓋口縁部からかえりか粘着。蓋外面降灰。

表14 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
428	須恵器	重ね焼き	2号窯跡灰原1区3層最下層	①(10.0) ②2.6 受部径(11.8)	底部外面へラ切り後ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N6/~灰白色10Y8/1、(稀)オリブ黒色10Y3/2~黄褐色10YR8/6、内灰色N6/	外面全体降灰。外面杯蓋2個体、杯身1個体分軸着。
429	須恵器	重ね焼き	2号窯跡灰原2区3層	主な3セットはいずれも直径12cmくらい	重ね焼きで軸着の為、調整不明。	A3セットとも密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外緑灰色5G6/1~オリブ黒色5GY2/1~暗オリブ灰色5GY3/1~明黄褐色10YR6/8~灰白色10YR8/1、内灰色N6/~灰白色N7/	3セット重ね焼きの軸着。外面降灰。身と蓋が逆に積まれて焼成。
430	須恵器	重ね焼き	2号窯跡灰原1区1層	②(6.5)	外面下半一部回転へラ削り、他は降灰の為調整不明、内面回転ナテ。	A密。黒色粒子を含む。B良好C外灰色5Y6/1~5/1~浅黄色5Y7/4~灰白色10Y7/2、灰色N7/~N5/~N6/	外面全体降灰。底部外面に別個体口縁部片軸着。上下逆位置で焼成か?
431	須恵器	切削物	2号窯跡灰原2区1層	縦1.55 横4.9 厚み1.4	外面タタキ、内面当て具痕。一部ナテ。	A微砂を少々含む。B良好 C内外赤灰色5R5/1	
432	須恵器	切削物	2号窯跡灰原4区1層	縦1.7 横5.95 厚み1.35	外面タタキ、内面当て具痕。一部ナテ。	A径0.5mm程の長石、石英を少量含む。B良好 C内外暗灰色N3/	
433	須恵器	切削物	2号窯跡灰原1区重機	縦2.8 横6.45 厚み1.15	外面格子目タタキ、内面当て具痕。一部ナテ。	A径0.5mm以下の長石、石英を少量含む。B良好 C内外暗紫灰色5RP4/1、灰色N5/	
434	須恵器	切削物	2号窯跡灰原1区	縦3.3 横4.6 厚み1.8	外面タタキ後ヨコナテ、内面同心円文当て具痕。一部ヨコナテ。	A径1mm程の長石を少々含む。B良好 C内外灰色N4/	
435	須恵器	切削物	2号窯跡灰原2区3層	縦3.1 横6.8 厚み1.6	外面タタキ後ナテ、内面当て具痕。一部ナテ。	A径0.5mm以下の長石、石英を含む。B良好 C内外灰色N4/、灰色N5/	
436	須恵器	切削物	2号窯跡灰原2区3層	縦3.15 横8.7 厚み1.35	外面タタキ後ナテ、内面当て具痕。一部ナテ。	A径0.5mm程の長石、石英を含む。雲母を含む。B良好 C内外にぶい黄色7.5YR7/3、にぶい黄褐色10YR7/3	
437	須恵器	切削物	2号窯跡灰原1区3層最下層	縦1.9 横9.2 厚み1.15	外面タタキ、内面同心円文当て具痕。一部ナテ。	A微砂を少々含む。B良好 C内外灰褐色5YR5/2	
438	須恵器	切削物	再拡張部	縦3.3 横9.1 厚み1.9	外面タタキ後回転ナテ、内面同心円文当て具痕。一部ナテ(指頭圧痕あり)。	A径0.5mm程の長石、石英を多く含む。B良好 C内外灰色N5/、灰黄褐色10YR4/2	
439	須恵器	切削物	2号窯跡灰原1区重機	縦2.4 横9.7 厚み1.65	外面格子目タタキ、内面当て具痕。一部ナテ。	A微砂を少量含む。径1~2mmの石英をごく少量含む。B良好 C内外灰色5Y5/1	
440	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区3層 2号窯跡灰原1区拡張部 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区2層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡灰原4区2層 2号窯跡検出中 再拡張部 再拡張部最下層	長側面124.9~ 短側面54.6 側壁高28.8 厚さ1.6~2.0	長側面外面下部斜位方向のナテの上部を横位に近い斜位のナテ、内面横位に近い斜位のへラ削り後ナテ。短側面外面斜位のナテ、内面下部を横位に近い斜位のナテ後上部を斜位のナテ。底部外面指頭痕顕著。	Aやや粗。径3~5mm以下の石英・長石をやや多く含む。Bやや不良C棺底外面灰色2.5Y6/2~にぶい黄色2.5Y6/4、内面灰色5Y6/1。棺身外面にぶい黄色2.5Y6/4~明黄褐色10YR7/6~暗灰色N3/、内面明黄褐色10YR7/6~黄灰色2.5Y5/1	1号陶棺、一部の破片に二次焼成の痕跡あり。
441	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原3層 2号窯跡灰原4区 2号窯跡灰原4区2層 2号窯跡検出中 再拡張部	長側面74.1~ 短側面42.0~ 側壁高28.5 脚部高3.9 脚部高~側壁上端部高32.4 厚さ2.0~2.2	外面中位斜位のナテ、粘土帯付近はヨコナテ、隅角部タテ方向のナテ、内面斜位のナテ、底部との境・上端部付近ヨコナテ、隅角部タテ方向のナテ、長側面で斜位のナテ以前に斜位のへラ削りを施す。	Aやや粗。径7mm以下の石英・長石をやや多く含む。Bやや不良C棺底外面灰色5Y4/1~浅黄色2.5Y7/4、内面灰色5Y4/1~にぶい黄色2.5Y6/4。棺身外面明黄褐色10YR7/6~灰黄色2.5Y7/2~灰オリブ色5Y6/2~黒色10Y2/1、内面浅黄色5Y7/3~明黄褐色10YR7/6~灰黄色2.5Y7/2~灰オリブ色5Y6/2	1号陶棺、一部の破片に二次焼成の痕跡あり。
442	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原1区 2号窯跡灰原1区1層 2号窯跡灰原1区3層最下層 2号窯跡灰原2区 2号窯跡灰原2区1層 2号窯跡灰原2区2層 2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区1層 2号窯跡灰原4区2層	長側面115.9~ 短側面40.0~ 側壁高24.0 厚さ1.6	長側面外面斜位のへラ削り、隅角部タテ方向のへラ削り、へラ削り後粘土帯貼付、内面横位のへラ削り後ナテ、相底との境は強いヨコナテ、短側面外面へラ削り後ナテ、内面調整不明、底部外面指頭痕顕著。	Aやや粗。径4mm以下の石英・長石をやや多く含む。Bやや不良C棺底外面灰色5Y6/1~4/1、内面灰色5Y6/1、棺身外面にぶい黄色2.5Y6/4~灰色7.5Y4/1~N4/、内面にぶい黄色2.5Y6/4~灰色5Y5/1	2号陶棺。
443	須恵質	陶棺蓋	2号窯跡灰原2区3層 2号窯跡灰原3区1層 2号窯跡灰原4区1層 2号窯跡検出中	長側面8.6~ 短側面39.9 孔径(9~10) 厚さ1.4	外面横位のへラ削り、端部内外面ヨコナテ、受部貼付の指頭痕顕著、内面ナテ。	Aやや粗。径5mm以下の石英・長石をやや多く含む。Bやや不良C明黄褐色10YR6/6~黄灰色2.5Y5/1	2号陶棺棺蓋。短側面部分。
444	須恵質	陶棺蓋	2号窯跡灰原2区3層	長側面39.8~ 高さ(24.9) 厚さ1.0~1.6	外面へラ削り後ナテ、内面ナテ、長側面と平行に幅2cm程度の板状圧痕あり。中央部に封じ穴あり、内面本調整。	A粗。径4mm以下の石英・長石を多く含む。Bやや不良C外にぶい黄色2.5Y6/4~灰黄色2.5Y7/2、内暗灰色2.5Y5/2~灰黄色2.5Y7/2	2号陶棺棺蓋。中央部分。
445	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原2区3層	②5.6 脚部径(10.7)	天井部外面ナテ、内面不定方向のナテ、他は回転ナテ。脚部端面取り。	A粗。径2mm程度の白色粗砂を多く含む。B良好C脚部内外灰色5Y4/1、天井部灰黄色2.5Y6/2	
446	須恵質	陶棺	2号窯跡検出中	①(1.9)	天井部外面回転へラ削り後ナテ、回転へラ削り、残存部他は回転ナテ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C内外灰色5Y6/1	
447	須恵質	陶棺	2号窯跡検出中	②(3.9) 脚部径(11.1)	内外面回転ナテ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、黒色粒子を含む。Bやや不良C外灰色5Y5/1、内灰色5Y6/1	
448	須恵質	陶棺	2号窯跡検出中	②(2.1)	内外面回転ナテ。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。Bやや不良C内外灰色2.5Y6/2	
449	須恵質	陶棺	2号窯跡検出中	②(1.8)	内外面回転ナテ。	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂をやや多く含む。Bやや不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4~黄灰色2.5Y5/1	
450	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原3区1層	②(1.7)	内外面回転ナテ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。雲母を含む。Bやや不良C内外にぶい黄褐色10YR7/4、灰黄色2.5Y6/2	
451	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原2区2層	②(3.6)	内外面回転ナテ。	A粗。1mm以下の白色粗砂を多く含む。B不良C外灰色2.5Y6/2、内にぶい黄褐色10YR7/3	
452	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原4区2層	②(4.4)	内外面回転ナテ。	A密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰黄褐色10YR5/2	1号陶棺(441)に接合。
453	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原谷出口付近	②(2.8)	内外面回転ナテ。	A密。5mm以下の白色粗砂を少し含む。Bやや不良C外黄灰色2.5Y6/1、内にぶい黄褐色10YR7/2	
454	須恵質	陶棺	2号窯跡灰原4区2層	②(1.75)	内外面回転ナテ。	A密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外灰黄褐色10YR5/2	
456	須恵器	蓋	2号窯跡灰原1区最下層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色2.5Y5/1、内灰色N4/	タタキ目に直交する一条の突線あり。

表15 野添遺跡第7次調査出土遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高 ③底径④最大径	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
457	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径3mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好C内外灰白色N7/	タタキ目に直交する二条の実線あり。
458	須恵器	横瓶	2号窯跡灰原2区3層		外面平行タタキ、内面放射状文当て具痕。	A径1~2mmの白色粗砂を含む。B良好C外灰白色N7/~灰 色N5/~暗青灰色5PB4/1、内灰色N5/~灰色5Y4/1	400と接合。
459	須恵器	横瓶	2号窯跡灰原1区重機		外面縦格子タタキ、内面車輪文当て具痕。	A密。径0.5~1mmの白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N7/	401と接合。
460	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区3層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5~1mmの白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
461	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5~1mmの白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N7/	
462	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5~1mmの白色粗砂を含む。Bやや不良C内外 にふい褐色5YR6/3	
463	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
464	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外灰色 5Y6/1、内褐色10YR6/1	
465	須恵器	甕	2号窯跡灰原2区4層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕、一部 平行条線文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外暗灰色 N3/、内灰色N6/	
466	須恵器	甕	2号窯跡灰原3区2層		外面縦格子目タタキ後カキメ、内面同心円文当 て具痕。	A径1~2mmの白色粗砂を含む。B良好 C内外灰白色N8/ 灰色N4/~N3/	
467	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径3mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
468	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
469	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外灰色N7/ 内N5/	
470	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
471	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N4/	内面二次焼成痕あり。
472	須恵器	甕	再拡張部		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外黄灰色 2.5Y6/1	
473	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色 2.5Y7/1	
474	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N4/	
475	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
476	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N4/	
477	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色5Y6/1	
478	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N4/	
479	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機		外面縦格子タタキ、内面宝相華状の当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外灰色 N5/、内灰白色N7/	当て具の溝は深く深く、同 種の当て具痕は類例がない。 原体は陶製・金属製か？
480	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外黄灰色 2.5Y7/2、内灰白色N7/	
481	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N4/	
482	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外にふい 褐色7.5YR5/4	
483	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1~3mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
484	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N6/	
485	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N5/	
486	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N7/	
487	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区横ベルト 清掃中		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色 N6/	
488	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N4/	内面降灰。二次焼成痕。
489	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径1mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N5/	
490	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区3層最下層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外暗灰色 N3/、内灰色N6/	
491	須恵器	甕	再拡張部		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外暗灰色 N3/、内灰色N6/	
492	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区重機		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕後平 行条線文当て具痕。	A密。径2mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外暗灰色 N3/~灰白色N7/、内灰色N5/	
493	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰オ リーブ色5Y6/2	
494	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰オ リーブ色5Y6/1	
495	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色N5/	
496	須恵器	甕	2号窯跡灰原3区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外灰色 N8/、内灰色5/	
497	須恵器	甕	再拡張部		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C内外灰白色6/	
498	須恵器	甕	2号窯跡灰原1区1層		外面縦格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A密。径0.5mm程度の白色粗砂を含む。B良好C外淡黄色 2.5Y8/3、内N7/	

Ⅲ. 自然科学分析の成果

野添遺跡6・7次調査における樹種同定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、野添遺跡6・7次調査において検出された6世紀末から7世紀前半と考えられる窯跡及び窯跡の灰原より出土した炭化材35点と、灰原を切り込んで造られた防空壕と想定される横穴の床面構築材1点である。

3. 方法

試料のうち木材は、カミソリを用いて試料の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。また、炭化材については、試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果を表16に、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科 図版70-1

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え、広く用いられる。

ヤマモモ *Myricaceae rubra* Sieb. et Zucc. ヤマモモ科 図版70-2

横断面：小型でやや角張った道管が、単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は4～12本ぐらいである。放射組織は異性である。軸方方向柔細胞に多室結晶細胞が見られる。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1～3細胞幅である。

以上の形質よりヤマモモに同定される。なお部分的にヤマモモの特徴を示すが、炭化等により変形が著しく、広範囲の観察が困難な試料はヤマモモ?とした。ヤマモモは本州（房総半島南部、福

井県以南)、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ15m、径1mに達する。材は器具、旋作、燃材に用いられる。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 図版70-3

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小
道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性ともに低く、建築材などに用いられる。

シイ属 *Castanopsis* ブナ科

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小
道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽、保存性やや低く、建築、器具などに用いられる。

なおシイ属には、スタジイとツブラジイがあり、集合放射組織の有無などで同定できるが、本試料は小片であり広範囲の観察が困難であったため、シイ属の同定にとどまる。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版71-4

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。なお部分的にコナラ属アカガシ亜属の特徴を示すが、炭化等により変形が著しく、広範囲の観察が困難な試料はコナラ属アカガシ亜属？とした。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。とくに農耕具に用いられる。

クスノキ科 *Lauraceae*

横断面：中型から小型の道管が、単独および2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。
道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部のみ直立細胞である。

以上の形質よりクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキ、シロダモ属などがあり、道管径の大きさ、多孔穿孔および道管内壁のらせん肥厚の有無などで細分できるが、本試料は道管径以外の点が不明瞭なため、クスノキ科の同定にとどまる。なお、本試料は道管径の大きさから、クスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかである。

ユズリハ属 *Daphniphyllum* ユズリハ科 図版71-5

横断面：小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～50本である。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1～2細胞幅である。

以上の形質よりユズリハ属に同定される。なお部分的にユズリハ属の特徴を示すが、炭化等により変形が著しく、広範囲の観察が困難な試料はユズリハ属？とした。ユズリハ属にはユズリハ、ヒメユズリハなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木または低木である。

ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図版71-6

横断面：大型でやや厚壁の道管が単独ときに2個複合して年輪のはじめに1～2列疎に配列する環孔材である。晩材部では小型で薄壁の角張った道管が数個おもに放射方向に複合して散在する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では数列幅で带状となって接線方向に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は同性である。小道管の内壁にらせん肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で1～3細胞幅である。放射組織の外形はいびつである。

以上の形質よりムクロジに同定される。ムクロジは本州（茨城県、新潟県以南）、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1mに達する。材はやや軽軟で脆弱な材で、器具、家具などに用いられる。

シャシャンボ *Vaccinium bracteatum* Thunb. ツツジ科 図版72-7

横断面：小型で角張った道管が、単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく10本前後のものが多いが、まれに単穿孔も認められる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと、6～8細胞幅で長い紡錘形を示す多列のものからなる。多列のものはほとんどが平伏細胞からなるが、上下縁辺部と側面部に直立細胞が見られる。

以上の形質よりシャシャンボに同定される。シャシャンボは関東南部以西の本州、四国、九州に分布する。常緑の低木で、通常高さ1～5m、径10cmぐらいであるが、大きいものは高さ10m、径70cmに達する。

カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 図版72-8

横断面：中型から大型の道管が、単独および2～4個放射方向に複合して、散在する散孔材である。

道管の壁は厚い。軸方向柔細胞は周囲状および接線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。いずれの放射組織も高さがほぼ同じで、層階状に配列する傾向を示す。

以上の形質よりカキノキ属に同定される。カキノキ属には、トキワガキ、ヤマガキ、マメガキなどがあり、本州（西部）、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径1mぐらいに達する。材は、建築、器具などに用いられる。

ハイノキ属 *Symplocos* ハイノキ科 図版72-9

横断面：小型で角張った道管が、単独あるいは2～4個不規則に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～50本ぐらいである。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～3細胞幅である。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりハイノキ属に同定される。ハイノキ属には、ハイノキ、クロバイ、サワフタギ、クロキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑または落葉性の高木または低木である。

5. 所見

同定の結果、野添遺跡6・7次調査の炭化材は、ヤマモモ2点、ヤマモモ? 1点、ツブラジイ3点、シイ属2点、コナラ属アカガシ亜属12点、コナラ属アカガシ亜属? 2点、クスノキ科1点、ユズリハ属3点、ユズリハ属? 2点、ムクロジ1点、シャシャンボ2点、カキノキ属1点、ハイノキ属3点であった。最も多いコナラ属アカガシ亜属（カシ）は、温帯下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木で、自然度が高いイチイガシや二次林性のアラカシなどがある。シイ属（ツブラジイを含む）も照葉樹林の主要高木で二次林性でもある。ヤマモモ、クスノキ科、シャシャンボも照葉樹林に自生する広葉樹である。ユズリハ属、ムクロジは山野に自生し、温帯下部の暖温帯から亜熱帯に分布する広葉樹である。ハイノキ属は、暖地の山地や林内に成育する広葉樹である。以上のように、野添遺跡6・7次調査で出土した炭化材は、いずれも温帯下部の暖温帯に分布する樹種であり、遺跡の周辺あるいは近隣よりもたらずことのできる樹種である。また当時、遺跡周辺には照葉樹林が分布しており、また二次林化していたことが考えられる。

洞窟壕の床面構築材と考えられる木材は、アカマツであった。アカマツは、現在、建築の用途としては、土台、軸組、垂木、羽目板、屋根板等に用いられている。

参考文献

- 佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.20-48.
- 佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100.
- 島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296
- 山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p.242

表16 野添遺跡6・7次調査における樹種同定結果

No.	遺構名	遺構名	結果(学名/和名)	
1	6次	灰原4区1層黒色土	<i>Diospyros</i>	カキノキ属
2		灰原4区1層黒色	<i>Daphniphyllum?</i>	ユズリハ属?
3		灰原1区上方灰原1層黒色	<i>Sapindus mukorossi</i> Gaertn.	ムクロジ
4		灰原2区下方1層黒褐色	<i>Symplocos</i>	ハイノキ属
5		灰原3区2層黒色	<i>Myrica rubra</i> Sieb.et Zucc.?	ヤマモモ?
6		灰原3区2層黒色	<i>Daphniphyllum</i>	ユズリハ属
7		灰原3区2層黒色土	<i>Myrica rubra</i> Sieb.et Zucc.	ヤマモモ
8		灰原3区3層黒色	<i>Symplocos</i>	ハイノキ属
9		灰原3区2層黒色土	<i>Symplocos</i>	ハイノキ属
10		洞窟壕床面構築材	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	アカマツ
11	7次	1号窯跡焚口ベルト3層	<i>Daphniphyllum</i>	ユズリハ属
12		1号窯跡焚口ベルト5層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
13		1号窯跡焚口ベルト6層	<i>Daphniphyllum?</i>	ユズリハ属?
14		1号窯跡焚口ベルト7層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis?</i>	コナラ属アカガシ亜属?
15		1号窯跡焚口右区2層炭層	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky	ツブラジイ
16		1号窯跡燃焼部左区床直	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
17		1号窯跡焚口左区2層灰層	<i>Daphniphyllum</i>	ユズリハ属
18		1号窯跡焚口左区2層灰層	<i>Vaccinium bracteatum</i> Thunb.	シャシャンボ
19		1号窯跡焚口左区	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
20		1号窯跡焚口左区	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
21		1号窯跡燃焼部ベルト14層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
22		1号窯跡灰原3-5区	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
23		1号窯跡灰原2区1層炭層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
24		2号窯跡焚口横ベルト6層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
25		2号窯跡焚口横ベルト8層	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky	ツブラジイ
26		2号窯跡焚口ベルト10層	<i>Castanopsis</i>	シイ属
27		2号窯跡焚口右区1層褐色	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
28		2号窯跡焚口左区2層黒色灰層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
29		2号窯跡焚口左区2層炭層下層	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky	ツブラジイ
30		2号窯跡燃焼部床直	Lauraceae	クスノキ科
31		2号窯跡灰原2区3層黒色	<i>Castanopsis</i>	シイ属
32		2号窯跡灰原2区3層灰層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis?</i>	コナラ属アカガシ亜属?
33		2号窯跡灰原3区3区黒色	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
34		2号窯跡灰原2区1層炭層	<i>Vaccinium bracteatum</i> Thunb.	シャシャンボ
35		2号窯跡灰原2区3層黒色	<i>Myrica rubra</i> Sieb.et Zucc.	ヤマモモ
36		2号窯跡灰原4区2層炭層	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属

IV. ま と め

1. 遺構の年代

1号窯跡 1号窯跡から出土した遺物は大きく二つの時期に分かれる。一つは燃焼部床面直上から出土した一群で、杯蓋は口径12.4～13.1cm、器高3.6～4.4cmで天井部は比較的高く、丸みを持ち、杯身は口径11.4～12.0cm、器高3.6～3.8cmで、立ち上がりは内傾する。貼床内から出土した遺物のうち、2は口径10.0cmと法量的にはやや小さめであるが、杯部が深く、立ち上がりの特徴も燃焼部床面出土のものと同型式のものと同様である。これにより同型式のものと同様である。

これに対し、焚口部埋土から出土した一群は、杯蓋は口径11.0～12.6cm、器高3.5～3.8cm。杯身は口径10.0cm、器高3.3cmで、立ち上がりは内傾し、短い特徴がある。燃焼部床面出土のものと同様である。比較して法量的にやや小さく、杯身の立ち上がりは退化傾向にある。また、灰原出土遺物のうち32・33も同様である。こうした形態的特徴の異なる遺物が出土する理由としては、隣接する2号窯跡から混入した可能性が考えられる。窯跡・灰原の層位的な出土状況から考えると、1号窯跡の操業年代としては燃焼部床面出土遺物を下限とすることができよう。

では1号窯跡燃焼部床面出土資料の時期を考えてみたい。杯蓋・杯身について、周辺の窯跡出土遺物のうち同じ特徴を持つものとして野添4次2号窯跡が挙げられ、IV A期の中でもⅢ B期に近い年代を考えている（註1）。また、22の甕は明瞭な屈曲部を持つが、頸部は短く頸部外面に装飾は認められない。こうした特徴について、Ⅲ B期の野添12号窯跡出土の甕は頸部外面に波状文をもつ（註2）。後田45-I・63-I号窯跡のものは1号窯跡と同じ特徴を持ち、IV期に位置付けられる（註3）。後田46地点のものは、ラッパ状に開く頸部が屈曲部をもたずに口縁部に続き、22に比べて後出すると考えられる（註3）。後田46地点灰原出土の杯蓋の口径は11.5～12.8cmと1号窯跡燃焼部床面出土の一群に比べてやや小さく、野添4次2号窯跡に後出すると考えられる野添4次1号窯跡焚口部出土資料に近い。これらのことから、1号窯跡の操業年代の下限はIV A期の中でも古い段階にあると考えられる。上限については、明確にⅢ B期のものは認められず、操業期間はIV A期の中で収まると考えられる。

2号窯跡 2号窯跡出土遺物も、大きく2つの時期に分けることができる。まず貼床内・燃焼部床面から出土した遺物は1号窯跡焚口部埋土から出土したのと同じ特徴をもつ。これに対し、焚口部灰層から出土した遺物は杯Hとともに杯Gが出土している。杯H蓋は天井部に回転ヘラ削りを施さず、口径は10.6～11.5cmと1号窯跡焚口部埋土や2号窯跡貼床・燃焼部出土遺物に比べて小さくなっている。杯G蓋はヘラ削りをおこない、天井部から丸く下がる特徴をもつ。これらの特徴は大浦2号窯跡窯内出土遺物に類似している（註4）。また61・62のような小形・短脚の高杯は、小田浦50地点灰原において確認できる（註5）。

これらのことから、2号窯跡の操業年代は貼床内出土遺物から上限をIV A期の中でも新しい段階に置くことができ、1号窯跡の操業終了後から操業を始めるようである。下限については、焚口部灰層や焚口部埋土から出土した遺物には杯Gは一定量の出土をみる。また、高台のつく杯Bは出土していないことから、IV B期の中におくことができよう。



第61図 九州内陶棺出土遺跡分布図 (1/20000)

2. 野添遺跡7次調査2号窯跡出土陶棺の意義について

九州の陶棺 陶棺とは、「身は、長楕円または長方形で、蓋は高く作り、身の底面に、2～3列、各列平均6～9個前後に及ぶ、多くの円筒形の脚を付けるものを原則とする」（註6）ものであり、近畿地方や岡山周辺で多くの出土例が知られている遺物である。九州での出土事例は非常に少なく、1960年代に佐賀県佐賀市帯隈山神籠石東北部列石線の調査において列石線の外側に長さ1.3m、幅80cm、高さ40cmの棺身が確認されたほか、佐賀市久保泉町川久保において須恵器の陶棺片が採集された事例が知られるのみであった（註7）。

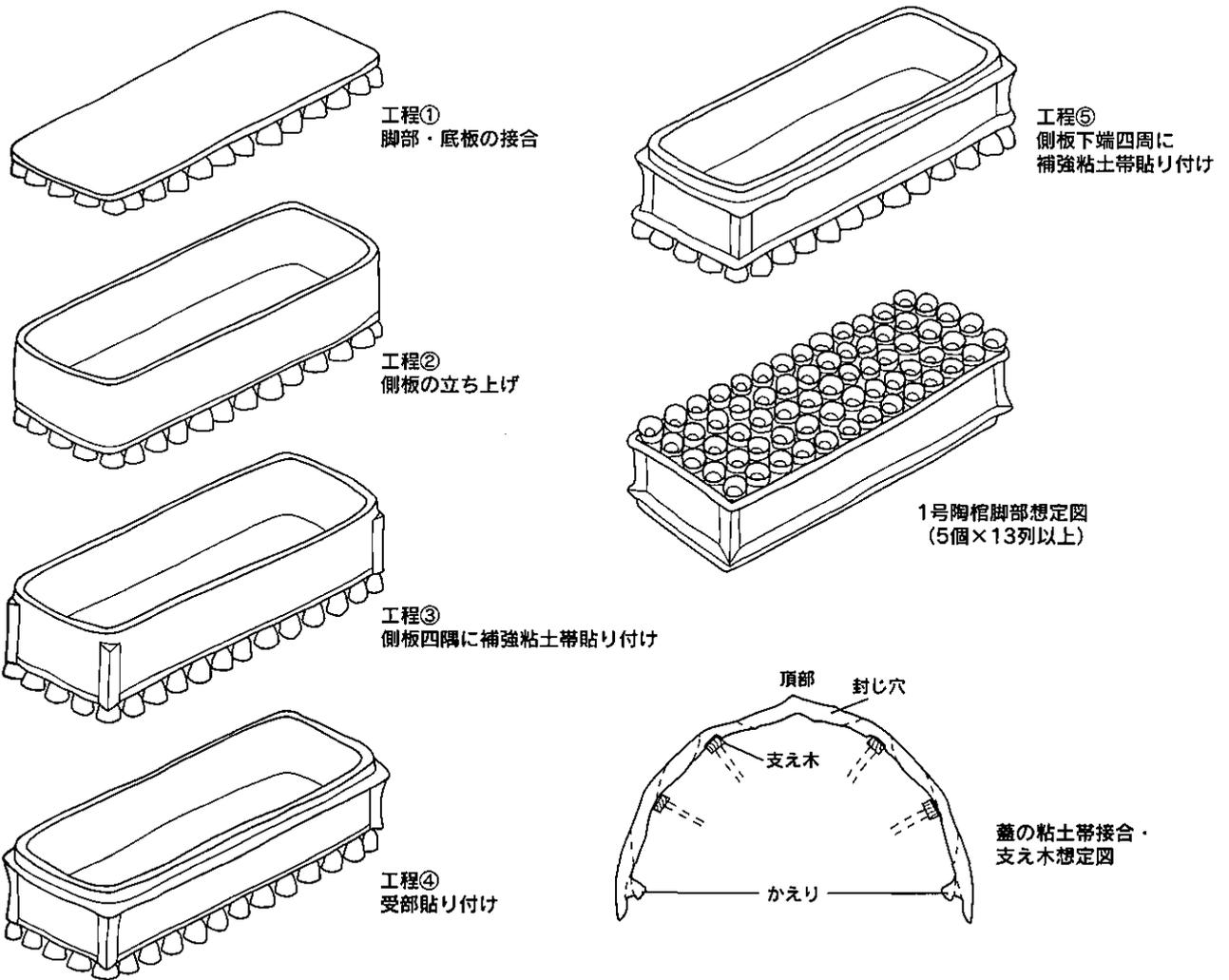
このように事例が極めて少なく、先の佐賀県の2例についても遺物の形態・所在がはっきりしないことから、九州において陶棺の存在はほとんど注目されていなかったといえる。こうした状況の中、福岡県大野城市日ノ浦遺跡において、古墳時代後期の遺物を主とする大溝の遺物の中に、陶棺と思われる破片が出土した（註8）（第62図-1）。破片は2点あり、陶棺ではないかと指摘する意見があったが、当時は周辺での事例の過少さもあり確言するにはいたらなかった。その後、大野城市梅頭1次1号窯跡の調査において灰原から陶棺の脚部と考えられる破片が出土し、牛頸窯跡群における陶棺の生産が想定されるようになった（註9）（第62図-2）。そして今回報告した野添7次2号窯跡において、全形を復元しうる陶棺2個体と蓋1個体が出土し、九州では初めて生産地からの出土が確認されたのであった。

調査時には小田富士雄氏に來跡いただき、陶棺についてご教示を賜った。その際、福岡市南区浦の田古墳群で、横穴式石室内より陶棺が出土した事例があると教示をいただいた。陶棺は（株）日本窯業史研究所が所蔵しており、2004年3月に実見した（註10）。古墳群は1968～69年に調査され（註11）、陶棺は2号墳前室から出土したものであった。調査時には壊れていたようであるが、蓋・身それぞれ1個体を確認することができた（図版73～76）。

以上、九州における陶棺の出土事例は現在6例を確認することができる。

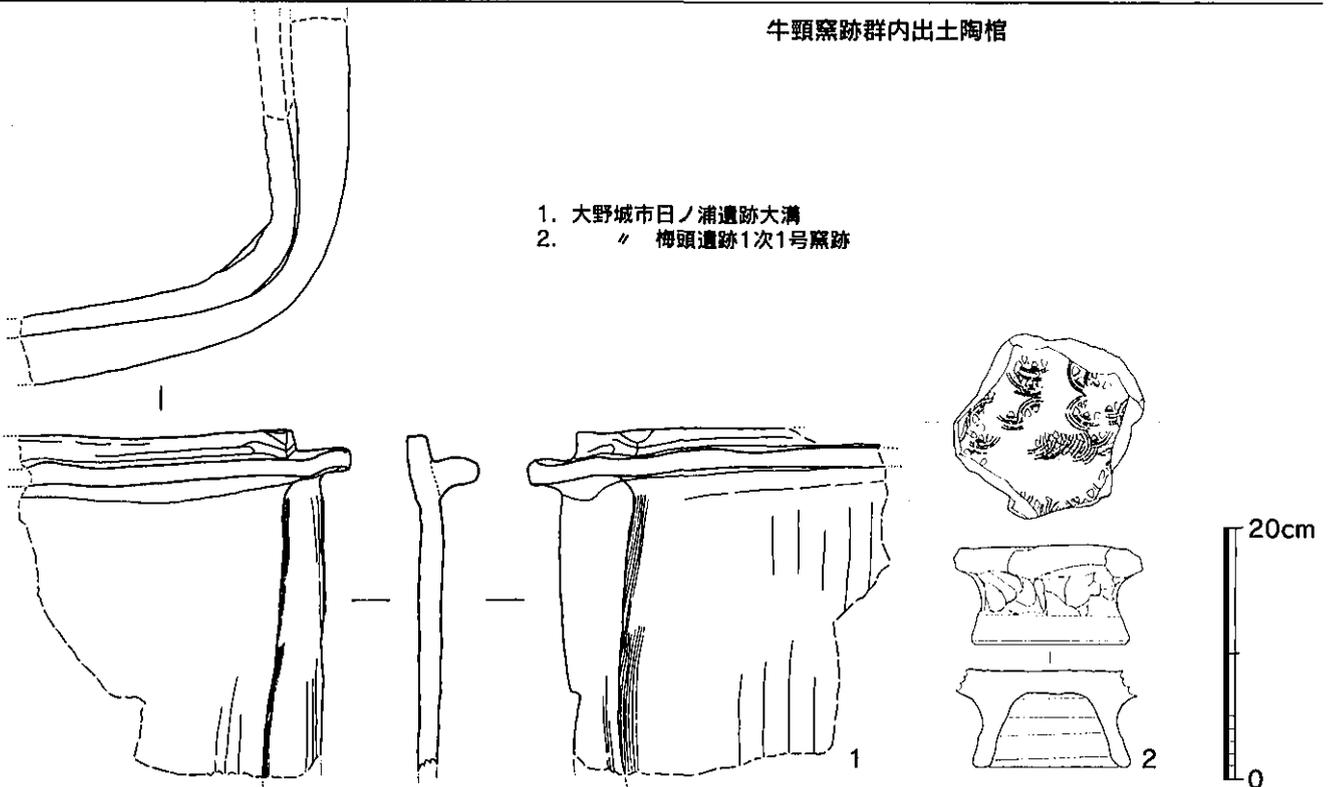
陶棺の型式 陶棺は周知のように、焼成によって土師質・須恵質のものがあり、蓋の形や突帯の有無によりさらに亀甲形・切妻形・四注家形などに分けられる。さらに土師質亀甲形陶棺と須恵質四注家形陶棺は特徴の違いと分布状況から「畿内型」と「岡山型」に分けられている（註6）。野添遺跡7次2号窯跡出土陶棺（以下、野添7次例）は、土師質に近く焼成されるが、貼床内から脚の破片が出土したことから須恵器窯内での焼成が明らかである。また蓋は1個体しか残っていないが、寄棟形の形状をとることから四注家形に分類できる。さらに、蓋の短側面に円孔を穿つことと蓋頂部の形状から畿内型に分類できる。以上のことから、野添7次例は畿内型の須恵質四注家形陶棺の特徴をもつことが明らかである。

陶棺の年代 陶棺は2号窯跡の貼床内や灰原で出土しており、1号窯跡の窯内や灰原からは全く出土しないことから2号窯跡での生産が考えられる。2号窯跡の年代は先述したとおりであるが、陶棺の焼成は貼床内から脚部片が出土したことから操業期間の中でも早い段階が想定できる。また、1・2号陶棺ともほぼ同じ特徴を有すること、接合・実測した陶棺の他にパンケース4箱ほど破片があるが1・2号陶棺以外の破片は見当たらないことから、陶棺の製作・焼成は短い期間が想定される。以上のことから、野添7次例の陶棺の生産はIVA期新段階に位置付けられる。



野添7次1号陶棺ならびに蓋の製作工程

牛頭窯跡群内出土陶棺



第62図 野添遺跡7次陶棺製作工程復元図・牛頭窯跡群出土陶棺実測図 (1/6)

製作工程の復元 2号窯跡灰原から出土した陶棺は大小2個体あるが、大きさに問わず、いずれもほぼ同じ製作工程を経ている。ここでは、全形をある程度推測できる1号陶棺を基にして、製作工程を復元していきたい(第62図)。

まず工程①は、脚と棺身の底板の接合である。脚は、口径10cm前後、器高5～6cm程度の椀形のもの(以下、椀形脚)で、通常の椀とは天井部外面のへら削りがないこと、口縁部を肥厚させ端部を平らに仕上げる点で類別が可能である。体部はロクロ成形である。これを伏せて脚とする。全体は接合しないが、1号陶棺は脚の配列は5個×13列以上が想定される。底板は、椀形脚の上に円盤状など不定形の粘土板をつなぎ合わせるようにして成形した後、四辺をへら切りにて整えている。底板の内面はナデにより丁寧に調整されているが、仔細に観察すると、樹根状の圧痕(以下、樹根状圧痕)が残されている。木葉痕かとも考えられるが、確言できない。底板の外表面はナデの痕跡が残り、椀形脚の外れた痕跡がくぼみとなって残っている。粘土板の継ぎ目は十分に整形されず、接合痕が明瞭に残る。

工程②は、側板の立ち上げである。平面形は隅丸長方形に整えられる。内外面はへら削りやナデで仕上げられ、タタキ・当て具痕は認められない。また、観察による限りでは粘土紐の積み上げ痕を認めることはできず、粘土板を使用したと考えられる。

工程③は、棺身の隅角部外面への粘土帯の貼り付けである。幅3cm程度の粘土帯を、底板から受部上面となる所まで貼り付ける。粘土帯は断面三角形形状を呈し、亀甲形陶棺に見られる突帯とは異なる。側板・底板の接合部補強や、棺身を箱形に見せるなどの機能が考えられる。

工程④は、受部の貼り付けである。受部は棺身上端部から2～3cm下がった位置に貼り付けられ、上面がほぼ平らに近い。幅4～5cm程度の断面三角形形状に仕上げられるが、接合痕の観察によれば当初は鏝状に巡らされており、側板外面の最終的な整形時に受部下面に粘土を貼り足している。受部全体はナデにより仕上げられるが、一部に樹根状圧痕が認められる。なお、工程④⑤の受部と側板下端部外面への粘土帯の貼り付けは順序が入れ替わる可能性がある。

工程⑤は、側板下端部外面に幅3cm程度の粘土帯を巡らせる。底板と側板の接合部を覆うように貼り付けられ、一部は外周の脚部にまで及ぶ。側板の整形は工程⑤の後におこなわれており、隅角部や受部下面に粘土を貼り足した後、へら削りやナデにより仕上げられる。

棺蓋は、長側面と短側面の一部しか確認できないが、製作工程をある程度復元できる。まず、側板は寄棟形に積み上げるが、短軸側ではドーム状になる。破断面の観察では、内傾する接合痕が認められる。下端部端面には、樹根状圧痕が部分的に認められる。側板をある程度積み上げると、下端部から2cmほど上がった所にかえりをつける。かえりは、断面三角形形状の小さな突出を作り出した後、幅3cmほどの断面三角形形状の粘土帯を貼り付ける。かえりはナデにより仕上げられるが、天井部側のナデは比較的丁寧なのに対し、下端部側は接合痕を残し粗雑な仕上げである。側壁をさらに積み上げると、内面に幅1.5cm程度の支え木を当てた痕跡が認められる。閉塞は棺蓋の頂部中央付近でおこなわれたと思われ、封じ穴の痕跡が認められる(図版56-(3))。封じた後、中央部にやや角をつけることで棟部を表現しているようである。長側面と短側面の境には、断面台形状の粘土帯が貼り付けられる。内外面はナデやへら削りにより整形されており、整形後短側面には径10cm程

度の円孔が穿たれる。穿孔にはヘラが用いられ、時計回り方向に砂粒の動きが認められるが、内外面いずれから施したものかは分からないが、おそらく外面からであろう。

陶棺の特徴 野添7次例は以上のような製作工程が考えられるが、陶棺の特徴について整理してみたい。まず目に付くのは、小形の椀形脚と数の多さである。小形の椀形脚は畿内にはあまり例がないようで、三重県上野市御墓山2号窯跡出土陶棺に類例を求めることができる(註12)。また1号陶棺は、5個×13列以上(65個以上)もの脚がつくものと想定され、管見の限りでは他地域の陶棺と比較しても最も多いものである。また、棺身の四隅や下端部などに粘土帯を巡らすことも特徴と考えられ、先述のように、側板・底板の接合や補強のためのものと考えられる。さらに棺身の受部は上端部からやや下がった位置につくが、棺蓋にもかえりがついている。棺蓋の大きさから2号陶棺のものと思われ、棺蓋の下端部を棺身の受部に合わせると、棺蓋のかえりと棺身の上端部がちょうど合致する。したがって、両者は計画的に配置されたものと考えることができ、棺身の上に蓋を積み上げた可能性も考えられる。

これらの特徴を吉岡博之・木村泰彦氏分類に合わせてみたい(註13)。まず脚について、芝12号墳タイプは直径10cm、高さ10cmほどの円筒形の脚を有するが、最終末に位置付けられる御坊山3号墳タイプは脚高が3cmと低脚化の傾向が認められている。野添7次例は脚高5～6cmと御坊山3号墳タイプほどではないが、高いものとは言えない。次に棺蓋の製作技法では、畿内のものは野添7次例でかえりとしたものの外側に庇状の突起をつけるが、野添7次例は杯G蓋のように棺蓋の下端部から上がった位置にかえりを貼り付けている。また棺身の受部は、野添7次例のものは上端部からやや下がった位置に鑿状に巡らす。同様の受部は、畿内の須恵質亀甲形陶棺に分類される中井山3号墳タイプに見られるが、四注式陶棺には見られないようである。さらに棺蓋と棺身の合わせ方は、畿内では例を見ないものである。

以上のように、野添7次例は畿内型に分類されるが、細部には相違が認められ単純に畿内の分類を当てはめることが難しいようである。このため、畿内のどのタイプのものに近いか、特に断定することは必要ではないと考えるが、あえて言うならば、脚の高さが御坊山3号墳タイプより高いこと、棺身受部の形状が中井山3号墳に類似すること、棺蓋の形態が芝12号墳タイプに類似することから、野添7次例は芝12号墳タイプや中井山3号墳タイプのものに近いと言えるのではないだろうか。

福岡市浦の田2号墳出土の陶棺 先述のように、1968～69年にかけて調査されたもので、現在(株)日本窯業史研究所に保管されている。ここでは2004年3月に実見した記録を基に、野添7次例と比較しながら、若干の紹介をしたい。

まず、陶棺は棺蓋・棺身とも灰白色を呈し、須恵質のものである。棺蓋は長さ120cm、幅40cm、高さ30cm程度に復元され、四注式であるが長側面と短側面の間に粘土帯が巡り、蓋の頂部は平坦に近い(図版73-(2))。蓋の頂部中央には封じ穴が認められ、内面は指頭圧痕が顕著である(図版73-(3))。蓋の下端部の断面形は、やや丸い。蓋の短側面にはヘラ描きを施し、さらに径6～7cm程度の円孔が認められ、これとほぼ同じ大きさの断面凸形の円栓も2個体確認された。また、内面には同心円当て具痕が残る(図版74)。

棺身の長さは不明であるが、幅40cm、高さ20cm以上に復元される。低い椀形脚を用いており、野添7次例に近似するが、円孔を有するものがある（図版75-（3））。脚は短軸側に3個確認でき、長軸側は棺蓋の長さと同様の間隔から7～8列程度と考えられ、野添7次例よりも少ない（図版75-（1））。棺底部外面は指頭圧痕が顕著であるが、図版76-（1）にみるように、脚の周囲に粘土を充填したものが認められる。受部は棺身上端部に巡らされ、上面には木葉痕が残ることから、受部上に棺蓋を積み上げて成形したものと考えられる（図版75-（3））。

以上挙げた点は、野添7次例と形態・技法上の差異が確認できる部分である。こうした違いはあるが、低い椀形脚を伴うこと、棺身四隅や下端部に粘土帯を伴う点は共通していることから、浦の田2号墳出土陶棺は牛頸窯跡群において生産されたものと考えられる。

今後の課題 以上のように、牛頸窯跡群における陶棺の生産と供給先の一部が明らかになった。牛頸窯跡群内における陶棺生産は野添7次例をⅣA期新段階に置くことができるが、梅頭1次例など他にも陶棺の類例があり、今後それらの時期と形態・技法差の確認が必要である。

また、陶棺について「ミワ部の棺」として須恵器生産者との関りが指摘されている（註14）。その意味で、那珂川流域の古墳から陶棺が出土した事実は、単に製品の供給先というだけでなく、牛頸窯跡群の管理者に関しても重大な示唆を与えている。さらに四注式を採用する点は畿内の窯跡群との技術的交流を明確に示すだけでなく、製作技法も棺蓋に認められるように支え木の痕跡を有し、ドーム状に積み上げられ、頂部中央付近に封じ穴を有するなど、ほぼ同時期に当時の先端技術がもたらされていることは極めて重要である。このように、牛頸窯跡群における陶棺の存在は非常に大きな意義を持っているが、現時点では十分な解答を持ち合わせていない。今後の検討課題としたい。

註1 石木秀啓2005『牛頸野添遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第66集

時期に関して、特に断りのない限り須恵器は小田編年を用いる。表記については、小田編年以外を使用する場合は編年作成者の名前を冠する。

註2 舟山良一1987『野添窯跡群』大野城市文化財調査報告書第22集

註3 舟山・向1991『牛頸後田窯跡群』大野城市文化財調査報告書第33集

註4 小田富士雄・柳田康雄1970『野添・大浦窯跡群』福岡県文化財調査報告書第43集

註5 舟山良一1992『牛頸小田浦窯跡群』大野城市文化財調査報告書第35集

註6 間壁葎子1992『吉備古代史の基礎的研究』学生社

註7 佐賀県教育委員会1969『帯隈山神籠石東北部調査概報』

註8 徳本洋一1994『牛頸日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第42集

註9 現在報告書作成中

註10 実見および今回の紹介にあたっては、(株)日本窯業史研究所河野一也氏・河野真理子氏・水野順敬氏に多大なご好意と便宜をいただいた。記して感謝申し上げたい。

註11 柳田康雄1969「第3-2那珂川流域の古墳とその編年」『油田古墳群』那珂川町文化財調査報告書第1集

註12 笠井賢治・福田典明1999『御墓山窯跡発掘調査報告』上野市文化財調査報告49

註13 吉岡博之・木村泰彦1979『山城地方出土陶棺集成』『長岡京跡発掘調査研究所調査報告書』第1集

註14 中村展子2004『生産からみた陶棺の変容とその背景』『洛北史學』第6号

菱田哲郎2005『須恵器の生産者』『列島の古代史4人と物の移動』菱田氏には2006年3月に陶棺を実見いただき、有益なる助言を頂いた。記して感謝申し上げたい。

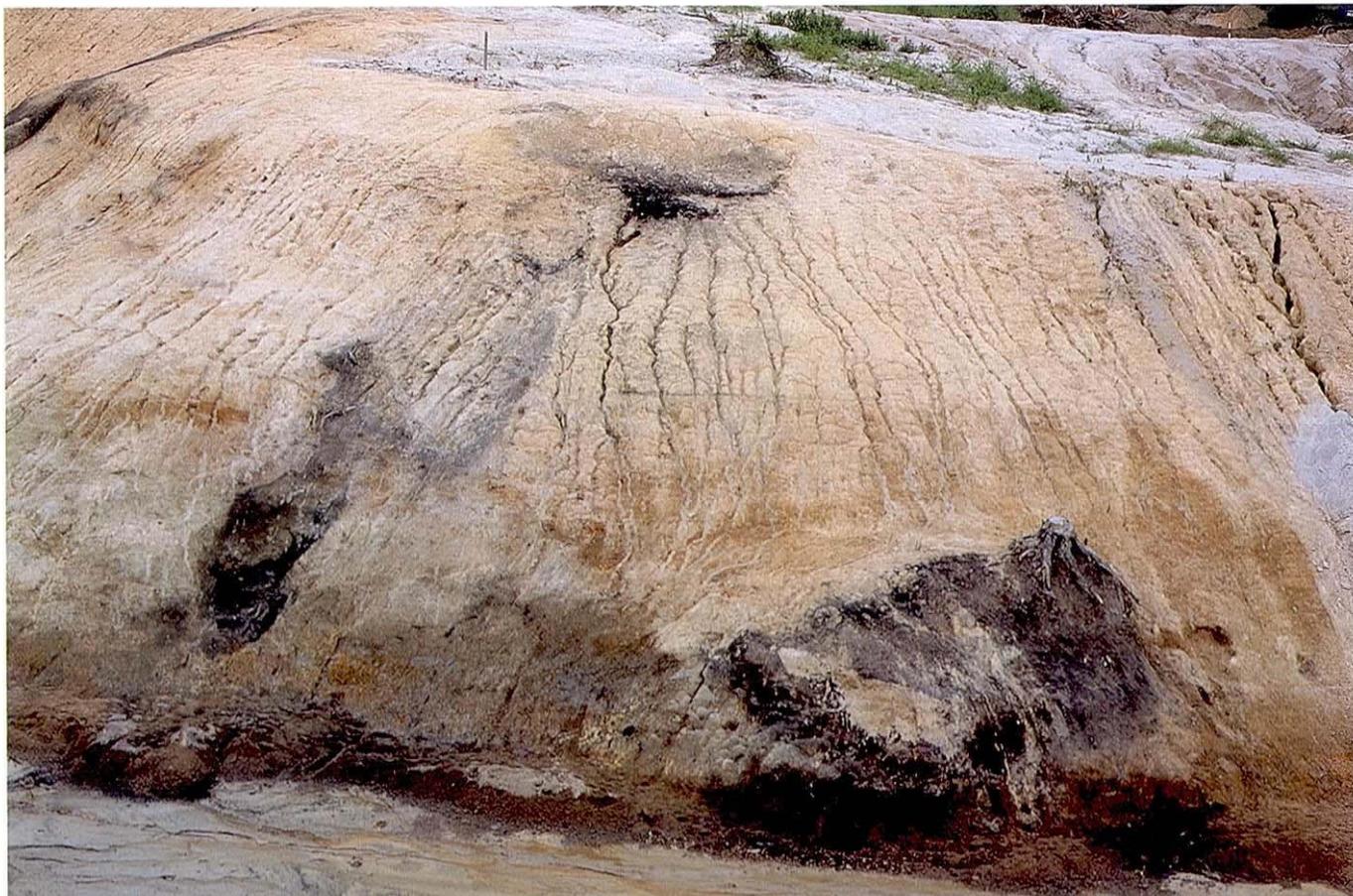
圖 版



(1) 7次調査地遺構検出状況（南から）



(2) 7次調査地遺構完掘状況（南から）



(1) 1号窯跡検出状況（南東から）



(2) 1号窯跡最終操業面検出状況（南東から）



(1) 1号窯跡左側壁全景
(東から)



(2) 1号窯跡右側壁全景
(南西から)



(3) 1号窯跡窯体内縦断
土層 (B-B'面) ①
灰原～燃烧部
(東から)



(1) 1号窯跡窯体内縦断
土層 (B-B'面) ②
燃烧部~烧成部
(東から)



(2) " ③
烧成部 (北東から)



(3) 1号窯跡焚口部横断
土層 (F-F'面)
(南東から)



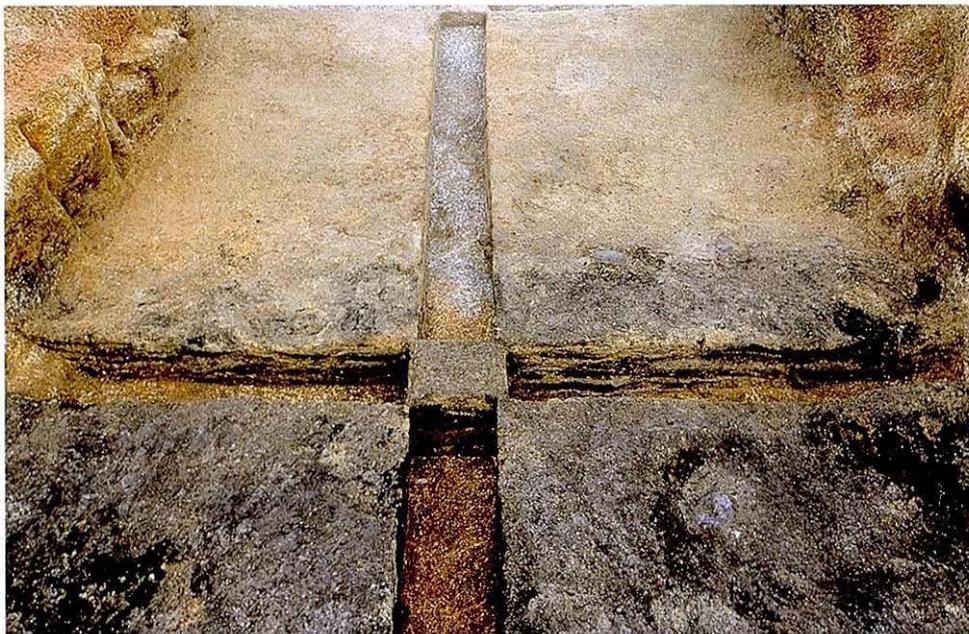
(1) 1号窯跡焚口部横断
土層 (D-D'面)
(南東から)



(2) 1号窯跡貼床断割縦
断面 (A-A'面) ①
燃烧部 (南西から)



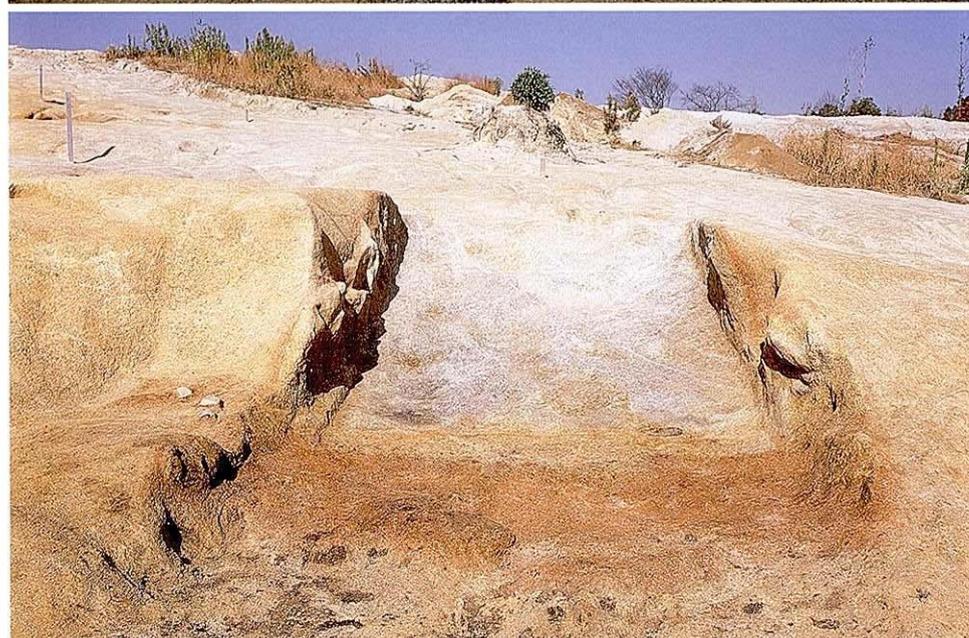
(3) " ②
焼成部 (南西から)



(1) 1号窯跡貼床断割横
断面① (E-E'面)
(南東から)



(2) " ②
(C-C'面)
(南東から)



(3) 1号窯跡貼床完掘状況
(南東から)



(1) 1号窯跡窯体断割横
断面① (E-E'面左
半部) (南東から)



(2) " ②
(E-E'面右半部)
(南東から)



(3) 1号窯跡窯体断割縦
断面① (A-A'面)
燃烧部 (南西から)



(1) 1号窯跡窯体断割縦断面② (A-A'面)
燃烧部 (南東から)



(2) 1号窯跡灰原1 縦断土層① (B-B'面上半部) (北東から)



(3) // ②
(B-B'面下半部)
(北東から)



(1) 1号窯跡灰原2 縦断
土層 (G-G' 面)
(南西から)



(2) 1号窯跡灰原3 縦断
土層① (下半部)
(北東から)



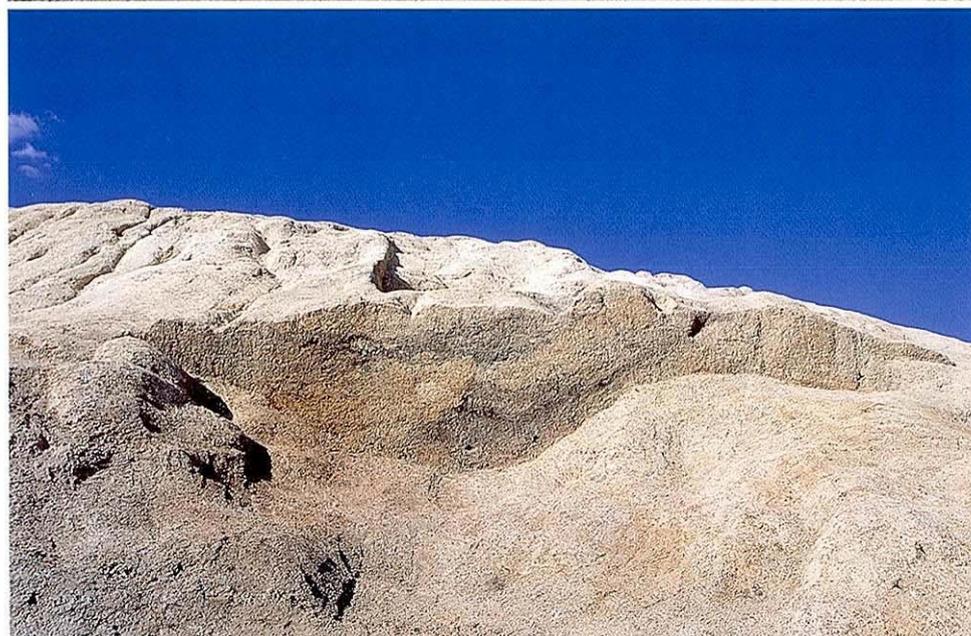
(3) " ②
(上半部) (東から)



(1) 1号窯跡灰原3縦断
土層③ (横断面土層
下方①) (東から)



(2) " ④
(横断面土層下方②)
(東から)



(3) 1号窯跡灰原3横
断土層 (南東から)



(1) 2号窯跡検出状況（南から）



(2) 2号窯跡最終操業面検出状況（南西から）



(1) 2号窯跡左側壁全景
(南東から)



(2) 2号窯跡右側壁全景
(西から)



(3) 2号窯跡窯体内縦断
土層 (A-A'面) ①
灰原～燃焼部
(南東から)

(1) 2号窯跡窯体内縦断
土層 (A-A'面) ②
燃烧部~烧成部
(南東から)



(2) " ③
烧成部 (南東から)



(3) 2号窯跡窯体内横断
土層 (E-E'面)
(南西から)





(1) 2号窯跡窯体内横断
土層② (B-B'面)
(南西から)



(2) 2号窯跡貼床断割縦
断面 (A-A'面) ①
燃烧部 (南東から)



(3) " ②
焼成部 (南東から)

(1) 2号窯跡貼床断割縦
断面 (A-A'面) ③
焼成部 (南東から)

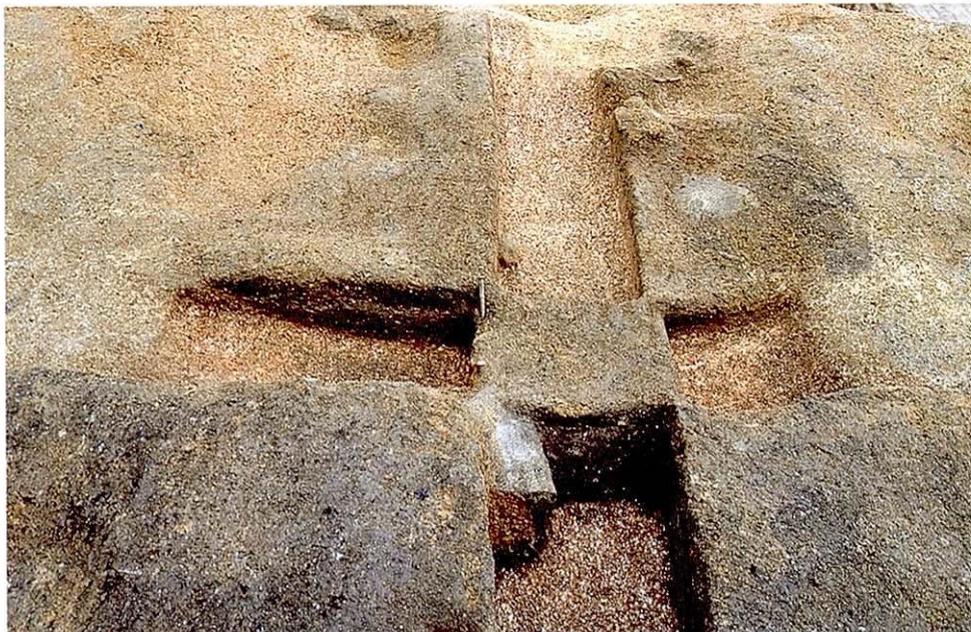


(2) 2号窯跡貼床断割横
断面 (D-D'面) ①
左半部 (南西から)



(3) // ②
右半部 (南西から)

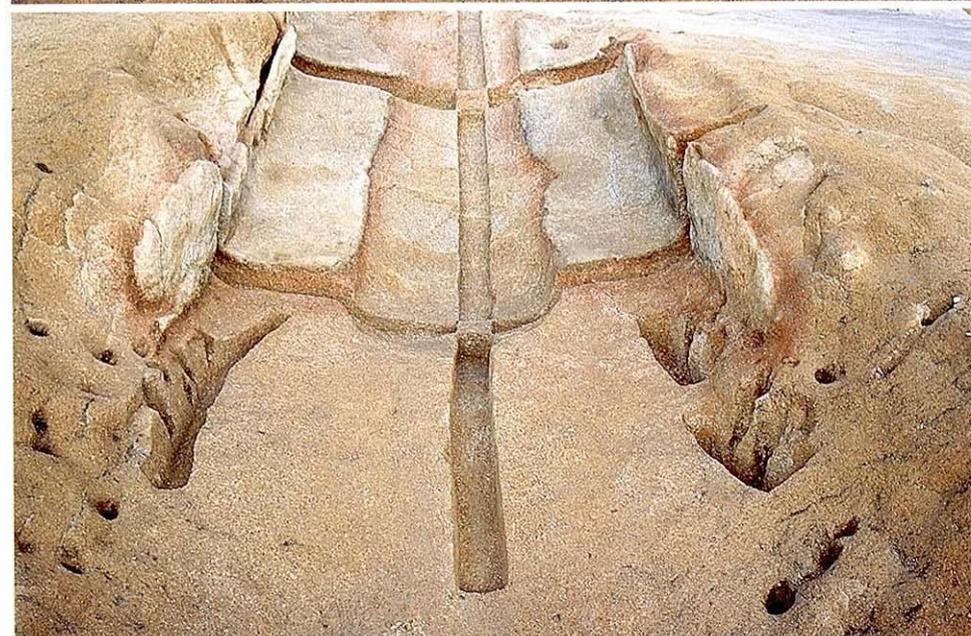




(1) 2号窯跡貼床断割横断面 (C-C'面左半部) (南西から)

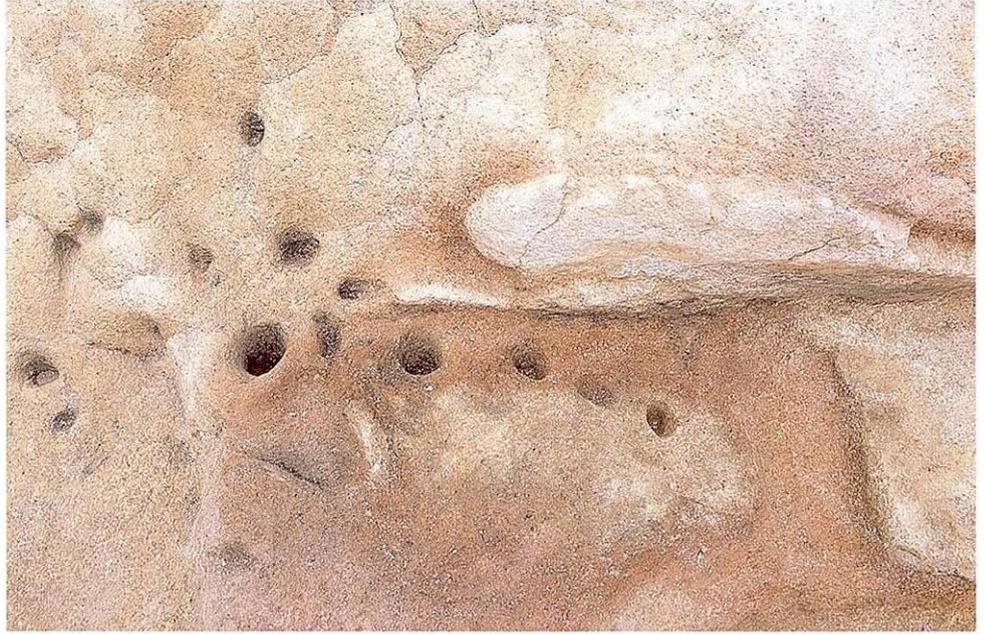


(2) 2号窯跡貼床完掘状況 (南西から)

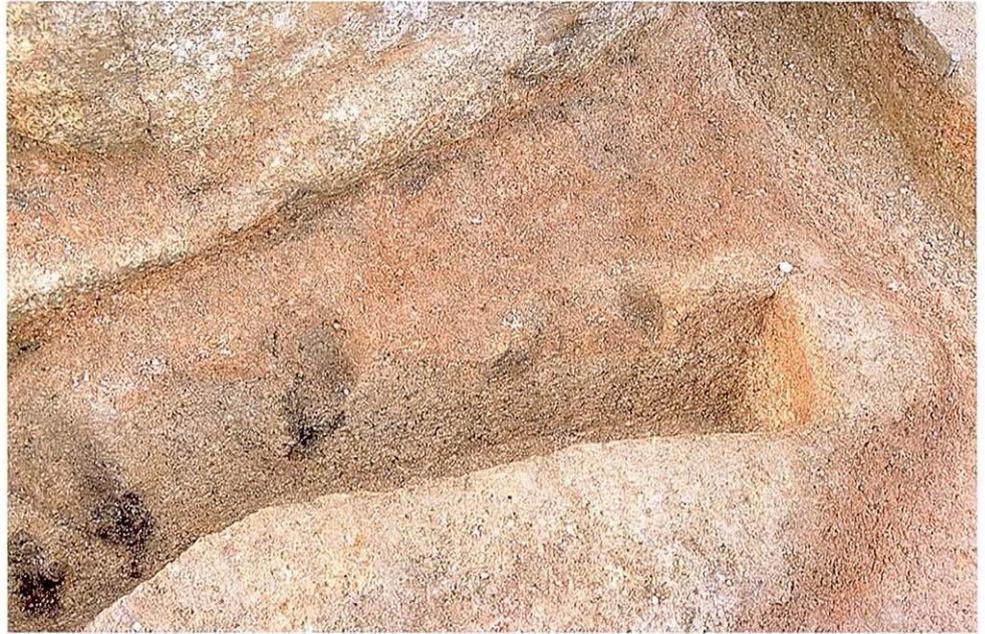


(3) 2号窯跡窯体断割全景 (南西から)

(1) 2号窯跡左側壁下検出小ピット群全景
(南東から)



(2) //
小ピット群断割
(F-F'面)
(南東から)



(3) //
小ピット群断割
(F'-F''面)
(東から)





(1) 2号窯跡右側壁下検出小ピット群全景
(北西から)



(2) //
小ピット群断割
(G-G'面)
(北西から)



(3) //
小ピット群断割
(H-H'面)
(北西から)



(1) 2号窯跡陶棺出土状況（北西から）



(2) 2号窯跡灰原2区陶棺出土状況（南西から）



(1) 2号窯跡灰原縦断面
土層 (A'-A'面)
①上半部 (南東から)



(2) " ②
下半部 (南東から)



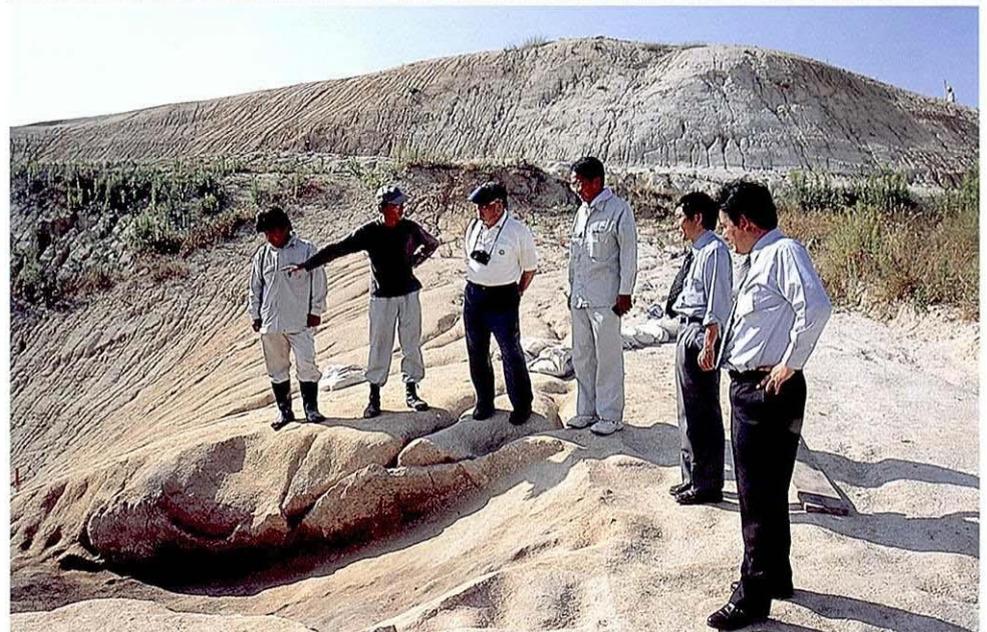
(3) 2号窯跡灰原横断面
土層 (I-I'面)
東半部 (南西から)



(1) 2号窯跡灰原横断面
土層 (I-I'面)
西半部 (南西から)



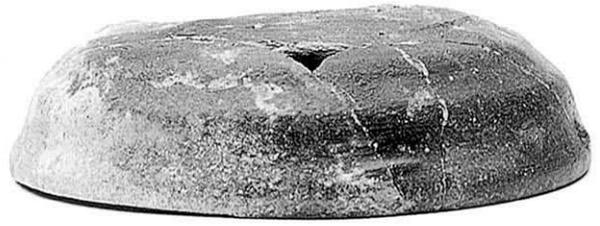
(2) 調査地試掘調査風景
(2002年12月)
(南西から)



(3) 調査指導風景 (左から平島・岸見・小田先生・石木・舟山・秋吉) (2003.10.9)



1



10



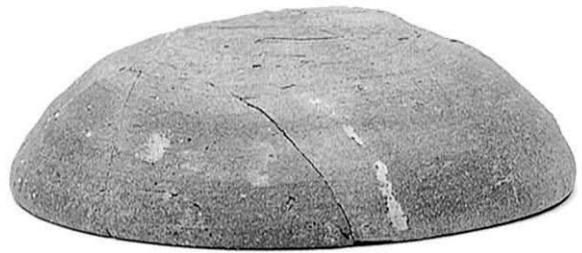
2



11



3



12



4



13



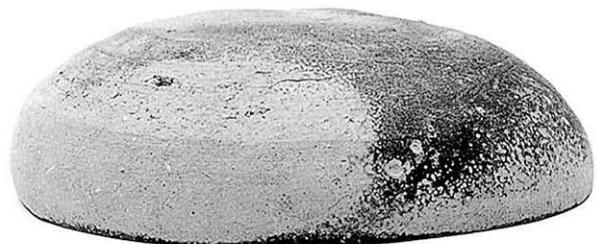
5



14



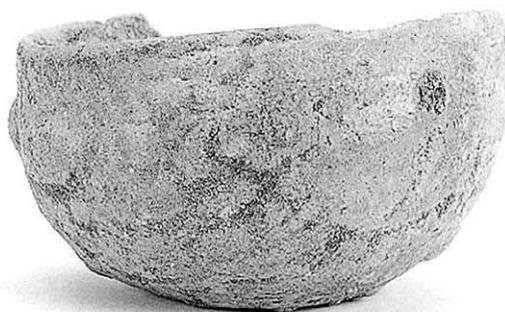
8



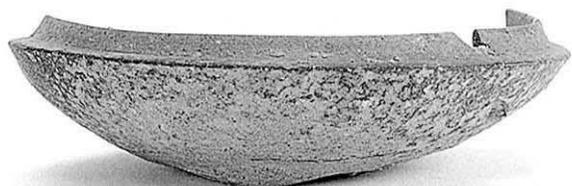
16



17



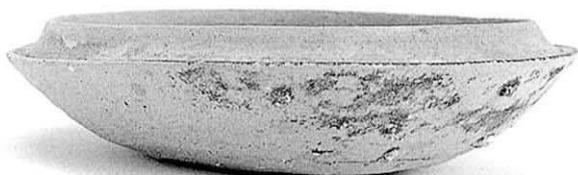
28



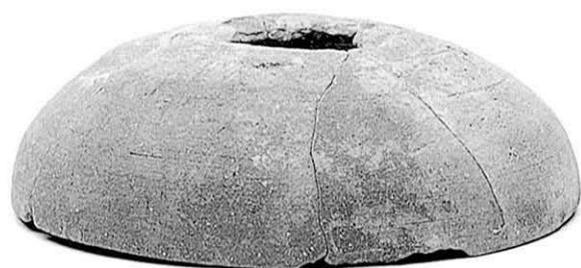
19



31



20



23



33



27



35



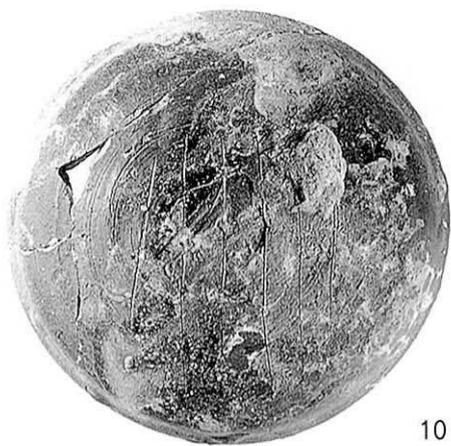
1



5



8



10



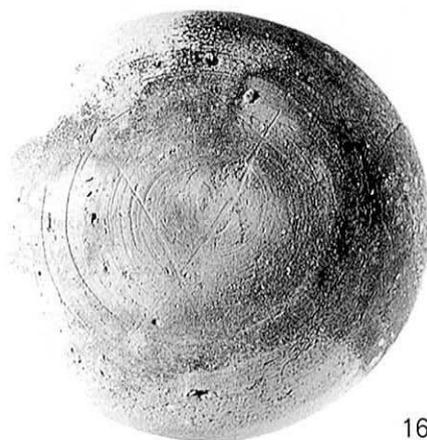
14



20



11



16



28



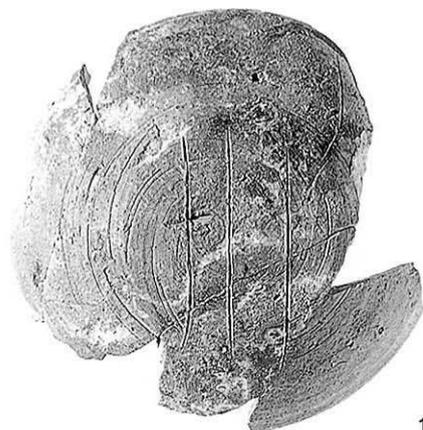
12



17



35



13



19



53



69



54



70



56



72



57



73



61



78



67



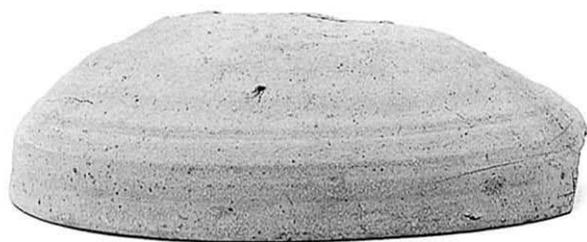
79



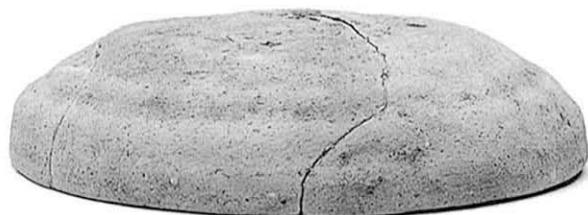
81



83



92



84



93



85



94



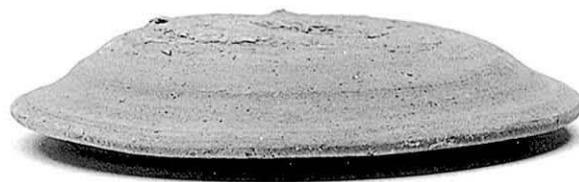
86



95



89



96



91



97



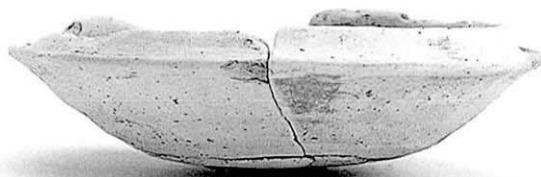
98



105



99



106



100



108



101



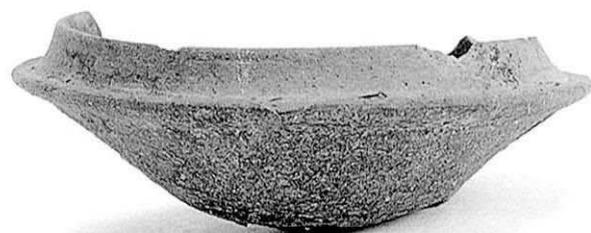
109



102



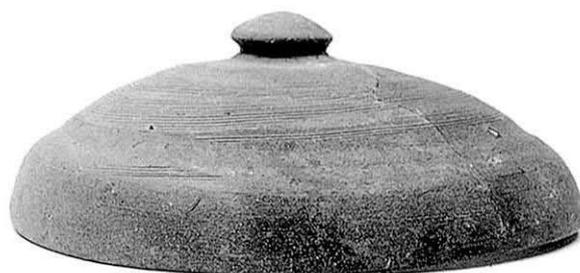
110



103



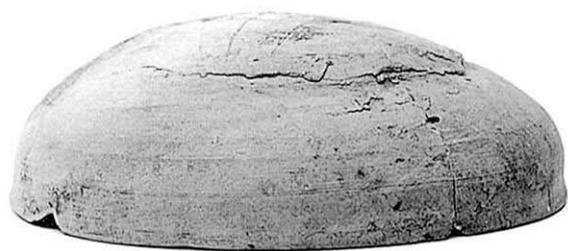
104



111



114



119



120



121



122



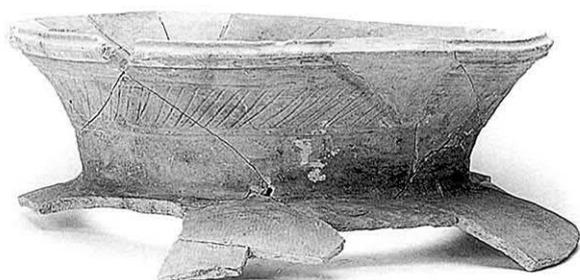
123



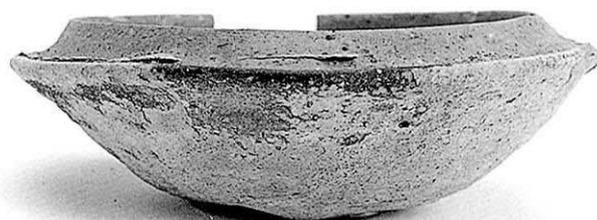
116



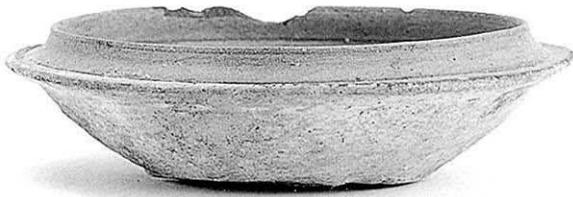
117



118



125



125



126



127



128



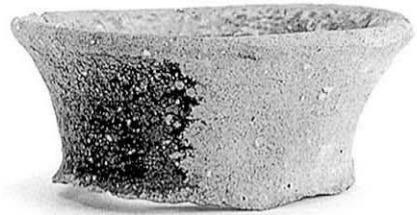
129



130



131



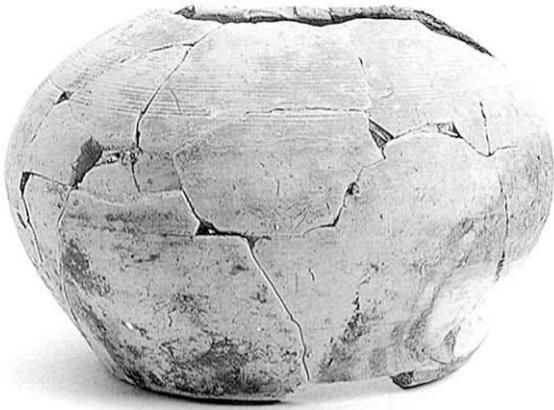
132



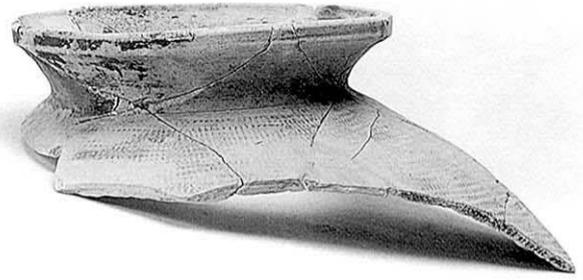
133



135



136



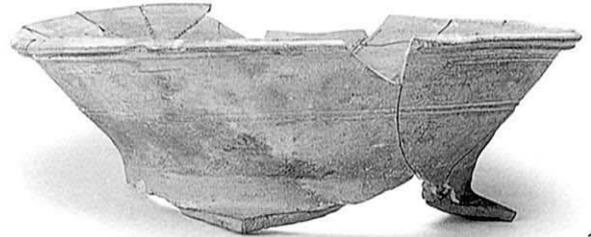
140



137



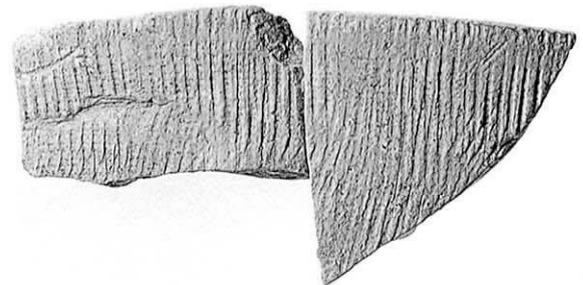
141



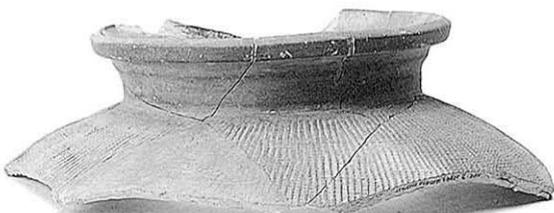
142



138



144



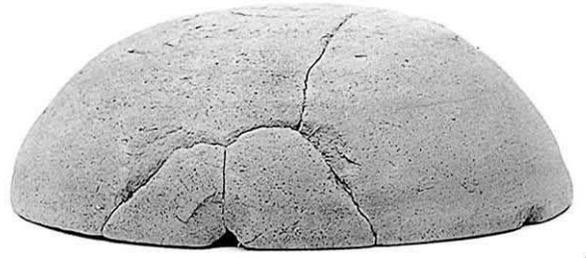
139



144



143



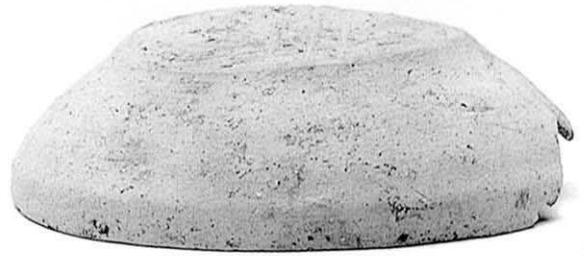
149



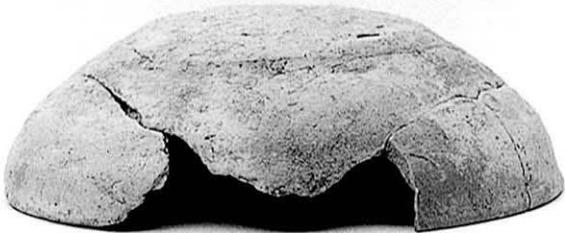
145



150



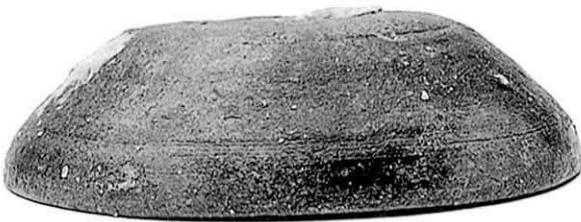
151



146



152



147



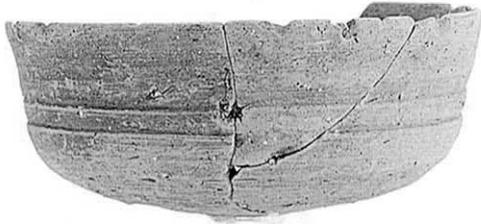
153



148



154



156



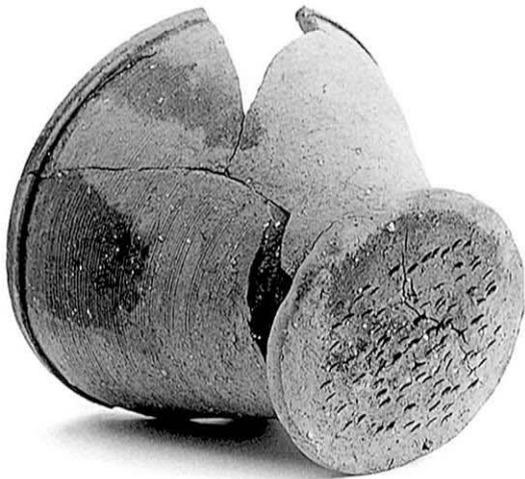
161



158



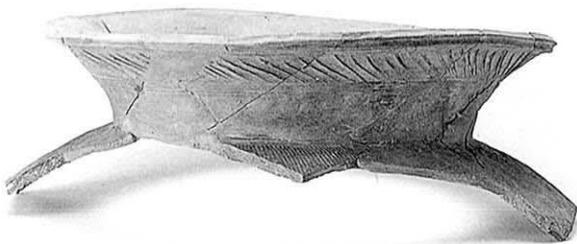
164



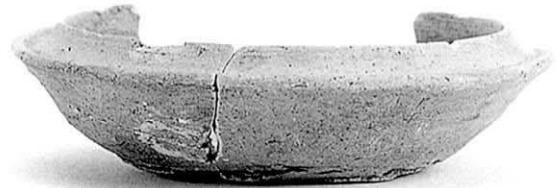
158



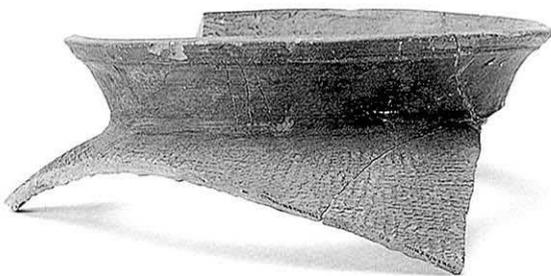
165



159



167



160



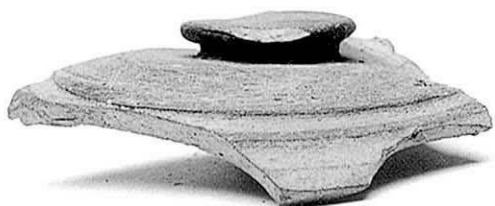
171



174



179



175



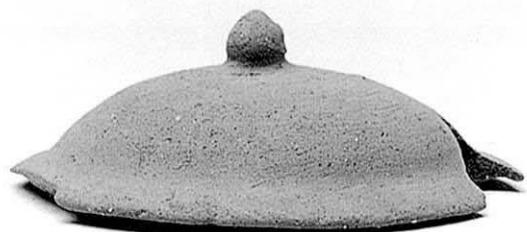
180



176



183



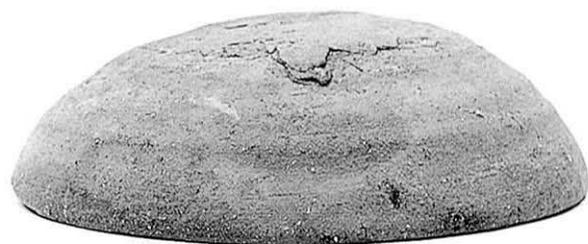
177



184



178



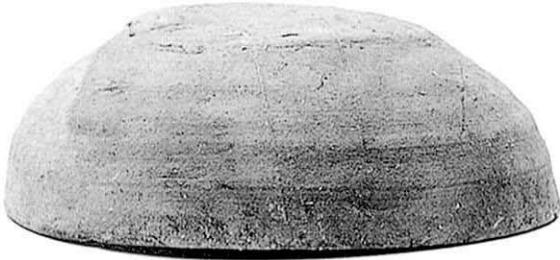
185



186



192



187



193



188



194



189



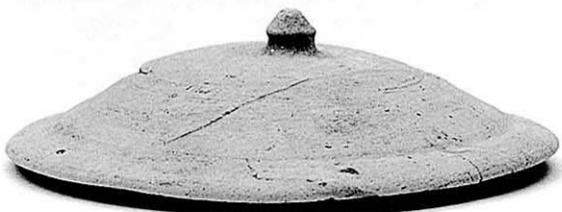
195



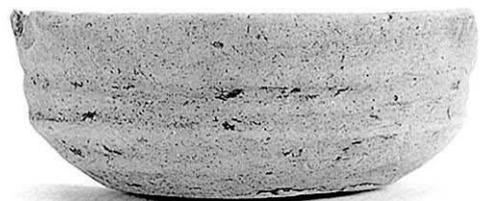
190



196



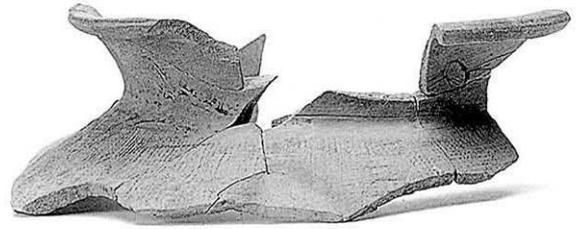
191



197



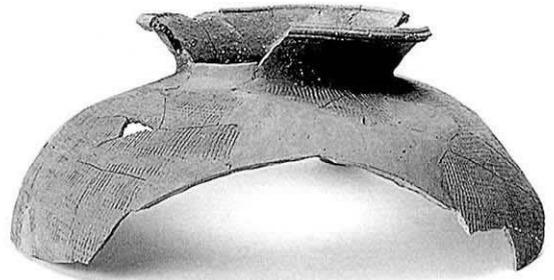
199



207



200



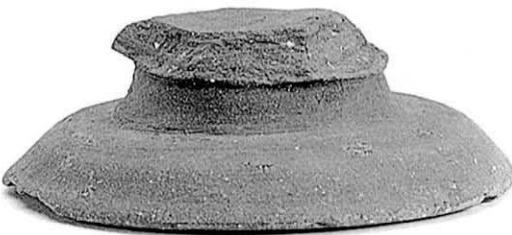
208



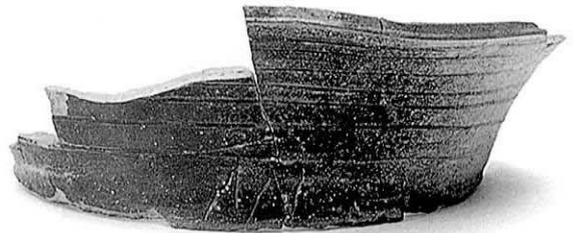
202



209



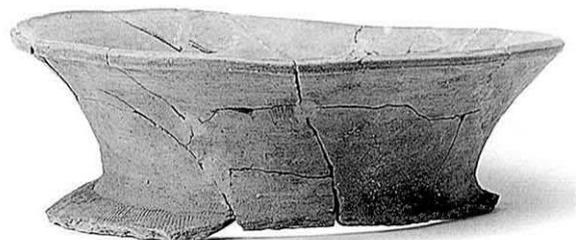
203



210



204



211



212



216



213



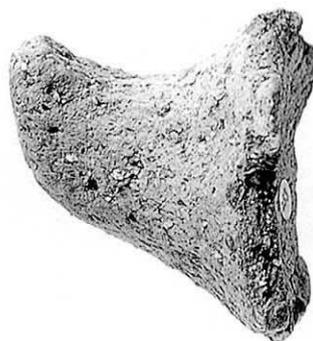
217



218



214



219



215



220



221



223



224



227



228



231



233



234



236



237



245



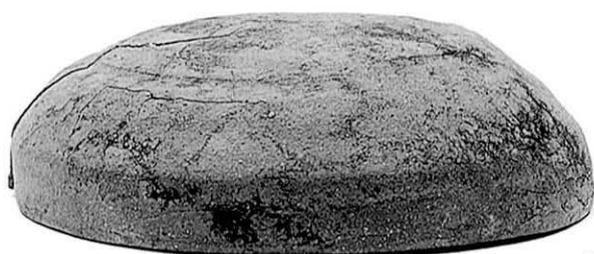
238



246



240



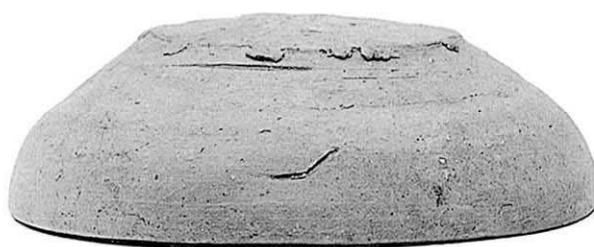
247



242



248



249



243



250



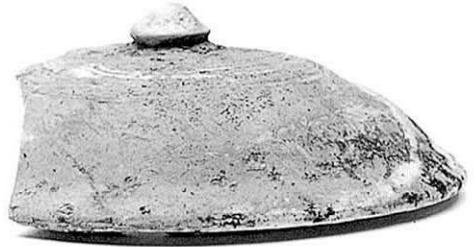
251



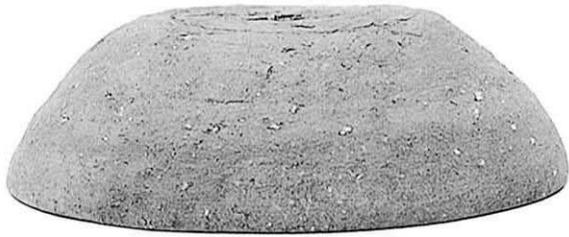
257



252



258



253



260



254



261



255



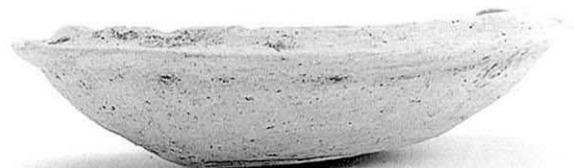
262



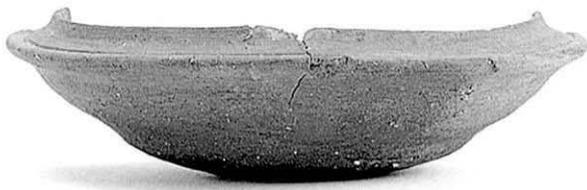
256



263



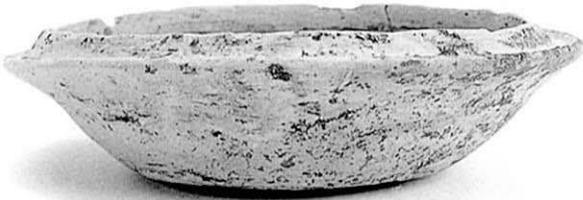
264



265



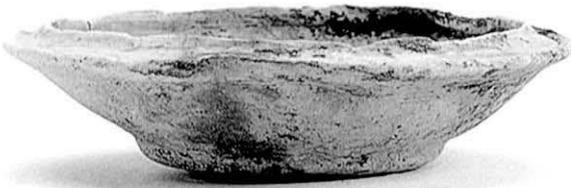
273



266



274



267



275



268



276



269



277



271



278



272



279



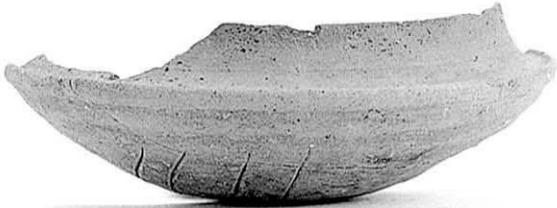
280



281



282



283



284



285



286



289



293



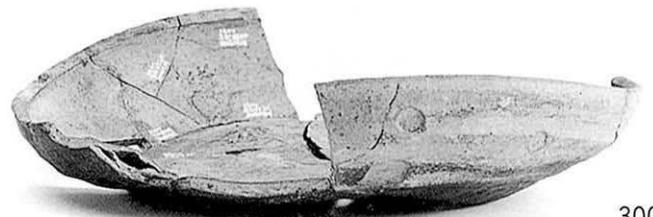
294



295



299



300



302



306



311



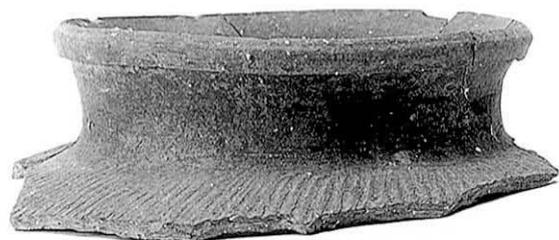
307



316



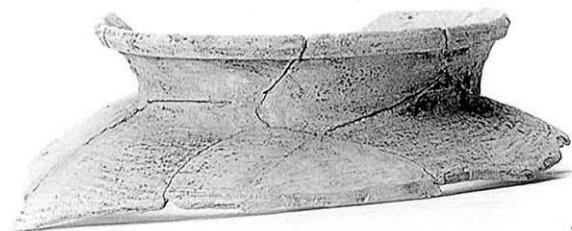
308



317



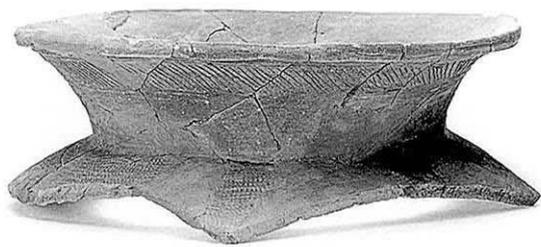
309



318



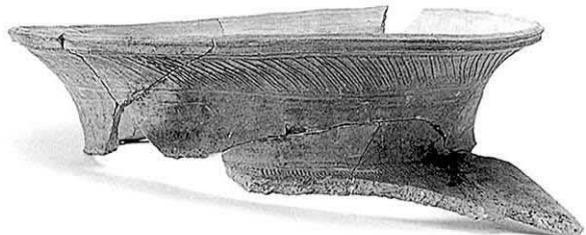
319



320



324



321



322



327



323



327



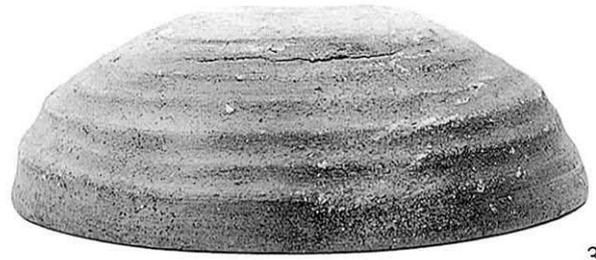
325



328



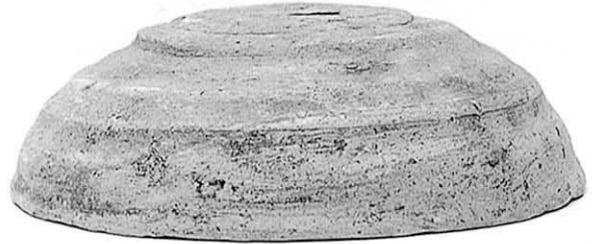
329



340



330



341



331



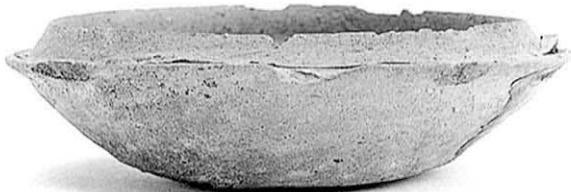
342



332



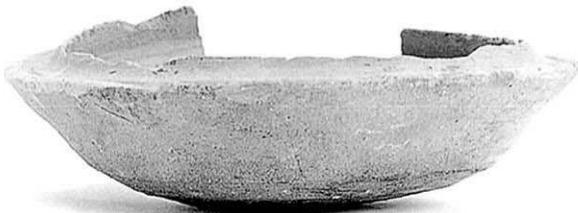
343



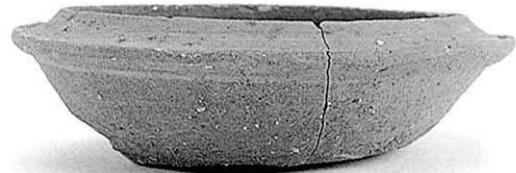
333



344



334



345



335



346



348



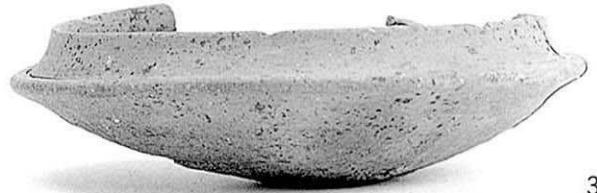
354



355



349



356



350



357



352



358



359



360



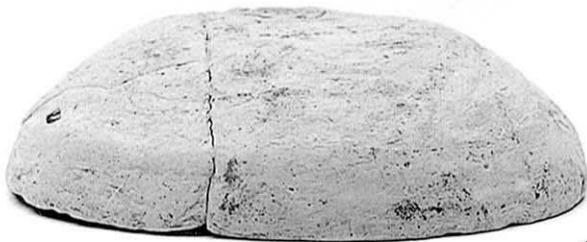
367



361



369



362



363



370



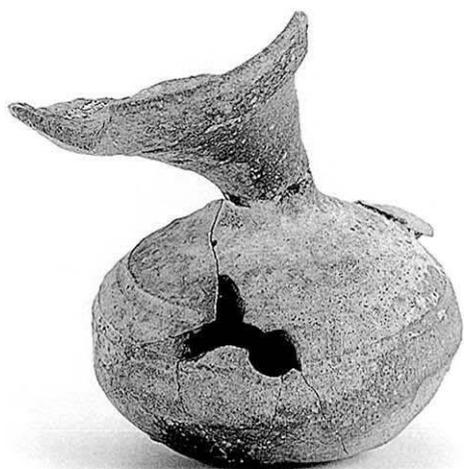
364



371



365



372



376



377



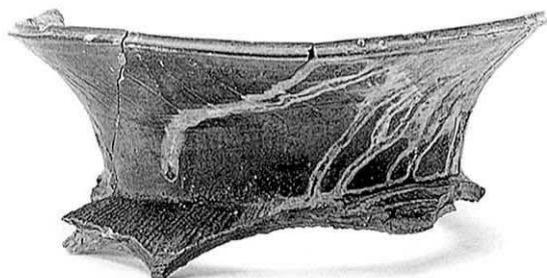
373



378



379



374



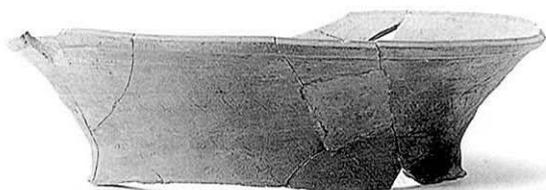
380



375



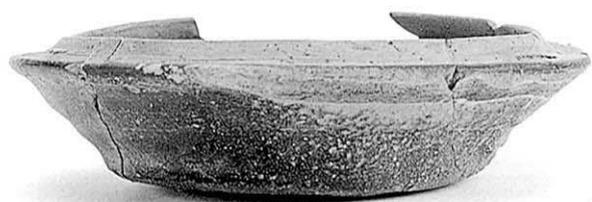
381



376



382



383



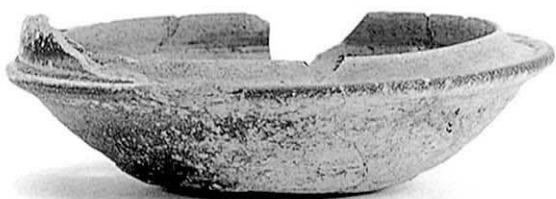
390



384



392



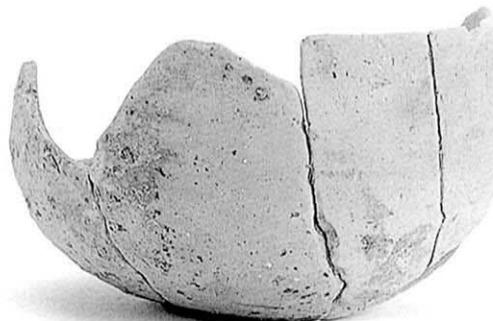
385



391



386



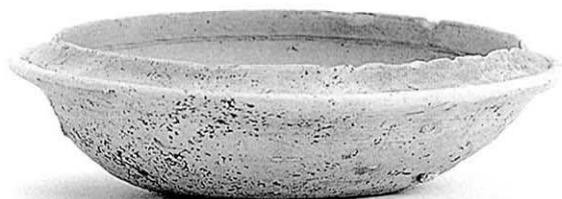
394



387



395



388



397



389



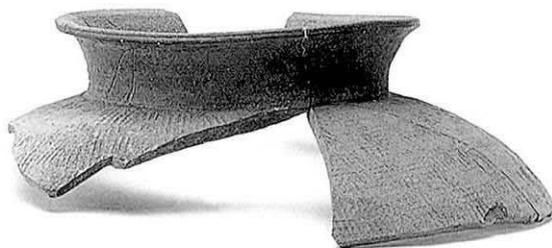
398



402



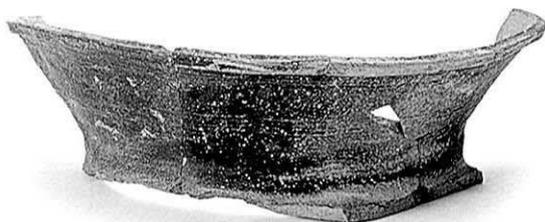
399



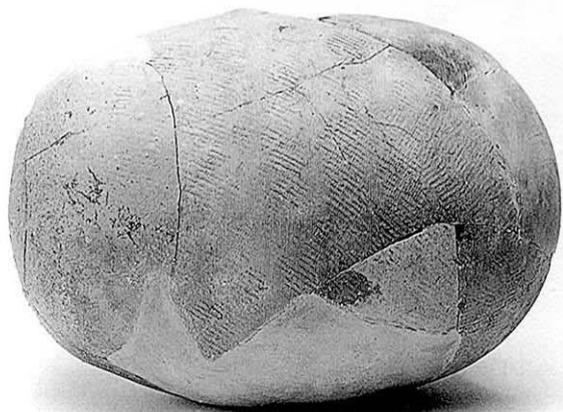
403



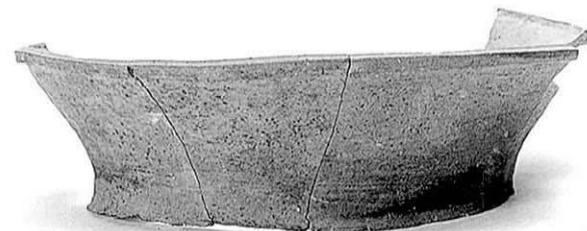
400



404



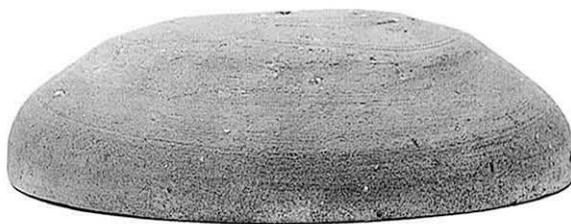
401



405



406



410



413



424



414



425



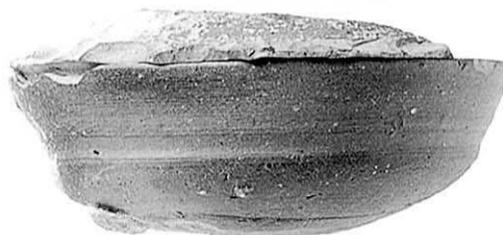
415



426



419



427



421



428



423



429



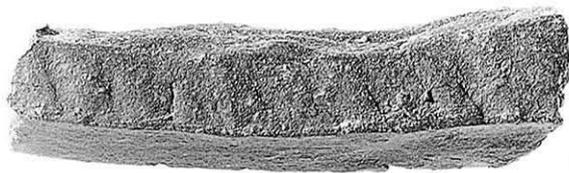
431



431



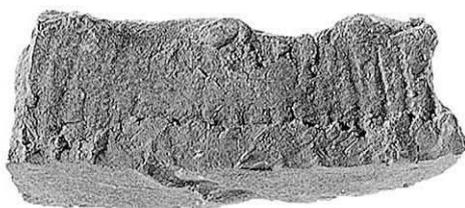
432



432



433



433



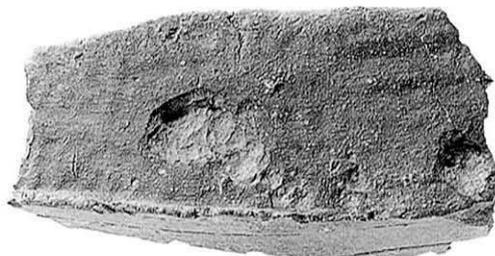
434



434



435



435



436



436



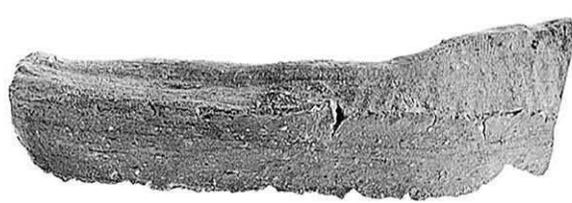
437



437



438



438



439



439



(1) 1号陶棺



(2) 1号陶棺底部外面



(1) 1号陶棺脚部・粘土帯貼付状況①



(3) 1号陶棺棺身底板・側板接合状況



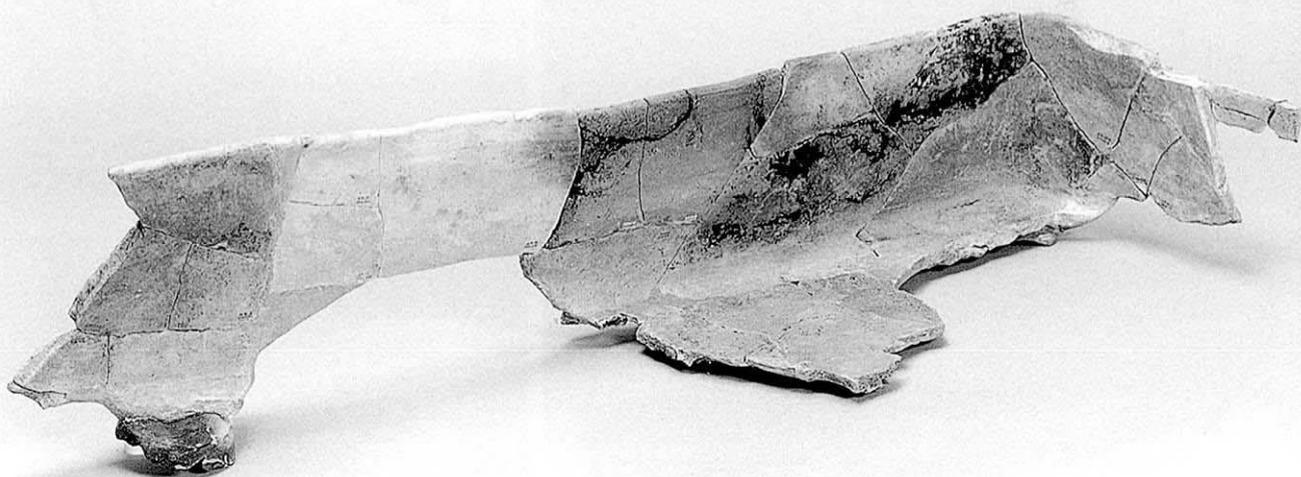
(2) 1号陶棺脚部・粘土帯貼付状況②



(4) 1号陶棺内面



(1) 2号陶棺



(2) 2号陶棺棺身内面



(1) 2号陶棺底部外面



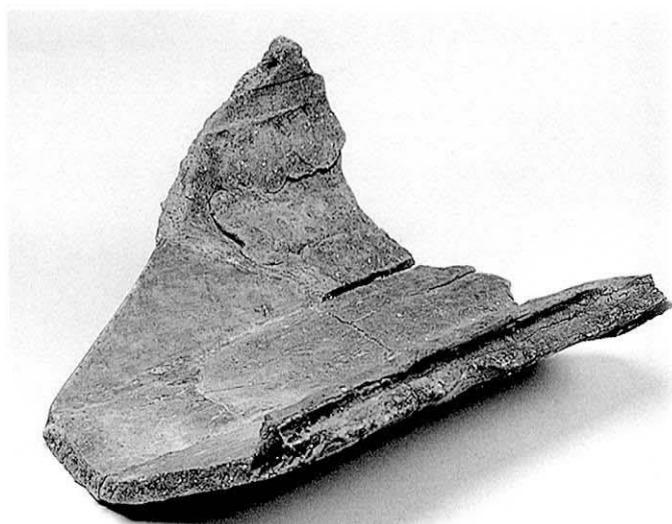
(2) 2号陶棺隅角部粘土带贴付状况



(1) 棺蓋



(2) 棺蓋短側面内面かえり貼付状況



(3) 棺蓋長側面内面封じ穴・支え木痕

(1) 椀形脚



(2) 隅角部粘土帶貼付狀況



(3) // 脚部接合狀況

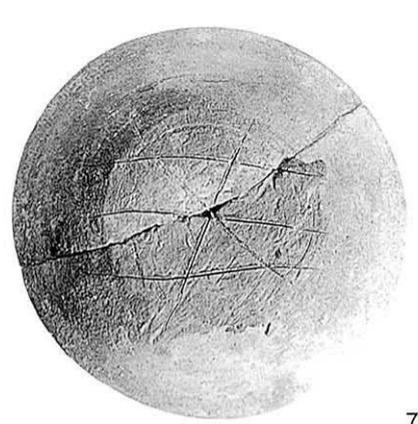




53



54



72



73



78



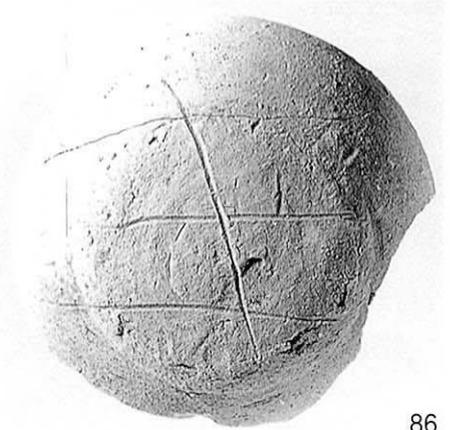
79



81



83



86



91



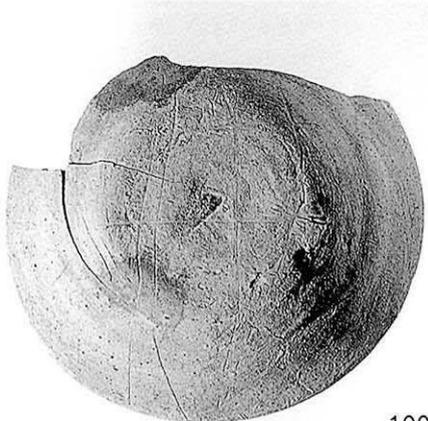
97



98



99



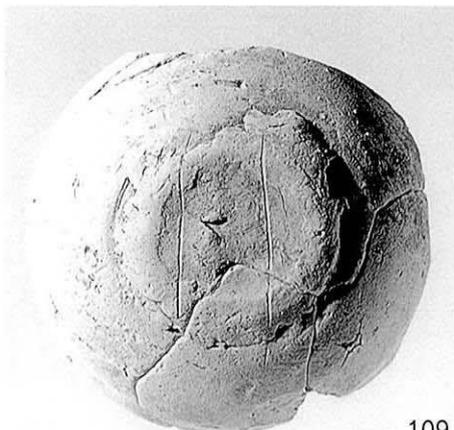
100



101



108



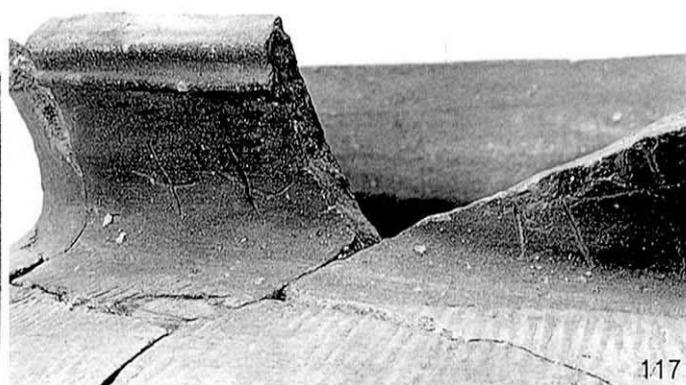
109



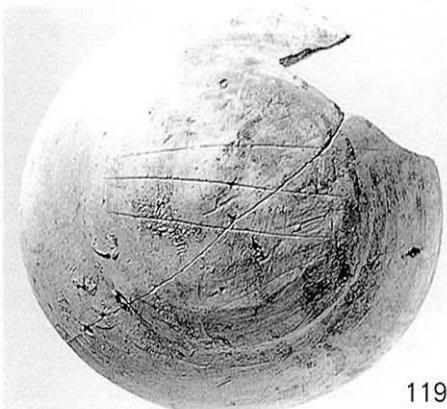
111



117



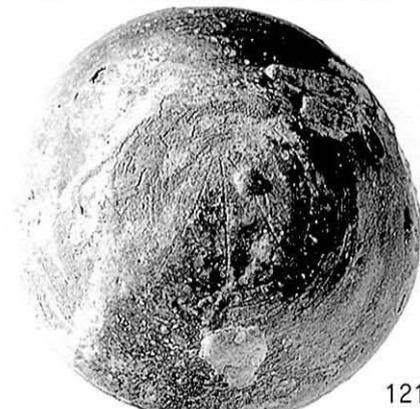
117



119



120



121

2号窯跡出土遺物ヘラ記号㉔



122



125



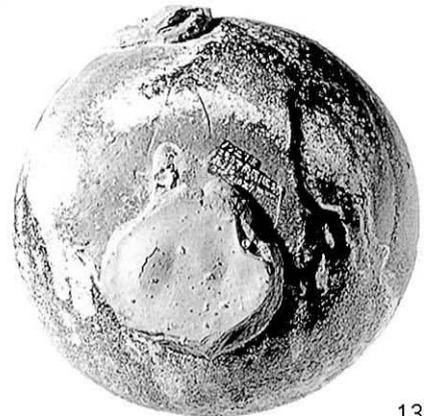
128



129



130



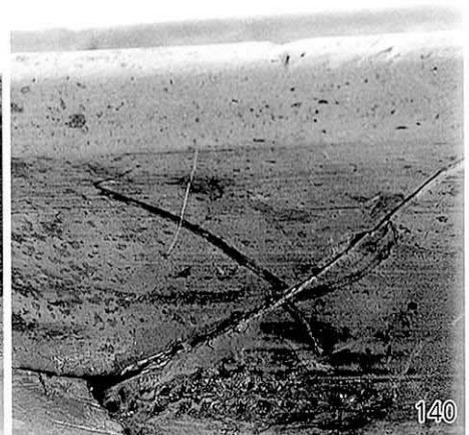
133



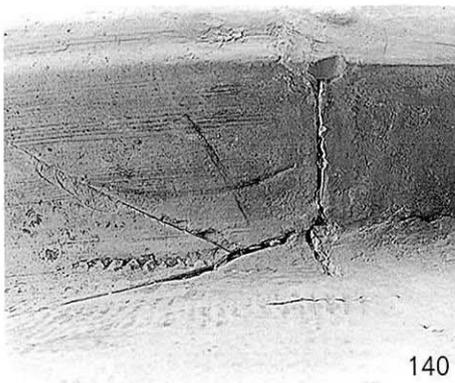
135



138



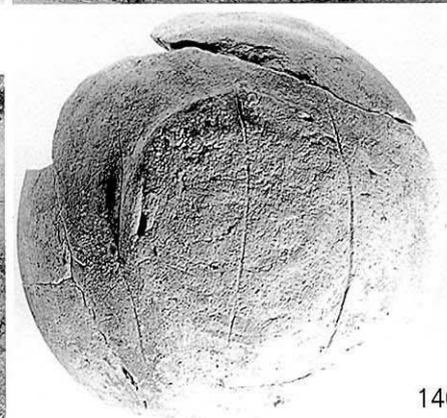
140



140



140

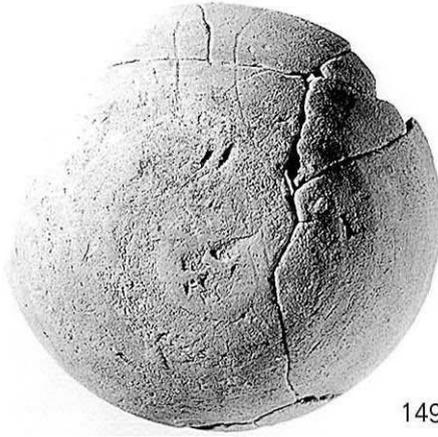


146

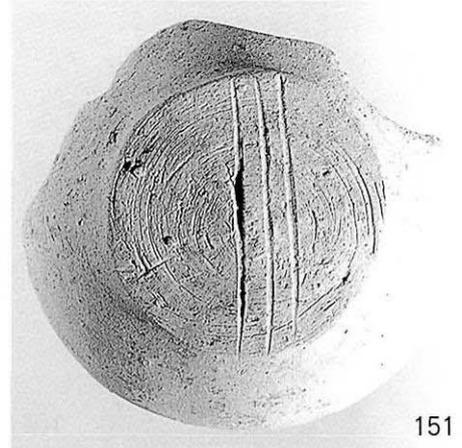
2号窯跡出土遺物ヘラ記号③



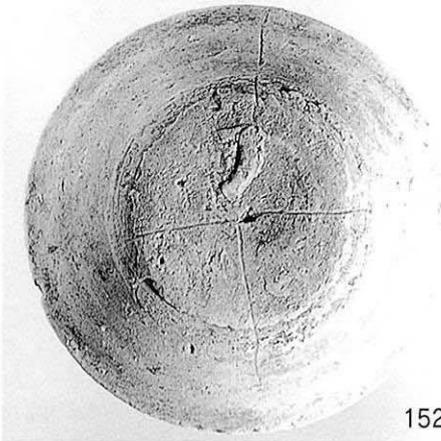
147



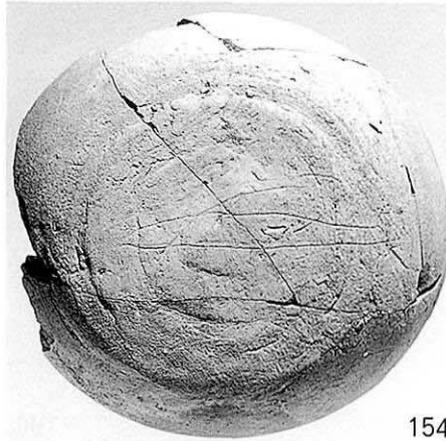
149



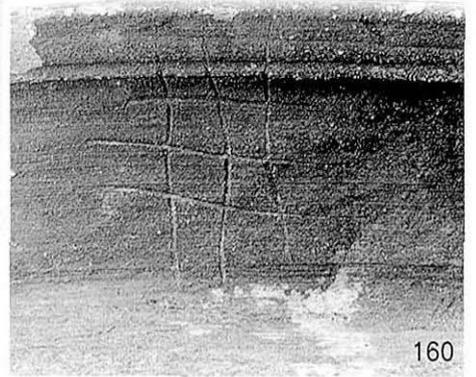
151



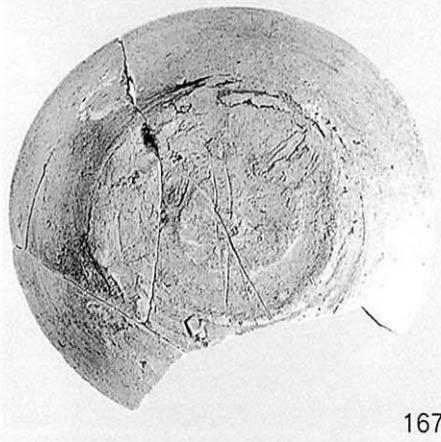
152



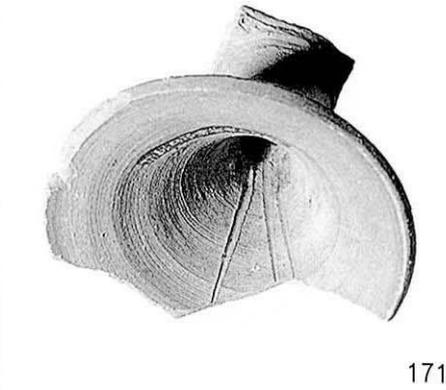
154



160



167



171



176



178

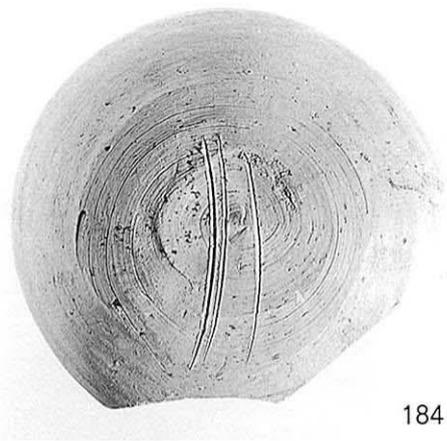


179

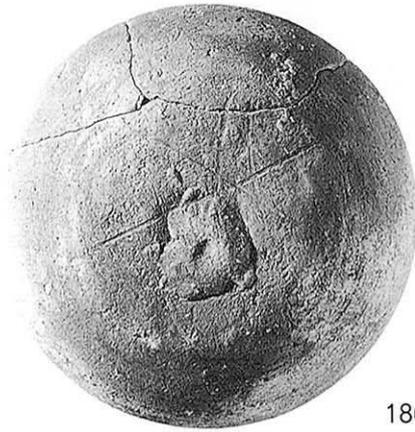


183

2号窯跡出土遺物ヘラ記号④



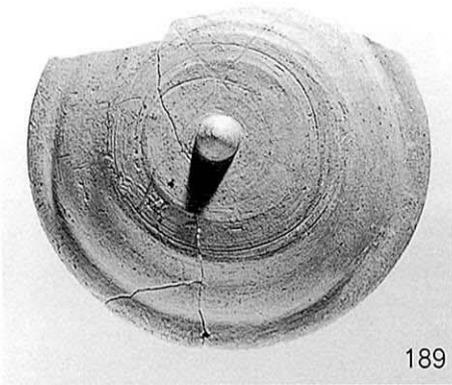
184



186



187



189



190



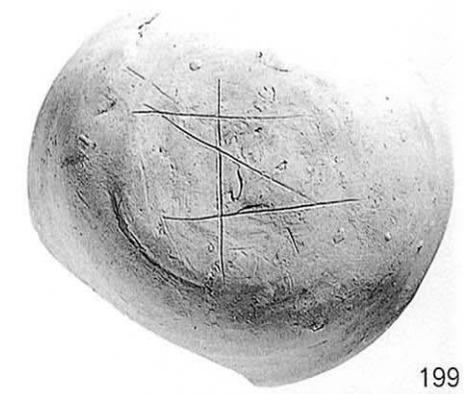
191



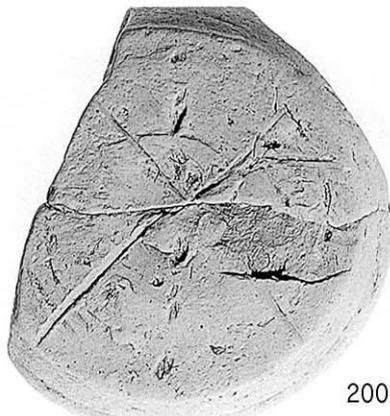
192



193



199



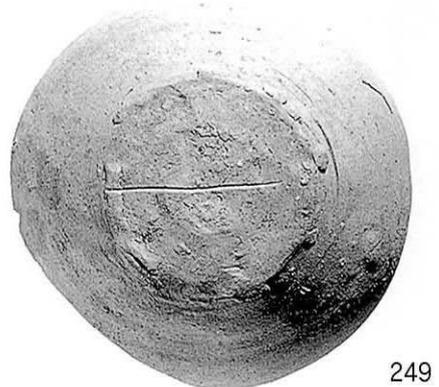
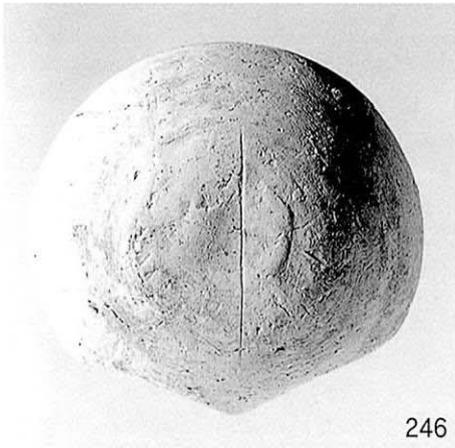
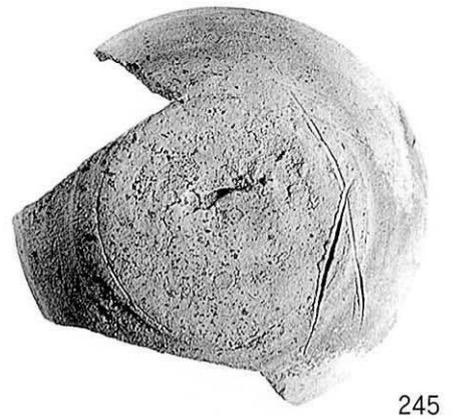
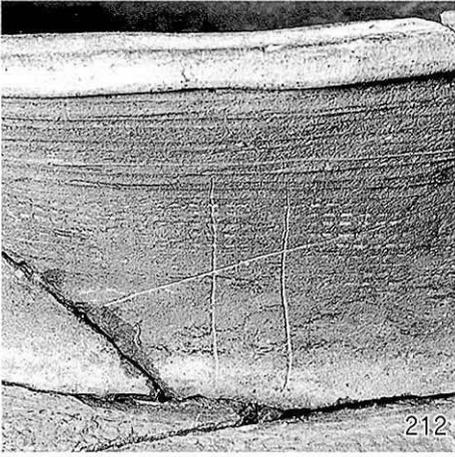
200



207



210



2号窯跡出土遺物ヘラ記号㊦



255



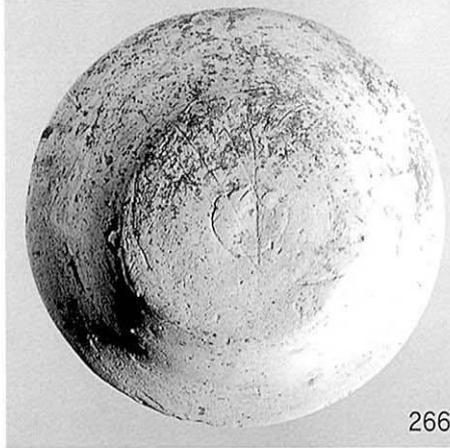
256



261



265



266



268



269



271



272



273



274



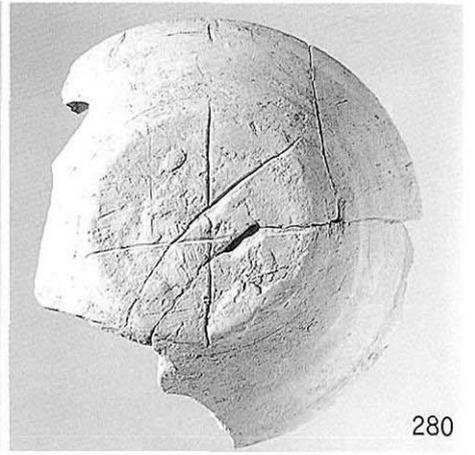
276



278



279



280



282



283



284



285



286



289



293

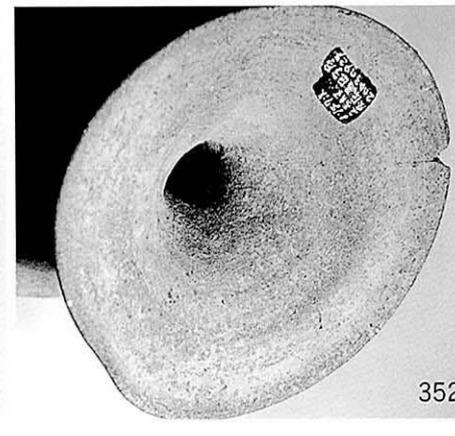
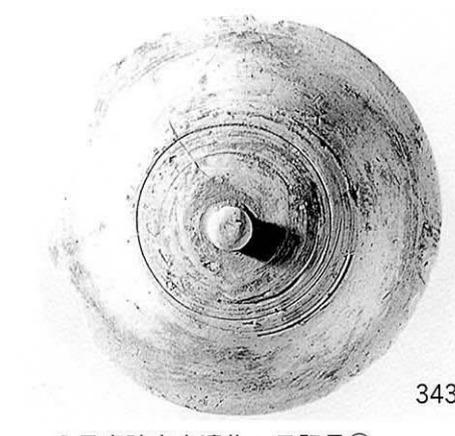


294



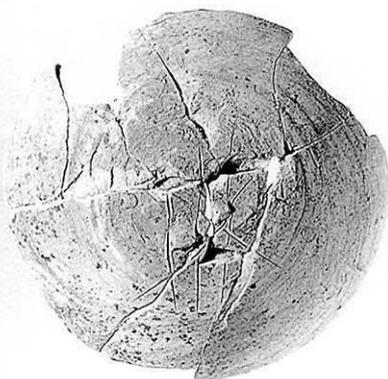
300

2号窯跡出土遺物ヘラ記号㊸





356



358



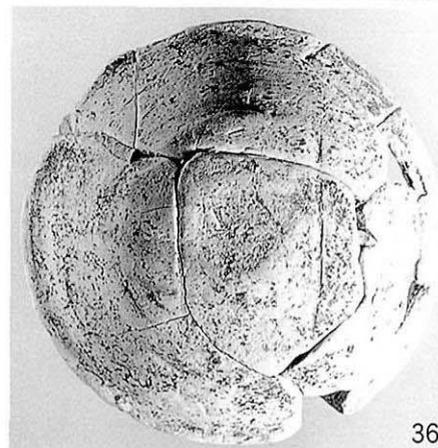
360



361



363



364



365



367



372



375



377



379



381



383



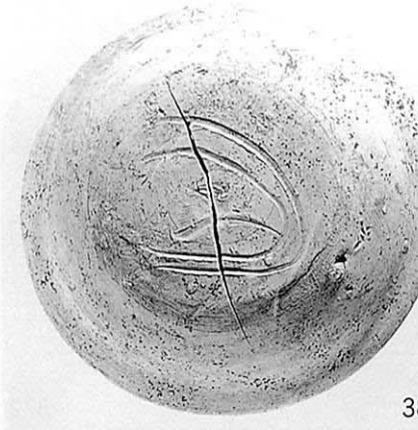
384



385



387



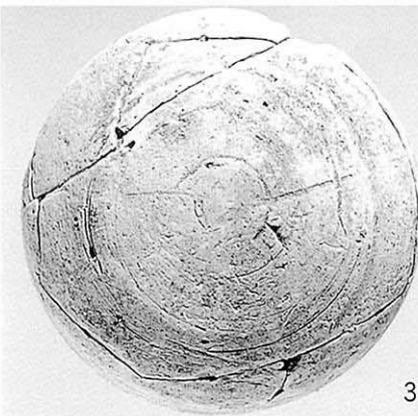
388



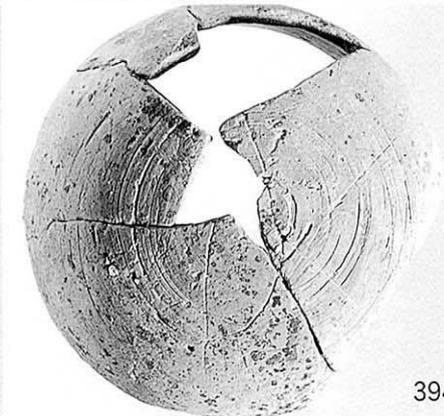
389



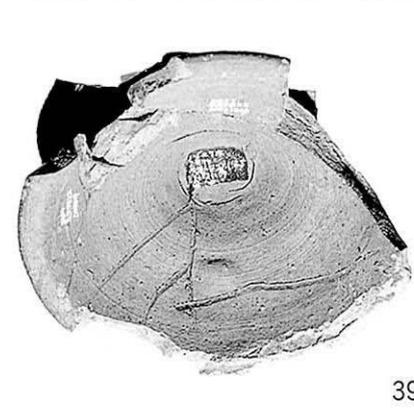
390



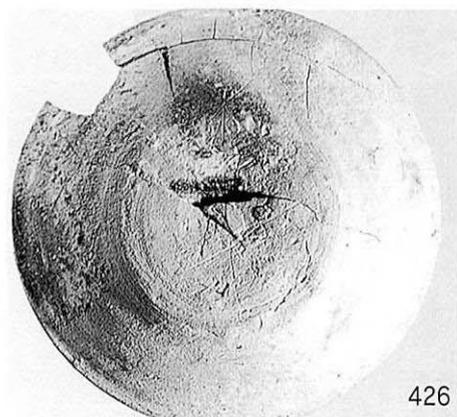
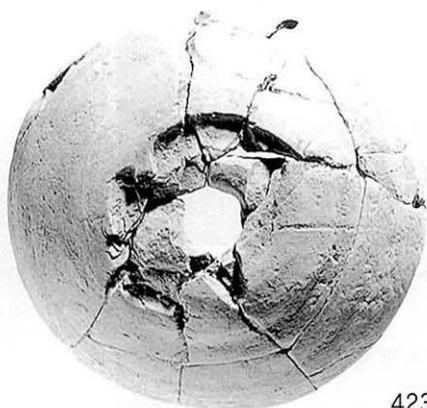
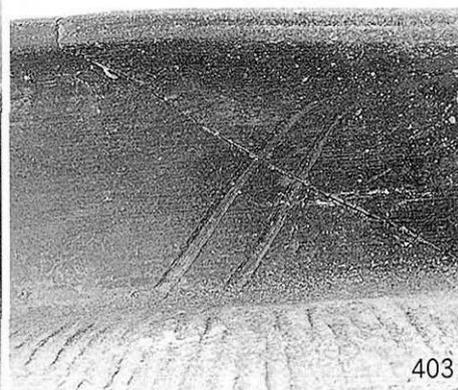
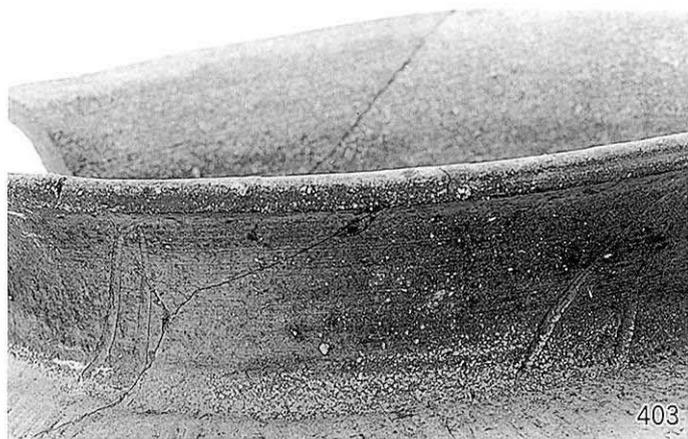
392



394



399

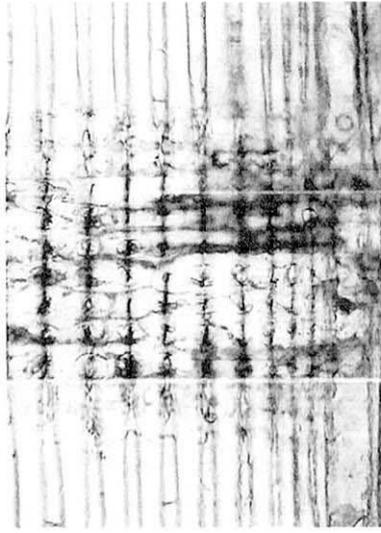


2号窯跡出土遺物ヘラ記号⑫

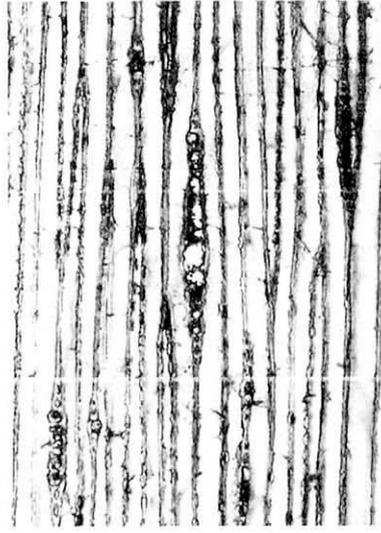


横断面 : 0.5mm

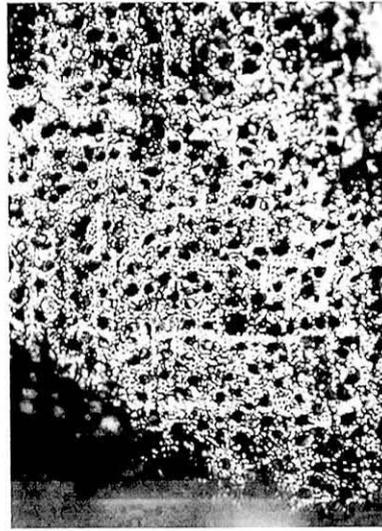
1. No.10 アカマツ



放射断面 : 0.1mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.4mm

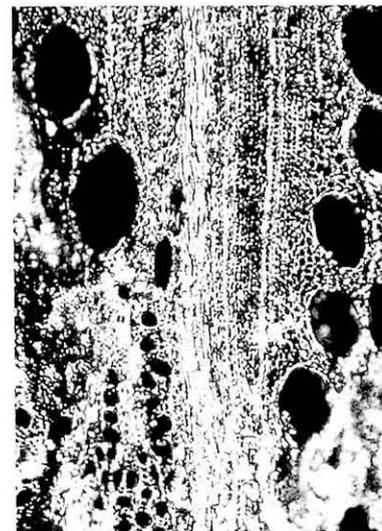
2. No.35 ヤマモモ



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.4mm

3. No.15 ツブラジイ



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

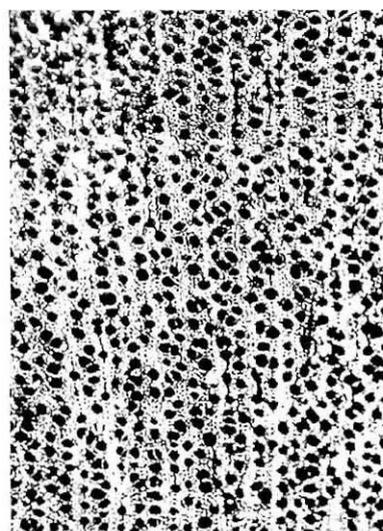
4. No.22 コナラ属アカガシ亜属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

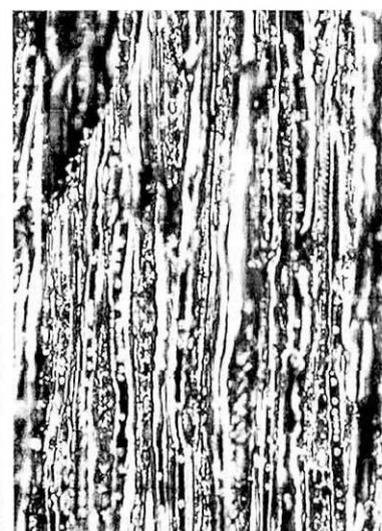


横断面 ————— : 0.4mm

5. No.11 ユズリハ属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

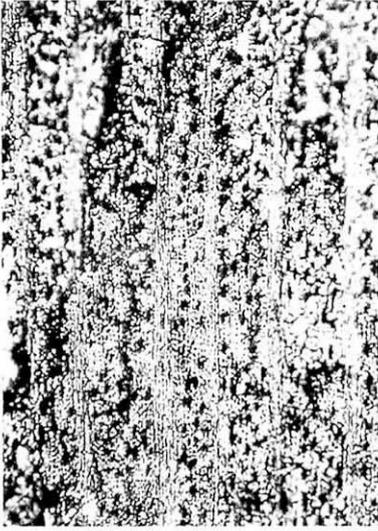
6. No.3 ムクロジ



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

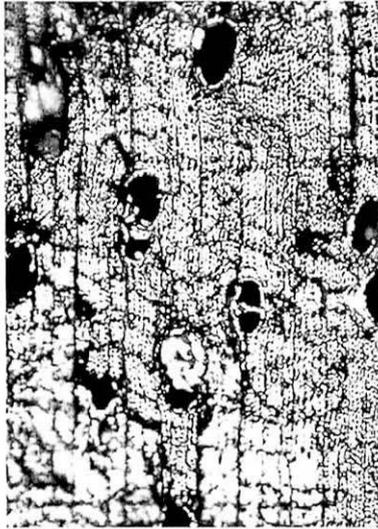
7. No.34 シャシャンボ



放射断面 ————— : 0.2mm

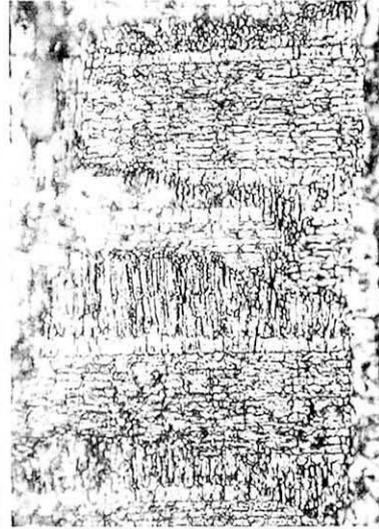


接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

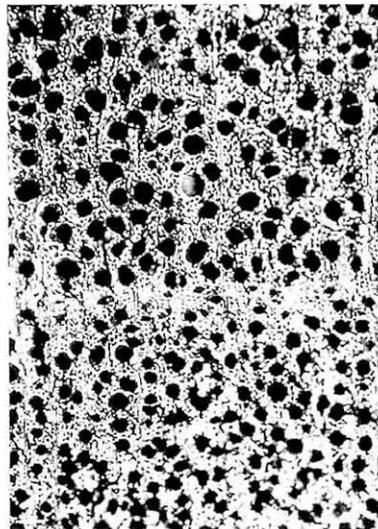
8. No.1 カキノキ属



放射断面 ————— : 0.2mm

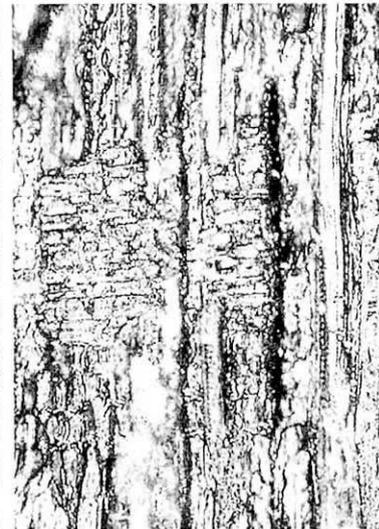


接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

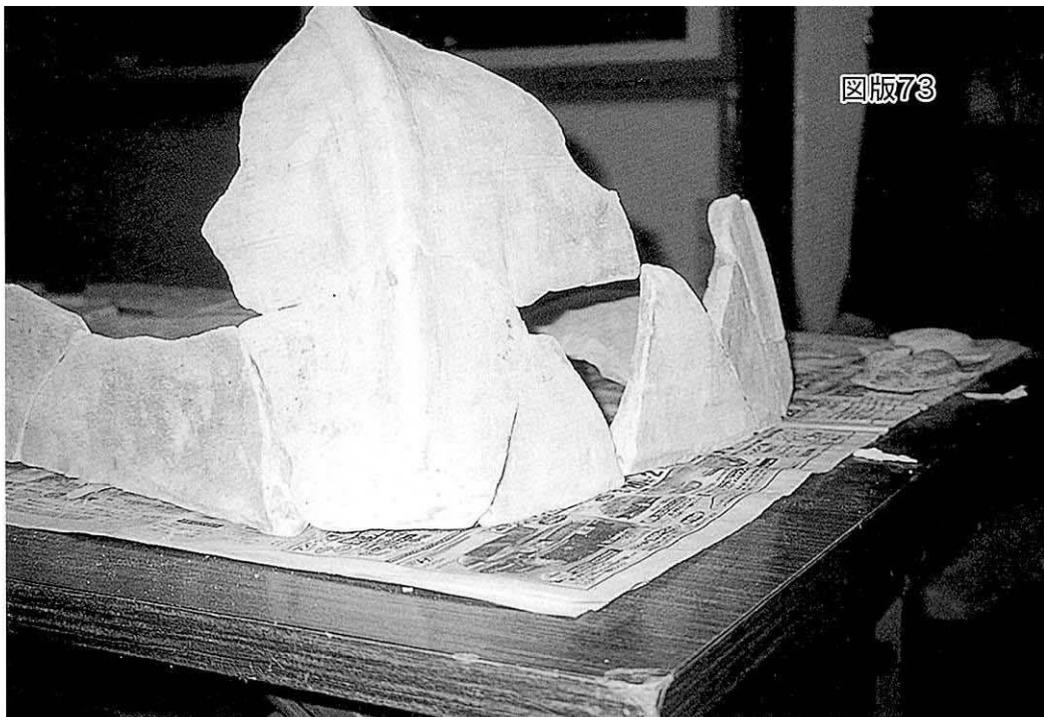
9. No.9 ハイノキ属



放射断面 ————— : 0.2mm



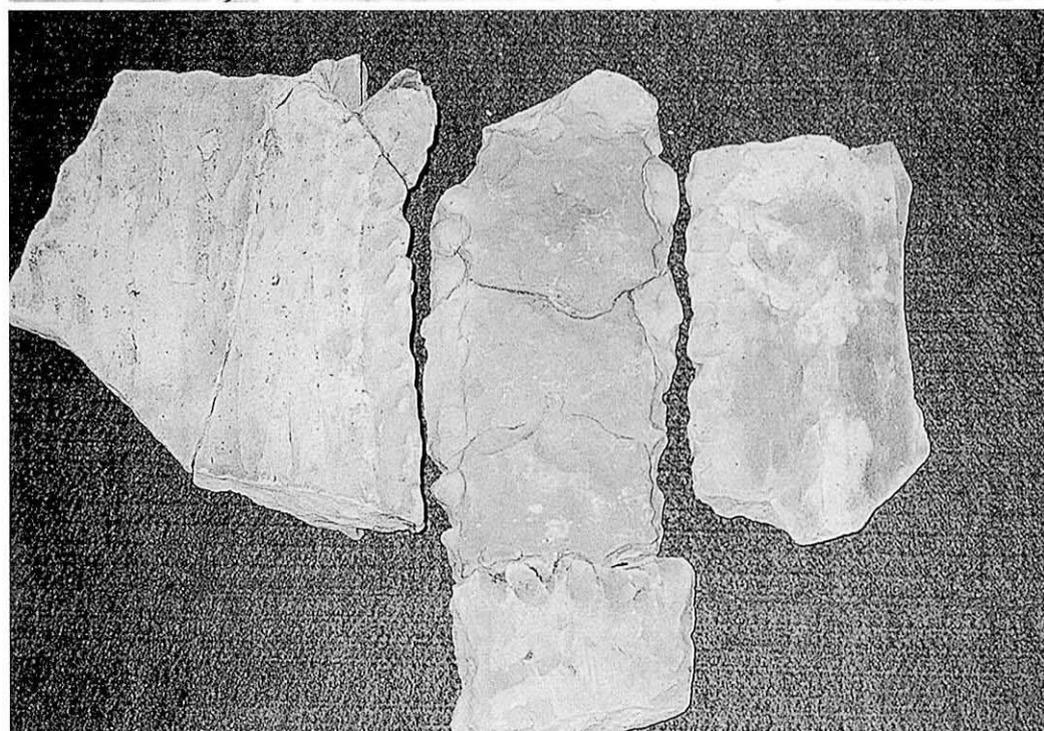
接線断面 ————— : 0.2mm



(1) 福岡市浦の田2号墳
出土陶棺棺蓋短側面



(2) //
棺蓋展開状況



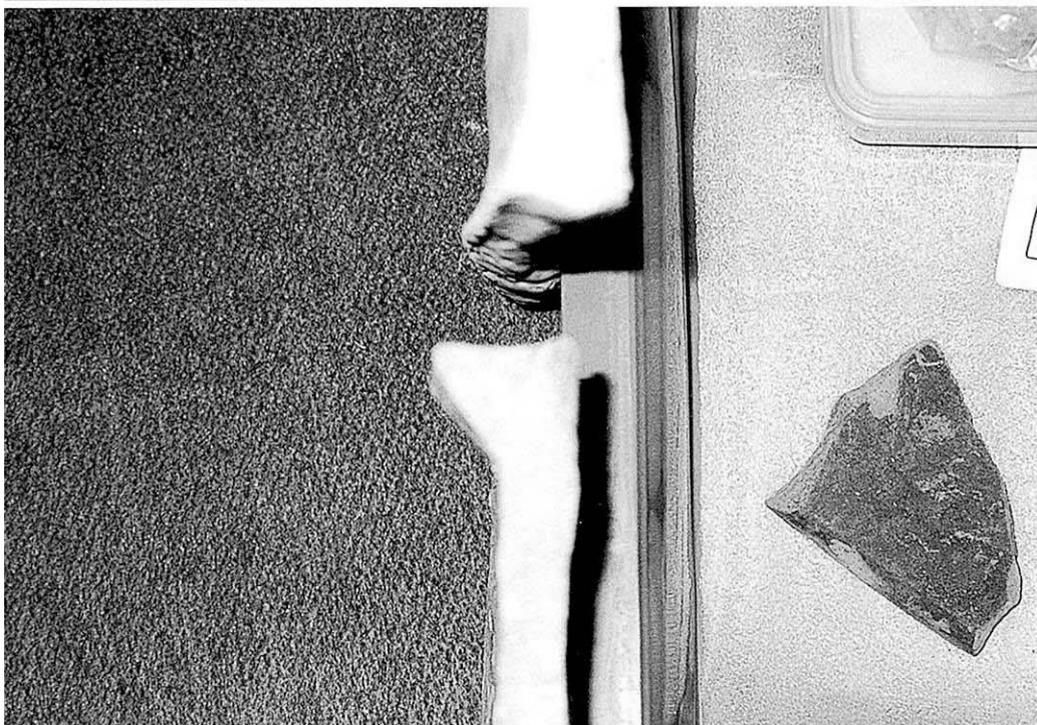
(3) //
棺蓋頂部内面(封じ穴)



(1) 福岡市浦の田2号墳
出土陶棺棺蓋短側面
へら描き



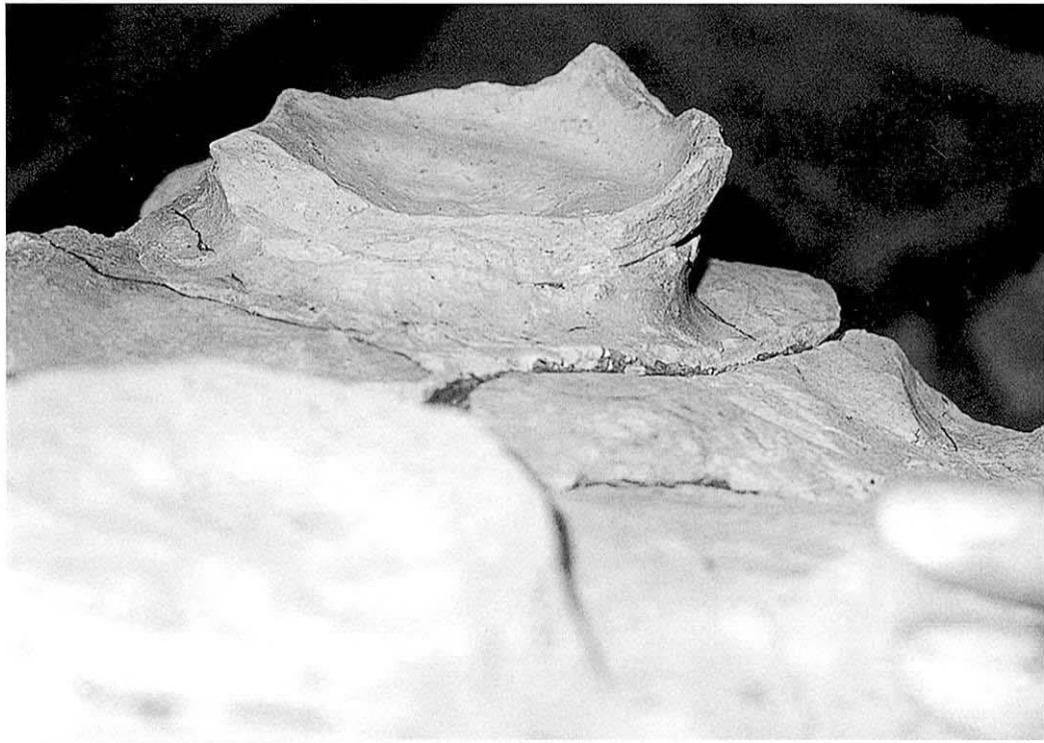
(2) //
棺蓋円栓



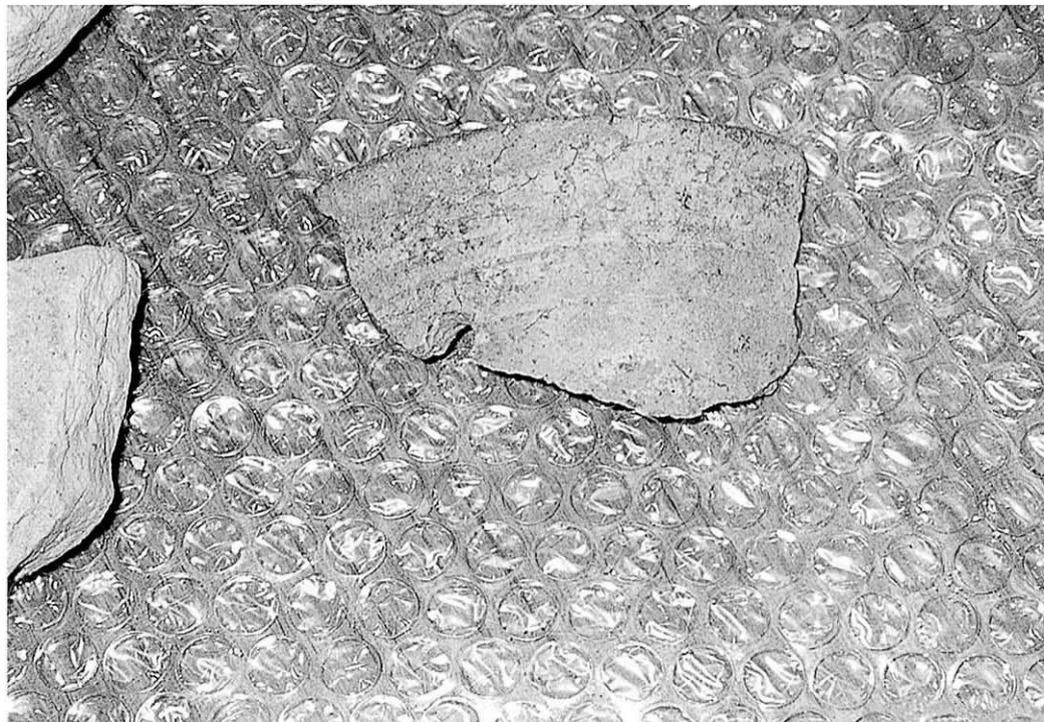
(3) //
棺蓋(上)と棺身の
合わせ方



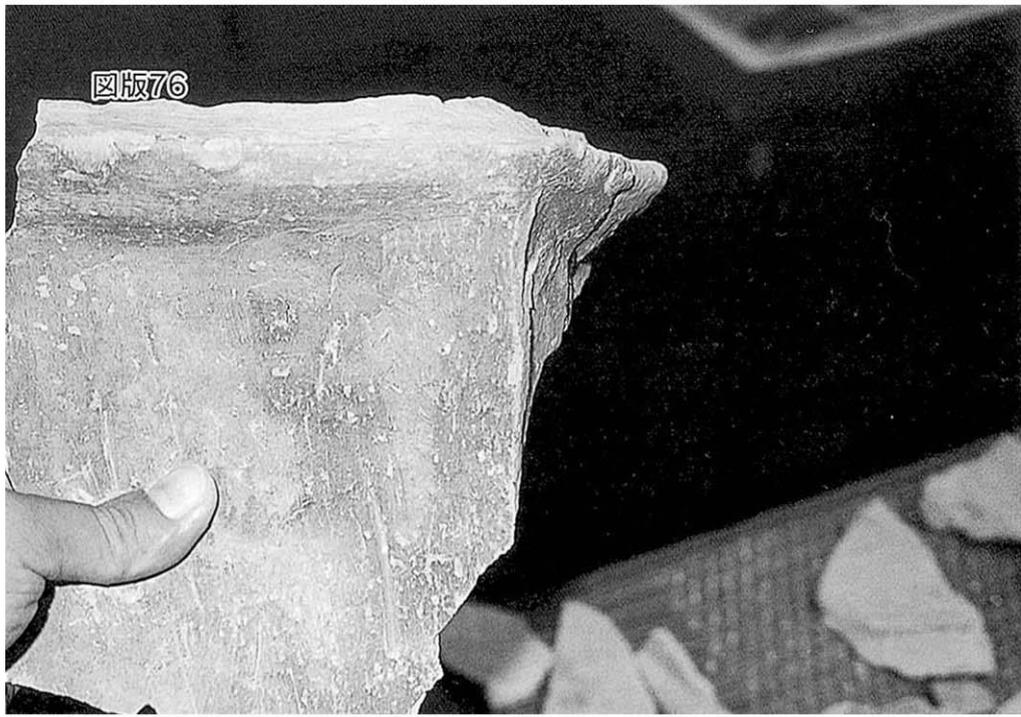
(1) 福岡市浦の田2号墳
出土陶棺棺身・底部
外面



(2) //
脚部接合状況



(3) //
脚部の円孔



(1) 福岡市浦の田2号墳
出土陶棺棺身隅角部



(2) //
棺身受部



(3) //
棺身受部上面木葉痕





上大南土地区画整理地内発掘調査終了時(平成16年11月)

報告書抄録

ふりがな	うしくびのぞえいせきぐん							
書名	牛頸野添遺跡群Ⅳ							
副書名	上大利南土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅳ							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	石木 秀啓・井上 愛子							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町2丁目2番1号 ☎092(501)2211							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 。、"	東経 。、"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
のぞえいせき 野添遺跡 第7次調査	ふくおかけん 福岡県 おおのじょうし 大野城市 かみおおり 上大利			33°30'30"	130°28'45"	2003.8.4) 2003.12.18	4735m ²	区画整理
所収遺跡名	種名	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
野添遺跡 第7次調査	窯跡	古墳～飛鳥		窯跡 2基		須恵器 土師器 陶棺		

大野城市文化財調査報告書 第70集

牛頸野添遺跡群Ⅳ

平成18年3月31日

発行 大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 株式会社 三光
佐賀県伊万里市大坪町乙4161-1